

2023年度
令和5年度

YEAR

BOOK

年 報

OSAKA HABIKINO MEDICAL CENTER

大阪はびきの医療センター

大阪はびきの医療センター

理念

私達は、最新の医療水準で、最適な医療サービスを、思いやりの心をこめて提供します。

基本方針

- ・あらゆる呼吸器疾患に対し、常に最高水準の医療を提供します。
- ・結核根絶に向けて全人的な医療を提供します。
- ・アレルギー疾患に対し、最新の知見を取り入れ、最適な医療を提供します。
- ・安心で頼りがいのある、府民と地域のための医療機関を目指します。
- ・誠意と温かみのある、やさしい看護を実践します。

ご あ い さ つ

大阪はびきの医療センター 院長 山口 誓司

当センター院長の山口でございます。日頃より当センターの運営にご理解・ご協力を賜り、ありがとうございます。当センターは、「地域に信頼され、地域になくてはならない病院」として、南河内地域の医療ニーズに応える総合的な医療の拠点病院として、さらに呼吸器、肺がん、アレルギー、感染症等の専門病院としての取組みを進めております。

当センターは大阪府立結核療養所羽曳野病院として昭和27年に開院し、その後大阪府立羽曳野病院、さらに大阪府立呼吸器・アレルギー医療センターへと名称を変更し、平成29年に現在の大阪はびきの医療センターへと改称しました。その間、結核はもとより難治性の呼吸器疾患とアレルギー疾患の専門病院として高度専門医療に対応してまいりました。平成22年には大阪府がん診療拠点病院に、平成30年には大阪府アレルギー疾患医療拠点病院に指定されています。令和3年には大阪府より地域医療支援病院の承認を受け、南河内地域の基幹病院としての機能を提供すべく、院内整備を進めております。

令和5年5月に新病院が開院して、高度専門医療を提供できる体制が整いました。呼吸器・アレルギー・感染症などの専門医療の強みを活かしつつ、地域の中核病院として、ロボット支援手術システムやハイブリッド手術室など最新鋭の医療機器を整備し、急性期医療やがん診療などの機能強化を図るとともに、患者さんの利便性の向上や療養環境の充実も図っております。

今後も地域の先生方の御指導をいただきながら地域医療支援病院としての機能充実を図りつつ、南河内地域の医療の発展に寄与していきたいと考えております。今後とも御支援の程宜しくお願い申し上げます。本年報は、令和5年度の活動を報告するものです。関係者の皆様方にはご一読頂き、是非とも、ご助言を賜り、大阪はびきの医療センターの今後の発展にご指導いただきますようお願い申し上げます。

目 次

第 1 概要

1. 病院の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
2. 沿革・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
3. 主な施設及び医療機器・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
4. 組織及び人事・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 0
5. 運営会議、幹部会、各種委員会・・・・・・・・・・・・ 1 6
6. 経営状況（決算）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 3

第 2 業務の状況

1. 令和 5 年度 地域医療支援病院 業務実績・・・・・・・・ 2 7
2. 医事統計・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 8
3. 診療情報管理室統計・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 3

第 3 各部局の活動状況

1. 診療各科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4 4
2. 薬局・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 4 2
3. 看護部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 4 9
4. 情報企画室・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 7 0
5. 診療情報管理室・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 7 1
6. 栄養管理室・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 7 2
7. 患者総合支援センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 7 4
8. 医療安全管理室・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 7 8
9. 感染対策室・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 8 2

第 1 概要

第1 概要

1. 病院の概要

名 称	大阪はびきの医療センター				
所 在 地	大阪府羽曳野市はびきの3丁目7番1号 〒583-8588 電話 072-957-2121 (代表)				
設立団体	地方独立行政法人大阪府立病院機構				
管 理 者	院 長	山口 誓司			
病 床 数	許可病床	結核病床	45 床	一般病床	354 床 感染症病床 6 床
	稼動病床	結核病床	45 床	一般病床	354 床 感染症病床 6 床
(令和5年6月1日現在)					
主な医療機器	CT (マルチスライス CT 3 台) MRI (3 T 1 台) RI アンギオ リニアック 他				

病院機能指定	<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療支援病院 ・大阪府アレルギー疾患医療拠点病院 ・結核指定医療機関 ・感染症法に基づく入院勧告患者受入病院 ・二次救急告示医療機関 ・特定診療災害医療センター ・協力型臨床研修病院 ・日本医療機能評価機構認定病院 	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪府がん診療拠点病院 (肺がん) ・第二種感染症指定医療機関 ・難治性多剤耐性結核の広域拠点病院 ・エイズ治療拠点病院 ・大阪府小児地域医療センター ・大阪府肝炎専門医療機関 ・労災保険指定医療機関
--------	---	---

施設認定	WAO center of excellence 日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本外科学会外科専門医制度修練施設 (指定施設) 日本呼吸器学会内科系外科系指導施設 日本呼吸器学会 (呼吸器内科領域専門研修制度) 認定施設 (基幹施設) 日本呼吸器学会 (呼吸器内科領域専門研修制度) 認定施設 (関連施設) 日本臨床腫瘍学会認定施設 (特別連携施設) 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本呼吸器学会外科系指導施設 日本呼吸器外科学会指導医制度認定施設 (専門研修基幹施設) 日本胸部外科学会認定医認定制度指定施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 (皮膚科・小児科・耳鼻咽喉科・アレルギー内科) 日本リウマチ学会教育施設 日本皮膚科学会認定専門医研修施設 日本小児科学会専門医研修施設 日本眼科学会専門医制度研修施設
------	--

日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医研修施設
 日本鼻科学会鼻科手術認可研修施設
 日本気管食道科学会認定専門医研修施設（咽喉系）
 日本感染症学会認定研修施設
 日本循環器学会認定専門医研修関連施設
 日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
 日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設（腹腔鏡）
 日本消化器外科学会修練関連施設
 日本肝臓学会認定施設（特別連携施設）
 日本乳癌学会認定施設
 日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会エキスパンダー実施施設
 日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会インプラント実施施設
 日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関
 日本麻酔科学会麻酔科認定病院
 日本病理学会登録施設
 日本臨床細胞学会教育研修施設
 日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設
 日本医療薬学会医療薬学専門薬剤師研修施設
 日本緩和医療薬学会緩和医療専門薬剤師研修施設
 薬学生実務実習受入施設
 認定臨床微生物検査技師研修施設
 日本超音波医学会認定超音波専門医研修連携施設
 日本呼吸療法医学会認定呼吸療法専門医研修施設
 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度関連認定施設
 日本医療薬学会薬物療法専門薬剤師制度薬物療法専門薬剤師研修施設（基幹施設）

2. 沿革

昭和 27 年 12 月 12 日	大阪府立結核療養所羽曳野病院として開院
昭和 28 年 1 月 10 日	業務開始 病床数 320 床
昭和 29 年 3 月 17 日	増 床 病床数 850 床
昭和 32 年 10 月 3 日	小児病棟増床 病床数 1,000 床
昭和 47 年 2 月 14 日	大阪府立結核療養所羽曳野病院附属高等看護学院が厚生大臣から看護婦養成所として指定
昭和 48 年 8 月 1 日	旧病棟閉鎖、新病棟業務開始
昭和 51 年 4 月 26 日	病院名称を大阪府立羽曳野病院に改称し、事業内容を、結核、アレルギー性疾患、その他これに伴う疾患に関する基幹病院としての医療、調査、研究及び研修に変更
昭和 51 年 5 月 19 日	管理診療棟業務開始

昭和 51 年 6 月 7 日	病床数の変更 結核病床 702 床 一般病床 208 床
昭和 52 年 8 月 1 日	病床数の変更 結核病床 648 床 一般病床 352 床
昭和 61 年 5 月 1 日	病床数の変更 結核病床 432 床 一般病床 568 床
平成 4 年 4 月 1 日	循環器内科設置
平成 6 年 4 月 1 日	内科一般(消化器)設置
平成 8 年 3 月 31 日	大阪府立羽曳野病院附属高等看護学院廃止
平成 10 年 4 月 1 日	病床数の変更 結核病床 320 床 一般病床 566 床
平成 10 年 6 月 1 日	外来リニューアルオープン
平成 12 年 10 月 28 日	病床数の変更 結核病床 316 床 一般病床 566 床
平成 13 年 2 月 28 日	結核外来棟新築工事竣工
平成 15 年 10 月 1 日	病院名称を、大阪府立呼吸器・アレルギー医療センターに改称
平成 16 年 4 月 1 日	病床数の変更 結核病床 200 床 一般病床 440 床
平成 17 年 5 月 29 日	日本医療機能評価機構病院機能評価認定
平成 18 年 4 月 1 日	地方独立行政法人大阪府立病院機構設立、事業移行
平成 20 年 3 月 10 日	病床数の変更 結核病床 150 床 一般病床 440 床
平成 20 年 3 月 19 日	臨床研究部、研究棟の改修工事竣工
平成 20 年 3 月 28 日	小児病棟に結核モデル病室を設置
平成 20 年 4 月 1 日	消化器・乳腺外科設置
平成 20 年 7 月 4 日	マンモグラフィーによる乳がん検診の開始
平成 20 年 9 月 1 日	入院結核患者に対する人工透析治療の開始
平成 20 年 10 月 1 日	南河内北部広域小児急病診療事業（松原市、羽曳野市、藤井寺市による小児休日診療所）からの後送患者の受け入れを開始
平成 20 年 10 月 1 日	外来化学療法科設置
平成 21 年 3 月 30 日	病床数の変更 結核病床 150 床 一般病床 412 床
平成 21 年 4 月 1 日	病理診断科、リハビリテーション科、集中治療科を設置
平成 21 年 4 月 1 日	一般病棟入院基本料（7 対 1 看護体制）7 対 1 入院基本料を適用
平成 21 年 7 月 31 日	病床数の変更 結核病床 150 床 一般病床 400 床
平成 22 年 1 月 15 日	発熱外来棟竣工
平成 22 年 2 月 26 日	感染症用陰圧病床改築工事竣工
平成 22 年 4 月 1 日	大阪府がん診療拠点病院（肺がん）に指定
平成 22 年 4 月 1 日	結核内科から感染症内科に名称変更
平成 22 年 7 月 2 日	日本医療機能評価機構病院機能評価認定(V.6)
平成 23 年 1 月 31 日	緩和ケア病棟(4B)改修工事竣工
平成 23 年 3 月 31 日	12 階トイレ福祉対策改修工事竣工
平成 23 年 3 月 31 日	陰圧手術室設置工事竣工
平成 23 年 4 月 1 日	緩和ケア科設置 緩和ケア病棟開設（20 床）
平成 23 年 4 月 1 日	病床数の変更 結核病床 150 床 一般病床 395 床
平成 24 年 3 月 30 日	管理診療棟耐震化工事竣工
平成 25 年 3 月 28 日	病床数の変更（感染症病床 増床）

	結核病床 150 床 一般病床 395 床 第二種感染症病床 6 床
平成 26 年 3 月 29 日	第二種感染症病床設置工事竣工
平成 26 年 4 月 1 日	第二種感染症病床（6 床）開設
平成 26 年 6 月 27 日	病棟給排水改修（第 1 期）工事竣工
平成 27 年 7 月 1 日	結核病棟入院基本料 7 対 1 入院基本料を適用
平成 27 年 3 月 16 日	病床数の変更（結核病床 減床）
	結核病床 100 床 一般病床 395 床 第二種感染症病床 6 床
平成 27 年 3 月 24 日	病床数の変更（結核病床及び一般病床 減床）
	結核病床 68 床 一般病床 390 床 第二種感染症病床 6 床
平成 28 年 10 月 1 日	地域包括ケア病棟設置（1 病棟）
平成 29 年 3 月 1 日	病床数の変更（結核病床 減床）
	結核病床 60 床 一般病床 390 床 第二種感染症病床 6 床
平成 29 年 4 月 1 日	病院名称を大阪はびきの医療センターに改称
	耳鼻咽喉科及び臨床研究センターを設置
平成 30 年 3 月 31 日	病床数の変更（一般病床 減床）
	結核病床 60 床 一般病床 360 床 第二種感染症病床 6 床
平成 30 年 6 月 1 日	大阪府アレルギー疾患医療拠点病院に指定
令和 2 年 4 月 1 日	泌尿器科設置
令和 2 年 6 月 5 日	日本医療機能評価機構病院機能評価認定（3rdG:Ver.2.0）
令和 3 年 3 月 10 日	地域医療支援病院として府の承認（令和 3 年 4 月より運用開始）
令和 4 年 4 月 1 日	整形外科、救急診療科開設
令和 5 年 5 月 8 日	新病院開院
	病床数 405 床
	結核病床 45 床 一般病床 354 床 第二種感染症病床 6 床
	糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、心臓血管外科、歯科口腔外科開設

3. 主な施設及び医療機器

(1) 土地・建物

敷地面積 69,368.78 m²

	名称	敷地面積
A地区	管診・病棟周辺地区	69,368.78

建物面積

ア 建物面積 16,461.950 m²イ 延面積 52,070.560 m²

名称	構造	建築面積	延面積
病棟部門 (新病院)	鉄筋コンクリート	m ²	m ²
	地上6階 地下0階	8,601.400	34,199.700
	地上1階 (感染症センター)	107.640	107.640
管理部門 (管診)	鉄筋コンクリート		
	地上2階 地下1階		
	地上3階 地上1階	7,752.910	17,763.220
合計		16,461.950	52,070.560

(2) 主な医療機器・システム

令和5年度に取得した1000万円以上の医療機器一覧

令和6年3月31日時点

固定資産名	取得日付	取得価額	期末帳簿価額
第9期病院情報システム一式	2023/5/8	2,348,835,972	2,348,835,972
総合検体検査機器一式	2023/4/1	261,605,612	261,605,612
SOMATOM Drive	2023/4/1	202,513,636	202,513,636
MAGNETOM Vida	2023/4/1	179,495,455	179,495,455
手術映像管理システム他一式	2023/5/8	145,677,755	145,677,755
X線循環器診断システム キヤノンAlphenix	2023/8/31	138,000,000	138,000,000
MAGNET avanto fit	2023/4/1	79,495,455	79,495,455
シンビ アE	2023/4/1	43,495,454	43,495,454
メンテナンス付シリジ ボンブ 76台	2023/4/1	18,931,062	18,931,062
第9期病院情報システムにおける管理診療棟用ネットワーク機器一式	2024/2/1	9,651,875	9,651,875
液化酸素貯槽9700-M型CE	2023/4/30	9,000,000	9,000,000
令和5年度_電話交換機一式の購入契約	2023/5/8	5,000,000	5,000,000
【治験費】 気管支ファイバースコープ BF-UC290F	2024/3/25	4,838,400	4,838,400
オールインワン蛍光顕微鏡一式 BZ-X800 【治験費】	2024/3/31	4,730,000	4,730,000
オリンパス気管支ファイバースコープ BF-MP290F 【治験費】	2023/12/28	3,000,000	3,000,000
マスクフィットテスター ボータカウントプロ 【治験費】	2024/1/30	2,691,000	2,691,000
作業台付汚物流し	2023/12/28	2,250,000	2,250,000
産婦人科バスターレフトシステム一式	2023/12/14	1,664,300	1,664,300
MegaOakアシスト薬剤マスタールキット 【治験費】	2024/3/31	1,500,000	1,500,000
圧力調整装置	2023/4/30	1,160,000	1,160,000
ベッドパッドウォッシャーの購入契約	2023/4/20	1,129,300	1,129,300
Humecaメッシャー-6.HM01 【治験費】	2024/3/1	1,062,500	1,062,500
卓上型ダクトレストラフトチャンバー 【治験費】	2023/12/28	943,000	943,000
緊急遮断弁ユニット	2023/4/30	750,000	750,000
新病院寄附金銘板_W510×H810×D23 SUS	2023/4/13	650,000	650,000
歯科用切削器 SurgicPro2	2023/8/9	500,000	500,000
緊急遮断弁ポンプ スタンド	2023/4/30	500,000	500,000
空温式加圧蒸発器①	2023/4/30	480,000	480,000
空温式加圧蒸発器②	2023/4/30	480,000	480,000
ラブリタイスチャークリップ アブライヤー J&J KA200	2023/5/15	438,600	438,600
PHC注射薬自動払出システム専用カート 【治験】	2024/3/31	426,000	426,000
PHC注射薬自動払出システム専用カート 【治験】	2024/3/31	426,000	426,000
PHC注射薬自動払出システム専用カート 【治験】	2024/3/31	426,000	426,000
PHC注射薬自動払出システム専用カート 【治験】	2024/3/31	426,000	426,000
PHC注射薬自動払出システム専用カート 【治験】	2024/3/31	426,000	426,000
膀胱用超音波診断装置クリニースキャン	2023/12/14	396,000	396,000
ニュートロンLED(後付け)一式の購入契約	2023/7/31	351,800	351,800
携帯型経費水分蒸散量計 TM-M 【治験費】	2024/3/31	330,000	330,000

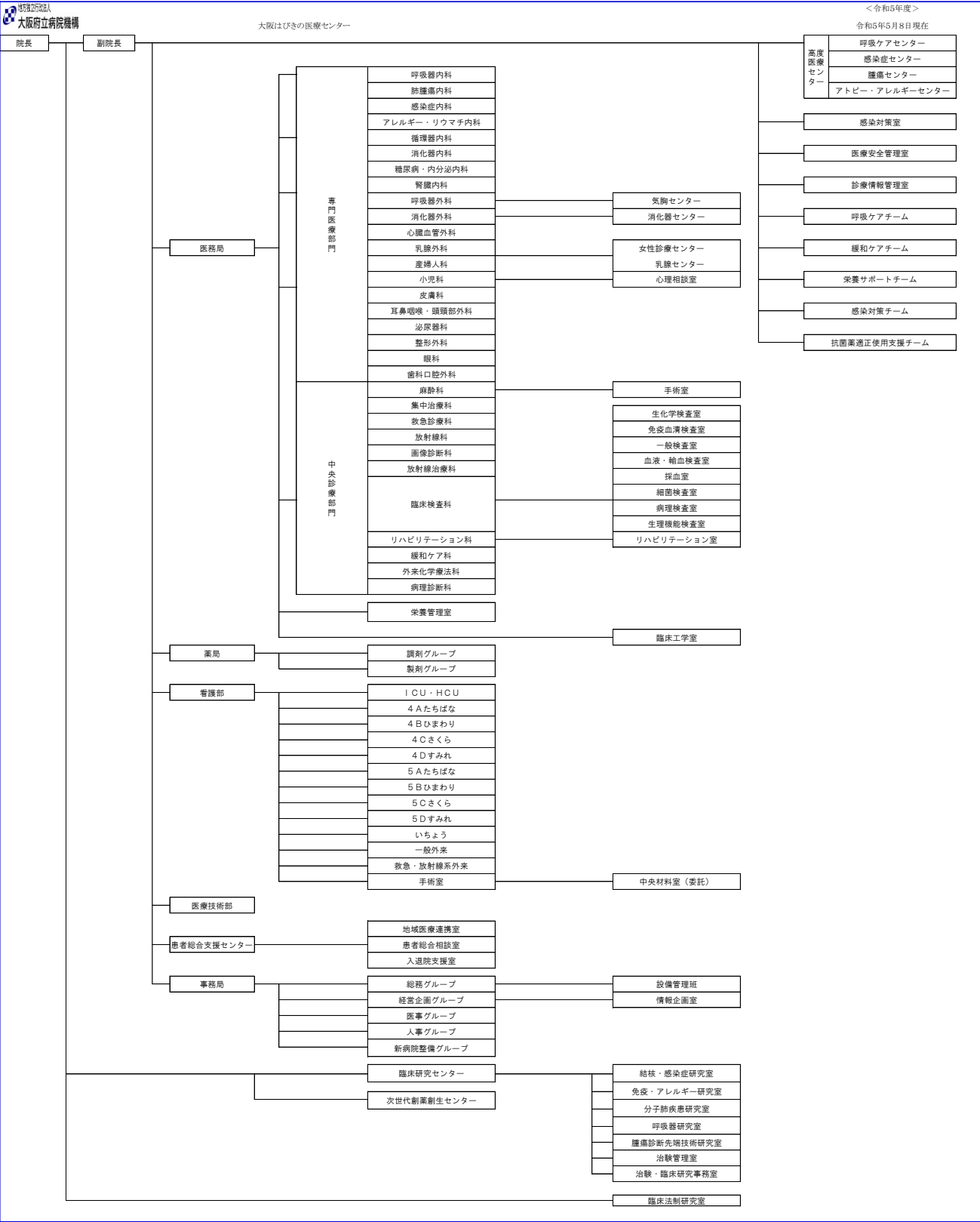
令和5年度に取得した1000万円以上の医療機器一覧

令和6年3月31日時点

固定資産名	取得日付	取得価額	期末帳簿価額
顕微鏡①ECLIPSE Ci-LPlus 【治験費】	2023/11/30	325,750	325,750
顕微鏡②ECLIPSE Ci-LPlus 【治験費】	2023/11/30	325,750	325,750
ノートパソコンレッツノート 【治験費】	2023/11/9	303,600	303,600
ローリー電源BOX	2023/4/30	280,000	280,000
オートクレーブ TE-241ER	2023/6/13	264,000	264,000
チャレンジャーTi-Pチタンクリップ アブ ライヤー PL604R	2023/5/15	229,240	229,240
iPadPro11インチスペースグレイ MNXK3JA 【治験費】	2024/2/27	224,637	224,637
麻酔用 VHMアームキーボード GEヘルスケア①	2023/5/31	214,700	214,700
麻酔用 VHMアームキーボード GEヘルスケア②	2023/5/31	214,700	214,700
(末梢血管セット)ラテックス剪刀 丸柄 曲125° 18cm	2024/3/31	201,690	201,690
シャント用プラスチックユニバーサルレイ298*368*19	2024/3/31	200,600	200,600
緊急遮断弁操作盤	2023/4/30	200,000	200,000
ノートパソコン LIFEBOOK① 【治験費】	2023/11/6	199,100	199,100
ノートパソコン LIFEBOOK② 【治験費】	2023/11/6	199,100	199,100
ノートパソコン LIFEBOOK③ 【治験費】	2023/11/6	199,100	199,100
ノートパソコン LIFEBOOK④ 【治験費】	2023/11/6	199,100	199,100
ノートパソコン LIFEBOOK⑤ 【治験費】	2023/11/6	199,100	199,100
カシオデータカメラ① DZ-D100 【治験費】	2023/8/10	199,000	199,000
カシオデータカメラ② DZ-D100 【治験費】	2023/8/10	199,000	199,000
実体顕微鏡 ニコンSMZ745	2023/6/20	198,000	198,000
サクラ 標本ブロック加湿器SMB-1 【治験費】	2023/8/3	188,000	188,000
(末梢血管セット)ラテックス剪刀 丸柄 曲90° 18cm	2024/3/31	186,750	186,750
双眼ルーペ 付ヘッドライトML-600B	2023/10/31	178,200	178,200
サージカルテレスコープ (株)メディカルプロダクツ レス_Looks2500	2024/1/10	174,400	174,400
(末梢血管セット)ラテックス剪刀 丸柄 曲60° 18cm	2024/3/31	170,150	170,150
ノートパソコン 東芝dynabook① 【治験費】	2023/11/6	162,000	162,000
ノートパソコン 東芝dynabook② 【治験費】	2023/11/6	162,000	162,000
ノートパソコン 東芝dynabook③ 【治験費】	2023/11/6	162,000	162,000
ノートパソコン 東芝dynabook④ 【治験費】	2023/11/6	162,000	162,000
パソコン 富士通ESPRIMO WD1/H2 【治験費】	2023/11/13	158,200	158,200
シャント用ダイヤタスト付マイクロ持針器 直 145mm	2024/3/31	154,440	154,440
LOGIQ P9用プローブ マルチ穿刺ホルダー CI-5	2023/9/29	150,000	150,000
麻酔用 VHM-Pアームトレーゲル社①	2023/5/31	142,500	142,500
麻酔用 VHM-Pアームトレーゲル社②	2023/5/31	142,500	142,500
麻酔用 VHM-Pアームトレーゲル社③	2023/5/31	142,500	142,500
麻酔用 VHM-Pアームトレーゲル社④	2023/5/31	142,500	142,500
DELLデスクトップパソコンNewInspiron 【治験費】	2024/2/2	127,600	127,600
(末梢血管セット)ヘモシヨ-用鉗子 33mm用 反柄 曲60° 16cm	2024/3/31	112,050	112,050
(末梢血管セット)トンネー-TH(LM)	2024/3/31	109,000	109,000
iPad Air 256GB ピンク 【治験費】	2023/8/9	102,000	102,000
iPad Air 256GB ブルー 【治験費】	2023/8/9	102,000	102,000
iPad Air 256GB スターライト 【治験費】	2023/8/9	102,000	102,000
iPad Air 256GB パープル 【治験費】	2023/8/9	102,000	102,000

4. 組織及び人事

(1) 組織表



(2) 令和5（2023）年度職種別人員推移表

(単位：人)

給料表別 職種別 月例	政 職								医務職 (一)		医務職 (二)														医務職 (三)	合 計
	事 務 職 員	一 般 行 政	建 築	ボ イ ラ ー 技 師	設 備 管 理 技 術 員	水 道 工	病 棟 婦 夫	心 理 士	医 師	歯 科 医 師	薬 劑 師	栄 養 士	診 療 放 射 線 技 師	臨 床 検 査 技 師	理 学 療 法 士	作 業 療 法 士	言 語 聴 覚 士	臨 床 工 学 技 士	視 能 訓 練 士	歯 科 衛 生 士	電 子 工 学	診 療 情 報 管 理 士	社 会 福 祉 士	看 護 助 手	産 科 看 護 師 ・ 准 看 護 師 ・ 助 師	
令和5(2023)年度定員	23	2	1	0	2	0	0	0	80	1	14	3	14	24	3	1	1	3	2	1	0	3	3	2	356	539
令和5(2023). 4. 1	24	2	1	0	2	0	0	0	77	1	17	3	16	24	3	1	1	3	1	1	0	2	2	2	400	583
5. 1	24	2	1	0	2	0	0	0	77	1	17	3	16	24	3	1	1	3	1	1	0	2	2	2	398	581
6. 1	24	2	1	0	2	0	0	0	78	1	17	3	16	24	4	1	2	3	1	1	0	2	2	2	398	584
7. 1	24	2	1	0	2	0	0	0	77	1	17	3	16	24	3	2	1	3	1	1	0	2	2	2	396	580
8. 1	24	2	1	0	2	0	0	0	77	1	17	3	16	24	4	1	2	3	1	1	0	2	2	2	392	577
9. 1	24	2	1	0	2	0	0	0	77	1	17	3	16	24	4	1	1	3	1	1	0	2	2	2	391	575
10. 1	24	2	1	0	2	0	0	0	76	1	17	3	16	24	4	1	1	3	1	1	0	2	2	2	391	574
11. 1	24	2	1	0	2	0	0	0	76	1	17	3	16	24	4	1	1	3	1	1	0	2	2	2	391	574
12. 1	24	2	1	0	2	0	0	0	76	1	17	3	16	24	4	1	1	3	1	0	0	2	2	2	391	573
令和6(2024). 1. 1	24	2	1	0	2	0	0	0	76	1	17	3	16	24	4	1	1	3	1	0	0	2	2	2	387	569
2. 1	24	2	1	0	2	0	0	0	76	1	17	3	16	24	4	1	1	3	1	0	0	2	2	2	389	571
3. 1	23	2	1	0	2	0	0	0	76	1	17	3	16	24	4	1	1	3	1	1	0	2	2	2	386	568
3. 31	23	2	1	0	2	0	0	0	76	1	17	3	16	24	4	1	1	3	1	1	0	2	2	2	386	568

(3) 主たる役職者

令和6(2024)年3月31日現在						
役職	氏名	備考	役職	氏名	備考	
院長	山口 誓司		耳鼻咽喉・頭頸部外科 主任部長	(川島佳代子)	医務局長兼務	
副院長兼 皮膚科主任部長	片岡 葉子		耳鼻咽喉・頭頸部外科 副部長	花田 有紀子		
副院長	緒方 篤		泌尿器科主任部長	福井 辰成		
事務局 長	中谷 健志		整形外科主任部長	塚本 泰徳		
医務局長兼 耳鼻咽喉・頭頸部外科主任部長	川島 佳代子		整形外科副部長	谷内 孝次		
診療局 長	-	欠員	救急診療科主任部長	廣田 哲也		
呼吸器内科主任部長	森下 裕		心臓血管外科主任部長	川平 洋一		
呼吸器内科副部長	田村 香菜子		糖尿病・内分泌内科 主任部長	樫根 晋		
肺腫瘍内科主任部長	鈴木 秀和		腎臓内科主任部長	飯尾 麗		
肺腫瘍内科副部長	森下 直子		歯科口腔外科主任部長	助臺 美帆		
呼吸器外科主任部長	門田 嘉久		麻酔科主任部長	高内 裕司		
呼吸器外科副部長	北原 直人		麻酔科副部長	播磨 恵		
集中治療科主任部長	柏 庸三		画像診断科主任部長	竹下 徹		
感染症内科主任部長	永井 崇之		放射線治療科主任部長	-	欠員	
感染症内科副部長	韓 由紀		外来化学療法科主任部長	-	欠員	
アレルギー・リウマチ内科 主任部長	松野 治		臨床検査科主任部長	田村 嘉孝		
小児科主任部長	亀田 誠		病理診断科主任部長	上田 佳世		
小児科部長	吉田 之範		リハビリテーション科 主任部長	(塚本泰徳)	整形外科主任 部長兼務	
小児科副部長	高岡 有理		緩和ケア科主任部長	-	欠員	
皮膚科主任部長	(片岡 葉子)	副院長兼務	呼吸器内視鏡内科 主任部長	-	欠員	
眼科部長	-	欠員	臨床研究センター長	橋本 章司		
循環器内科主任部長	原田 光一郎		教育研修センター長	江角 章		
循環器内科部長	(江角 章)	教育研修セン ター長	次世代創薬創生センター長	松山 晃文		
循環器内科副部長	原田 博		薬局 長	金銅 葉子		
同	井内 敦彦		医療技術部長	別所 右一		
消化器内科主任部長	-	欠員	看護部長	岡田 知子		
消化器内科部長	前山 晋吾		副看護部長	羽澤 三恵子		
消化器外科主任部長	宮崎 知		同	豊田 充代		
消化器外科部長	池田 公正		同	近藤 勝美		
消化器外科副部長	酒田 和也		同	田中 真奈美		
乳腺外科主任部長	安積 達也		副看護部長兼看護師長	中出 亜希代		
産婦人科主任部長	赤田 忍		同	関田 恵		
産婦人科副部長	安川 久吉		医療安全管理者	泉 和江		

(4) 医務局等組織一覧表

令和6(2024)年 3 月 3 1 日現在							
院 長	理 事	山 口 誓 司				現 員	
副 院 長	部 長 級	片 岡 葉 子					
副 院 長	部 長 級	緒 方 篤					
医務局長	部 長 級	川 島 佳 代 子				4	
職 階	次長級(1 5 年卒)	課長級(1 9 年卒)		課長補佐級(2 2 年卒)	主査級(2 7 年卒)	一般吏員級	現 員
役職名	主任部長	部長（院内発令）	副部長	医 長	診療主任	医 員	[常勤]
呼吸器内科	森下 裕		田村 香菜子	馬越 泰生		小牟田 清英 山内 桂二郎 横山 将史 田邊 英高	7
肺腫瘍内科	鈴木 秀和		森下 直子		佐藤 真吾 細野 裕貴 柳瀬 隆文		5
呼吸器外科	門田 嘉久		北原 直人		谷口 聖治	上山 廉起 小林 周平	5
集中治療科	柏 庸三						1
感染症内科	永井 崇之		韓 由紀		新井 剛	飯屋 勇希	4
アレルギー・ リウマチ内科	松野 治				石田 裕		2
小児科	亀田 誠	吉田 之範	高岡 有理	深澤 陽平 釣永 雄希	上野 瑞美 山口 智裕		7
皮膚科	(兼務片岡 葉子)				坂本 幸子	木村 優香 長塚 由美 坂本 理佳	(1) 4
眼科							
循環器内科	原田 光一郎	(兼務 江角 章)	原田 博 井内 敦彦				(1) 3
消化器内科		前山 晋吾					1
消化器外科	宮崎 知	池田 公正	酒田 和也	浦川 真哉			4
乳腺外科	安積 達也						1
産婦人科	赤田 忍		安川 久吉	長安 実加	亀西 実加	中谷 沙也佳 坂元 優太 梅原 健耶	7
耳鼻咽喉・頭頸部外科	(兼務川島 佳代子)		花田 有紀子		奥野 未佳	河辺 隆誠	(1) 3
泌尿器科	福井 辰成				大草 卓也		2
整形外科	塚本 泰徳		谷内 孝次				2
救急診療科	廣田 哲也						1
心臓血管外科	川平 洋一						1
糖尿病・内分泌内科	櫻根 晋				豊田 新一郎		2
腎臓内科	飯尾 麗					上床 隆太	2
歯科口腔外科	助壺 美帆						1
麻 酔 科	高内 裕司		播磨 恵		安藝 裕子	後藤 佳澄	4
画像診断科	竹下 徹					後藤 拓也	2
放射線治療科							
外来化学療法科							
臨床検査科	田村 嘉孝						1
病理診断科	上田 佳世				森 秀夫		2
リハビリテーション科	(兼務塚本 泰徳)		(兼務谷内 孝次)				(2)
緩和ケア科							
呼吸器内視鏡内科							
臨床研究センター	橋本 章司						1
教育研修センター	江角 章						1
次世代 創業創生センター	松山 晃文						1
	25	3	12	5	15	17	77
レジデント (9 名)	山口 徹	(R5.4.1～R6.3.31)	臨床検査科	前田 恭兵	(R5.4.1～R6.3.31)	感染症内科	耳鼻咽喉・頭頸部外科 皮膚科
	九門 順子	(R5.4.1～R6.3.31)	小児科	永井 裕子	(R5.4.1～R6.3.31)		
	中竹 俊伸	(R5.4.1～R6.3.31)	小児科	藤田 壮	(R5.4.1～R6.3.31)		
	山手 和智	(R5.4.1～R6.3.31)	小児科				
	梅田 有観	(R5.4.1～R6.3.31)	小児科				
	中原 康輔	(R5.4.1～R6.3.31)	小児科				
初期研修医 (1 名)	佐藤 一徳	(R5.4.1～R6.3.31)	医務局				

(5) 看護部組織一覧表

令和5(2023)年5月6日現在

看護部長	岡田 知子
副看護部長	羽澤 三恵子 豊田 充代 近藤 勝美 田中 真奈美 中出 亜希代 関田 恵
医療安全管理者	泉 和江

		病 床 数	看護師定数	看護師長
ICU	I C U	4	17	福村 恵
HCU	H C U	12	33	
4Aたちばな	呼吸器外科/整形外科/歯科口腔外科 耳鼻咽喉・頭頸部外科	45	25	中村 由利子
4Bひまわり	小児科/NICU/皮膚科 耳鼻咽喉・頭頸部外科	32	36	吉田 めぐみ
NICU		3		
4Cさくら	産 婦 人 科	41	46	(中出 亜希代)
4Dすみれ	消化器内科/消化器外科 産婦人科/泌尿器科/乳腺外科	45	25	倉田 悦子
5Aたちばな	皮膚科/循環器内科/アレルギー内科 糖尿病・内分泌内科/腎臓内科	48	21	(関田 恵)
5Bひまわり	呼 吸 器 内 科 / 感 染 症 内 科	44	25	難波 美華
5Cさくら	感 染 症 内 科 / 呼 吸 器 内 科	42	25	榎本 かおり
5Dすみれ	肺腫瘍内科/産婦人科/乳腺外科 泌尿器科/消化器内科/消化器外科	44	25	井上 理恵
1Fいちょう	感 染 症 内 科	45	27	秦 順子
地 域 医 療 連 携 室			11	田中 久美
入 退 院 支 援 室				
患 者 総 合 支 援 セ ン タ ー				(羽澤 三恵子)
一 般 外 来			10	山本 攝子
救 急 ・ 放 射 線 系 外 来			17	荻野 洋子
手 術 室			15	谷村 佐和
専 門 看 護 師			4	
看 護 部 長 室			5	
計		405	367	

(5) 現 員 表

令和5(2023)年3月31日現在

職 名			現 員	備 考
定 数 内	常 勤 職 員	事 務 職 員	28	
		技 術 職 員	540	
	計		568	
定 数 外	臨時的任用職員		0	看護師・准看護師 0
	非 常 勤 職 員		338	医 師 99
				看護師 53
				非常勤嘱託員 0
				看護助手 19
	計		338	事務補助 130
医療技術 37				
合 計			906	

5. 運営会議、幹部会、各種委員会

名称	性格、機能 等
運営会議	管理運営基本協議機関
幹部会	関係部局間連絡調整機関

委員会名称	委員長	活動内容
医療情報管理委員会	循環器内科主任部長 原田 光一郎	1 医療情報の管理及び提供に関すること。 2 診療録の管理運営に関すること。 3 その他医療情報の管理に関すること。 4 がん登録に関すること。
クリニカルパス推進委員会	医務局長 川島 佳代子	1 クリニカルパスの管理および利用推進に関すること。 2 パス大会の運営に関すること。 3 その他クリニカルパスに関すること。
個人情報保護等委員会	副院長 片岡 葉子	1 診療情報提供の申請の審査に関すること。 2 個人情報の取り扱い及び保護に関すること。
薬事委員会	副院長 緒方 篤	1 薬品の選定に関すること。 2 新規医薬品購入に関すること。 3 医薬品管理の改善に関すること。 4 医薬品情報に関すること。 5 その他薬事に関すること。
NST・栄養委員会	糖尿病・内分泌内科 主任部長 檜根 晋	1 患者給食に関すること。 2 入院患者の栄養状態の改善に関すること。 3 栄養指導に関すること。
感染対策委員会	感染症内科主任部長 永井 崇之	1 院内感染の予防に関すること。 2 院内感染発生時の対応策に関すること。 3 新型インフルエンザ対策に関すること。 4 その他感染対策に関すること。
職員研修・図書委員会	副院長 緒方 篤	1 職員の研修に関すること。 2 人権研修に関すること。 3 図書選定の調整に関すること。 4 図書室運営に関すること。

第1 概要 5. 運営会議、幹部会、各種委員会

医療機器等整備委員会	院長 山口 誓司	<ol style="list-style-type: none"> 1 医療機器等整備計画策定に関する事。 2 医療機器等の購入方法等に関する事。 3 医療機器等の管理及び処分に関する事。 4 購入額が500万円以上の医療機器等の機種選定に関する事。 5 その他医療機器等の整備に関する事。
広報委員会	医務局長 川島 佳代子	<ol style="list-style-type: none"> 1 広報に関する事。
医療安全管理委員会	副院長 片岡 葉子	<ol style="list-style-type: none"> 1 医療安全管理の検討及び研究に関する事。 2 医療事故の分析及び再発防止策の検討等に関する事。 3 医療安全管理のために行う職員に対する指示に関する事。 4 医療安全管理のための啓発、教育、広報に関する事。 5 医療訴訟に関する事。 6 その他、医療安全管理に関する事。
医療安全推進委員会	副院長 片岡 葉子	<ol style="list-style-type: none"> 1 インシデント報告の把握、原因分析及び対策の検討に関する事。 2 院内の事故防止のための意識向上に関する事。 3 医療安全管理委員会の決定事項の周知に関する事。 4 その他、医療安全管理に関する事。
医療機器・医療ガス安全管理委員会	呼吸器外科主任部長 門田 嘉久	<ol style="list-style-type: none"> 1 医療機器及び医療ガス設備の保守点検に関する事。 2 医療機器の機種変更及び更新に関する事。 3 医療ガス設備の改修に際しての安全の確保に関する事。 4 医療ガスに関する知識の普及及び啓発に関する事。 5 その他医療機器の安全管理又は医療ガスに関する事。

安全衛生委員会	院長 山口 誓司	<ol style="list-style-type: none"> 1 職員の安全衛生に係る業務の企画に関する こと。 2 職員の健康保持増進の基本対策に関する こと。 3 労災の原因・再発防止で、安全衛生に関 すること。 4 職員の危険、健康障害防止、健康保持増進 に関すること。
放射線安全委員会	放射線科主任部長 竹下 徹	<ol style="list-style-type: none"> 1 放射性同位元素等及び放射線発生装置の管 理状況 2 放射線障害防止に関する業務の改善に係る 事項 3 その他、放射線障害防止に係る事項
医療放射線安全管理 委員会	放射線科主任部長 竹下 徹	<ol style="list-style-type: none"> 1 診療用放射線の安全利用のための指針策定 2 放射線安全利用のための研修の実施 3 放射線過剰被ばくその他放射線診療に関す る事例発生時の対応 4 被ばく線量の管理及び記録および安全利用 を目的とした改善のための方策の実施
治験審査委員会	臨床研究センター長 橋本 章司	<ol style="list-style-type: none"> 1 審査対象の治験の倫理的及び科学的な妥当 性、その他当該治験の実施の可否を審査す ること。 2 治験を適切に実施しているか調査し、当該 治験の継続実施の適否を審査すること。
受託研究審査委員会	臨床研究センター長 橋本 章司	<ol style="list-style-type: none"> 1 研究の目的、内容及び方法等の妥当性並び にその変更の妥当性について審議するこ と。 2 患者の研究参加の同意確認が適切に得られ ているか確認すること。 3 研究の進行状況について報告を受け、また 必要に応じて、自ら調査を行い、意見を述 べること。

第1 概要 5. 運営会議、幹部会、各種委員会

診療材料委員会	副院長 緒方 篤	<ol style="list-style-type: none"> 1 診療材料の採択及び廃止に関すること。 2 既使用材料の見直し及び企画の統一に関すること。 3 診療材料の効率的な在庫管理に関すること。
ICU・HCU 運営委員会	集中治療科主任部長 柏 庸三	<ol style="list-style-type: none"> 1 集中治療室の運営に関すること。
臨床検査適正化委員会	臨床検査科主任部長 田村 嘉孝	<ol style="list-style-type: none"> 1 臨床検査科の運営に関すること。 2 参加した外部精度管理の結果報告。
褥瘡対策委員会	消化器外科部長 池田 公正	<ol style="list-style-type: none"> 1 患者の褥瘡の発生予防、治療の情報収集等に関すること。
手術室運営委員会	麻酔科主任部長 高内 裕司	<ol style="list-style-type: none"> 1 手術室の運営に関すること。
サービス向上委員会	アレルギー・リウマチ 内科部長 松野 治	<ol style="list-style-type: none"> 1 患者サービスの向上に関すること。
医学研究倫理委員会	副院長 緒方 篤	<ol style="list-style-type: none"> 1 先進医療又は研究に関する実施計画の審査に関すること。 2 研究成果の出版等で医の倫理に係わる審査に関すること。 3 看護部倫理委員会が必要と認めた実施計画の審査に関すること。
地域医療連携推進委員会	医務局長 川島 佳代子	<ol style="list-style-type: none"> 1 病診連携の推進に関すること。 2 病病連携の推進に関すること 3 入退院の促進に関すること。 4 地域医療支援病院の運営に関すること。
輸血療法委員会	産婦人科主任部長 赤田 忍	<ol style="list-style-type: none"> 1 適正かつ安全な輸血療法に関すること。 2 有効な補助療法として血液製剤の投与基準に関すること。 3 血液製剤使用記録の保管に関すること。 4 輸血後副作用・感染症の有無に関すること。 5 自己血貯血・輸血に関すること。

第1 概要 5. 運営会議、幹部会、各種委員会

医療の質向上委員会	小児科主任部長 亀田 誠	<ol style="list-style-type: none"> 1 日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価の受審に関すること。 2 日本医療機能評価機構による指摘事項への継続的な対応策等に関すること。
化学療法委員会	乳腺外科主任部長 安積 達也	<ol style="list-style-type: none"> 1 化学療法のレジメンの妥当性の評価及び承認に関すること。 2 外来化学療法の運営に関すること。 3 入院における化学療法に関すること。 4 その他、化学療法に関すること。
医療情報システム管理委員会	副院長 緒方 篤	<ol style="list-style-type: none"> 1 病院情報システムの開発、改修及び廃止に関すること。 2 病院情報システムの運用及び管理に関すること。 3 その他、病院情報システムに関すること。 4 インターネットシステムの運営に関すること。 5 地域医療ネットワークとの連携に関すること。 6 医療情報システムの安全管理に関すること。
利益相反委員会	臨床研究センター長 橋本 章司	<ol style="list-style-type: none"> 1 利益相反による弊害を抑えるための方策に関すること。 2 利益相反管理の調査に関すること。 3 その他、利益相反の重要事項に関すること。
勤務環境改善委員会	副院長 片岡 葉子	<ol style="list-style-type: none"> 1 医師・看護師の負担軽減及び処遇改善計画に関すること。 2 勤務環境の改善等に関すること。 3 職員の定着率及び満足度向上に関すること。 4 職員の育児・介護支援に関すること。

第1 概要 5. 運営会議、幹部会、各種委員会

防火防災委員会	事務局長 中谷 健志	<ol style="list-style-type: none"> 1 防火防災訓練の企画に関すること。 2 防火防災マニュアルの整備に関すること。 3 職員に対する防火防災研修の企画に関すること。 4 その他、防火防災に関すること。
C P R委員会	集中治療科主任部長 柏 庸三	<ol style="list-style-type: none"> 1 蘇生法の教育に関すること。 2 蘇生のための物品管理に関すること。 3 RRS に関すること。
コンプライアンス・ハラスメント防止委員会	院長 山口 誓司	<ol style="list-style-type: none"> 1 綱紀保持方策の実施状況の点検・確認及び見直しに関すること。 2 セクハラ・パワハラ対策に関すること。 3 コンプライアンスに関すること。
小児周産期医療委員会	小児科部長 吉田 之範	<ol style="list-style-type: none"> 1 新生児特定集中治療室の運営に関すること。
重症心身障がい児ショートステイ運営委員会	小児科部長 吉田 之範	<ol style="list-style-type: none"> 1 重症心身障がい児のショートステイの運営に関すること。
虐待防止対策委員会	小児科副部長 高岡 有理	<ol style="list-style-type: none"> 1 各種虐待（疑いを含む）への迅速な対応及び組織的な対応に関すること。 2 虐待対応マニュアルの整備に関すること。 3 その他、センターの患者に対する各種虐待に関すること。
新内科専門医研修制度管理委員会	副院長 緒方 篤	<ol style="list-style-type: none"> 1 新内科専門医研修制度のプログラムの策定に関すること。 2 その他、新内科専門医研修制度について必要と認める活動に関すること。
救急委員会	救急診療科主任部長 廣田 哲也	<ol style="list-style-type: none"> 1 診療フローの改善、マニュアルの整備と周知に関すること。 2 インシデント・アクシデントの確認・対応に関すること。 3 救急搬送受入状況の報告及び不応需事例を含めた振り返り・症例検討に関すること。 4 救急搬送受入件数増に向けた提案に関すること。

第1 概要 5. 運営会議、幹部会、各種委員会

臨床倫理委員会	副院長 緒方 篤	<ol style="list-style-type: none"> 1 組織としての意思決定が必要な臨床の倫理的課題に関すること。 2 臨床倫理チームによる相談・調整及び職員の臨床倫理教育に関すること。 3 臨床医学等の倫理に係る審査に関すること。
バイオセーフティ管理委員会	臨床研究センター長 橋本 章司	<ol style="list-style-type: none"> 1 病原体等を取り扱う研究又は実験を行う場合における病原体等への曝露及び事故の未然防止に関すること。
臨床研修管理委員会	教育研修センター長 江角 章	<ol style="list-style-type: none"> 1 研修プログラムの企画、立案、教育及び評価などに関すること。
DPC 保険診療委員会	副院長 片岡 葉子	<ol style="list-style-type: none"> 1 診療報酬に関すること。 2 診療に関する自主料金収入の確保に関すること。 3 保険診療に関すること。 4 DPC に関すること。
外来診療運営委員会	医務局長 川島 佳代子	<ol style="list-style-type: none"> 1 外来診察室や専門外来の運用など外来診療体制に関すること。
病棟運営委員会	院長 山口 誓司	<ol style="list-style-type: none"> 1 病棟の運用など、入院診療体制に関すること。 2 病棟再編に関すること。
がん診療拠点病院運営委員会	医務局長 川島 佳代子	<ol style="list-style-type: none"> 1 がん診療拠点病院運営委員会(部会含む)に関すること。 2 がん診療拠点病院の指定・更新に関すること。
大規模災害対策委員会	事務局長 中谷 健志	<ol style="list-style-type: none"> 1 大規模災害時における医療体制のあり方検討・整備及び BPC 策定に関すること。

6. 経営状況（決算）

(1) 総括

当センターは、昭和27年に府域における結核医療の基幹病院として開設し、これまでの間、結核とともに難治性の呼吸器疾患（COPD、肺がんなど）とアレルギー疾患（アトピー性皮膚炎、難治性喘息、食物アレルギーなど）の専門病院として専門医療に対応してきた。

あわせて、「地域に信頼され、地域になくてはならない病院」を目指し、南河内地域の医療ニーズに応える総合的な医療の拠点病院としての取組みを進めている。

令和5年度は、5月の新病院開院を契機とした救急外来設置などによる救急・重症患者の受け入れ拡大、羽曳野市や藤井寺市・藤井寺市医師会との連携協定の締結などに伴う地域連携のさらなる推進、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、心臓血管外科ならびに歯科口腔外科の開設など診療領域の拡大等による増患・集患に取り組んだ。あわせて、DPC適正運用の徹底や各種加算・管理料の取得等による診療単価向上にも取り組むなど、経営改善に向けた各種取組みを実施してきた。

経営状況は、5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したものの、第二種感染症医療機関として、府の要請に基づき、一定規模の病床を専用病床として確保するなど、引き続き、新型コロナウイルス感染症への対応が求められる中でも、地域医療連携の強化等の取組みにより、入院患者数が増加したこと、また、DPC適正運用や手術件数増加等により、新型コロナウイルス感染症に関する影響を除いた入院単価が令和4年度から大幅に向上したことにより医業収入が増加した。一方、府からの新型コロナウイルス感染症への対応に係る空床補償等の補助金は、5類移行に伴い大幅に縮減した。支出面においては、新病院開院準備に関する各種支出の増加、新病院開院に合わせた新規委託及び社会情勢上の賃上げ等の影響による委託費の上昇による経費の大幅増加、急性期医療やがん治療などの機能強化を目的とした最新鋭の医療機器整備等による費用の増加などの影響により、支出が大幅に増加した。これらの収入支出の増減により、資金収支は19.3億円の赤字となった。

(2) 事業実績

患者数

当年度における入院患者は延べ95,205人、外来患者数は延べ154,624人で、延入院患者数は前年度比7.41%増（一般9,465人増、結核2,897人減）、外来患者数は前年度比5.96%増（8,702人増）であった。

【患者数等の推移】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
延入院患者数	97,040人	86,806人	88,637人	95,205人
病床利用率 ※	62.4%	55.8%	57.0%	64.2%
新入院患者数	8,449人	8,735人	8,764人	10,433人
退院患者数	8,527人	8,751人	8,793人	10,396人
うち一般病床	8,342人	8,578人	8,609人	10,239人
うち結核病床	185人	173人	186人	157人
延外来患者数	147,693人	145,553人	145,922人	154,624人

※ 病床利用率は稼働病床数（426床）に対する比率

※ 病床利用率は稼働病床数（令和2年度～4年度：426床、令和5年度：405床）に対する比率

損益計算書

令和5年(2023)4月1日～令和6年(2024)3月31日

費用の部		収益の部	
科目	金額	科目	金額
営業費用	12,326,669,134	営業収益	10,947,682,328
医業費用	12,326,669,134	医業収益	8,995,802,085
給与費	6,132,519,341	入院収益	6,004,403,046
材料費	2,217,242,151	外来収益	2,541,361,952
減価償却費	1,931,262,267	その他医業収益	487,580,273
経費	1,975,910,868	保険等査定減	△ 37,543,186
研究研修費	69,734,507	運営費負担金収益	1,397,428,000
		補助金等収益	408,040,256
		寄付金収益	1,857,324
		資産見返補助金等戻入	105,564,175
		資産見返寄付金戻入	9,293,653
		資産見返物品受贈額戻入	29,696,835
営業外費用	780,169,562	雑収益	0
財務費用	103,918,734	営業外収益	187,226,957
控除対象外消費税	514,125,561	運営費負担金収益	49,134,000
資産に係る控除対象外消費税償却	161,994,267	その他営業外収益	138,092,957
その他営業外費用	131,000		
臨時損失	6,385,259	臨時利益	0
固定資産除却損	6,385,259		
前期損益修正損	0		
その他臨時損失	0	合計	11,134,909,285
当年度純利益	△ 1,978,314,670		
合計	11,134,909,285		

貸借対照表

令和6年（2024）3月31日

資 産 の 部		負 債 ・ 資 本 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
資 産	26,627,166,447 <small>円</small>	負 債	30,929,592,799 <small>円</small>
有形固定資産	23,905,620,294	固 定 負 債	27,663,845,952
土 地	3,229,328,880	資 産 見 返 負 債	1,175,111,596
建 物	8,028,544,700	長 期 借 入 金	17,774,598,657
建 物 付 属 設 備	6,077,900,516	引 当 金	3,062,482,060
構 築 物	1,114,178,544	リ ー ス 債 務	2,124,576,854
器 械 備 品	2,892,004,425	施 設 間 仮 勘 定	3,340,452,585
器 機 備 品（リ ー ス）	2,532,184,280	そ の 他 固 定 負 債	186,624,200
車 両	4	流 動 負 債	3,265,746,847
建 設 仮 勘 定	31,478,945	寄 付 金 債 務	29,608,321
無形固定資産	5,153,133	一 年 以 内 返 済 予 定 施 設 長 期 借 入 金	1,431,340,634
ソ フ ト ウ ェ ア	3,192,114	医 業 未 払 金	431,386,381
施 設 利 用 権	1,846,019	未 払 金	429,617,078
そ の 他 の 無 形 固 定 資 産	115,000	一 年 以 内 支 払 リ ー ス 債 務	444,141,221
投資その他の資産	2,716,393,020	未 払 費 用	67,000,580
施 設 整 備 等 積 立 金	1,013,000,000	未 払 消 費 税 及 び 地 方 消 費 税	63,983,500
職 員 長 期 貸 付 金	6,000,000	預 り 金	73,563,257
長 期 前 払 費 用	1,661,359,331	前 受 収 益	0
退 職 給 付 引 当 金 見 返	36,033,689	引 当 金	295,105,875
流 動 資 産	3,005,274,262	純 資 産	△ 1,297,152,090
現 金 及 び 預 金	976,602,137	資 本 金	△ 1,124,390,765
医 業 未 収 金	1,832,392,487	資 本 剰 余 金	1,466,745,508
未 収 金	110,857,217	積 立 金	338,807,837
医 薬 品	70,098,579	当 期 未 処 理 損 失	△ 1,978,314,670
貯 蔵 品	1,513,107	合 計	29,632,440,709
前 払 費 用	8,130,449		
そ の 他	5,680,286		
合 計	29,632,440,709		

第 2 業務の状況

第2 業務の状況 1. 令和5年度 地域医療支援病院 業務実績（大阪府への報告内容より抜粋）

1. 令和5年度 地域医療支援病院 業務実績 （大阪府への報告内容より抜粋）

紹介患者に対する医療提供及び他の病院又は診療所に対する紹介患者の実績（患者数は延べ人数）

紹介率	90.1%
逆紹介率	101.1%

救急医療を提供する能力、実績

重症救急患者を優先的に使用できる病床	6床（月曜日のみ8床）
地方公共団体又は医療機関に所属する救急自動車により搬送された救急患者数	2,750人
救急搬送以外の救急患者数	2,383人

救急用自動車（保有台数）	1台
救急自動車の主な装備	酸素ボンベ、ストレッチャー

地域の医療従事者による診療、研究又は研修のための利用(共同利用)のための体制

共同利用の実績（医療機関延べ数）	53医療機関
共同利用の範囲	開放病床、CT、MRI、RI等検査機器、図書室、研究室
登録医療機関数（二次医療圏外含む）	303機関
常時共同利用可能な病床数	5床

地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の実績

地域の医療従事者への研修実施回数	13回
研修者数 ※院外からの延べ参加人数	195人
病院全体として実施した研修会 「はびきのアカデミー」 「SOCC」 「羽曳野臨床懇話会」	

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績

閲覧件数	44件
------	-----

医療法施行規則第9条の19条1項に規定する委員会の開催状況

委員会の開催回数	4回
----------	----

患者相談の実績

相談件数	2,479件
------	--------

2. 医事統計

a. 月別入退院患者数調									
<div> <div>令和5年4月1日から 令和6年3月31日まで</div> </div>									
	月 初 在院数	当 月 入院数	当月退院数			月 末 在院数	当月 延患者数	一日平均 患者数	充床率
			治癒・ 軽快等	死亡	計				
令和5年	人	人	人	人	人	人	人	人	%
4月	170	675	680	12	692	153	6,172	205.7	46.1
5月	153	760	682	16	698	215	6,370	205.5	46.1
6月	215	839	835	16	851	203	7,267	242.2	54.3
7月	203	901	863	13	876	228	7,962	256.8	57.6
8月	228	997	960	18	978	247	8,252	266.2	59.7
9月	247	868	884	13	897	218	7,782	259.4	58.2
10月	218	899	854	15	869	248	8,282	267.2	59.9
11月	260	872	944	26	970	162	8,346	278.2	62.4
12月	248	878	851	15	866	260	8,261	266.5	59.7
令和6年									
1月	162	954	820	33	853	263	8,833	284.9	63.9
2月	263	919	905	18	923	259	8,796	314.1	70.4
3月	259	871	909	14	923	207	8,882	286.5	64.2
令和5年度計	—	10,433	10,187	209	10,396	2,663	95,205	260.8	58.5
令和4年度計	—	8,764	8,557	236	8,793	2,482	88,637	242.8	—
令和3年度計	—	8,734	8,520	232	8,752	—	86,787	237.7	55.7
令和2年度計	—	8,449	8,274	253	8,527	—	97,040	265.9	62.4
令和元年度計	—	10,266	10,261	279	10,540	—	122,655	335.1	78.3

b. 住所地別・月別新入院患者数

(単位：人)

区分	大阪府内計 (大阪市内除く)	内 訳							大阪市内計	内 訳				他府県	不詳	合計
		豊能ブロック	三島ブロック	北河内ブロック	中河内ブロック	南河内ブロック	堺市ブロック	泉州ブロック		北部ブロック	西部ブロック	東部ブロック	南部ブロック			
令和5年																
4月	597	8	1	6	85	429	48	20	53	6	1	10	36	25	0	675
5月	683	7	4	6	87	511	51	17	55	3	1	15	36	21	1	760
6月	770	6	1	4	87	598	62	12	41	2	2	12	25	27	0	838
7月	797	11	6	4	96	605	57	18	58	7	6	9	36	43	1	899
8月	898	11	9	5	114	664	63	32	58	6	3	5	44	41	0	997
9月	787	12	4	4	110	565	79	13	37	2	2	9	24	43	0	867
10月	820	12	2	11	103	634	52	6	37	4	0	5	28	41	0	898
11月	787	9	0	10	94	611	42	21	57	5	2	16	34	33	1	878
12月	785	22	5	6	95	588	49	20	57	6	7	9	35	28	0	870
令和5年																
1月	873	9	1	9	114	663	63	14	48	3	2	12	31	30	0	951
2月	829	7	1	3	89	643	61	25	53	3	3	12	35	34	1	917
3月	784	13	2	6	114	573	52	24	44	2	3	9	30	42	1	871
令和5年度 合 計	9,410	127	36	74	1,188	7,084	679	222	598	49	32	123	394	408	5	10,421
令和4年度 合 計	7,783	98	50	71	1,034	5,825	543	162	561	61	43	111	346	410	0	8,754
令和3年度 合 計	9,227	127	34	94	1,369	6,742	627	234	848	106	79	162	501	420	14	10,509
令和2年度 合 計	8,884	110	45	141	1,164	6,543	628	253	1,062	89	109	202	662	502	12	10,460
令和元年度 合 計	11,105	145	50	117	1,491	8,144	826	332	1,075	75	77	169	754	651	12	12,843

※大阪府内(大阪市内を除く)を7ブロック、大阪市内を4ブロックに分け集計した。

第1(豊能)ブロック 池田市、箕面市、豊能町、能勢町、豊中市、吹田市

第2(三島)ブロック 摂津市、茨木市、高槻市、島本町

第3(北河内)ブロック 枚方市、寝屋川市、守口市、門真市、大東市、四條畷市、交野市

第4(中河内)ブロック 東大阪市、八尾市、柏原市

第5(南河内)ブロック 松原市、羽曳野市、藤井寺市、大阪狭山市、富田林市、河内長野市、河南町、太子町、千早赤阪村

第6(堺市)ブロック 堺市

第7(泉州)ブロック 和泉市、泉大津市、高石市、忠岡町、岸和田市、貝塚市、泉佐野市、熊取町、田尻町、泉南市、阪南市、岬町

第8(大阪市北部)ブロック 北区、都島区、淀川区、東淀川区、旭区

第9(大阪市西部)ブロック 福島区、此花区、西区、港区、大正区、西淀川区

第10(大阪市東部)ブロック 中央区、天王寺区、浪速区、東成区、生野区、城東区、鶴見区

第11(大阪市南部)ブロック 阿倍野区、住之江区、住吉区、東住吉区、平野区、西成区

c. 退院患者在院日数調

〔令和5年4月1日から
令和6年3月31日まで〕

・総数	$\frac{95,204}{1 / 2 (10,433人 + 10,396人)}$	=	9.1日
・結核	$\frac{9,737}{1 / 2 (143人 + 154人)}$	=	65.6日
・一般	$\frac{85,467人}{1 / 2 (10,291人 + 10,239人)}$	=	8.3日

d. 科別・月別延べ入院患者数

区分	呼吸器 内科	肺腫瘍 内科	呼吸器 外科	感染症 内科	アレルギー・ リウマチ内科	小児科	皮膚科	耳鼻咽喉・ 頭頸部外科	眼科	循環器 内科	消化器 内科	腎臓内科	糖尿病・内 分泌内科	消化器 外科	乳腺外科	産婦人科	泌尿器科	整形外科	心臓血管 外科	救急診療科	放射線科	集中 治療科	歯科口腔 外科	合計
令和5年4月	843	523	391	1,160	157	454	391	266	0	222	98	7	0	352	182	898	90	119	0	19	0	0	0	6,172
5月	905	477	280	1,233	189	537	464	261	0	236	52	17	17	374	131	976	91	103	0	27	0	0	0	6,370
6月	1,132	640	261	1,255	202	587	432	316	0	269	118	39	78	430	133	990	160	176	0	47	0	0	2	7,267
7月	1,270	714	274	1,441	303	739	472	257	0	153	109	64	128	343	167	1,161	199	115	2	50	0	0	0	7,961
8月	1,286	819	349	1,499	276	694	459	295	0	169	56	81	110	370	148	1,254	226	130	2	24	0	0	5	8,252
9月	1,145	760	294	1,263	284	585	370	272	0	287	178	155	144	304	187	1,138	172	188	4	32	0	0	20	7,782
10月	1,333	780	383	1,204	282	585	390	382	0	341	115	175	164	367	195	1,097	205	233	10	38	0	0	3	8,282
11月	1,226	817	404	1,471	262	599	426	339	0	334	122	107	142	289	148	989	197	333	9	44	0	0	3	8,261
12月	1,338	739	404	1,392	325	566	382	358	0	316	76	121	127	222	156	1,160	252	358	11	38	0	0	5	8,346
令和5年1月	1,585	761	367	1,508	401	619	319	364	0	487	73	171	121	307	136	1,066	182	302	4	55	0	0	5	8,833
2月	1,314	885	424	1,642	195	524	383	399	0	597	103	126	125	252	190	998	253	332	10	35	0	0	9	8,796
3月	1,231	934	515	1,580	282	589	528	437	0	326	64	157	188	273	177	995	296	254	2	42	0	0	12	8,882
令和5年度 合計	14,608	8,849	4,346	16,648	3,158	7,078	5,016	3,946	0	3,737	1,164	1,220	1,344	3,883	1,950	12,722	2,323	2,643	54	451	0	0	64	95,204
1日平均患者数	38.6	21.3	13.1	50.7	8.5	16.9	15.3	7.4	0.0	9.4	1.7	—	—	11.3	4.0	33.3	5.7	5.1	—	0.5	0.0	0.1	—	242.8
構成比（％）	15.9%	8.8%	5.4%	20.9%	3.5%	6.9%	6.3%	3.1%	0.0%	3.9%	0.7%	—	—	4.7%	1.6%	13.7%	2.4%	2.1%	—	0.2%	0.0%	0.0%	—	100.0%
令和4年度 合計	14,101	7,765	4,767	18,511	3,108	6,160	5,583	2,712	0	3,419	606	—	—	4,142	1,452	12,137	2,084	1,876	—	184	0	30	—	88,637
令和3年度 合計	14,437	10,461	5,496	15,331	3,006	6,145	5,517	3,131	304	3,990	1,231	—	—	2,744	1,646	12,096	924	0	—	309	0	1	—	86,459
令和2年度 合計	16,173	16,063	5,645	19,802	2,700	5,533	6,761	3,171	535	4,149	805	—	—	1,773	1,847	11,616	0	0	—	286	0	142	—	96,573
令和元年度 合計	20,786	21,806	7,749	23,103	2,873	8,631	7,653	3,395	2,475	3,752	1,137	—	—	2,140	1,734	12,972	0	0	—	300	0	1,474	—	120,206

e. 科別・月別延べ外来患者数

区分	呼吸器 内科	神経痛 内科	呼吸器 外科	感染症 内科	アレルギー・ 皮膚科内科	小児科	皮膚科	耳鼻咽喉・ 頭頸部外科	眼科	循環器 内科	消化器 内科	腎臓内科	糖尿病・内分泌 内科	消化器 外科	乳腺外科	産婦人科	泌尿器科	整形外科	心血管 外科	救急診療科	放射線科	画像診断 科	集中 治療科	呼吸器 総合外来	リハビリ テーション科	歯科口腔 外科	発熱外来	合計
令和5年4月	874	536	439	687	745	1,398	2,089	475	261	361	346	37	0	229	495	1,985	317	140	0		15	0	0	0	0	110	16	11,555
5月	756	504	431	606	733	1,266	2,182	475	252	378	325	45	59	231	558	1,905	346	177	5	31	22	11	0	1	0	192	5	11,496
6月	959	601	554	677	729	1,479	2,332	574	289	405	396	75	94	256	731	2,258	375	186	5	54	1	43	0	0	0	267	9	13,349
7月	851	613	453	686	756	1,434	2,274	642	261	423	375	72	111	195	682	2,015	366	181	9	90	28	38	0	1	0	258	22	12,836
8月	812	645	512	693	767	1,522	2,378	824	286	401	374	120	108	202	612	2,024	380	195	17	74	127	50	0	0	2	278	12	13,415
9月	880	603	484	669	704	1,295	2,213	553	290	452	376	89	152	224	705	2,073	376	198	23	79	148	33	0	5	2	260	10	12,896
10月	866	637	546	751	748	1,348	2,241	534	303	411	443	106	190	189	681	2,185	408	215	47	56	203	42	0	1	0	285	3	13,439
11月	821	649	458	696	784	1,341	2,168	513	308	435	453	112	177	223	712	2,087	388	253	28	54	166	53	0	1	1	280	0	13,161
12月	846	653	470	632	775	1,460	2,123	553	314	433	411	128	198	210	706	2,153	430	251	32	50	179	42	0	1	2	311	0	13,363
令和6年1月	769	623	501	634	784	1,370	2,099	553	252	401	361	135	216	189	641	1,925	423	264	17	71	132	22	0	0	3	295	0	12,680
2月	805	659	461	593	720	1,299	1,936	581	282	405	373	100	213	177	595	1,849	426	232	38	49	178	28	0	0	2	300	0	12,301
3月	848	708	522	695	780	1,676	2,002	768	295	403	504	117	243	241	700	2,179	501	292	35	52	185	43	0	0	0	317	0	14,106
令和5年度 合計	10,087	7,431	5,831	8,019	9,025	16,888	26,037	7,045	3,393	4,908	4,737	1,136	1,761	2,566	7,818	24,638	4,736	2,584	256	660	1,384	405	0	10	12	3,153	77	145,909
1日平均患者数	41.7	30.7	24.1	33.1	37.3	69.8	107.6	29.1	14.0	20.3	19.6	4.7	7.3	10.6	32.3	101.8	19.6	10.7	1.1	2.7	5.7	1.7	0.0	0.0	0.0	13.0	0.3	602.9
構成比（%）	6.9%	5.1%	4.0%	5.5%	6.2%	11.6%	17.8%	4.8%	2.3%	3.4%	3.2%	0.8%	1.2%	1.8%	5.4%	16.9%	3.2%	1.8%	0.2%	0.5%	0.9%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	2.2%	0.1%	100.0%
令和4年度 合計	19,343	12,516	11,330	14,660	15,386	30,483	43,834	10,397	6,111	8,182	6,916	277	—	4,993	12,225	43,069	6,473	2,105	—	753	2,304	—	17	53	0	2,178	2,290	145,909
令和3年度 合計	11,475	8,546	6,761	7,686	9,057	17,502	25,369	6,121	4,746	4,578	3,257	115	—	2,088	6,640	25,838	1,957	115	—	21	2,436	—	5	35	0	1,171	151	145,670
令和2年度 合計	12,450	10,653	6,397	8,141	8,131	17,164	26,324	6,891	5,871	4,708	2,848	39	—	1,867	6,473	24,786	0	39	—	0	2,764	—	14	0	0	1,035	0	146,595
令和元年度 合計	14,168	12,381	6,573	9,255	11,751	19,771	28,667	8,537	8,114	5,205	3,141	21	—	1,819	6,646	27,294	0	21	—	102	2,768	—	4	293	3	1,609	0	168,143

3. 診療情報管理室統計

【月別・退院患者の状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
退院患者数	692	698	850	877	978	896	867	866	966	846	919	923	10,378	864.8
<うち死亡退院>	12	16	15	13	18	12	13	15	24	30	16	14	198	16.5
(うち死亡数－ 48時間以内死亡数)	9	15	14	11	16	9	11	14	22	26	14	13	174	14.5
(うち剖 検)	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	3	0.3

平均在院日数＝9.1日（10.1日）
病床回転数＝40.1回（36.3回）
粗死亡率＝1.9%（2.6%）
精死亡率＝1.7%（2.2%）
剖検率＝0.3%（0.0%）
（括弧内は昨年度値）

【算 出 式】

平均在院日数＝ $\frac{\text{退院患者延入院日数}}{\text{退院患者数}}$

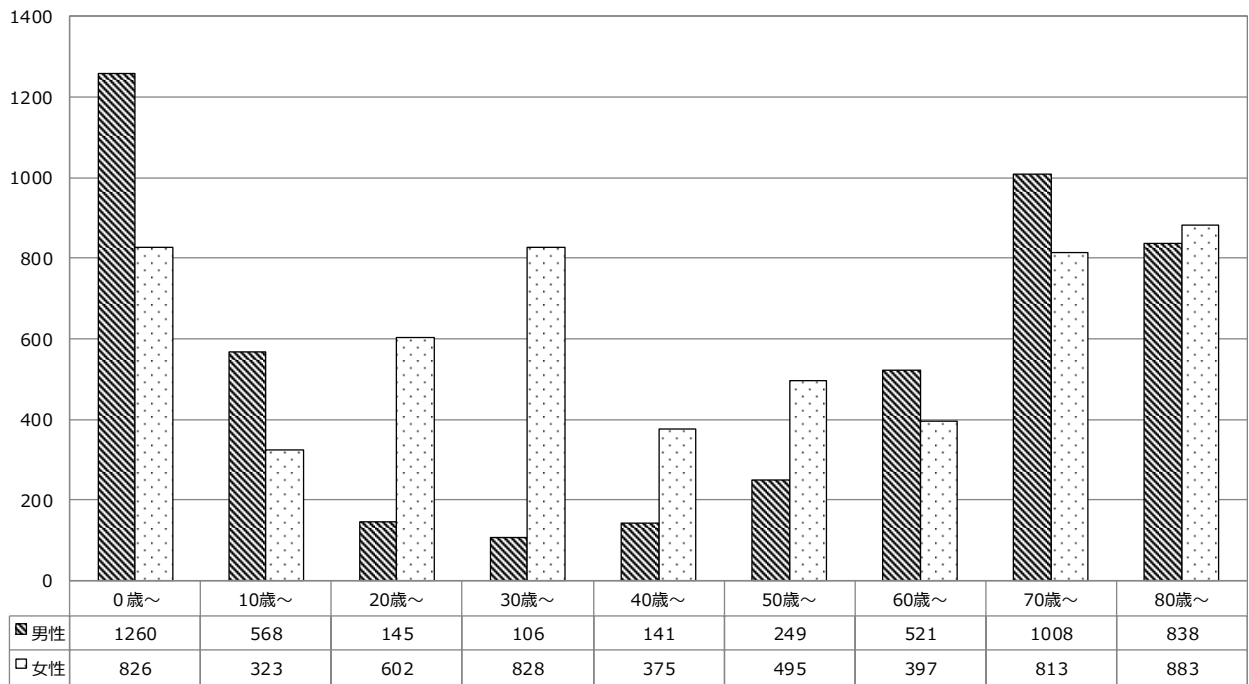
粗死亡率＝ $\frac{\text{死亡数} \times 100}{\text{退院患者数}}$

剖検率＝ $\frac{\text{剖検数} \times 100}{\text{死亡数}}$

病床回転数＝ $\frac{365\text{日}}{\text{平均在院日数}}$

精死亡率＝ $\frac{\text{死亡数} - 48\text{時間以内死亡数} \times 100}{\text{退院患者数}}$

[年齢層別・男女別退院患者数]

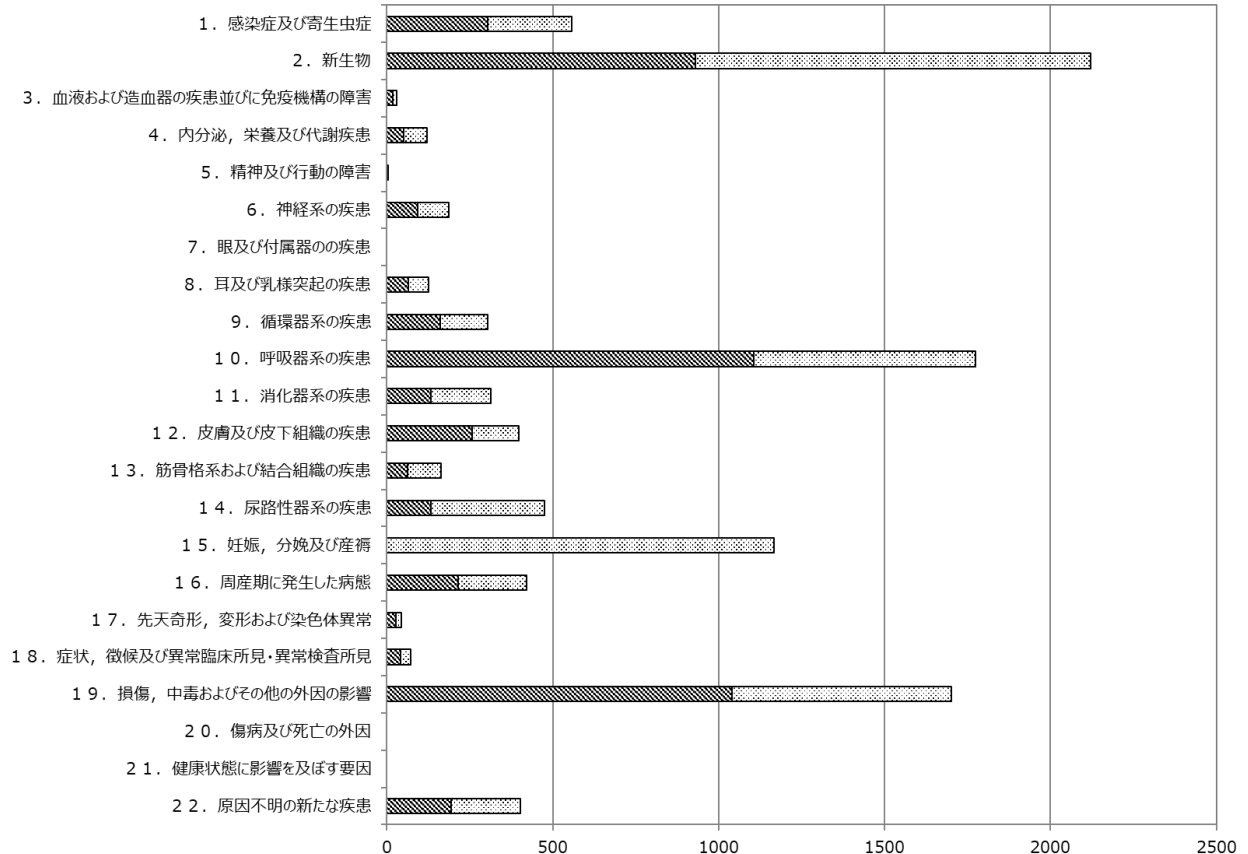


〔主要疾病別・男女別退院患者の状況〕

基本分類項目（ICD-10準拠）		男 性		女 性		合 計		構成比 （％）	平均在 院日数	令和4年度		令和3年度	
		うち死亡 数		うち死亡 数		うち死亡 数				合計	平均在院 日数	合計	平均在院 日数
1. 感染症及び寄生虫症(A00-B99)		304	18	254	11	558	29	5.4	24.8	502	32.6	459	34.6
2. 新生物(C00-D48)		929	46	1,193	12	2,122	58	20.4	8.9	1,911	9.7	2,070	9.2
3. 血液および造血系の疾患並びに免疫 機構の障害 (D50-D89)		18	0	11	0	29	0	0.3	9.9	22	10.9	22	7.6
4. 内分泌、栄養及び代謝疾患(E00-E90)		50	0	71	0	121	0	1.2	11.3	41	10.9	42	10.0
5. 精神及び行動の障害(F00-F99)		3	0	0	0	3	0	0.0	3.0	2	2.5	5	5.0
6. 神経系の疾患(G00-G99)		93	0	95	0	188	0	1.8	4.5	127	4.6	159	4.9
7. 眼及び付属器のの疾患(H00-H59)		0	0	0	0	0	0	0.0	-	0	-	104	3.0
8. 耳及び乳様突起の疾患(H60-H95)		66	0	61	0	127	0	1.2	6.4	52	8.1	75	8.1
9. 循環器系の疾患(I00-I99)		161	10	142	9	303	19	2.9	12.5	204	15.0	233	14.4
10. 呼吸器系の疾患(J00-J99)		1,107	53	668	18	1,775	71	17.1	12.4	1,273	14.3	1,138	14.3
11. 消化器系の疾患(K00-K93)		133	1	180	1	313	2	3.0	10.0	193	9.3	159	8.4
12. 皮膚及び皮下組織の疾患(L00-L99)		257	1	140	0	397	1	3.8	10.7	359	13.6	340	12.4
13. 筋骨格系および結合組織の疾患 (M00-M99)		63	3	100	0	163	3	1.6	14.2	111	16.4	104	21.1
14. 尿路性器系の疾患(N00-N99)		132	1	343	0	475	1	4.6	6.5	340	6.2	262	5.7
15. 妊娠、分娩及び産褥(O00-O99)		0	0	1,166	0	1,166	0	11.2	6.7	1,128	6.3	1,114	6.4
16. 周産期に発生した病態(P00-P99)		216	0	205	0	421	0	4.1	6.0	444	6.2	437	6.4
17. 先天奇形、変形および染色体異常 (Q00-Q99)		27	0	16	0	43	0	0.4	3.4	55	4.4	46	5.9
18. 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見 で他に分類されないもの(R00-R99)		42	0	29	0	71	0	0.7	4.2	18	7.9	26	6.9
19. 損傷、中毒およびその他の外因の影響 (S00-T98)		1,041	0	660	1	1,701	1	16.4	2.5	1,338	2.8	1,209	1.8
20. 傷病及び死亡の外因(V01-Y98)		0	0	0	0	0	0	0.0	-	0	-	0	-
21. 健康状態に影響を及ぼす要因および保健 サービスの利用(Z00-Z99)		0	0	0	0	0	0	0.0	-	0	-	0	-
22. 原因不明の新たな疾患(U00-U49)		194	6	208	7	402	13	3.9	11.4	664	9.0	748	11.4
合 計		4,836	139	5,542	59	10,378	198						
構 成 比 率		46.6%		53.4%		100%			9.1				
令和4年度	合 計	3,966	148	4,818	79	8,784	227			8,784			
	構成比率	45.2%		54.8%		100%					10.1		
令和3年度	合 計	4,158	159	4,594	73	8,752	232					8,752	
	構成比率	47.5%		52.5%		100%							10.0

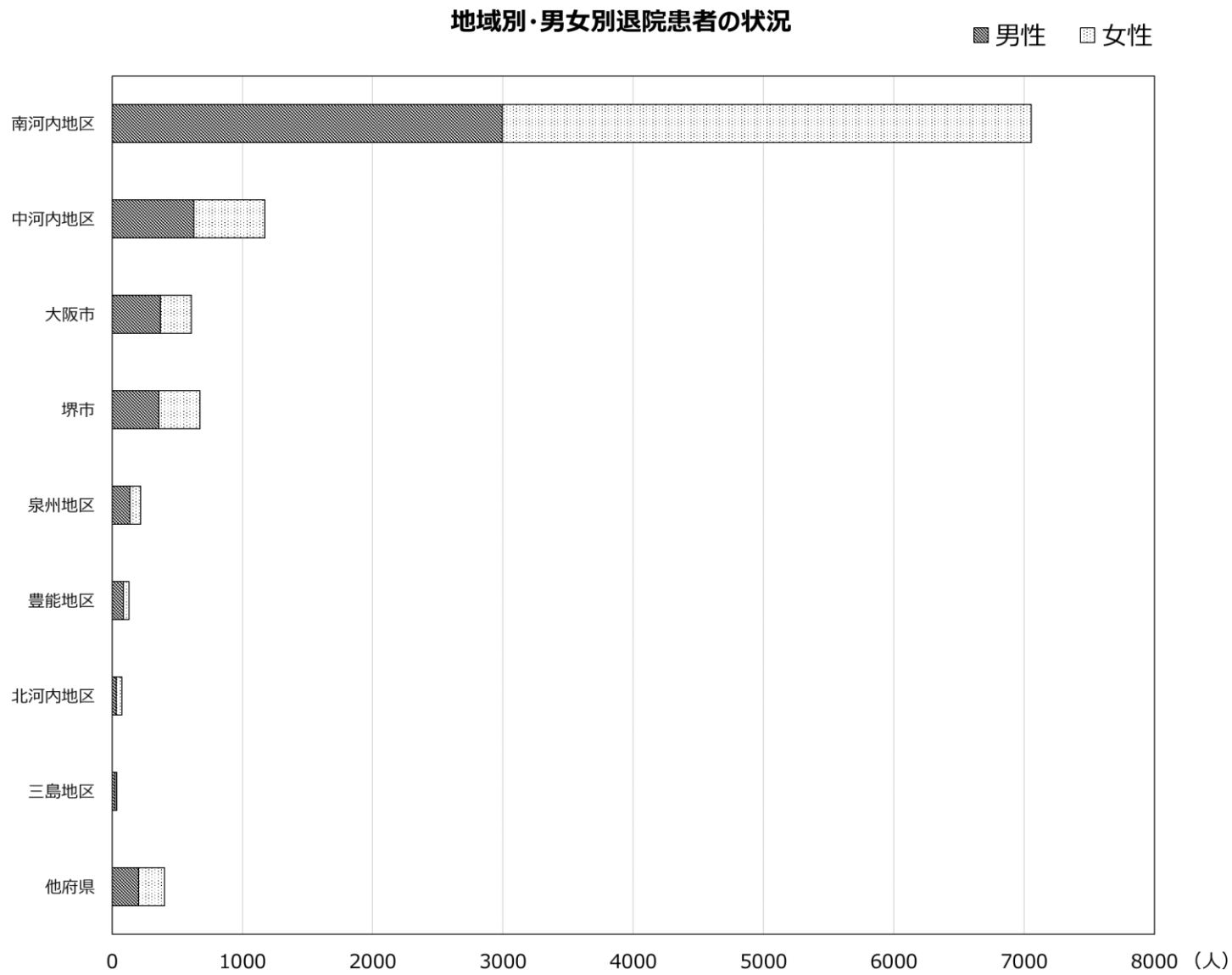
主要疾病別・男女別退院患者の状況

■男 性 □女 性



〔主要疾病別・科別退院患者数〕

基本分類項目（ICD-10準拠）	呼内	肺腫瘍	呼外	感染症	ア内	小児	皮膚	眼科	耳鼻	循内	消内	消外	乳腺	産婦人	泌尿器	整形	心外	糖内	腎内	齒科	合 計
1. 感染症及び寄生虫症(A00-B99)	38	8	7	260	18	126	38	0	22	5	7	11	0	6	3	3	0	3	3	0	558
2. 新生物(C00-D48)	57	664	162	11	0	0	32	0	30	0	93	134	248	468	217	0	0	0	0	6	2,122
3. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害(D50-D89)	5	1	0	5	1	9	0	0	1	0	2	0	0	2	0	0	0	0	3	0	29
4. 内分泌、栄養及び代謝疾患(E00-E90)	5	1	2	2	5	20	1	0	3	5	0	1	0	0	1	0	0	72	3	0	121
5. 精神及び行動の障害(F00-F99)	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
6. 神経系の疾患(G00-G99)	64	0	0	2	2	72	0	0	46	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	188
7. 眼及び付属器のの疾患(H00-H59)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8. 耳及び乳様突起の疾患(H60-H95)	0	0	0	0	0	1	0	0	124	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	127
9. 循環器系の疾患(I00-I99)	23	3	1	12	3	2	0	0	1	229	2	0	0	0	0	1	24	0	1	1	303
10. 呼吸器系の疾患(J00-J99)	606	43	121	167	106	402	1	0	289	25	0	2	0	0	0	0	0	7	6	0	1,775
11. 消化器系の疾患(K00-K93)	5	0	0	4	4	12	0	0	5	5	96	163	0	9	0	0	0	1	0	9	313
12. 皮膚及び皮下組織の疾患(L00-L99)	1	0	0	1	2	2	384	0	3	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	397
13. 筋骨格系及び結合組織の疾患(M00-M99)	34	0	0	3	55	30	4	0	1	1	0	0	0	2	0	27	0	0	6	0	163
14. 尿路性器系の疾患(N00-N99)	12	3	0	15	2	6	0	0	10	8	1	3	3	208	158	0	0	3	43	0	475
15. 妊娠、分娩及び産褥(O00-O99)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,166	0	0	0	0	0	0	1,166
16. 周産期に発生した病態(P00-P99)	0	0	0	0	0	288	0	0	0	0	0	0	0	133	0	0	0	0	0	0	421
17. 先天奇形、変形及び染色体異常(Q00-Q99)	1	0	0	0	0	26	3	0	6	0	0	0	0	3	3	0	0	0	1	0	43
18. 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの(R00-R99)	5	1	0	3	0	46	0	0	15	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	71
19. 損傷、中毒及びその他の外因の影響(S00-T98)	6	3	9	6	13	1,411	107	0	6	10	0	5	1	5	1	116	0	1	1	0	1,701
20. 傷病及び死亡の外因(V01-Y98)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用(Z00-Z99)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
22. 原因不明の新たな疾患(U00-U49)	126	54	2	101	31	48	0	0	11	3	0	3	3	6	1	9	0	1	3	0	402
合 計	988	781	304	592	243	2,503	570	0	573	294	201	323	255	2,011	384	156	24	89	70	17	10,378
構成比率（％）	9.5%	7.5%	2.9%	5.7%	2.3%	24.1%	5.5%	0.0%	5.5%	2.8%	1.9%	3.1%	2.5%	19.4%	3.7%	1.5%	0.2%	0.9%	0.7%	0.2%	100.0%
科別平均在院日数（日）	14.9	11.2	14.8	26.8	12.7	2.8	8.6	-	6.9	13.2	5.8	12.7	7.6	6.3	5.8	17.5	2.3	14.4	16.6	3.8	9.1
令和4年度	合 計	965	682	310	578	230	1,977	457	0	375	250	91	348	185	1,929	314	93	-	-	-	8,784
	平均在院日数	14.7	11.8	15.2	31.3	13.7	3.1	12.1	-	7.2	14.1	6.6	12.0	7.7	6.3	6.6	19.9	-	-	-	10.1
令和3年度	合 計	912	942	383	446	268	1,807	516	104	392	296	216	236	227	1856	151	-	-	-	-	8,752
	平均在院日数	16.3	11.1	14.1	35.2	11.6	3.4	10.7	3.0	8.2	13.8	5.4	10.9	7.5	6.5	5.8	-	-	-	-	10.0



[主要疾病別・年齢別退院患者数]

基本分類項目（ICD-10準拠）	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	合 計
1. 感染症及び寄生虫症(A00-B99)	115	17	18	24	11	29	62	132	150	558
2. 新生物(C00-D48)	1	4	20	51	163	342	398	751	392	2,122
3. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害(D50-D89)	9	2	0	2	1	0	3	2	10	29
4. 内分泌、栄養及び代謝疾患(E00-E90)	18	3	2	3	8	15	12	32	28	121
5. 精神及び行動の障害(F00-F99)	0	2	1	0	0	0	0	0	0	3
6. 神経系の疾患(G00-G99)	36	41	8	11	20	23	17	27	5	188
7. 眼及び付属器のの疾患(H00-H59)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8. 耳及び乳様突起の疾患(H60-H95)	33	5	11	7	7	9	15	29	11	127
9. 循環器系の疾患(I00-I99)	2	1	0	2	3	18	37	98	142	303
10. 呼吸器系の疾患(J00-J99)	381	103	80	65	62	103	161	356	464	1,775
11. 消化器系の疾患(K00-K93)	12	4	11	17	19	34	51	77	88	313
12. 皮膚及び皮下組織の疾患(L00-L99)	50	84	65	30	44	35	35	25	29	397
13. 筋骨格系及び結合組織の疾患(M00-M99)	31	0	3	1	4	15	20	44	45	163
14. 尿路性器系の疾患(N00-N99)	5	7	21	49	83	63	60	105	82	475
15. 妊娠、分娩及び産褥(O00-O99)	0	11	442	650	63	0	0	0	0	1,166
16. 周産期に発生した病態(P00-P99)	421	0	0	0	0	0	0	0	0	421
17. 先天奇形、変形及び染色体異常(Q00-Q99)	32	0	2	1	2	4	1	1	0	43
18. 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの(R00-R99)	45	1	1	0	0	2	5	10	7	71
19. 損傷、中毒及びその他の外因の影響(S00-T98)	853	597	50	9	15	27	18	50	82	1,701
20. 傷病及び死亡の外因(V01-Y98)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用(Z00-Z99)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
22. 原因不明の新たな疾患(U00-U49)	42	9	12	12	11	25	23	82	186	402
合 計	2,086	891	747	934	516	744	918	1,821	1,721	10,378
構成比率 (%)	20.1%	8.6%	7.2%	9.0%	5.0%	7.2%	8.8%	17.5%	16.6%	100%
令和4年度 合 計	1,682	639	725	855	489	614	715	1,642	1,423	8,784
令和3年度 合 計	1,576	582	678	915	630	663	828	1,663	1,217	8,752

年齢階層別上位疾病順位別退院患者数	年齢階層	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位	9 位	1 0 位	合 計 (人)
												年齢層別退院数
												比 率
★ 男 性	0～9歳	T78：有害作用、他に分類されないもの	P22：新生児の呼吸窮<促>迫	J20：急性気管支炎	J46：喘息発作重積状態	J12：ウイルス性肺炎	U07：COVID-19	B34：ウイルス感染症	L20：アトピー性皮膚炎	P07：早産児、低出生体重児	R56：熱性痙攣	905
		547	90	51	47	43	27	26	26	24	24	1260
												71.8%
	10～19歳	T78：有害作用、他に分類されないもの	L20：アトピー性皮膚炎	J93：気胸	J45：喘息	G93：脳のその他の障害	J10：インフルエンザ	J46：喘息発作重積状態	T67：熱中症	U07：COVID-19	G47：睡眠障害	511
		387	50	22	9	9	8	7	7	7	5	568
												90.0%
	20～29歳	L20：アトピー性皮膚炎	T78：有害作用、他に分類されないもの	J93：気胸	J35：扁桃、アデノイドの慢性疾患	J36：扁桃周囲膿瘍	J03：急性扁桃炎	U07：COVID-19	J32：慢性副鼻腔炎	J34：鼻中隔彎曲症	H91：突発性難聴	108
		40	22	13	8	5	5	4	4	4	3	145
												74.5%
	30～39歳	L20：アトピー性皮膚炎	J35：扁桃、アデノイドの慢性疾患	J32：慢性副鼻腔炎	J36：扁桃周囲膿瘍	J34：鼻中隔彎曲症	G47：睡眠障害	A15：呼吸器結核	U07：COVID-19	J03：急性扁桃炎	A18：その他の結核	61
		12	10	7	6	5	5	4	4	4	4	106
												57.5%
	40～49歳	L20：アトピー性皮膚炎	J36：扁桃周囲膿瘍	N20：尿路結石症	G47：睡眠障害	G51：顔面神経麻痺	E11：2型糖尿病	L63：脱毛症	A15：呼吸器結核	J34：鼻中隔彎曲症	C62：精巣の悪性新生物	66
		16	10	8	7	5	4	4	4	4	4	141
												46.8%
	50～59歳	C34：気管支および肺の悪性新生物	L20：アトピー性皮膚炎	J32：慢性副鼻腔炎	G47：睡眠障害	C61：前立腺の悪性新生物	J15：細菌性肺炎、他に分類されないもの	A15：呼吸器結核	J93：気胸	U07：COVID-19	N20：尿路結石症	116
		42	16	11	10	7	6	6	6	6	6	249
												46.6%
	60～69歳	C34：気管支および肺の悪性新生物	C61：前立腺の悪性新生物	J15：細菌性肺炎、他に分類されないもの	J84：その他の間質性肺疾患	J44：その他の慢性閉塞性肺疾患	U07：COVID-19	A15：呼吸器結核	J93：気胸	K80：胆石症	D12：結腸、直腸、肛門の良性新生物	276
		135	37	19	18	14	13	12	10	9	9	521
												53.0%
	70～79歳	C34：気管支および肺の悪性新生物	J15：細菌性肺炎、他に分類されないもの	C61：前立腺の悪性新生物	J84：その他の間質性肺疾患	U07：COVID-19	J44：その他の慢性閉塞性肺疾患	C16：胃の悪性新生物	J69：誤嚥性肺炎	N40：前立腺肥大症	I50：心不全	569
		266	56	55	48	48	30	17	17	16	16	1008
												56.4%
	80歳以上	C34：気管支および肺の悪性新生物	U07：COVID-19	J15：細菌性肺炎、他に分類されないもの	J69：誤嚥性肺炎	J84：その他の間質性肺疾患	I50：心不全	A15：呼吸器結核	J44：その他の慢性閉塞性肺疾患	C67：膀胱の悪性新生物	J93：気胸	483
		113	83	68	65	42	36	33	16	14	13	838
												57.6%

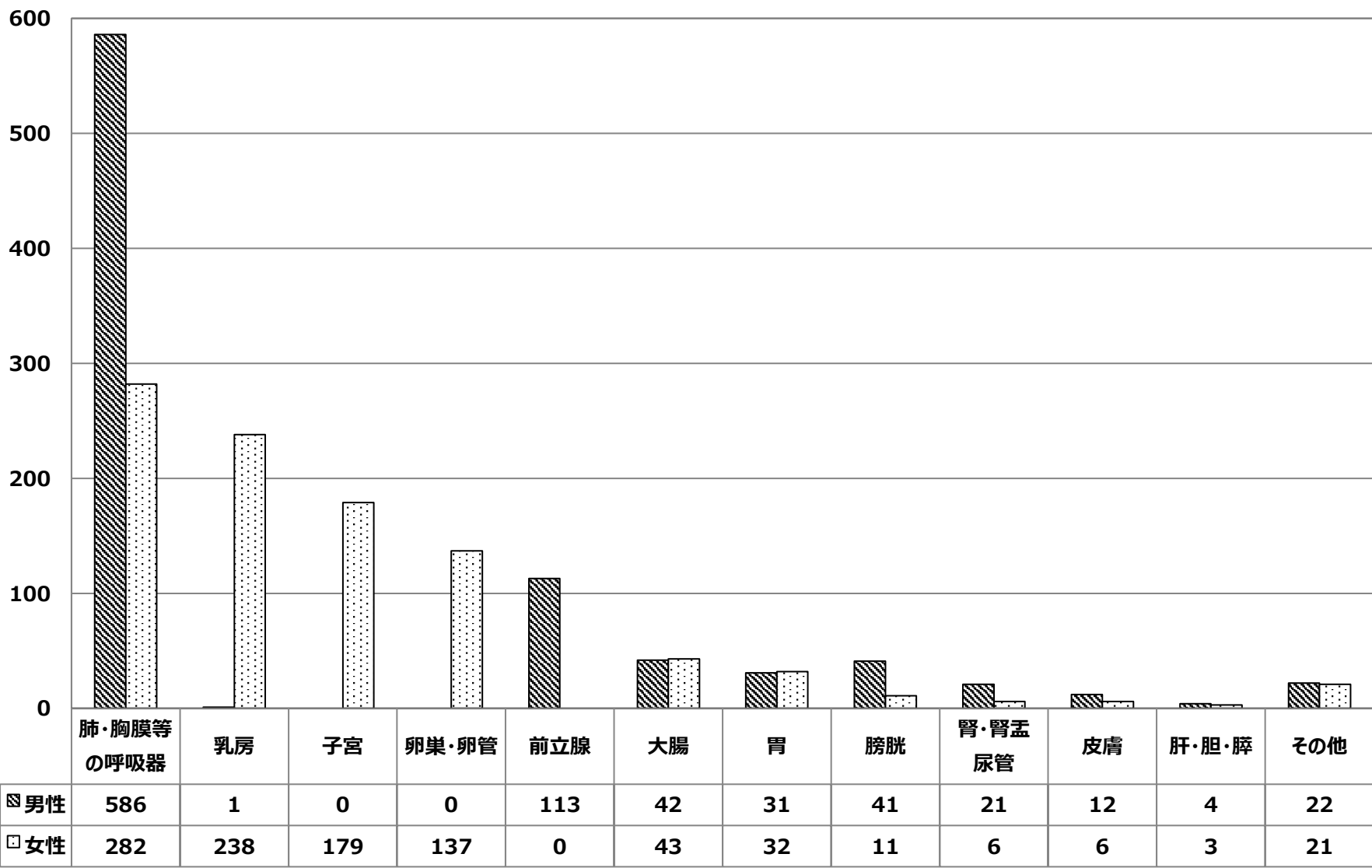
※ U07の3桁分類名については、便宜上COVID-19と表記。

年齢階層別上位疾病順位別退院患者数	年齢階層	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位	9 位	1 0 位	合 計 (人)	
												年齢層別退院数	比 率
★ 女 性	0～9歳	T78：有害作用、他に分類されないもの	P22：新生児の呼吸窮<促>迫	J20：急性気管支炎	P92：新生児の哺乳上の問題	J12：ウイルス性肺炎	J46：喘息発作重積状態	R56：熱性痙攣	L20：アトピー性皮膚炎	P05：胎児発育遅延および胎児栄養失調	J10：インフルエンザ	568	
												826	
		293	84	33	31	31	25	21	19	16	15	68.8%	
	10～19歳	T78：有害作用、他に分類されないもの	L20：アトピー性皮膚炎	G40：てんかん	T88：薬物過敏症	J93：気胸	G80：脳性麻痺	J46：喘息発作重積状態	J10：インフルエンザ	A09：その他の胃腸炎および大腸炎	J39：上気道炎	260	
												323	
		187	25	12	9	6	6	5	4	3	3	80.5%	
	20～29歳	O62：娩出力の異常	O70：分娩における会陰裂傷	O68：胎児ストレスを合併する分娩	O34：母体骨盤臓器の異常のための母体ケア	O60：早産	O42：前期破水	T78：有害作用、他に分類されないもの	O48：遷延妊娠	O36：既知の胎児側の問題のための母体ケア	L20：アトピー性皮膚炎	332	
												602	
		91	38	37	35	27	25	24	20	18	17	55.1%	
	30～39歳	O62：娩出力の異常	O68：胎児ストレスを合併する分娩	O70：分娩における会陰裂傷	O42：前期破水	O34：母体骨盤臓器の異常のための母体ケア	O60：早産	O72：分娩後出血	O48：遷延妊娠	O02：受胎のその他の異常生成物	O32：既知の胎位異常のための母体ケア	478	
												828	
		167	50	47	43	39	30	27	25	25	25	57.7%	
	40～49歳	D25：子宮平滑筋腫	N84：女性性器のポリープ	C50：乳房の悪性新生物	C56：卵巣の悪性新生物	O62：娩出力の異常	C54：子宮体部の悪性新生物	N80：子宮内膜症	U07：COVID-19	N87：子宮頸部の異形成	D27：卵巣の良性新生物	197	
												375	
		48	27	27	21	21	18	10	9	8	8	52.5%	
	50～59歳	C50：乳房の悪性新生物	C54：子宮体部の悪性新生物	C56：卵巣の悪性新生物	N84：女性性器のポリープ	C34：気管支および肺の悪性新生物	D25：子宮平滑筋腫	U07：COVID-19	C53：子宮頸部の悪性新生物	D27：卵巣の良性新生物	N13：水腎症	281	
												495	
		77	53	33	22	21	20	19	14	11	11	56.8%	
	60～69歳	C50：乳房の悪性新生物	C34：気管支および肺の悪性新生物	C56：卵巣の悪性新生物	C57：その他および部位不明の女性生殖器の悪性新生物	J15：細菌性肺炎、他に分類されないもの	C53：子宮頸部の悪性新生物	N13：水腎症	C54：子宮体部の悪性新生物	U07：COVID-19	N81：女性性器脱	190	
												397	
		48	28	23	19	17	16	10	10	10	9	47.9%	
	70～79歳	C34：気管支および肺の悪性新生物	C50：乳房の悪性新生物	U07：COVID-19	A31：その他の非結核性抗酸菌による感染症	C54：子宮体部の悪性新生物	J15：細菌性肺炎、他に分類されないもの	C56：卵巣の悪性新生物	N81：女性性器脱	D27：卵巣の良性新生物	C16：胃の悪性新生物	371	
												813	
		134	60	34	28	28	24	17	16	16	14	45.6%	
	80歳以上	U07：COVID-19	C34：気管支および肺の悪性新生物	J15：細菌性肺炎、他に分類されないもの	I50：心不全	J69：誤嚥性肺炎	J84：その他の間質性肺疾患	C50：乳房の悪性新生物	A15：呼吸器結核	A31：その他の非結核性抗酸菌による感染症	C54：子宮体部の悪性新生物	413	
												883	
		103	72	61	45	27	25	23	20	19	18	46.8%	

※ U07の3桁分類名については、便宜上COVID-19と表記。

悪性新生物・部位別延べ退院患者数

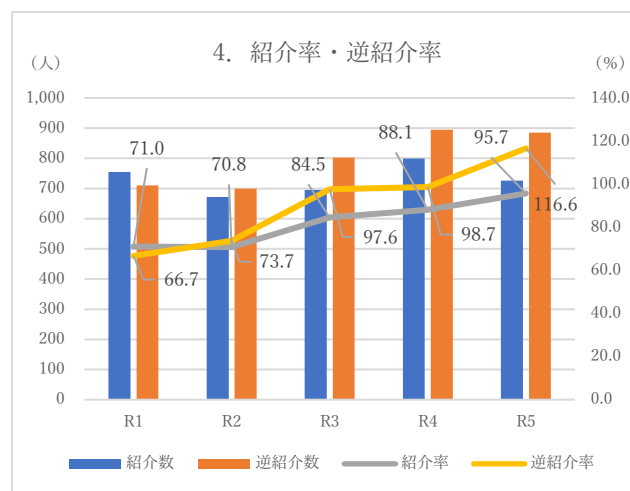
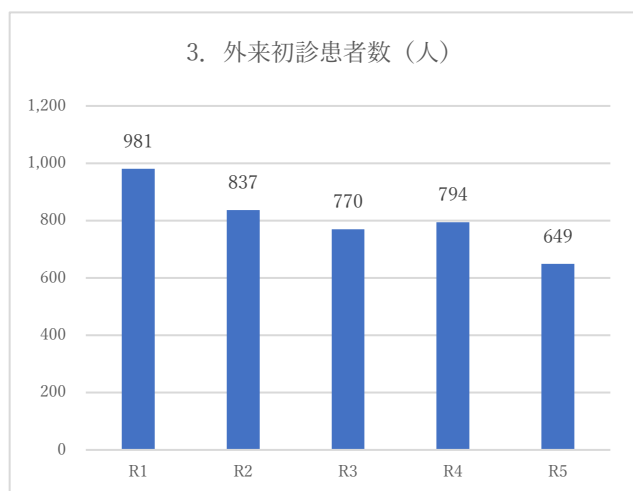
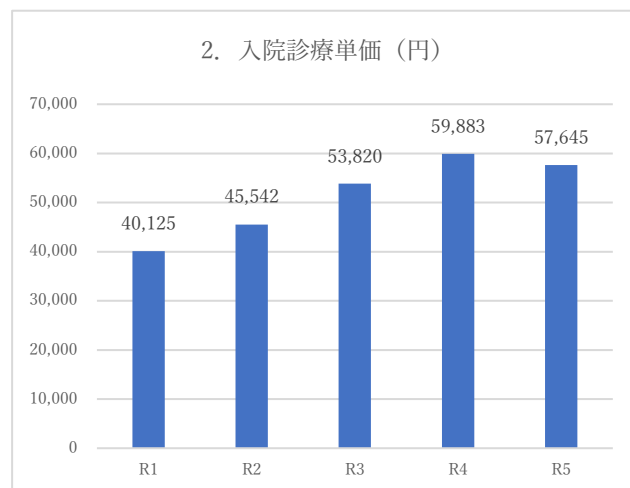
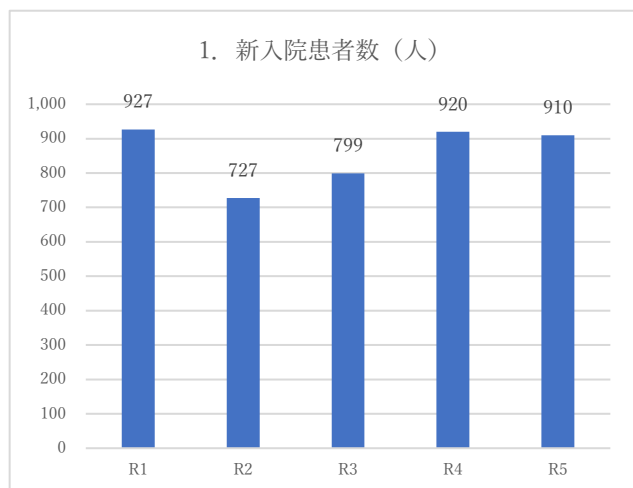
■ 男性 □ 女性



第 3 各部局の活動状況

呼吸器内科

1. 臨床指標



2. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
森下 裕	主任部長	日本内科学会認定医・指導医、日本呼吸器学会専門医
	呼吸ケアセンター長	日本医師会認定産業医、大阪府難病指定医
	副気胸センター長	身体障害者福祉法15条指定医（呼吸器機能障害） がんリハビリテーション研修修了
田村香菜子	副部長	日本内科学会総合内科専門医
		日本呼吸器学会専門医 大阪府難病指定医、緩和ケア研修修了
馬越泰生	医長	日本内科学会総合内科専門医 臨床研修指導医
小牟田清英	医員	緩和ケア研修修了、ICLS 講習修了
山内桂二郎	医員	緩和ケア研修修了 日本内科学会 JMECC 修了
横山将史	医員	緩和ケア研修修了、日本内科学会認定 JMECC 修了
田邊英高	医員	緩和ケア研修修了 臨床呼吸機能基礎コース講習修了、ICLS 講習修了 日本内科学会 JMECC～RRS コース修了

3. 診療概要

当科は大阪府立結核療養所羽曳野病院の昭和48年からの新病棟業務開始より第4内科と中治療科が非がん呼吸器疾患の診療を開始することに始まる。呼吸不全を中心とした各種症例に対する包括的呼吸器ケアを掲げ診療を行ってきた。また、最近は画像診断機器の進歩があり、病理診断も自院で行い、放射線科医や病理医と共同で行う大うつ病性障害（MDD）診断によってびまん性肺疾患に対する診断精度を高めるようにしている。

慢性疾患看護専門看護師、慢性呼吸器疾患看護認定看護師が、外来、入院ともに急性期から慢性期まで呼吸器疾患患者に対する質の高い看護を提供し、他の看護師に対する教育や啓蒙、看護システム構築などを行っている。また、アドバンス・ケア・プランニングや抗線維化薬投与開始においてもこれらの看護師が大いに関与している。さらに呼吸器リハビリテーションも専門的にを行い、在宅酸素療法導入や酸素流量調整などにも寄与している。

在宅酸素療法（HOT）の処方数については230名程度となっている。間質性肺炎など高流量酸素を必要とする症例もあり、高流量酸素濃縮器を複数台設置せざるを得ない場合もある。呼吸機能以外の全身状態は保たれている症例の場合、高流量酸素でのHOTを実施することにより入院の長期化を避け、より早期の在宅療養への移行が可能となる。また、増悪で頻回の入院を繰り返すような慢性閉塞性肺疾患（COPD）患者に対しては、在宅ハイフローセラピーの導入を行い、効果を認めている。

慢性安定期のマスク型人工呼吸療法（NPPV）の処方数は30名程度で推移しているが、最近は疾病構造の変化から、肺結核後遺症などの拘束性胸郭疾患の新規導入が減少している。

平成12年から睡眠時無呼吸症候群に対する診療を行っている。CPAP処方数は90名程度である。

令和2年からは、新型コロナウイルス感染症の診療も行っている。当センターでは、酸素投与を要

する中等症（Ⅱ）の症例や慢性人工透析の必要な症例を多く受け入れた。令和5年度には第5類への移行もあったが、感染及び合併・併発症による入院は完全にはなくならなかったものの、その中でも専門性を要する呼吸器診療は堅持できたと考える。

4. 診療実績

延べ外来患者数 10,087 人

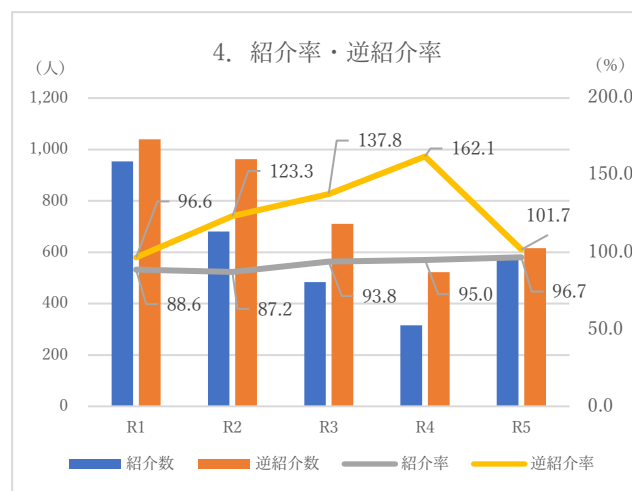
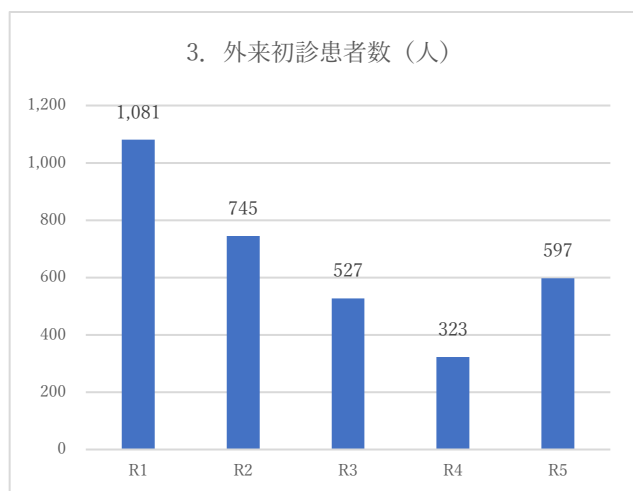
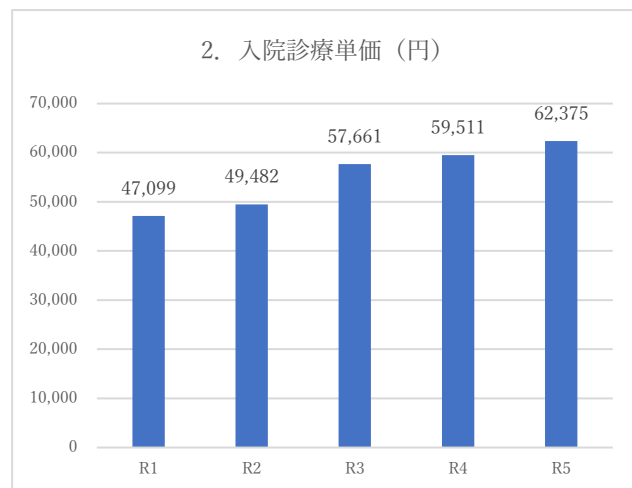
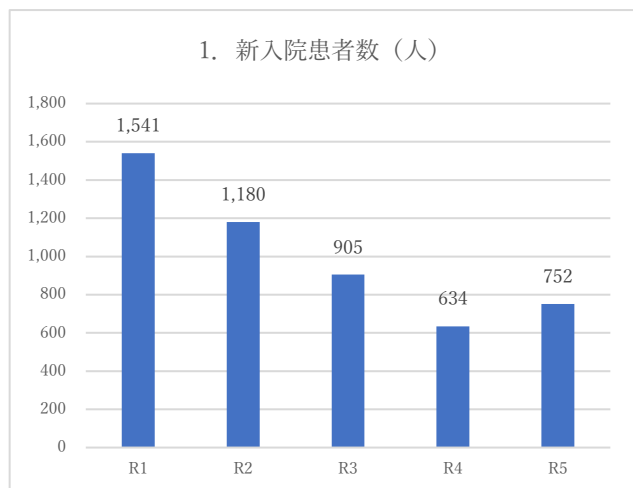
延べ入院患者数 14,608 人

実入院患者数 14,910 人

（主な疾患 間質性肺炎 194 人、慢性閉塞性肺疾患 73 人、睡眠時無呼吸症候群 60 人、
肺がん 44 人、肺炎・肺化膿症 218 人、気管支拡張症 9 人、気胸 21 人、
COVID-19 114 人 結核、肺非結核性抗酸菌症 7 人
在宅酸素療法 229 人、在宅人工呼吸療法 11 人、C P A P 27 人 他）

肺腫瘍内科

1. 臨床指標



2. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
鈴木秀和	主任部長	日本内科学会認定医・総合内科専門医
	腫瘍センター長	日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本呼吸器学会専門医・指導医、緩和ケア研修修了
森下直子	副部長	日本内科学会認定医、日本呼吸器学会専門医
		日本呼吸器内視鏡学会専門医、緩和ケア研修修了
佐藤真吾	医長	日本内科学会認定医、日本呼吸器学会専門医 緩和ケア研修修了
細野裕貴	診療主任	日本内科学会認定医
		日本呼吸器学会専門医
		緩和ケア研修修了
柳瀬隆文	診療主任	緩和ケア研修修了
岡田英泰	診療主任	日本内科学会認定医、日本呼吸器学会専門医
		日本医師会認定健康スポーツ医、緩和ケア研修修了

3. 診療概要

当科は呼吸器悪性腫瘍について、診断から終末期に至るまで他科および医療チームと連携しながら専門性の高い診療を行ってきた。これは世界的な COVID-19 感染症のなかでも継続された。診断に関しては最新の遺伝子パネル検査、免疫染色などを随時導入し、常に標準治療を行える体制を整え、臨床試験にも積極的に参加してきた。今年度からはさらに幅広い呼吸器疾患への対応に配慮し、呼吸器内科との連携強化を目指している。

当科の特色としては診断の早い時期からの入院、外来を通じ、専門スタッフによるチーム医療が行われていることである。安全性に配慮し、原則として新規抗がん剤導入は入院にて行っている。最近では特にがん治療の外来の占める割合が大きくなっており外来化学療法についても充実してきている。

4. 診療実績

延べ外来患者数 7,431 人
 延べ入院患者数 8,849 人
 実入院患者数 752 人
 (主な疾患 肺がん 563 人、その他の悪性腫瘍 37 人 他)
 外来化学療法実施患者数 1,907 人

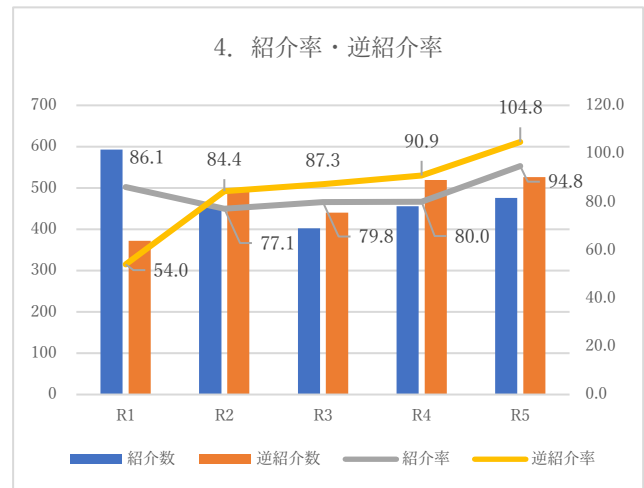
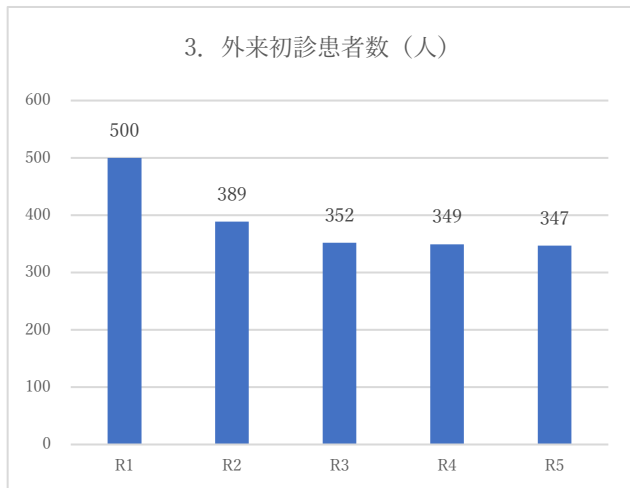
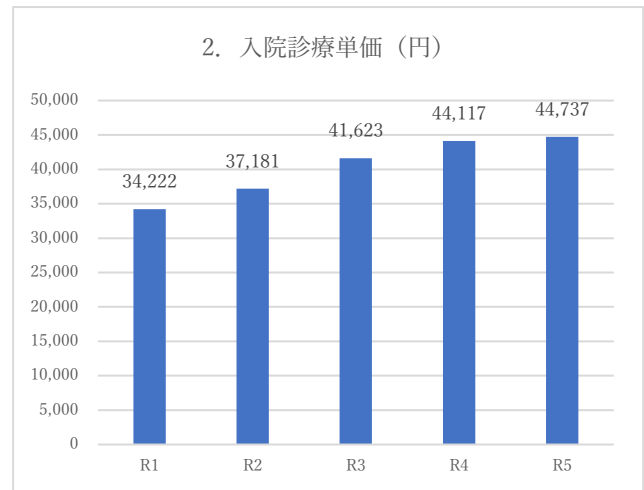
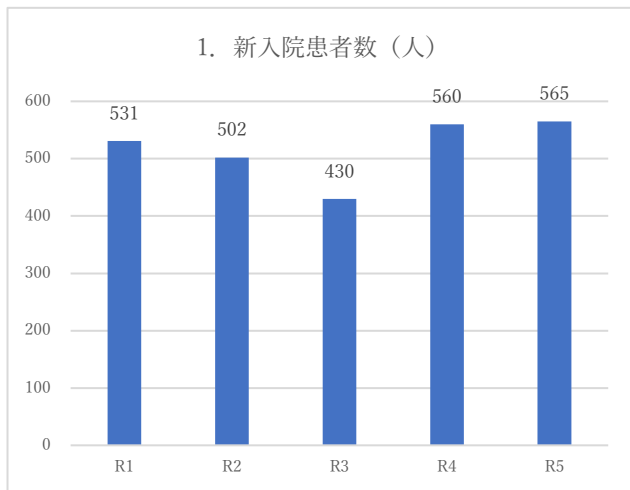
5. 業績

【論文】

岡部福子, 佐藤真吾, 柳瀬隆文, 小牟田清英, 森下直子, 河原邦光, 鈴木秀和. 初回治療としてのカルボプラチン, ペメトレキセド, ペンブロリズマブ併用療法における TTF-1 (thyroid transcription factor-1), TPS (tumor proportion score) と治療効果. 肺癌. 63:15-21, 2023.

感染症内科

1. 臨床指標



2. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
永井崇之	主任部長	日本感染症学会推薦 ICD
韓 由紀	副部長	日本結核・非結核性抗酸菌症学会結核・抗酸菌症指導医
新井 剛	診療主任	日本内科学会認定医、日本結核・非結核性抗酸菌症学会結核・抗酸菌症認定医・指導医・推薦 ICD 日本エイズ学会認定医、緩和ケア研修修了
仮屋勇希	医員	緩和ケア研修修了
前田恭兵	レジデント	緩和ケア研修修了
田村嘉孝	臨床検査科主任部長 感染症センター長	日本結核・非結核性抗酸菌症学会結核・抗酸菌症指導医・推薦 ICD、身体障害者福祉法 15 条指定医（免疫機能障害） 緩和ケア研修修了
橋本章司	臨床研究センター長	日本感染症学会専門医・指導医・推薦 ICD 日本呼吸器学会呼吸器専門医 日本アレルギー学会アレルギー専門医 日本結核・非結核性抗酸菌症学会代議員 結核・抗酸菌症指導医 大阪府難病指定医、日本内科学会総合内科専門医 日本臨床研修協議会プログラム責任者 日本医師会認定産業医、緩和ケア研修修了

3. 診療概要

当科は肺抗酸菌感染症を中心に診療を行っており、大阪府下発生新規結核患者の約 1/5、多剤耐性結核（初回治療例の 0.5%）に関しては府下発生患者の約 1/2 を当センターにて治療している。耐性結核蔓延防止の為に脱落をふせぐことが重要であり、多職種にて週 1 回の結核教室を定期開催し患者教育を継続的に実施している。患者教育の充実により脱落率は年間 1%以下と良好な治療成績である。

近年新規抗結核薬（多剤耐性専用薬）の開発にて、耐性結核の治療成績は劇的に改善している。

平成 26 年度～令和元年度における耐性結核治療成績 は以下の通り

MDR（多剤耐性結核）21 例；治癒 15 例、他疾患死亡 1 例、転院帰国 4 例、脱落 1 例

XDR（超多剤耐性結核）16 例；治癒 9 例、他疾患死亡 4 例、転院帰国 1 例、脱落 2 例

37 症例全例にて 6 ヶ月以内の排菌陰性化が得られた。

難治性肺 MAC 症に対して標準治療薬として吸入リボソーマルアミカシンが使用可能となった。当センターでは 15 例（2023/7）の使用経験を有する。

結核の早期診断/治療などの情報を発信、講演を中心とした啓蒙活動を継続している。また結核早期診断を目的とした、新たな診断ツール（核酸増幅法）の開発研究を民間企業と合同で行っている。

4. 診療実績

延べ外来患者数 8,019 人

延べ入院患者数 16,648 人

実入院患者数 565 人

(主な疾患 肺結核、結核性胸膜炎など 142 人、肺非結核性抗酸菌症 42 人、肺アスペルギルス症 27 人、COVID-19 121 人 他)

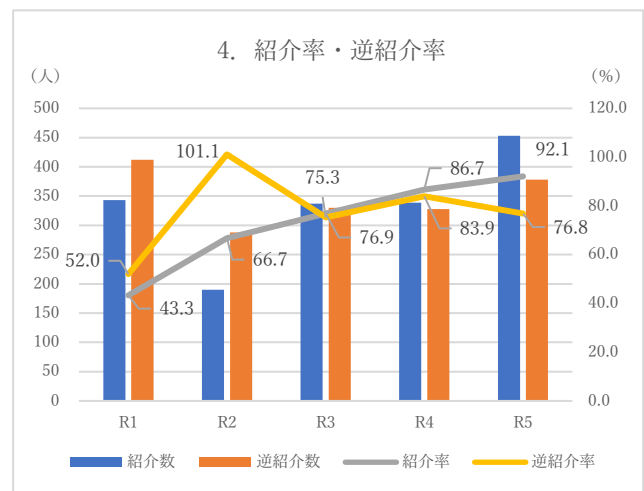
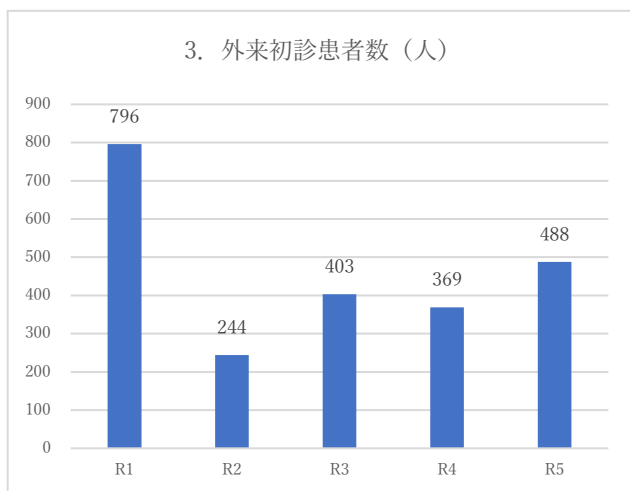
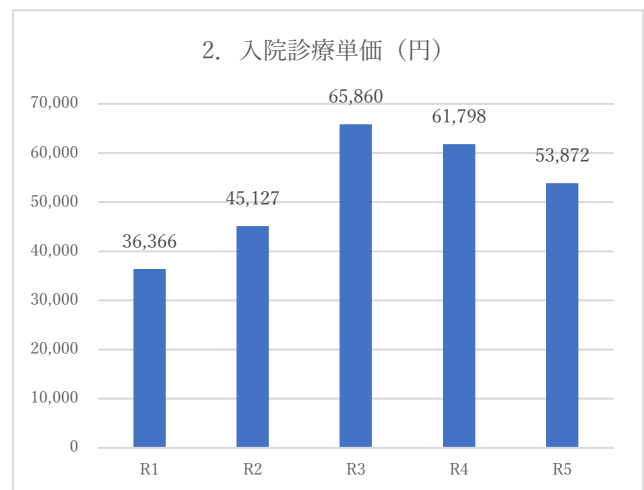
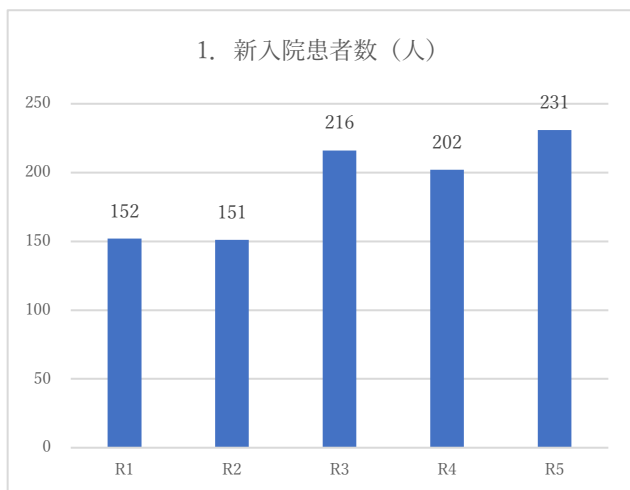
5. 業績

【学会発表】

仮屋勇希, 前田恭平, 田村嘉孝, 韓 由紀, 永井崇之. *Mycobacterium intracellulare* による感染性脊椎炎の 1 例. 第 131 回日本結核・非結核性抗酸菌症学会近畿支部学会 令和 5 年 7 月 22 日, 神戸.

アレルギー・リウマチ内科

1. 臨床指標



2. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
松野 治	主任部長	日本内科学会総合内科専門医、日本呼吸器学会専門医・指導医 日本アレルギー学会専門医・指導医（内科）
石田 裕	診療主任	日本内科学会認定医・総合内科専門医 日本リウマチ学会専門医・指導医、緩和ケア研修修了
緒方 篤	副院長	日本内科学会認定医・総合内科専門医、 日本リウマチ学会専門医・指導医、日本リウマチ財団登録医、 大阪市難病指定医、日本臨床免疫学会免疫療法認定医、 日本医師会認定産業医、緩和ケア研修修了、 臨床研修プログラム責任者養成講習会修了

3. 診療概要

当科では、気管支喘息を中心とした呼吸器アレルギー疾患（アレルギー性気管支肺アスペルギルス症（ABPA）、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症（EGPA）など）を大きなテーマとして診療を行っている。気管支喘息の診療患者数は大阪府下及び全国でもトップクラスの症例数を診療している。治療方針としては、吸入指導の徹底を基本として喘息治療を行い、重症患者に対しては抗体製剤の使用を行って、よりよいコントロール状態をめざしている。

また、リウマチ性疾患として、関節リウマチや膠原病などの診療を行っている。これらの疾患を適切に管理できる施設は、大阪府下でも限られている。アレルギー性疾患に加えて、リウマチ性疾患も、受診患者数が徐々に増えている。令和3年度より、新たに2名の日本リウマチ学会専門医が加わって、より一層の充実した診療が行えるようになった。

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の収束に伴い、COVID-19患者の入院が大幅に減少した。一方で、アレルギーやリウマチ性疾患関連の入院患者が増加している。特に気管支喘息や関節リウマチなどの膠原病患者数は増加傾向にあり、診療体制を強化する必要性が生じた。新たな診療ガイドラインに基づき、個別化医療の推進と治療の質向上を目指している。

今後も当科は最新の医療技術を取り入れつつ、患者のQOLを向上させるための診療を継続していく方針である。引き続き、医療スタッフの専門性を高め、地域医療に貢献できるように努めていく。

4. 診療実績

延べ外来患者数 9,025人

延べ入院患者数 3,158人

実入院患者 231人

（主な疾患 気管支喘息・咳喘息 42人、関節リウマチ・膠原病 11人、アナフィラキシー 12人
他）

以下の設備も整え、呼吸器アレルギー疾患の診療経験が豊富な医師が適切に診断・診療している。

- 精密呼吸機能検査 ●呼気一酸化窒素(FeNO)の測定 ●高分解能CT検査
- アストグラフを用いた気道過敏性テスト ●モストグラフによる呼吸抵抗の測定

●FACS スキャン ●皮膚テスト ●関節エコー

5. 業績

【論文】

Osamu Matsuno Allergic bronchopulmonary aspergillosis successfully treated with tezepelumab J Allergy Clin Immunol Pract 11:2589-2591, 2023."

Osamu Matsuno Factors affecting the ability to discontinue oral corticosteroid use in patients with EGPA treated with anti-interleukin-5 therapy. Int Arch Allergy Immunol 185:116-123, 2023.

Kawashima K, Matsuno O, Okuno M, Kawabe T, Hanada Y Successful treatment of eosinophilic chronic rhinosinusitis and secretory otitis media in refractory asthma with TSLP Cureus 15:e4779-, 2023.

【著作・著書】

松野 治. 気管支喘息. 南江堂看護学テキスト NICE 病態・治療編 (石原英樹、竹川幸恵) 南江堂, 東京, pp.-, 2024.

【学会発表】

佐藤一穂, 石田 裕, 松野 治, 緒方 篤. 骨サルコイドーシスの一例. 第 242 回日本内科学会近畿地方会 令和 5 年 12 月 9 日, 大阪(WEB).

木村優香, 片岡葉子, 藤田 壮, 長塚由美, 坂本理佳, 石田 裕. Episodic な下腿の紫斑を契機に診断されたシェーグレン症候群の 1 例. 第 53 回日本皮膚免疫アレルギー学会学術大会 令和 5 年 12 月 8 日-10 日, 東京(WEB).

川島佳代子, 松野 治, 永井裕子, 河辺隆誠, 花田有紀子. 重症喘息に合併した好酸球性副鼻腔炎および好酸球性中耳炎に対し Tezepelumab が奏効した一例. 第 72 回日本アレルギー学会学術大会 令和 5 年 10 月 20 日-22 日, 東京(WEB).

花田有紀子, 河辺隆誠, 永井裕子, 川島佳代子, 松野 治, 石田 裕, 源 誠二郎, 緒方 篤. 当科で経験した好酸球性多発血管炎性肉芽腫症の検討. 第 72 回日本アレルギー学会学術大会 令和 5 年 10 月 20 日-22 日, 東京(WEB).

木村優香, 片岡葉子, 松野 治, 山口智裕, 吉田之範. 生直後からフォローしている高 IgE 抗体症候群の一例 20 歳過ぎに合併した脳梗塞に関する考察を中心に. 第 72 回日本アレルギー学会学術大会 令和 5 年 10 月 20 日-22 日, 東京(WEB).

松野 治. 教育講演 1 「呼吸器・アレルギー内科からみた EGPA」. 第 9 回日本アレルギー学会近畿地

方会 令和6月11日, 大阪(WEB).

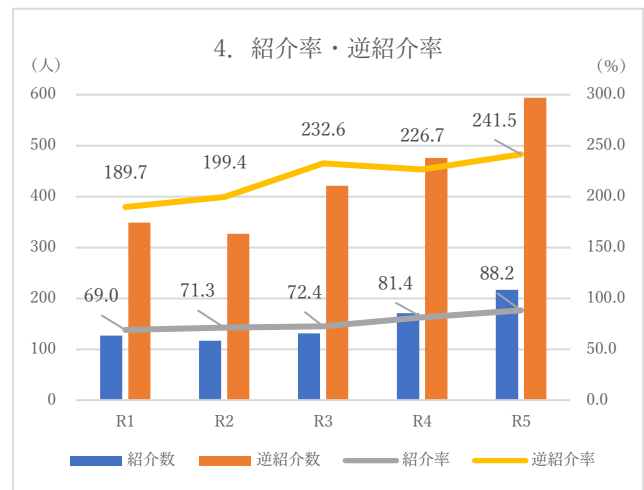
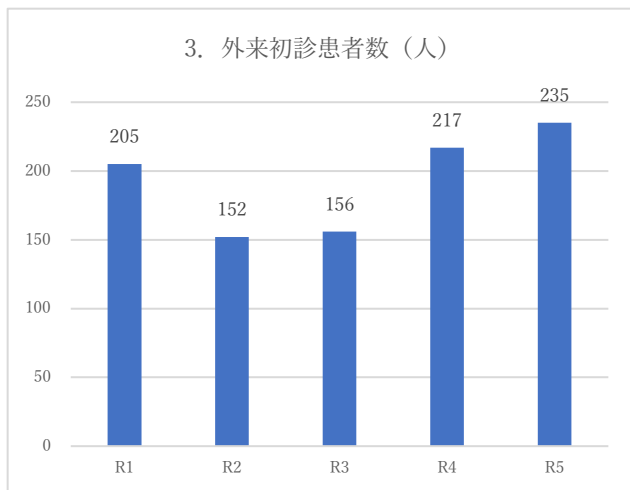
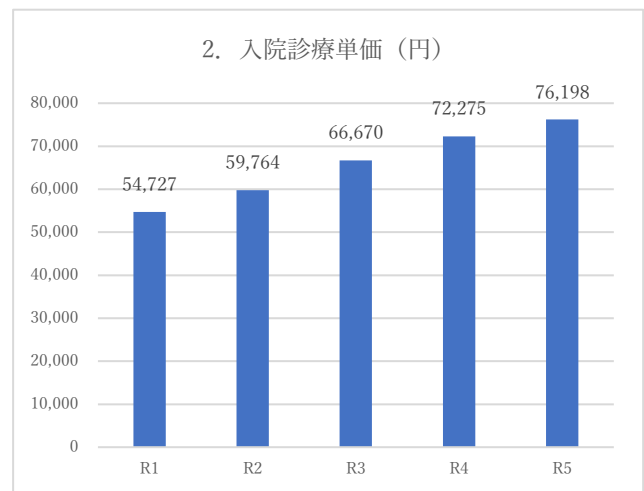
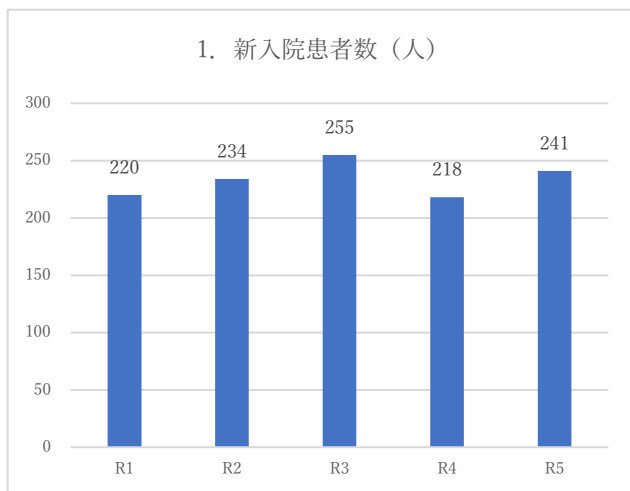
石田 裕, 源 誠二郎, 緒方 篤. エタネルセプトバイオンミラー (ETN-B S) による薬剤誘発ループスが疑われた関節リウマチの一例. 第67回日本リウマチ学会総会・学術総会 令和5年4月24-26日, 福岡.

【啓発・研修活動】

松野 治. 喘息は治るのか?. 大阪はびきの医療センター アレルギー府民公開講座 令和6年3月24日, 大阪.

循環器内科

1. 臨床指標



2. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
原田光一郎	主任部長	日本内科学会認定医・総合内科専門医・臨床内科指導医 日本循環器学会専門医、Fellow of Japanese Circulation Society 日本血管インターベンション治療学会認定医、日本心臓リハビリテーション学会認定心臓リハビリテーション指導医、日本脈管学会専門医、日本循環器学会 ITC-ACLS インストラクター、日本救急医学会 ICLS インストラクター、日本内科学会 JMECC インストラクター、日本静脈学会弾性ストッキング・圧迫療法コンダクター、日本医師会認定産業医、身体障害者福祉 15 条指定法（心臓機能障害・循環器内科） 大阪府難病指定医、臨床研修指導医、緩和ケア研修修了、心不全緩和ケアトレーニングコース（HEPT）修了
江角 章	教育研究センター長 兼部長	日本内科学会認定医・日本内科学会総合内科専門医、 日本循環器日本医師会認定産業医、臨床研修指導医、 緩和ケア研修修了 心不全緩和ケアトレーニングコース（HEPT）修了 厚生労働省指定オンライン診療研修修了 長時間労働医師への面接指導の実施に係る研修終了 シダトレン・シダキュア・ミティキュア処方可能医師 緩和ケア研修修了
原田 博	副部長	
井内敦彦	副部長	日本心血管インターベンション治療学会認定医、 日本内科学会認定医、日本内科学会総合内科専門医、臨床研修 指導医、緩和ケア研修修了、緩和ケア研修修了者のためのフォ ローアップ研修修了、日本医師会 JMAT 研修修了

3. 診療概要

* 虚血性心疾患をはじめとする心血管疾患を中心に、循環器疾患全般にわたる診療を行っている。

* 特色：

- ①呼吸器専門病院としての歴史が長いため、肺結核を含む呼吸器疾患合併症例の診療比率が高い。
- ②呼吸器内科外科のサポート診療科として創設された経緯から、各科との連携体制が厚い。
- ③非都市型地域の高齢者循環器医療を広くカバーしている。

* 強みや魅力：

- ①当センター特異的な診療患者層により、肺循環異常を合併した循環器疾患を経験できる。
- ②各科との連携体制が厚いため、少人数（少数精鋭）でも複雑な患者病態に広く対応可能である。
- ③診療科メンバー全員が、異なるキャリアと専門性を持つ、多様性に富んだ組織形態であり、学閥にとら

られない多彩な循環器内科研修が可能である。

3. 診療実績

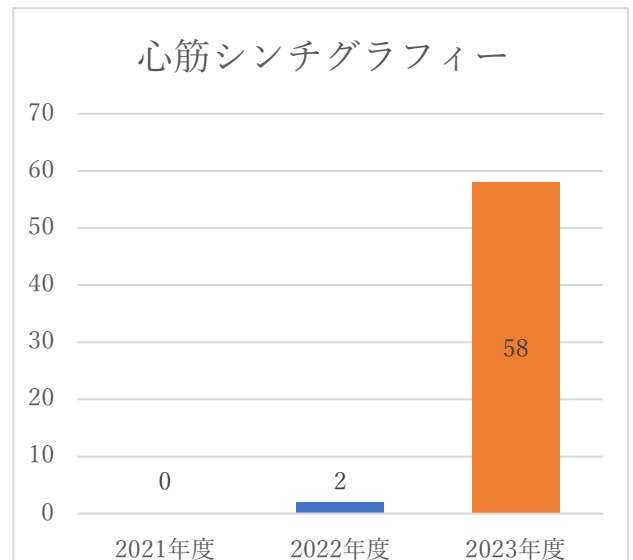
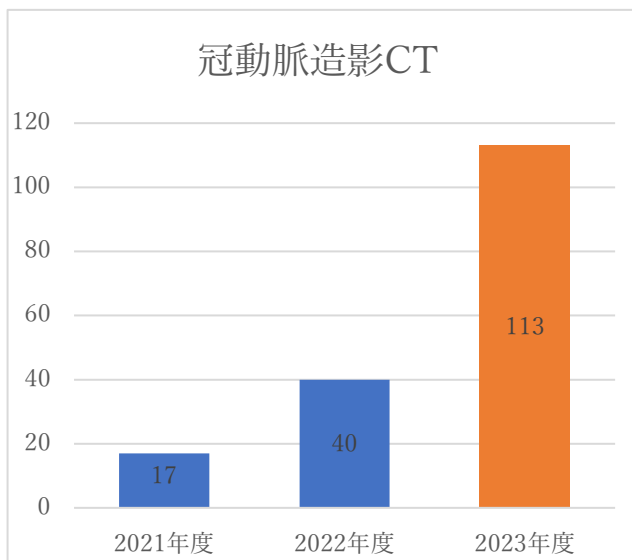
延べ外来患者数 4,908 人

延べ入院患者数 3,737 人

実入院患者数 241 人

(主な疾患 心不全 116 人、狭心症 45 例、不整脈 44 例、心筋梗塞・心筋症 5 例、肺動脈血栓症静脈血栓症 6 例、肺高血症 3 例 他)

各種件数	心臓カテーテル検査	42 件
	PCI	21 件
	ペースメーカー新規埋込	4 件
	アブレーション	28 件
	冠動脈造影 CT	113 件
	心筋シンチグラフィ	58 件



冠動脈疾患、末梢動脈疾患に対するカテーテル治療、不整脈に対するアブレーション治療、ペースメーカー植込術、心不全治療に取り組んでいる。地域医療支援病院の循環器診療部門として地域医療に貢献している。また、心房細動など不整脈に対するアブレーション治療も積極的に行っている。

4. 業績

【啓発・研修活動】

原田光一郎（インストラクター）.AHA-ITC 日本循環器学会 ACLS 令和5年4月29-30日.

原田光一郎（インストラクター）.AHA-ITC 日本循環器学会 ACLS 令和5年8月12-13日.

原田光一郎（インストラクター）.AHA-ITC 日本循環器学会 ACLS 令和5年12月9-10日.

原田光一郎（インストラクター）.第3回大阪はびきの医療センター ICLS コース 令和5年7月22日, 大阪.

原田光一郎（座長）.脳梗塞再発予防を考える、「PFOによる脳梗塞を撲滅するために我々が出来ること」.南大阪ブレインハートカンファレンス 令和6年2月14日, 大阪.

原田光一郎（座長）.「高血圧治療の現状と課題、DKD合併高血圧治療戦略の話題も含めて」.心房細動 Web Seminar AF 患者さんの Lifelong Support 令和5年6月30日.

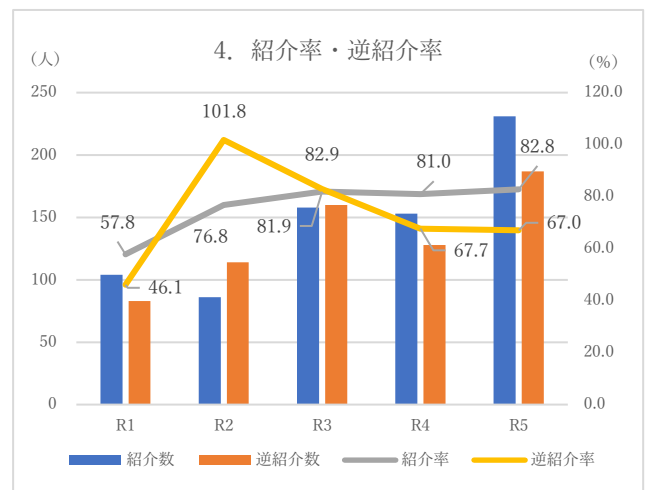
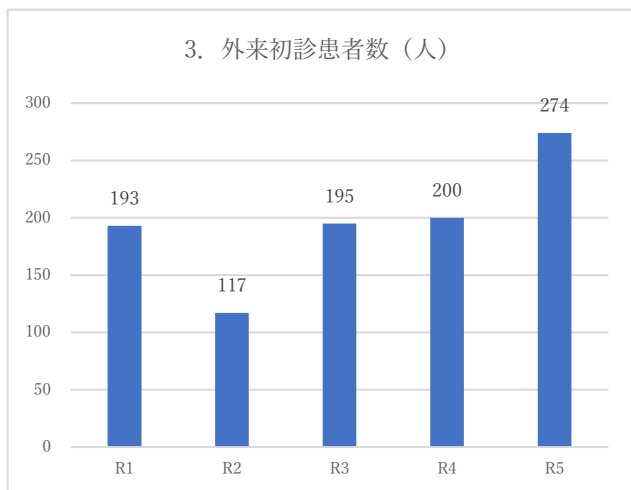
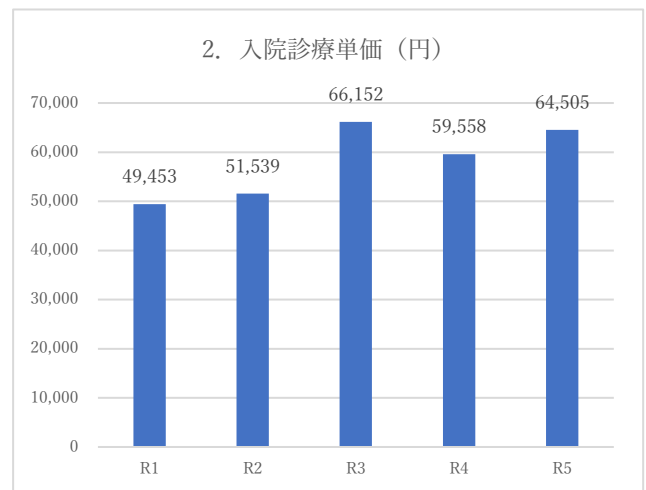
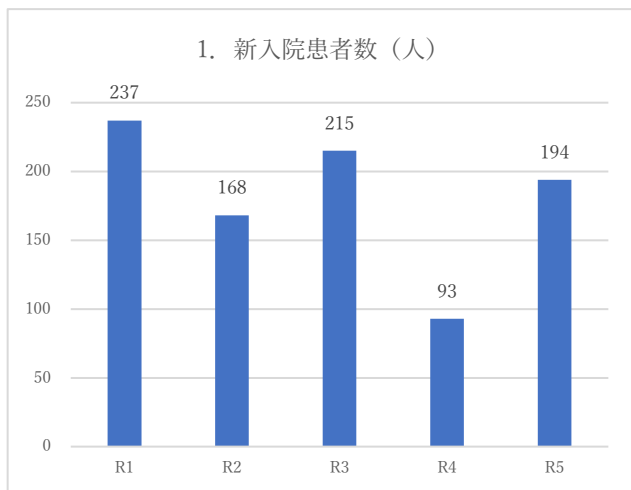
井内敦彦（演者）.肺疾患を合併した肺動脈性肺高血圧症.PH SKILL UP ACADEMY 令和6年2月8日.

座長 江角 章, 演者 平山篤志.将来を見据えて今できる積極的脂質低下療法.循環器 Web Seminar~ACS 後の二次予防について考える~ 令和5年11月1日, WEB.

座長 江神康之, 演者 清末有宏, 座長 西野雅巳, ディスカッサー 江角 章, 大西俊成, 矢野正道.徹底解明! Inclisiran のプロファイル, ディスカッション レクビオを臨床の現場でどのように活用するか.レクビオ発売記念 WEB 講演会 令和6年1月31日, WEB.

消化器内科

1. 臨床指標



2. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
前山晋吾	部長	日本内科学会認定内科医 日本内科学会総合内科専門医 日本内科学会内科指導医 日本消化器病学会消化器病専門医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 日本消化器内視鏡学会上部消化管内視鏡スクリーニング認定医 日本消化器内視鏡学会大腸内視鏡スクリーニング認定医 日本肝臓学会肝臓専門医 日本肝臓学会肝臓暫定指導医 日本医師会認定産業医 大阪府難病指定医、嚥下機能研修修了、緩和ケア研修修了 大阪府肝炎医療コーディネーター

3. 診療概要

当科は、主に消化管（食道、胃、十二指腸、小腸、大腸など）疾患に対する消化器内視鏡検査、消化器内視鏡治療、薬物治療を行っている。消化管関連がんに対しては、進行度に応じて消化器外科、肺腫瘍内科、放射線科と連携し消化器内視鏡治療、腹腔鏡下手術、化学療法、放射線治療を組み合わせた集学的治療を行っている。肝臓、胆嚢、膵臓疾患に関しても、エコー検査、CT 検査、MRI 検査、薬物治療を組み合わせた診断・治療を行っている。

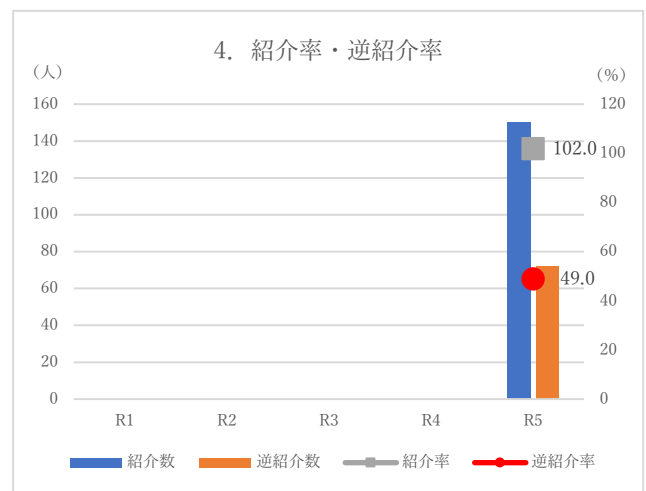
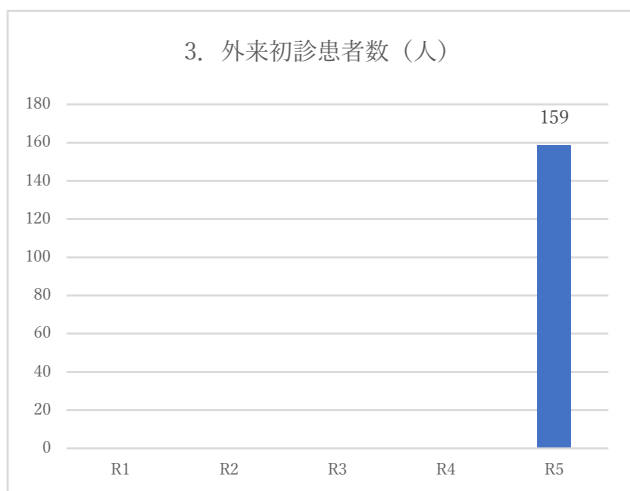
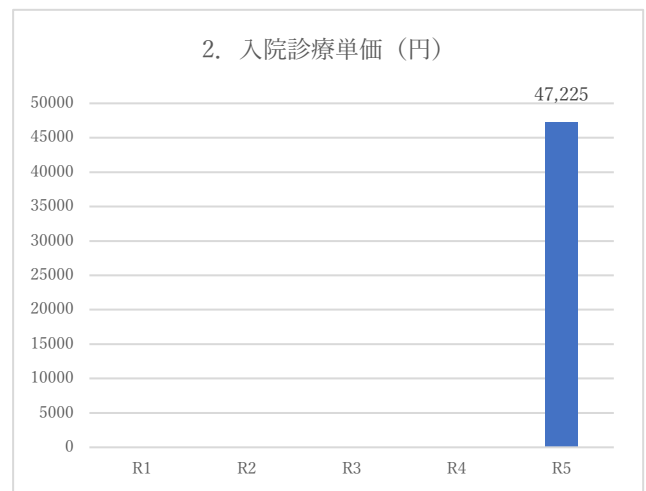
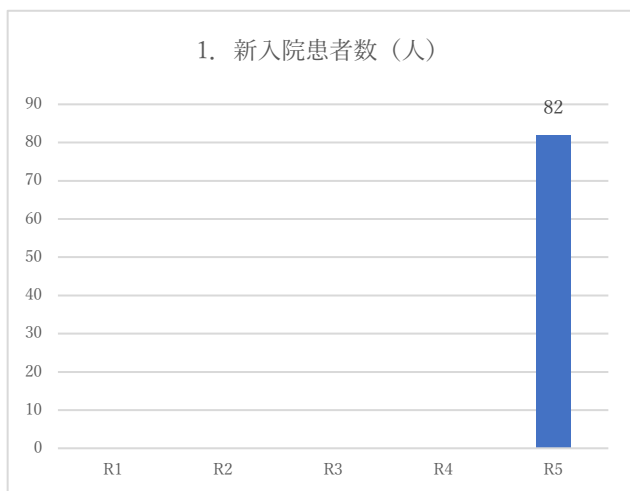
4. 診療実績

延べ外来患者数	4,737 人
延べ入院患者数	1,164 人
実入院患者数	194 人

（主な疾患 大腸ポリープ 96 人、胃がん 8 人、大腸がん 3 人、胆管結石・胆管炎 13 人、その他消化器疾患 74 人 他）

糖尿病・内分泌内科

1. 臨床指標



2. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
榎根 晋	主任部長	日本内科学会認定医・総合内科専門医 日本糖尿病学会専門医・研修指導医 日本内分泌学会内分泌代謝科(内科)専門医・指導医 日本循環器学会専門医 小児慢性特定疾病指定医（糖尿病・内分泌内科） 大阪府難病指定医 臨床研修指導医
豊田新一郎	診療主任	日本内分泌学会内分泌代謝科(内科)専門医 日本内科学会専門医 日本糖尿病学会専門医

3. 診療概要

当科は令和5年4月当センターに新規開設された。糖尿病および内分泌疾患の外来および入院での診療を担当した。診療スタッフは主任部長榎根晋、診療主任豊田新一郎の2名であった。入院患者については糖尿病教育入院を中心として、甲状腺疾患、誤嚥性肺炎などを82症例担当した。糖尿病教育入院については2週間の糖尿病教育入院パスを作成し、運用を開始した。薬物療法を中心とした血糖降下療法とともに、糖尿病に関しての知識習得、行動変容につながるようDVD視聴をパスに組み込み、糖尿病療養に用いた。また入院中、運動療法をリハビリテーション科に依頼し、運動療法についても入院中に行った。食事療法に関しては2週間の入院中、2回の栄養指導を行い、退院後も外来において栄養指導を継続できる体制とした。外来においては、糖尿病および内分泌疾患を担当した。延べ外来患者は1,761名、初診外来患者は159名であった。令和5年廃院となる藤井寺市民病院からの外来患者を受け入れたため、紹介患者は150名であった。また、他科からの外来紹介は多く、多くは入院中の血糖コントロール依頼あるいは内分泌疾患のコントロール目的の依頼であった。このような症例は令和5年で213症例あり、入院中その後の管理に関しても外来診療の継続あるいはかかりつけ医への紹介を行った。

スタッフ教育として、令和5年8月24日5Aたちばな病棟看護師を対象とした糖尿病に関する勉強会を行った。

4. 診療実績

延べ外来患者数	1,761人
延べ入院患者数	1,344人
実入院患者数	82人
(主な疾患 糖尿病 63人、内分泌疾患 8人 その他 13人)	

5. 業績

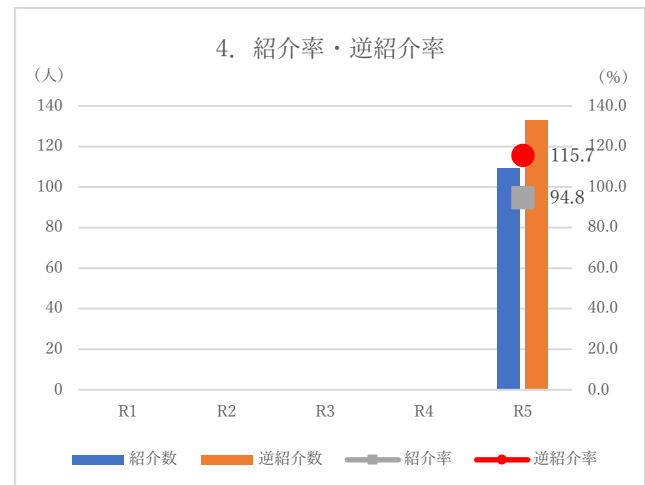
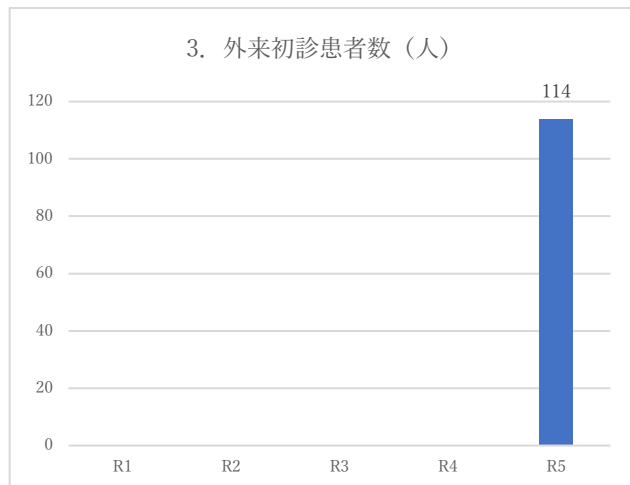
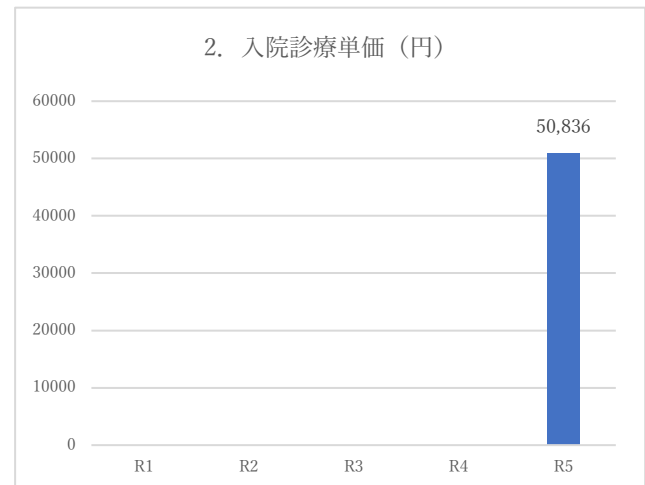
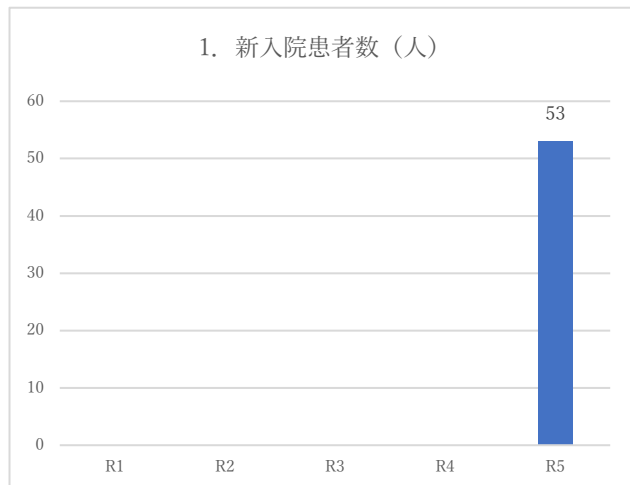
【啓発・研修活動】

榎根 晋.健康寿命をのばすために---2型糖尿病の最新治療---.はびきの健康フォーラム 令和6年2

月 19 日-3 月 31 日, WEB.

腎臓内科

1. 臨床指標



2. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
飯尾 麗	主任部長	医学博士 日本腎臓学会腎臓専門医、日本腎臓学会認定指導医、 日本内科学会認定内科医、 日本内科学会総合内科専門医 日本透析医学会透析専門医・日本透析医学会指導医 腎代替療法専門指導士 難病指定医
上床 隆太	診療主任	日本内科学会総合内科専門医 日本腎臓学会腎臓専門医 日本透析医学会透析専門医

3. 診療概要

当科は令和5年4月に新規開設となった診療科である。早期の腎炎に対する治療から、慢性腎臓病に対する腎代替療法まで、幅広い腎疾患を治療することを目標に、診療を行っている。腎生検による腎疾患の診断を積極的に行っており、令和5年度は23件の腎生検を行った。慢性腎炎・急速進行性糸球体腎炎・間質性腎炎など、活動性の高い腎炎に対するステロイド・免疫抑制療法や、血漿交換などの急性血液浄化療法も取り組んでいる。また、皮膚科疾患や膠原病内科疾患に対する血漿交換療法などにも貢献している。慢性腎臓病に関しては、内シャント造設・血液透析導入や、シャントPTAなども施行している。今後は腹膜透析の立ち上げを行い、さらに診療を拡大していく予定である。

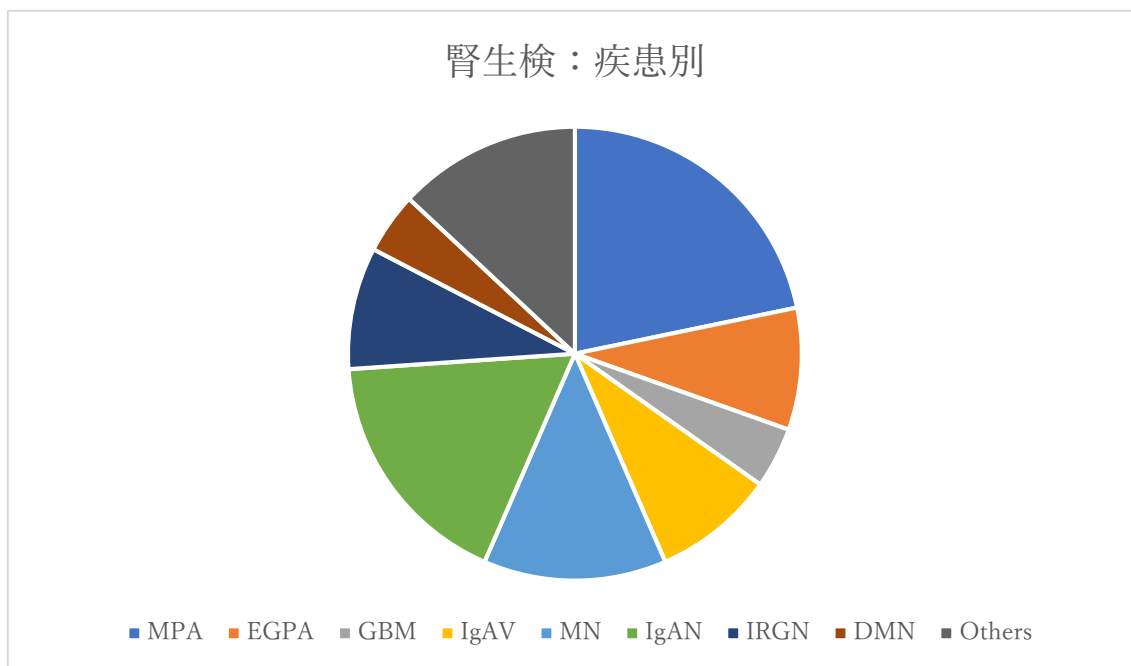
4. 診療実績

延べ外来患者数	1,136 人
延べ入院患者数	1,220 人
実入院患者数	53 人
(主な疾患 慢性腎不全 23 人、ネフローゼ症候群 4 人 他)	

治療実績：

○ 腎生検 23 件

顕微鏡的多発血管炎(MPA): 5 件、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症 (EGPA): 2 件、抗糸球体基底膜(GBM)病: 1 件、IgA 血管炎(IgAV): 2 件、膜性腎症(MN): 3 件、IgA 腎症(IgAN): 4 件、糖尿病性腎症(DMN): 1 件、感染関連腎炎(IRGN): 2 例、その他(Others): 3 件、



○ 各種腎炎に対するステロイド・免疫抑制剤投与のための入院 12 件

○ 常染色体優性多発性嚢胞腎に対するトルバプタン導入入院 1 件

○ 血液透析 548 件

○ 血漿交換療法 29 件

○ シェント造設 6 件

○ シェント PTA 3 件

5. 業績

【論文】

Ryuta Uwatoko, Nao Kani, Shuzo Makino, Tomoya Naka, Kazuhiro Okamoto, Hiromitsu Miyakawa, Nobuhiro Hashimoto, Rei Iio, Yoshiyasu Ueda, Terumasa Hayashi. Shiga toxin-producing *Escherichia coli*-associated hemolytic uremic syndrome with recurrent acute cholecystitis: a case report. CEN Case Rep.DOI: 10.1007/s13730-023-00831-5 ;,2023.

【啓発・研修活動】

飯尾 麗.病診連携 「Start up! はびきの医療センター腎臓内科」.腎性貧血連携セミナー in 南大阪 令和5年6月22日, WEB.

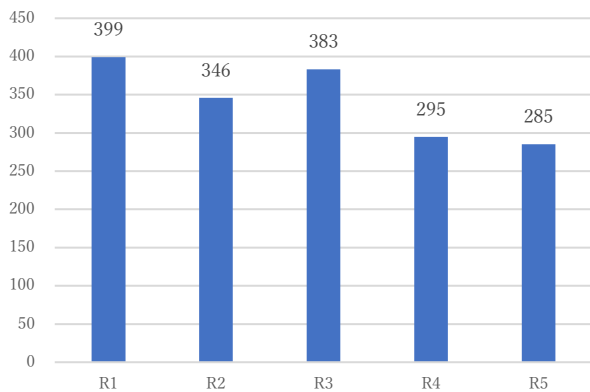
飯尾 麗.「日常診療における高カリウム血症の管理」.第6回南大阪腎不全対策講習会 令和5年10月21日, 大阪市.

飯尾 麗.「サイトメガロウイルス感染症」.第111回 OCKD 例会 令和6年2月16日, 大阪市.

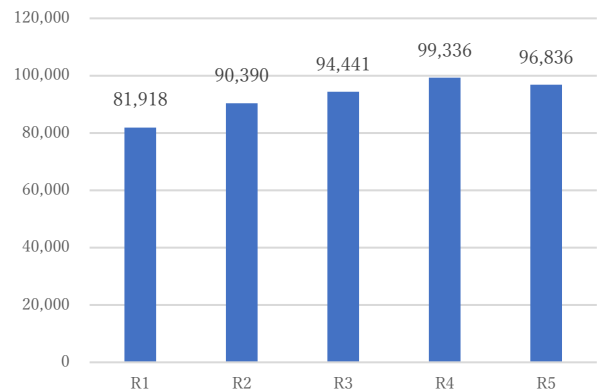
呼吸器外科

1. 臨床指標

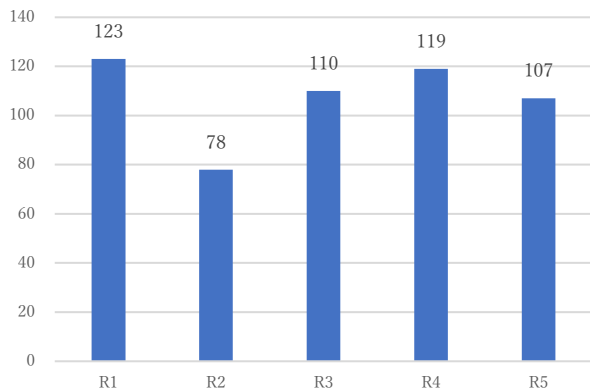
1. 新入院患者数（人）



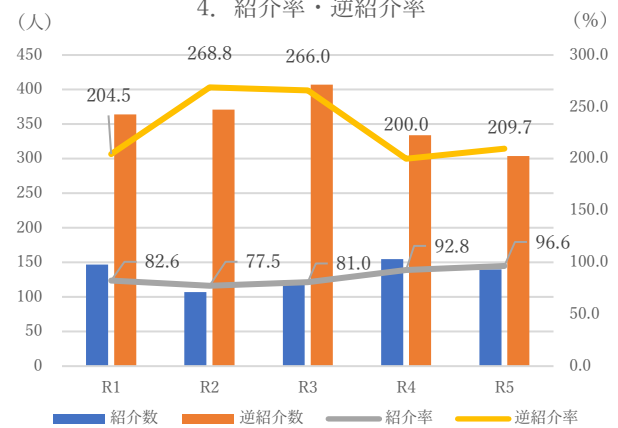
2. 入院診療単価（円）



3. 外来初診患者数（人）



4. 紹介率・逆紹介率



2. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
門田嘉久	主任部長 気胸センター長	日本外科学会専門医・指導医、日本胸部外科学会認定医 日本呼吸器外科学会専門医、緩和ケア研修修了 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 がんリハビリテーション研修修了、大阪大学医学部臨床教授
北原直人	副部長	日本外科学会専門医、日本呼吸器外科学会専門医 日本胸部外科学会呼吸器外科専門医、緩和ケア研修修了 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
谷口聖治	診療主任	日本外科学会専門医、日本内科学会専門医 日本呼吸器外科学会呼吸器外科専門医、緩和ケア研修修了
上山廉起	医員	緩和ケア研修修了 Da Vinci ファーストアシスタントプログラム修了
小林周平	医員	緩和ケア研修修了

3. 診療概要

主な診療対象疾患は原発性肺癌、転移性肺腫瘍、肺良性腫瘍、悪性胸膜中皮腫、縦隔腫瘍、胸壁腫瘍、嚢胞性肺疾患・気胸、炎症性肺疾患、膿胸などである。本年度は新病院への移転に伴う影響も見られたが、比較的速やかに診療体制の構築を行うことができた。

画像診断の進歩及び高齢者人口の増加により小型肺癌に対する低侵襲手術のニーズが高まっている。当科では胸腔鏡下手術を積極的に行っており、肺癌手術では約 80%、縦隔疾患及び肺嚢胞性疾患に対しては 90%を超える症例で胸腔鏡下手術を行った。

従来の胸腔鏡手術に加えて、単孔式胸腔鏡手術及びロボット支援手術を導入し、さらに治療の先進化並びに低侵襲化をすすめている。また、新規医療設備であるハイブリッド手術室を利用した、術中コーンビームコンピュータ断層撮影（CBCT）を併用した画像支援手術を新たに開始した。

進行肺癌に対しては、肺腫瘍内科・放射線科と連携し、外科治療を含む集学的治療を行っている。また、COPD、間質性肺臓炎などの呼吸器合併症や心、肝、腎、糖尿病などの合併症による耐術能低下を伴う症例に対しても、機能温存を念頭にした縮小手術による外科治療を積極的に行っている。

耐性結核、非結核性抗酸菌症（NTM）、肺真菌症などの難治性の感染症には病勢コントロールを目的とした外科治療が依然求められており、高度な技術を要する対象となっている。急性膿胸には積極的な治療介入により治療期間の短縮を図ることが出来ている。

4. 診療実績

延べ外来患者数	5,831 人
延べ入院患者数	4,346 人
実入院患者数	285 人
(主な疾患	肺がん 126 人、気胸 84 人、炎症性肺疾患 8 人、縦隔腫瘍 8 人 他)
手術件数	240 件
(主な手術	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術 74 件、胸腔鏡下肺切除術 55 件、肺悪性腫瘍手術 29 件

肺切除術 7 件 他)

5. 業績

【学会発表】

谷口聖治, 北原直人, 上山廉起, 小林周平, 門田嘉久. 当センターにおける限局型小細胞肺癌に対する手術成績. 第 64 回日本肺癌学会学術集会 令和 5 年度 11 月 2-4 日, 千葉.

上山廉起, 門田嘉久, 小林周平, 谷口聖治, 北原直人. 肺リンパ増殖性腫瘍を疑い長期経過観察中に肺陰影増大を認め原発性肺癌疑いとして肺切除した 1 例. 第 64 回日本肺癌学会学術集会 令和 5 年度 11 月 2-4 日, 千葉.

北原直人, 上山廉起, 小林周平, 谷口聖治, 門田嘉久. 低肺機能患者に対し左葉間浸潤を認めた進行肺癌に対し複合区域切除により呼吸機能を温存した 1 例. 第 64 回日本肺癌学会学術集会 令和 5 年度 11 月 2-4 日, 千葉.

小林周平, 北原直人, 上山廉起, 谷口聖治, 門田嘉久. 若年者すりガラス状結節の 2 切除例. 第 64 回日本肺癌学会学術集会 令和 5 年度 11 月 2-4 日, 千葉.

北原直人, 上山廉起, 小林周平, 谷口聖治, 門田嘉久. 肺結核後遺症による右上葉無気肺を呈した難治性気胸に対し遊離脂肪を用いて手術を施行した 1 例. 第 27 回日本気胸・嚢胞性肺疾患学会総会 令和 5 年度 9 月 8-9 日, 大阪.

上山廉起, 谷口聖治, 杉浦裕典, 安藤紘史郎, 北原直人, 門田嘉久. 孤立性繊維性胸膜腫瘍の切除例 20 例の検討. 第 40 回日本呼吸器外科学会総会 令和 5 年度 7 月 13-14 日, 新潟.

上山廉起, 谷口聖治, 杉浦裕典, 安藤紘史郎, 北原直人, 門田嘉久. 成人 Down 症候群に発症した急性有癭性膿胸の 1 例. 第 40 回日本呼吸器外科学会総会 令和 5 年度 7 月 13-14 日, 新潟.

上山廉起, 谷口聖治, 杉浦裕典, 安藤紘史郎, 北原直人, 門田嘉久. 下葉病変に対する複雑区域切除症例に対する術後呼吸機能に関する検討. 第 40 回日本呼吸器外科学会総会 令和 5 年度 7 月 13-14 日, 新潟.

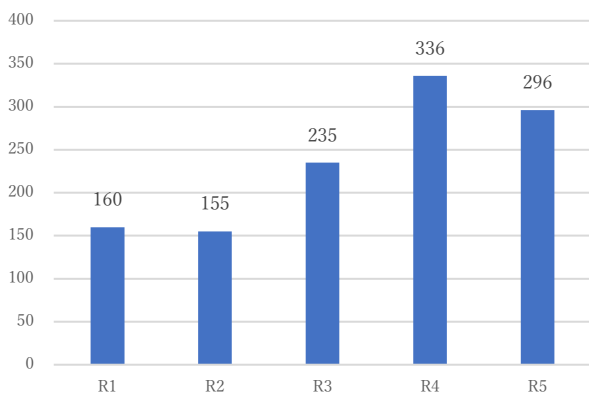
上山廉起, 谷口聖治, 杉浦裕典, 安藤紘史郎, 北原直人, 門田嘉久. 肺癌術後難治性肺癭に対し筋弁を用いて再手術症例の検討. 第 40 回日本呼吸器外科学会総会 令和 5 年度 7 月 13-14 日, 新潟.

上山廉起, 谷口聖治, 杉浦裕典, 安藤紘史郎, 北原直人, 門田嘉久. アスペルギルス膿胸に対して手術装具を用いた小開窓に局所陰圧療法(NPWP)を施行した 2 例. 第 40 回日本呼吸器外科学会総会 令和 5 年度 7 月 13-14 日, 新潟.

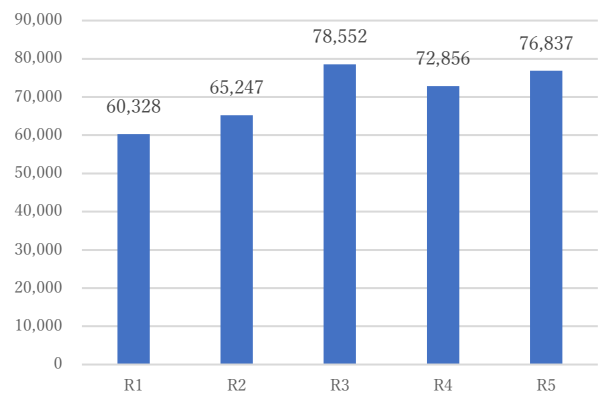
消化器外科

1. 臨床指標

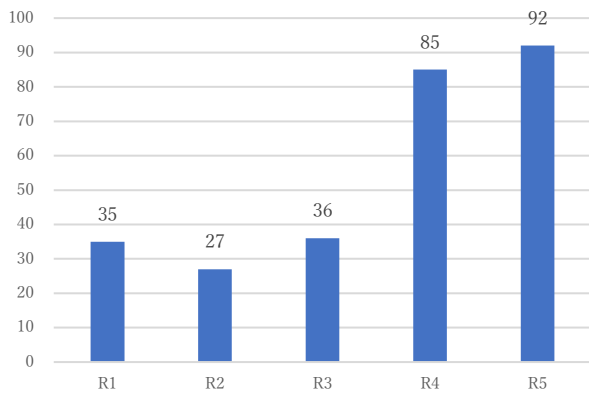
1. 新入院患者数（人）



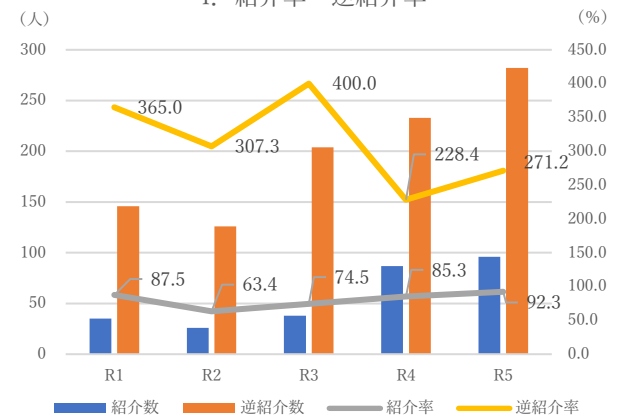
2. 入院診療単価（円）



3. 外来初診患者数（人）



4. 紹介率・逆紹介率



2. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
宮崎 知	主任部長	日本外科学会専門医・指導医 日本消化器外科学会認定医・専門医・指導医・消化器がん外科治療認定医 日本消化器病学会専門医、日本内視鏡外科学会技術認定取得 日本がん治療認定医機構認定医、臨床研修指導医 緩和ケア研修修了、JSPEN 臨床栄養セミナー修了
池田公正	部長	日本外科学会認定医・専門医・指導医 日本消化器外科学会認定医・専門医・指導医・消化器がん外科治療認定医 難病指定医、臨床研修指導医、臨床研修・治験従事者研修終了 医療コンフリクトマネジメント研修終了 がんリハビリテーション研修修了、緩和ケア研修終了 ジオン注四段階注射法講習会修了
酒田和也	副部長	日本外科学会認定医・専門医・指導医 日本消化器外科学会認定医・専門医・指導医・消化器がん外科治療認定医 日本大腸肛門病学会専門医・指導医、緩和ケア研修修了
浦川真哉	医長	日本外科学会専門医 日本消化器外科学会指導医・消化器がん外科治療認定医 日本消化器病学会専門医、日本がん治療認定医機構認定医 日本食道学会食道科認定医、緩和ケア研修修了 JSPEN TNT (Total Nutrition Therapy)研修修了、ICLS 講習修了 V.A.C 治療システム認定医
松浦記大	診療主任	日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医
西 秀美	診療主任	日本外科学会認定医・専門医、日本消化器外科認定医・専門医・消化器がん外科治療認定医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、JATEC・JPTEC プロバイダー、マンモグラフィ読影認定医、緩和ケア研修修了

3. 診療概要

平成 28 年 3 月までは消化器乳腺外科として近畿大学外科学教室からの派遣であったが、平成 29 年 1 月より大阪大学消化器外科教室からの派遣となった。令和 5 年度は、主任部長 宮崎 知（昭和 59 年卒）、部長 池田公正（平成元年卒）、副部長 酒田和也（平成 7 年卒）、診療主任 松浦記大（平成 23 年卒）、西秀美（平成 23 年度卒）の常勤医 5 名で診療を行った。7 月に松浦医師が大阪国際がんセンターに移動となり浦川真哉医師が赴任した。また、9 月には西医師が留学のため退職し、10 月からは 4 人体制での診療となった。専門臓器別には、上部消化管・一般外科は宮崎、上部消化管・ヘルニア・胆石は松浦、肝胆膵・ヘルニアは西、下部消化管は池田・酒田が担当した。肝胆膵領域の悪性腫瘍は長年高次医療機関に紹介していたが西医師が在籍時には、大阪大学の応援を頂き、腹腔鏡下の肝臓切除も施行した。

令和 3 年度より消化器内科、消化器外科、泌尿器科、婦人科疾患と協力しての腹部救急疾患に対応している。また、婦人科悪性腫瘍の手術症例には消化管への浸潤・癒着が多く、池田医師を中心に手

術援助を行っている。

10 年以上にわたり断続的に不在であった消化器内科医が常勤医として 1 名赴任し、大阪大学消化器内科の応援と併せて毎日の診療・内視鏡検査が可能となった。特に、胆管炎に対して ERCP が可能となり、他院への転院が不要となった。

最近、ピロリー菌感染の低下に伴い胃癌症例が漸減している。また、従来に比し早期胃癌もしくは進行胃癌の割合が多くなった。当科でも早期胃癌の ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）は大阪公立大学の福永医師を中心に施行している。

令和 5 年度の手術症例数は 189 例（ポート造設を除く）であった。ポート留置は 87 例と急増し本来は手術場で行う手術であり、関連病院の多くが手術症例として集計している。当科での手術症例には低肺機能症例が少なからず含まれるが、麻酔科、集中管理科の協力により術後経過に特に大きな合併症は認めなかった。コロナ禍は現在 5 類へ移行したが当科では入院時全例 PCR 検査を施行し、周術期にコロナ感染患者は認めていない。

予定手術は木曜日の 1 日枠のみであったが、手術症例数の増加に伴い調整枠の火曜日を最大限利用しているものの、最近はそれでも枠が足りず月曜日に空き枠を使わせてもらい調整を図っている。手術死亡は進行胃癌のバイパス症例が術後早期に原発巣の出血で手術死亡になった。胃瘻造設術は 4 例で内視鏡室で行った。

入院診療については、手術患者は 4 D すみれ病棟、化学療法や再発症例等は 5 D すみれ病棟で診療している。

外来診療については、月曜日を宮崎（上部消化管）・池田（下部消化管）・水曜日に浦川（上部消化管・ヘルニア）、水曜日を西（肝胆膵、ヘルニア）、金曜日を酒田（下部消化管）が担当した。令和 5 年度は胃癌、大腸癌は極力腹腔鏡手術を行い、胆石症、鼠径ヘルニア、虫垂炎、腹壁癒痕ヘルニアに対しても腹腔鏡下の手術を施行している。

食道裂孔ヘルニアに対しても令和 3 年から積極的に腹腔鏡下手術を導入し、令和 4 年からは胆嚢癌や肝臓癌にも腹腔鏡手術を導入している。

4. 診療実績

延べ外来患者数 2,566 人

延べ入院患者数 3,883 人

実入院患者数 296 人

（主な疾患 大腸がん 51 人、胃がん 42 人、胆管結石・胆管炎 19 人、大腸ポリープ 7 人、ヘルニア 34 人、腸閉塞 30 人、消化管穿孔性疾患 1 人、虫垂炎 15 人 他）

手術件数 89 件

（主な手術 直腸切除術 12 件 腹腔鏡下直腸切除術 4 件
結腸切除術 24 件 腹腔鏡下結腸切除術 7 件
食道裂孔ヘルニア 4 件
胃全摘術 3 件 胃切除術 15 件 腹腔鏡下胃切除術 2 件
ヘルニア手術 25 件 腹腔鏡下ヘルニア手術 8 件
胆嚢摘出術 2 2 件 腹腔鏡下胆嚢摘出術 21 件
虫垂切除術 11 件 腹腔鏡下虫垂切除術 6 件 他）

5. 業績

【論文発表】

西谷暁子, 野間俊樹, 酒田和也, 池田公正, 宮崎 知. 3 次治療 Nivolumab が奏功し cnversion surgery が施行できた進行胃癌の 1 例. 癌と化学療法. 50:1199-1202, 2023.

【学会発表】

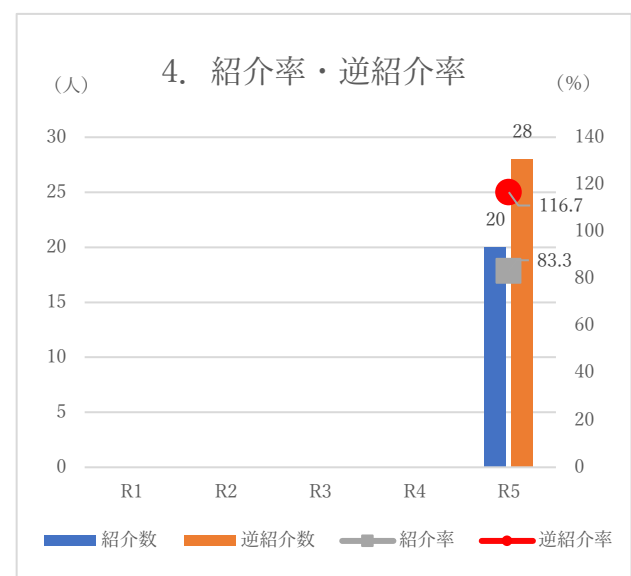
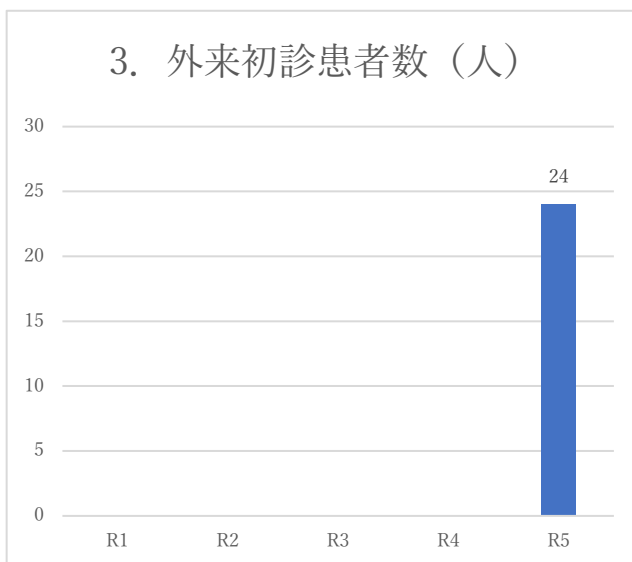
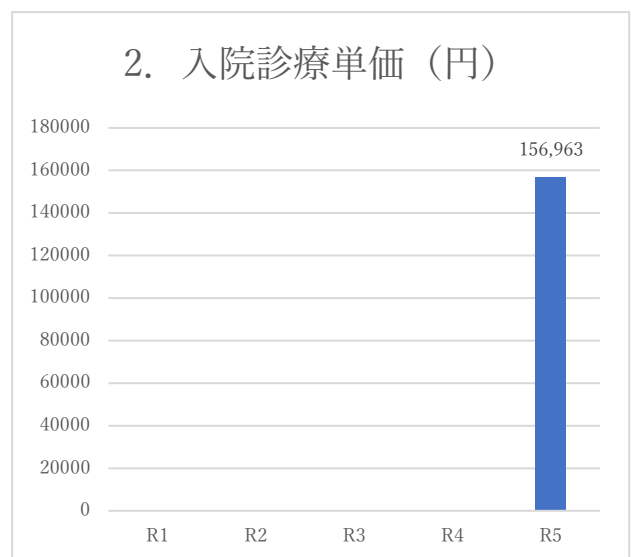
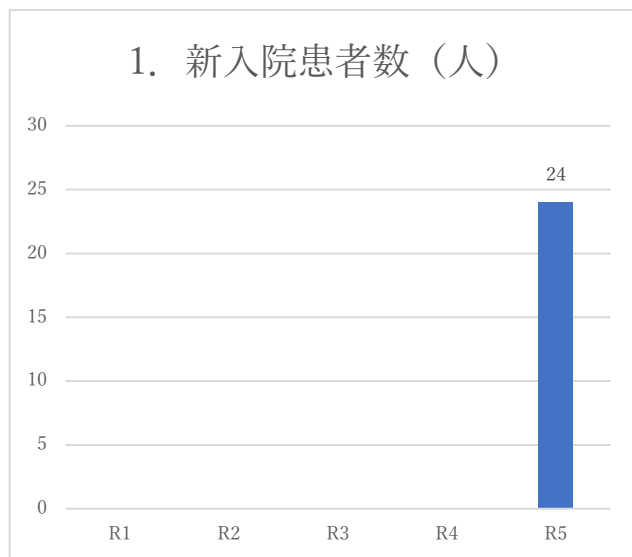
松浦記大, 西 秀美, 酒田和也, 池田公正, 宮崎知. 産婦人科の画像件を契機に発見された Meckel 憩室癌の 1 例. 第 85 回日本臨床外科学会総会 令和 5 年度 11 月 16-18 日, 岡山.

西 秀美, 松浦記大, 酒田和也, 池田公正, 宮崎 知. 結核の腹腔内病変を有する患者に生じた腹部症状の検討. 第 78 回日本消化器外科学会総会 令和 5 年度 7 月 12-14 日, 函館.

浦川真哉, 西 秀美, 酒田和也, 池田公正, 宮崎 知. 胃癌胃全摘術後の十二指腸断端縫合不全に PTGBD (経皮経管胆嚢ドレナージ) が有効であった 1 例. 第 96 回胃癌学会総会 令和 6 年度 2 月 28 日-3 月 1 日, 京都.

心臓血管外科

1. 臨床指標



2. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
川平 洋一	主任部長	日本外科学会認定医・専門医、日本脈管学会専門医 日本胸部外科学会認定医・指導医、臨床検査指導医 下肢静脈瘤血管内焼灼術実施医 腹部ステントグラフト実施医、緩和ケア研修修了 BLS 研修受講修了、長時間労働医師への面接指導の実施にかかる研修修了

3. 診療概要

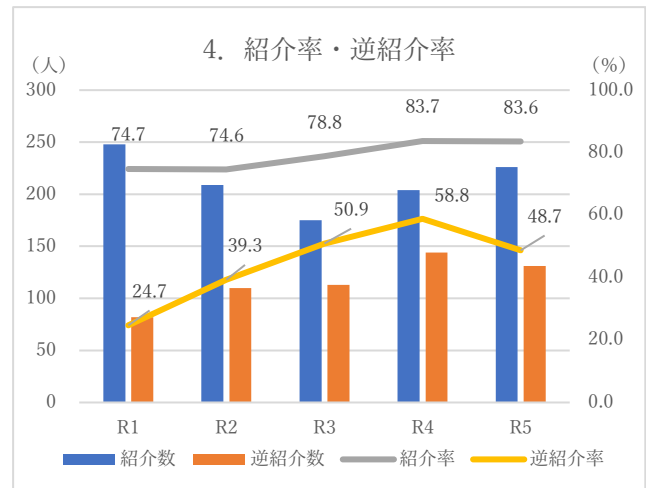
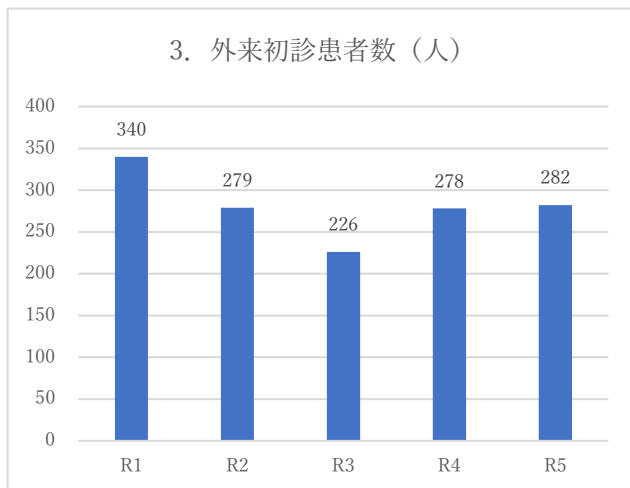
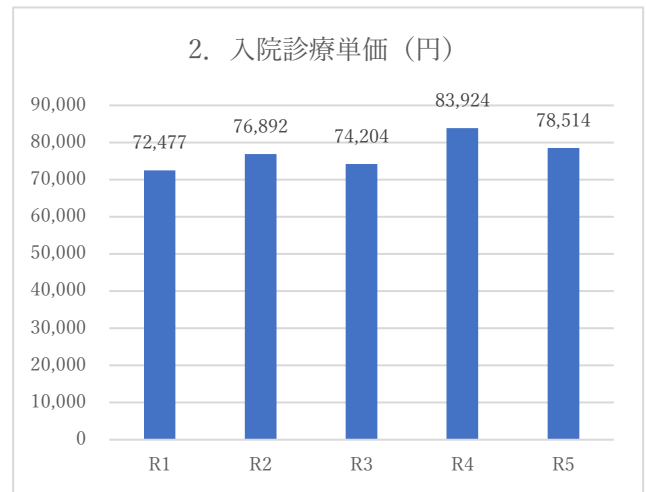
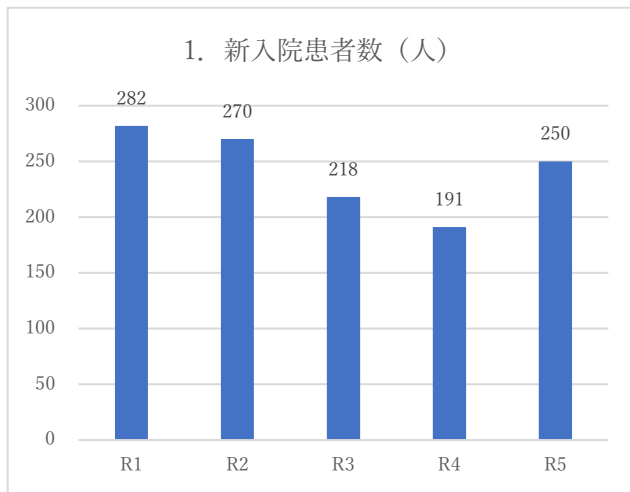
令和5年に新病院開設に伴い、新設した。主に腹部大動脈瘤や末梢動静脈疾患、透析シャント作成を行っている。常勤1名体制のため循環器内科、腎臓内科と連携し、保存的薬物療法・血管内治療・手術治療などの治療を適切に選択することとしている。

4. 診療実績

- ・延べ外来患者数：256 人
 - ・延べ入院患者数：54 人
 - ・実入院患者数：24 人
- (主な疾患：下肢の静脈瘤 23 件、その他 1 件)

乳腺外科

1. 臨床指標



2. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
安積達也	主任部長	日本外科学会専門医
	乳腺センター長	日本がん治療認定医機構がん治療認定医 マンモグラフィ読影認定医 日本乳癌学会乳腺専門医・指導医 乳腺超音波技術認定医 日本医師会認定産業医 緩和ケア研修修了 HBOC 教育セミナー修了

3. 診療概要

当科では、乳腺疾患や甲状腺疾患の診断治療を行っている。

乳腺疾患では乳癌検診の一次検診および二次検診をはじめとし、乳腺疾患の診断・治療、乳癌の診断・治療を行っている。

乳癌の診断としては、マンモグラフィやエコー等の画像検査を始め、穿刺細胞診や針生検、吸引式針生検を行い、迅速・確実に病理診断を行う事を心がけている。

乳癌の治療としては、当センターは日本乳癌学会の認定施設であり、乳癌の治療について、手術および放射線治療、薬物療法を同一施設で行っており、乳癌術後の乳房再建手術については、近畿大学形成外科の協力のもと、自家組織を用いた乳房再建を乳癌手術と同時にやっている。

乳癌術後や乳癌の再発の治療として、薬物療法（化学療法、ホルモン療法）も行っている。

また、遺伝性乳癌卵巣癌症候群についても、遺伝カウンセラーによる定期的な遺伝カウンセリングを行うことが可能となり、また BRACAnalysis 診断システムによる検査も行うことが出来る体制が整っている。

4. 診療実績

延べ外来患者数 7,818 人

延べ入院患者数 1,950 人

実入院患者数 250 人

(主な疾患 乳がん 221 人、乳房の良性腫瘍 15 人 他)

乳がん手術 75 例 吸引式乳腺組織生検 23 例 他

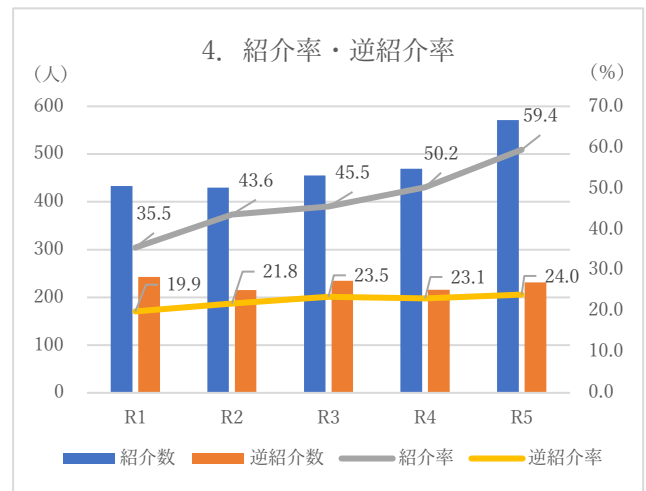
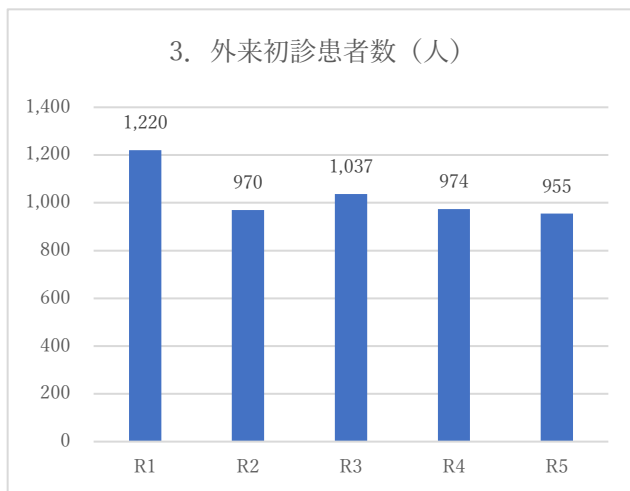
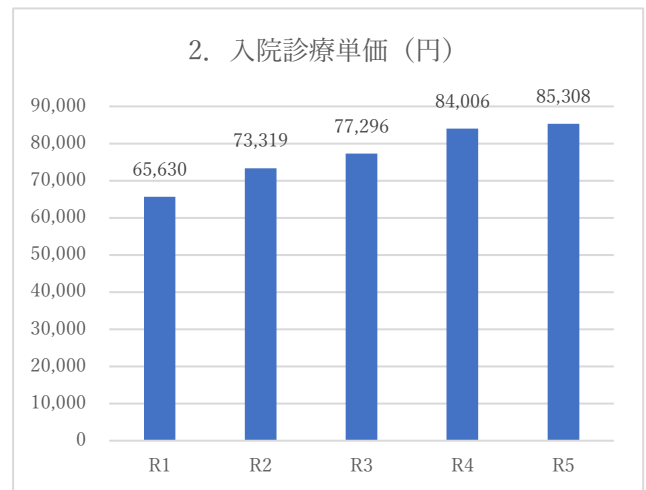
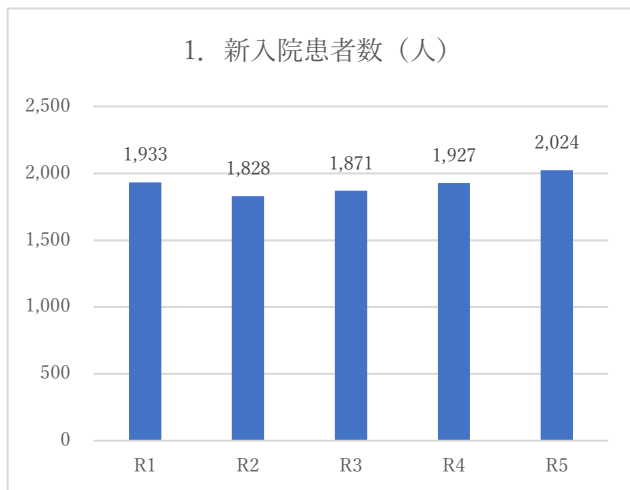
5. 業績

【学会発表】

安積達也.当センターのホルモン陽性 Her2 陰性乳癌に対するアベマシクリブ併用ホルモン療法の現状.第 31 回日本乳癌学会 令和 5 年 6 月 29 日-7 月 1 日, 横浜.

産婦人科

1. 臨床指標



2. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
赤田 忍	主任部長	奈良県立医科大学臨床教授、奈良県立医科大学非常勤医師 日本産婦人科学会認定指導責任者、産婦人科専門医、母体保護法指定医 難病指定医
安川久吉	副部長	日本産婦人科学会認定指導医、産婦人科専門医、 母体保護法指定医、緩和ケア研修修了
長安実加	医長	日本産科婦人科学会認定産婦人科専門医 日本内視鏡外科学会技術認定（産科婦人科） 日本産科婦人科内視鏡学会腹腔鏡技術認定医
穂西実加	診療主任	日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療専門医 日本プライマリ・ケア連合学会認定プライマリ・ケア認定医 緩和ケア研修修了
中谷沙也佳	医員	緩和ケア研修修了
坂元優太	医員	緩和ケア研修修了、Da Vinci ファーストアシスタントプログラム修了
梅原健耶	医員	緩和ケア研修修了、Da Vinci ファーストアシスタントプログラム修了

3. 診療概要

勤務体制の面では、令和5年4月に後期研修医である梅原健耶医師が奈良医大から赴任され、中谷沙也佳医師が大阪府の人事で大阪急性期・総合医療センターから異動となった。非常勤医師は、昨年より引き続き岩井加奈医師、脇啓太医師、西川恭平医師の3名で、4月時点では常勤8名(指導医4名)+非常勤3名体制となった。10月に中野和俊医師が退職となり、指導医が3名に減少した。2月より穂西実加先生が産休のため休暇に入り、常勤6名となったが、補充人員はなく、残された人員で何とか診療を行った。

診療の面では、新病院になり、ダヴィンチが導入され、赤田忍部長がまず certificate を取得され、ロボット支援下子宮摘出術を導入され、引き続き長安実加医師が certificate を取得された。また、内視鏡専門資格をもつ長安医師は、骨盤性器脱に対して腹腔鏡下仙骨脛固定術を導入され、今後、ロボット支援下仙骨脛固定術を行っていく予定である。婦人科悪性腫瘍に関しては、赤田部長、長安医師を中心に悪性腫瘍手術は例年通り実施できた。産科分野では、無痛分娩を希望される産婦が多くなり、経陰分娩の3人に1人が無痛分娩となった。産科スタッフの尽力のお陰で大きな事故なく無痛分娩を提供できた。また、産科合併症が多くなり、放射線科竹下医師の協力で、産科危機的出血に対して子宮動脈塞栓術や、前置胎盤症例に対して内腸骨動脈バルーンリングなどが実施された。少子化のなか、分娩件数は維持できたが、産科合併症の症例が多くなり、その対応に苦慮した1年でもあった。

4. 診療実績

延べ外来患者数	24,638 人
延べ入院患者数	12,722 人
実入院患者数	2,024 人

(主な疾患 子宮がん 185 人、卵巣・卵管がん 122 人 他)

分娩件数 957 件 (うち無痛分娩 272 件)

手術件数 684 件 (うち腹腔鏡下手術 202 件、子宮鏡下手術 88 件)

患者さんの QOL を考慮した腹腔鏡を中心とした内視鏡手術や円錐切除などの日帰り手術、根治性を目指した悪性腫瘍手術、PARP 阻害剤や免疫チェックポイント阻害剤など新しい薬剤を積極的に取り入れた化学療法、満足度の高い無痛分娩を行っている。産婦人科でお困りの際は当センターへご相談ください。

5. 業績

【学会発表】

長安実加, 坂元優太, 穂西実加, 中野和俊, 安川久吉, 赤田 忍. 当科における早期子宮体癌に対する腹腔鏡下手術の検討. 第 75 回日本産科婦人科学会学術講演会 令和 5 年 5 月 12-14 日, 東京.

穂西実加, 坂元優太, 中野和俊, 長安実加, 安川久吉, 赤田 忍. 無痛分娩後に判明した不全子宮破裂の 1 例. 第 75 回日本産科婦人科学会学術講演会 令和 5 年 5 月 12-14 日, 東京.

坂元優太, 中野和俊, 穂西実加, 長安実加, 安川久吉, 赤田 忍. 子宮体癌に対する Pembrolizumab + Lenvatinib 併用療法の使用経験. 第 75 回日本産科婦人科学会学術講演会 令和 5 年 5 月 12-14 日, 東京.

坂元優太, 穂西実加, 中野和俊, 長安実加, 安川久吉, 赤田 忍. 当センターでの Pembrolizumab の使用経験について. 第 148 回近畿産科婦人科学会学術集会 令和 5 年 6 月 17 日, 和歌山.

穂西実加, 中野和俊, 坂元優太, 長安実加, 安川久吉, 赤田 忍. 胎胞脱出の管理中に絨毛膜羊膜炎をきたし敗血症性ショックに至った 1 例. 第 148 回近畿産科婦人科学会学術集会 令和 5 年 6 月 18 日 (口演), 和歌山.

坂元優太, 中野和俊, 安川久吉. 無痛分娩後に判明した後腹膜血腫の 1 例. 第 59 回日本周産期・新生児医学会学術集会 令和 5 年 7 月 9-11 日 (ポスター), 愛知.

長安実加, 坂元優太, 穂西実加, 中野和俊, 安川久吉, 赤田 忍. 当センターでの Pembrolizumab の使用経験について. 第 65 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 令和 5 年 7 月 14-16 日, 島根.

坂元優太, 長安実加, 安川久吉, 赤田 忍. 右卵管癌と鑑別困難であった Meckel 憩室癌の 1 例. 第 63 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会 令和 5 年 9 月 15 日, 滋賀.

梅原健耶, 安川久吉, 坂元優太, 中谷沙也佳, 穂西実加, 長安実加, 赤田 忍. 分娩中に発症した気胸合併妊娠の1例. 第149回近畿産科婦人科学会学術集会 周産期研究部会 令和5年10月15日(口演), 大阪.

中谷沙也佳, 梅原健耶, 坂元優太, 穂西実加, 長安実加, 安川久吉, 赤田 忍. 再発子宮体癌に対してペムブロリズマブ投与中に脳髄膜炎を発症し心停止に至った症例. 第149回近畿産科婦人科学会学術集会 第109回腫瘍研究部会 令和5年10月15日(口演), 大阪.

中谷沙也佳, 安川久吉, 梅原健耶, 坂元優太, 穂西実加, 長安実加, 赤田 忍. 硬膜外無痛分娩から帝王切開に移行する際の麻酔方法についての検討. 第127回日本産科麻酔学会学術集会 令和5年12月2日(ポスター), 大阪.

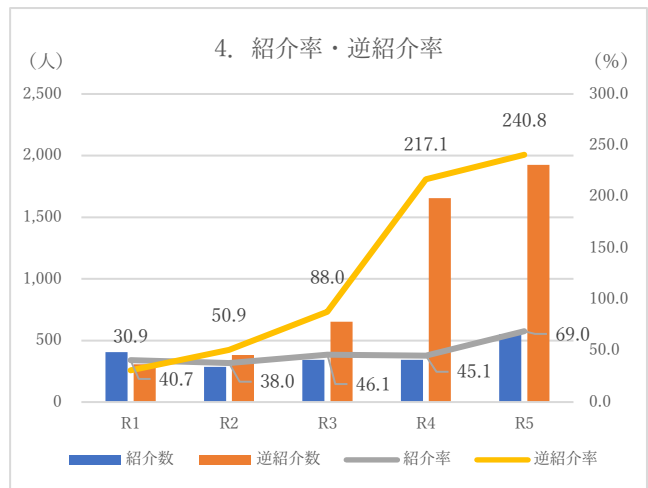
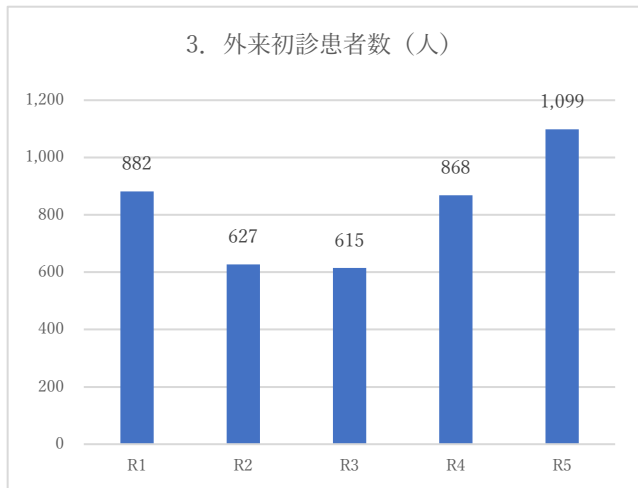
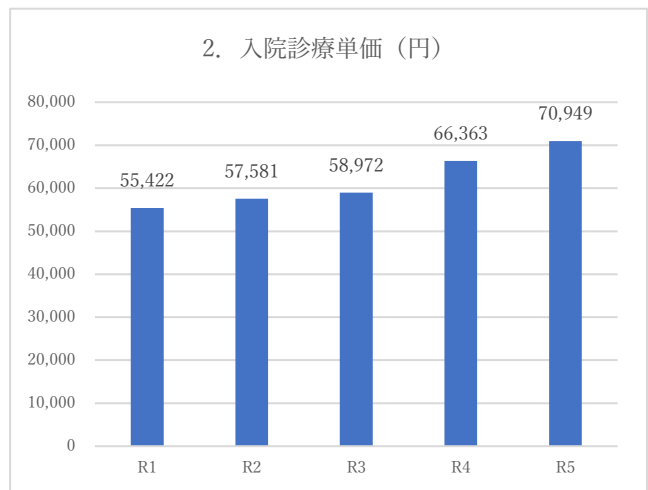
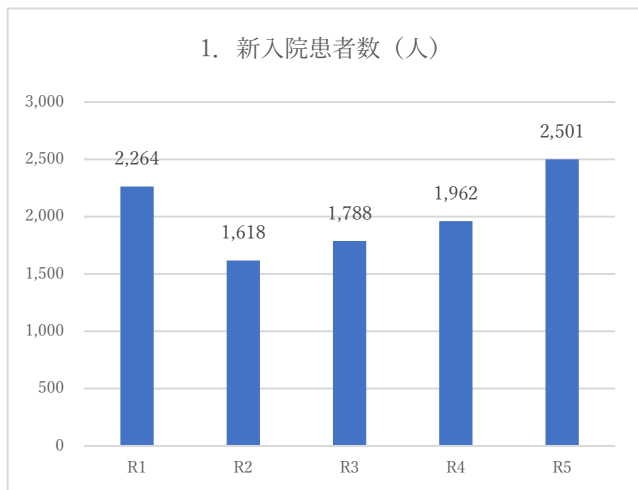
【啓発・研修活動】

安川久吉. 子宮頸癌の新しい治療戦略. がん病薬連携研修 令和6年2月9日, WEB.

中谷沙也佳. 当センターでのUAE症例について. 第17回はびきやまセミナー 令和6年2月28日(口演), 大阪.

小児科

1. 臨床指標



2. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
亀田 誠	主任部長	日本小児科学会専門医・指導医、日本アレルギー学会専門医
吉田之範	部長	日本小児科学会専門医・指導医 日本アレルギー学会専門医・指導医 日本周産期・新生児医学会 新生児蘇生法 「専門」コース(Aコース) インストラクター
高岡有理	副部長	日本小児科学会専門医・指導医、日本医師会認定産業医 日本アレルギー学会専門医・指導医
深澤陽平	医長	日本小児科学会専門医・指導医、日本アレルギー学会専門医 臨床研修指導医
釣永雄希	医長	日本小児科学会専門医、日本アレルギー学会専門医 日本小児感染症学会認定医、臨床研修指導医 日本結核・非結核性抗酸菌症学会 結核・抗酸菌症指導医 日本周産期・新生児医学会 新生児蘇生法 「専門」コース(Aコース)修了
上野瑠美	診療主任	日本小児科学会専門医・指導医、日本アレルギー学会専門医
山口智裕	診療主任	緩和ケア研修修了
九門順子	レジデント	日本小児科学会専門医・指導医、日本アレルギー学会専門医
中竹俊伸	レジデント	日本小児科学会専門医、緩和ケア研修修了 日本周産期・新生児医学会新生児蘇生法講習会 「専門」コース(Aコース)インストラクター
山手和智	レジデント	日本小児科学会専門医、緩和ケア研修修了
梅田有観	レジデント	日本小児科学会専門医
中原康輔	レジデント	緩和ケア研修修了
吉永武史	レジデント	緩和ケア研修修了

3. 診療概要

令和5年度は本格的に以前の診療体制が戻ってきた。入院患者は昨年度比で約15%増えたが、増加はアレルギー疾患以外の疾患に対応するようになった影響が大きいと思われる(救急搬送患者の24時間受け入れは令和4年度から開始した)。ポストコロナでの呼吸器感染症を中心とする感染症の増加は全国的に指摘されるところであるが、当科でも同様であった。また、川崎病での入院も46件と前年度の約2倍となった。

当科が主に取り組んでいるアレルギー疾患診療も堅調である。主には食物アレルギー関連であるが、合併するアトピー性皮膚炎の診療、また、以前から取り組んでいる喘鳴性疾患の鑑別、診療でも同程度の患者に対応した。当科の特徴は、合併する各種アレルギー疾患を総合的に診療することである。このため各疾患の診療ガイドラインを意識し、その上で最新の知見も取り入れて診療にあたっている。また、新たな治療方法の模索、確立に向けて研究的な治療にも引き続き取り組んでいる。特に食物アレルギーと気管支喘息では重症、難治症例が数多く集まることから全国的な臨床研究や新規

薬剤の治験にも参画している。アレルギー疾患以外では大阪急性期・総合医療センターの協力で開設した循環器外来も順調に運用されており、神経発達症関連の診療も限定的であるが取り組んでいる。

地域医療への貢献という点では救急患者の受け入れ数が増加したことは特筆すべきと考える。救急搬送受け入れ件数は令和3年度139名、令和4年度528名、令和5年度820名と確実に増加している。近隣の小児科クリニックからの要入院患者にも例年通り対応することができた。一方で延べ外来患者数は減少した。これは病診連携を意識した結果と思われる。実際に逆紹介率は240%であった。

新生児部門では、当センター産婦人科が多数の分娩を扱っていることから新生児医療の充実にも引き続き取り組み、より安全な周産期医療の構築に努めている。今年度のNICU入院数は795名であった。

また社会的にニーズの高まりがあるレスパイト入院も継続して受け入れを行った。

4. 診療実績

延べ外来患者数 16,888人

延べ初診患者数 1,099人

延べ入院患者数 7,078人

実入院患者数 2,501人

救急搬送件数 820人（内入院 279人）

NICU入院患者数 795人

レスパイト入院患者数 8人

（主な疾患 食物アレルギー 1,316人、気管支喘息 99人、肺炎・気管支炎 107人、
新生児疾患・先天性疾患 128人 川崎病 27人、その他 824人 他）

食物アレルギー関連の入院が1,320名である。その殆どが経口負荷テストで全国でも屈指の実施数である。

診療に加え、学会活動にも積極的に参画している。

なお、「小児気管支喘息治療・管理ガイドライン2023」「食物アレルギー診療ガイドライン2021」の作成に携わっている。

5. 業績

【論文】

Akihiro Maeta, Yuri Takaoka, Atsuko Nakano, Shinichi Sumimoto, Anzai Kaori, Satoru Morikawa, Makoto Kameda, Kyoko Takahashi. Depalopment of Oral Immunotherapy-related Parental Burden Scale. Int Arch Allergy Immunol.184:1203-1215,2023.

Yuri Takaoka, Akihiro Maeta, Atsuko Nakano, Masaaki Hamada, Yukiko Hiraguchi, Tomoko Kawakami, Ikuo Okafuji, Yutaka Takemura, Makoto Kameda, Kyoko Takahashi, Shohei Akagawa, Kaori Anzai, Shinichi Sumimoto, Kenji Bando, Masaaki Doi, Masahiro Enomoto, Shiori Fujikawa, Akiko Ikeda, Megumi Nagai, Atsuko Nishiyama, Keita Otsuka, Satoko Shimizu, Yukiko Sugimoto, Yuko Tanaka, Yuya Tanaka, Yukiko Tanaka, Ryohei Wakahara, Koji Yamasaki. pediatrics allergies in Japan: Coronavirus disease pandemic-related risk factors. Asia Pacific Allergy.13:114-120,2023.

Yuri Takaoka, Makoto Kameda, Nayu Sato, Masashi Nakamura, Kayoko Matsunaga, Amane Shigekawa, Makoto Kameda. Corn-dependent exercise-induced anaphylaxis with cross-antigenicity to avocado. *pediatrics International*.66:---,2023.

河辺隆誠, 川島佳代子, 奥野未佳, 山本雅司, 佐々木崇博, 花田有紀子, 田中晶平, 九門順子, 山口智裕, 上野瑠美, 釣永雄希, 深澤陽平, 重川 周, 高岡有理, 吉田之範, 亀田 誠. 小児アレルギー性鼻炎に対するダニ舌下免疫療法の他覚的評価の検討. *アレルギー*.72:375-387,2023.

Yamamoto Hanada K, Kobayashi T, Mikami M, Williams HC, Saito H, Saito-Abe M, Sato M, Irahara M, Miyaji Y, Ishihara F, Tsuchiya K, Tamagawa-Mineoka R, Takaoka Y, Takemura Y, Sato S, Wakiguchi H, Hoshi M, Natsume O, Yamaide F, Seike M, Ohya Y;PACI Study investigators. Enhanced early skin treatment for atopic dermatitis in infants reduces food allergy. *J allergy Clin Immunol*.152:126-135,2023.

Atsuko Nakano, Akihiro Maeta, Yuri Takaoka, Keigo Saeki, Masaaki Hamada, Yukiko Hiraguchi, Tomoko Kawakami, Ikuo Okafuji, Yutaka Takemura, Kyoko Takahashi, Makoto Kameda. The parent's fears about hospital visits and trait anxiety in the COVID-19 pandemic. *Healthcare*.11:1080-1080,2023.

亀田 誠. 【小児科学レビュー-最新主要文献とガイドライン-】 アレルギー疾患 気管支喘息. *小児科臨床*.76:161-166,2023.

Yuri Takaoka, Yoichi M Ito, Junko Kumon, Tomohiro Yamaguchi, Rumi Ueno, Yuki Tsurinaga, Tamana Nakano, Yohei Fukasawa, Amane Shigekawa, Yukinori Yoshida, Makoto Kameda, Satoru Doi. Efficacy and safety of low- and high- dose slow oral egg immunotherapy for hen's egg allergy: single-center non inferiority randomized trial. *Asian Pac J Allergy Immunol*.-,2023.

深澤陽平, 安楽正輝, 広瀬晴奈, 山口智裕, 上野瑠美, 釣永雄希, 重川 周, 高岡有理, 吉田之範, 河原隆二, 片岡葉子, 亀田 誠. 市中型メチシリン耐性黄色ブドウ球菌による皮下膿瘍の家族例. *日本小児科学会雑誌*.127:707-713,2023.

高岡有理. Editorial: 食物アレルギーの患者指導において小児アレルギーエデュケーターに期待されること. *日本小児臨床アレルギー学会誌*.21:-,2023.

【著作・著書】

高岡有理. 食品ごとの各論. 食物アレルギービジュアルブック 2023. (伊藤浩明/海老澤元宏/吉原重美) 協和企画, 東京, pp.-, 2023.

亀田 誠.アレルギー疾患における多職種連携. 小児科診療. 86: 171-175, 2023.

亀田 誠.アレルギー専門医の社会的ニーズと今後の展望. アレルギー.: 5-7, 2023.

亀田 誠.内科医が知っておくべき移行期医療の実践. 週刊日本医事新報.: 18-31, 2023.

亀田 誠, 吉田之範.(ガイドライン作成委員会委員), 深澤 陽平, 釣永雄希.(ガイドライン執筆協力者), 高岡有理 (システムティックレビューチーム). 小児気管支喘息治療・管理ガイドライン 2023. (一社 日本小児アレルギー学会) 協和企画, 東京, pp.-, 2023.

吉田之範.先天性線毛運動異常.最新ガイドライン準拠 小児科 診断・治療指針.(加藤元博) 中山書店, 東京, pp.-, 2024.

【学会発表】

Yuri Takaoka, Yuki Tsurinaga, Masaaki Hamada, Yukiko Hiraguchi, Masaaki Doi, Ikuo Okafuji, Yukiko Sugimoto, Norihito Iba, Tomoko Kawakami, Atsuko Nakano, Keita Otsuka, Junko Kumon, Rumi Ueno, Yohei Fukasawa, Amane Shigekawa, Yukinori Yoshida, Makoto Kameda.Diagnostic utility and safety of oral food challenge in children with suspected shrimp allergy.WAO symposium Food and Respiratory Allergies, 18-20.May.2023, Cona Hawai'i.

Toshinobu Nakatake, Yuri Takaoka, Kazutomo Yamate, Junko Kumon, Tomohiro yamaguchi, Rumi Ueno, Yuki Tsurinaga, Yohei Fukasawa, Yukinori Yoshida, Makoto Kameda, Takanari Kawabe, Kayoko Kawashima.A 13-year-old patient who developed anaphylactic shock following sublingual cedar immunotherapy.WAO symposium Food and Respiratory Allergies, 18-20.May.2023, Cona Hawai'i.

亀田 誠.「総合アレルギー医を目指して」小児科の立場から.第9回日本アレルギー学会近畿地方会, 令和5年6月11日, 大阪.

吉田之範.閉塞性細気管支炎.第55回日本小児呼吸器学会, 令和5年10月7日, 豊岡.

高岡有理, 中村政志, 佐藤奈由, 河邊智史, 松永佳世子, 釣永雄希, 濱田匡章, 高里良宏, 松井照明, 伊藤浩明, 九門順子, 上野瑠美, 山口智裕, 深澤陽平, 重川 周, 吉田之範, 亀田 誠.小児のエビ経口負荷試験予測に有用なコンポーネント特異的 IgE 抗体に関する検討.第72回日本アレルギー学会学術集会 令和5年10月20日, 東京.

亀田 誠.「小児アレルギー疾患の移行期医療」イントロダクション.第72回日本アレルギー学会学術大会, 令和5年10月21日, 東京.

高岡有理,アレルギーの病気が治るかもしれない? 「"食べることを利用した食物アレルギー予防や

治療」.第 60 回日本小児アレルギー学会, 令和 5 年 11 月 19 日, 京都.

亀田 誠.アナフィラキシー～ガイドライン 2022 と食物アレルギーを中心に～.第 18 回医療の質・安全学会学術大会, 令和 5 年 11 月 25-26 日, 神戸.

吉田之範.増悪の危険因子とその対応(小児喘息の基本知識から最新情報まで).第 10 回総合アレルギー講習会, 令和 6 年 3 月 16-17 日, 東京.

【啓発・研修活動】

亀田 誠.乳幼児期の食物アレルギーについて～以下に自己を予防し、緊急時に対処すべきか～.令和 5 年度大阪市保育・要時教育センター 公私幼保合同研修会 令和 5 年 5 月 29 日, 大阪.

亀田 誠.食物アレルギーと緊急時の対応.令和 5 年度大阪市私立幼稚園連合会 令和 5 年 6 月 16 日, 大阪.

吉田之範.小児重症喘息の治療ー生物学的製剤を上手く使うためには?ー.小児重症喘息 Web 講演会, 令和 5 年 6 月 20 日, WEB.

亀田 誠.小児気管支喘息における吸入療法.Kyorin WEB サロン 令和 5 年 7 月 12 日, Web.

亀田 誠.小児アトピー性皮膚炎の治療 ～薬剤師に期待すること～.大阪府病院薬剤師会第 15 支部(堺・狭山市) 7 月学術講演会 令和 5 年 7 月 20 日, 堺.

高岡有理.食物アレルギー研修.藤井寺教育委員会主催 令和 5 年 7 月 27 日, 藤井寺.

亀田 誠.コメンテーター.第 8 回夏季研修会栄養士のための大阪食物アレルギー研究会, 令和 5 年 8 月 19 日, 大阪.

亀田 誠.学校におけるアレルギー疾患対応 食物アレルギーを中心に.令和 5 年度文部科学省補助事業 アレルギー講習会 奈良県開催 令和 5 年 8 月 24 日, 奈良.

亀田 誠.アレルギー疾患のある子どもへの対応.令和 5 年度大阪教育センター新規採用養護教諭、新規採用栄養教諭研修及び養護教諭 10 年経験者研修 令和 5 年 9 月 1 日, Web 配信(on demand).

亀田 誠.乳幼児期の食物アレルギーと園での対応.令和 5 年度豊中市食物アレルギー研修会 令和 5 年 9 月 11 日, 豊中.

亀田 誠.子どものアレルギー疾患について知る(乳幼児を中心に).令和 5 年度大阪市男女いきいき財団 地域子育て活動者研修研修会 令和 5 年 9 月 22 日, 大阪.

高岡有理.食物アレルギーについて.令和5年度子育て支援員養成研修 令和5年10月6日, 東大阪.

亀田 誠.食物アレルギー診療で感じること.NPO 法人月ノヒカリ親子サロン 令和5年11月14日, 枚方.

亀田 誠.食物アレルギーをもつ児童への対応.令和5年度大阪狭山市放課後児童支援員研修会 令和5年11月20日, 大阪狭山.

亀田 誠.学校における食物アレルギー対応について.令和5年度大阪府立藤井寺支援学校校内研修 令和5年11月28日, 藤井寺.

亀田 誠.保育所・こども園での食物アレルギー対応.ニッポンハム食の未来財団 保育者向け食物アレルギーセミナー 令和5年12月2日, 大阪.

亀田 誠.学校におけるアレルギー疾患対応 食物アレルギーを中心に.令和5年度文部科学省補助事業 アレルギー講習会 堺市開催 令和5年12月6日, 堺.

高岡有理.食物アレルギーの基礎知識.茨木市こども育成部主催 令和5年12月7日, 茨木.

亀田 誠.気管支喘息・アレルギー疾患の最新話題と発達障害・コロナ禍の現状.一社 大阪称号医学・教育研究会 定例学術研究会 令和5年12月8日, 大阪.

中原康輔.診断に苦慮した若年性特発性関節炎(sJIA)の1例.第8回南大阪小児免疫疾患研究会 令和6年1月25日, 堺.

上野瑠美.こどもの食物アレルギー ～基礎から～. 第38回 OFAD 自主研修会 令和6年2月3日, 堺.

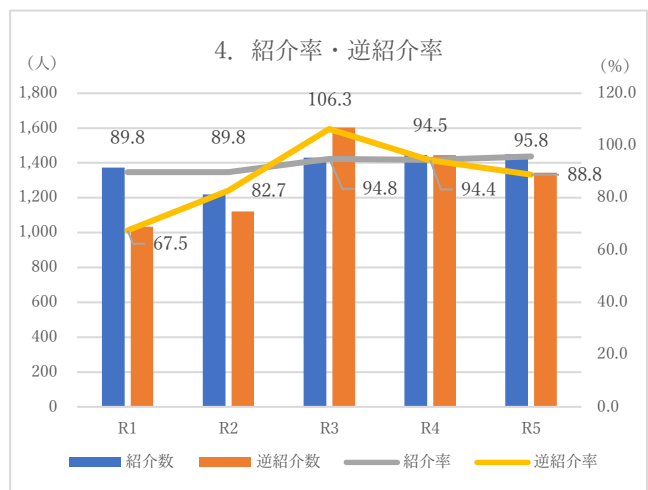
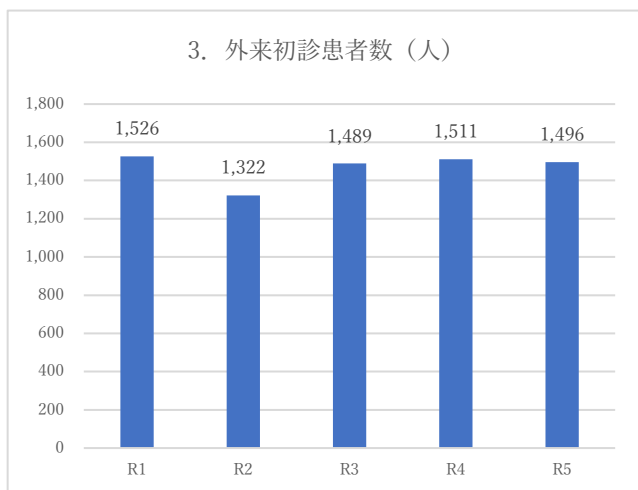
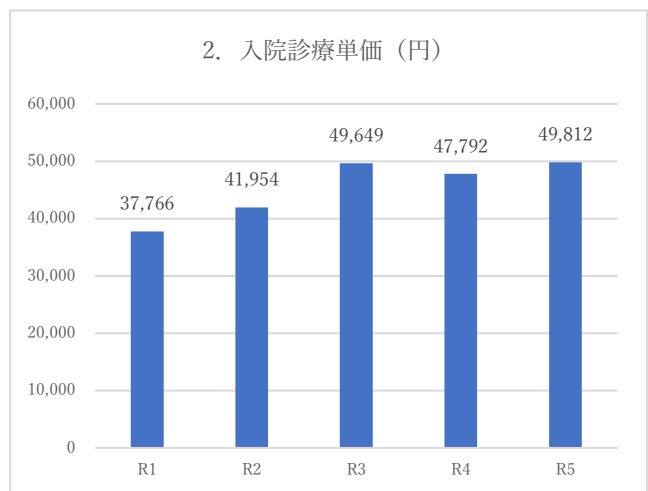
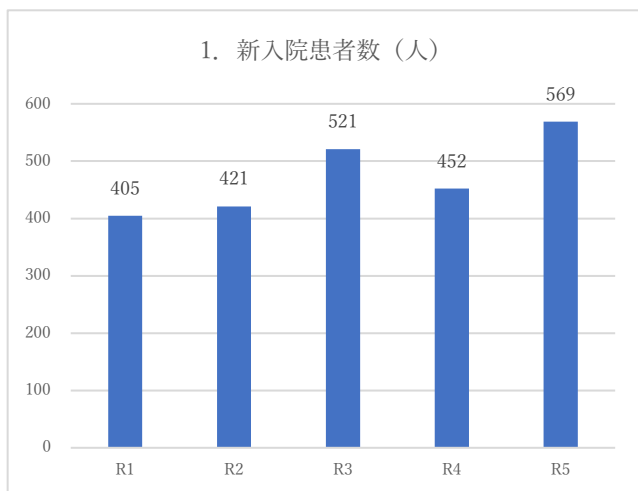
高岡有理. わかって安心! 子どものアレルギー. 大阪市立永池小学校 PTA 主催 令和6年2月7日, 大阪.

【マスコミ発表】

高岡有理.食物アレルギーを中心とした小児アレルギー患者のよりよい治療を目指す取り組み.大阪科学・大学記者クラブ懇談会 令和5年10月4日.

皮膚科

1. 臨床指標



2. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
片岡葉子	副院長 兼主任部長 兼アトピー・ アレルギーセンター長	日本皮膚科学会専門医・指導医、日本アレルギー学会指導医 日本心身医学会専門医
坂本幸子	診療主任	
木村優香	医員	大阪府難病指定医、緩和ケア研修修了
長塚由美	医員	緩和ケア研修修了
坂本理佳	医員	緩和ケア研修修了
藤田 壮	レジデント	緩和ケア研修修了

3. 診療概要

令和5年度は、5名の常勤医師、1名のレジデント、3名の外来応援医師が診療担当した。令和5年度より、当科は、従来のおおさか大学の専門研修プログラムに加えて、近畿大学、川崎医科大を加えたプログラムに参画し、複数の大学から専攻医が勤務・研修する体制となった。大学毎に研修内容には特徴があり、相互の刺激となり研修内容は充実したものとなっている。遠方の川崎医大から、アトピー性皮膚炎、アレルギーを中心とした研修目的で藤田壮医師が着任したが、元来の研修だけでなく過去の研修の経験を活かして皮膚科手術件数増に大いに貢献した。

昨今アトピー性皮膚炎を中心とした皮膚科領域では、病態解明にともない数多くの新規治療薬が開発中である。重症難治性患者を数多く診療している当科では今年度はアトピー性皮膚炎8件、蕁麻疹2件、白斑1件の臨床試験に参加し、前年度からの継続症例13例、今年度新規症例7例について実施中である。以前から当科が取り組んでいる既存治療薬の効果を最大化する教育入院”アトピーカレッジ”を活用するとともに、既存治療の限界例については、現在保険適用となった分子標的治療薬だけでなく、臨床試験を通じて、病態の理解とともに難治例の症状の改善を体感している。

手術症例、水疱症、難治性皮膚潰瘍など、アレルギー以外の重症難治性疾患の診療にも注力している。地域連携の促進とプライマリケア医の啓発のためにWebを用いた勉強会“はびきのDチャンネル”を隔月定例開催継続し、御紹介いただいた症例の検討あるいは治療経過を報告し、タイムリーな情報共有をするとともに、若手医師が経験症例を要約し、検討、提示するトレーニングとしても役立っている。

4. 診療実績

延べ外来患者数	26,037人
延べ入院患者数	5,016人
実入院患者数	569人

(主な疾患 アトピー性皮膚炎(重症・成人含む) 262人、薬疹・薬物過敏症 5人
食物アレルギー・アナフィラキシー 59人、水疱症 16人、帯状疱疹 27人、
悪性腫瘍 21人、蜂窩織炎 26人 他)

アトピーカレッジ（入院）参加者 152 人
手術件数 81 件
（皮膚悪性腫瘍摘出 21 例、良性腫瘍摘出 29 例 他）

5. 業績

【論文】

Hidehisa Saeki, Yoko Kataoka, Takafumi Etoh, Norito Katoh, Satoshi Teramukai, Yuki Tajima, Hiroyuki Fujita, Marius Ardeleanu, Kazuhiko Arima. Correlation Analysis of Clinician- and Patient-Reported Outcomes Among Japanese Adults with Atopic Dermatitis. *Dermatol Ther (Heidelb)*.14:533-543,2024.

Sakae Kaneko, Takeshi Nakahara, Hiroyuki Murota, Akio Tanaka, Yoko Kataoka, Takeyasu Kakamu, Hiroyuki Kanoh, Yuko Watanabe and Norito Katoh. Physicians' perspectives and practice in atopic dermatitis management: a crosssectional online survey in Japan. *Journal of Cutaneous Immunology and Allergy*.7:-,2024.4.14.

【著作・著書】

片岡葉子.病勢・皮疹の評価.アトピー性皮膚炎のみかた, 考えかた.(田中暁生, 村上絵美.) 中外医学者, 東京, pp.18-24, 2023.

片岡葉子.寛解の評価.アトピー性皮膚炎のみかた, 考えかた.(田中暁生, 村上絵美.) 中外医学者, 東京, pp.25-30, 2023.

片岡葉子, 清水裕紀.成人期 甘味料アレルギー.症例を通して学ぶ年代別食物アレルギーのすべて改訂 3 版.(海老澤元宏.) 南山堂, 東京, pp.234-237, 2023.

【学会発表】

片岡葉子.アトピー性皮膚炎における治療選択の目安～かゆみを中心に～.第 122 回日本皮膚科学会総会 令和 5 年 6 月 3 日, 横浜.

益田知可子, 木村優香, 阿古目 純, 坂本幸子, 片岡葉子, 石田 裕, 緒方 篤.サラゾスルファピリジン (SASP) による粘膜限局性 Stevens-Johnson 症候群の 1 例.第 9 回日本アレルギー学会近畿地方会 令和 5 年 6 月 11 日, 大阪.

片岡葉子, 海老澤元宏, 田中暁生, 長尾みづほ, 縄田寿克, 渡邊大丞, 八幡憲治, Bansal Ashish, Dubost-Brama Ariane.既存治療で効果不十分な生後 6 か月～18 歳未満の日本人小児アトピー性皮膚炎患者に対する Dupilumab の有効性と安全性 (16 週).第 47 回日本小児皮膚科学会学術大会 令和 5 年 7 月 15 日, 大阪.

片岡葉子.小児アトピー性皮膚炎の全身療法.第 47 回日本小児皮膚科学会学術大会 令和 5 年 7 月 16

日, 大阪.

片岡葉子.皮膚バリア機能保持の観点からみた抗炎症外用療法～小児アトピー性皮膚炎診療でのピットフォール～.第 47 回日本小児皮膚科学会学術大会 令和 5 年 7 月 16 日, 大阪.

長塚由美, 片岡葉子.急速に全身皮膚に多発したサルコイドーシスの 1 例.第 116 回近畿皮膚科集談会 令和 5 年 7 月 30 日, 大阪.

Haruna Matsuda-Hirose, Yoko Kataoka.A Retrospective Observational Study of 123 Adult Atopic Dermatitis Patients with Changes in Blood Biomarkers for more than 2 Years.13th Georg Rajka Symposium Gdansk2023 ISAD 31August-02September2023, Poland.

長塚由美, 藤田 壮, 坂本理佳, 木村優香, 坂本幸子, 片岡葉子.芽球性形質細胞様樹状細胞腫瘍の 1 例.第 499 回日本皮膚科学会大阪地方会 令和 5 年 9 月 9 日, 大阪.

木村優香, 藤田 壮, 長塚由美, 坂本理佳, 坂本幸子, 片岡葉子, 有川 翔.初診時感染性粉瘤と思われた外歯瘻の 1 例.第 75 回日本皮膚科学会西部支部学術大会 令和 5 年 9 月 16 日-17 日, 沖縄.

Yoko Kataoka.Adult Atopic Dermatitis in Japan.AADA International Symposium 2023 30 Sep. 2023, São Paulo, Brazil.

片岡葉子.Since 2018 成人アトピー性皮膚炎診療: 何が変わったか.第 72 回日本アレルギー学会学術大会 令和 5 年 10 月 20 日-22 日, 東京.

大矢幸弘, 片岡葉子, 海老澤元宏, 田中暁生, 土屋邦彦, Gupta Rajan, Bates Lauren, Zhang Annie.日本人小児アトピー性皮膚炎患児の疾病負荷と家族への影響: PEDISTAD 試験.第 72 回日本アレルギー学会学術大会 令和 5 年 10 月 20 日-22 日, 東京.

海老澤元宏, 片岡葉子, 田中暁生, 長尾みづほ, 有馬和彦, 渡邊大丞, 八幡憲治, Ashish Bansal, Ariane Dubost-Brama.既存治療で効果不十分な 6 か月～17 歳の日本人アトピー性皮膚炎患者に対する Dupilumab の長期有効性と安全性.第 72 回日本アレルギー学会学術大会 令和 5 年 10 月 20 日-22 日, 東京.

木村優香, 片岡葉子, 松野 治, 山口智裕, 吉田之範.生直後からフォローしている高 IgE 症候群の 1 例～20 歳過ぎに合併した脳梗塞に関する考察を中心に～.第 72 回日本アレルギー学会学術大会 令和 5 年 10 月 20 日-22 日, 東京.

片岡葉子.Long-term control: アトピー性皮膚炎診療における長期寛解維持の意義と方法.第 74 回日本皮膚科学会中部支部学術大会 令和 5 年 10 月 28 日-29 日, 京都.

藤田 壮, 長塚由美, 坂本理佳, 木村優香, 益田知可子, 坂本幸子, 片岡葉子.水疱性類天疱瘡加療中に併発した後天性穿孔性皮膚症の1例.第74回日本皮膚科学会中部支部学術大会 令和5年10月28日-29日, 京都.

Hilde Lapeere¹, Yoko Kataoka², Shintaro Takeoka³, Yayoi Tada⁴, Hidetoshi Takahashi⁵, Akiko Yagami⁶, Jiangming Wu⁷, Marius Ardeleanu⁸, Kwinten Bosman⁹.Baseline patient characteristics, physician-assessed effectiveness, patient-reported outcomes, and safety in adult atopic dermatitis patients in Japan treated with dupilumab: Real-world insights one year into the GLOBOSTAD multinational prospective observational study. Atopic Dermatitis (RAD) Virtual Conference December 10, 2023.

"Stephan Weidinger¹, Andrew Blauvelt², Kim Papp³, Adam Reich⁴, Chih-Hung Lee⁵, Margitta Worm⁶,

Charles Lynde⁷, Yoko Kataoka⁸, Peter Foley⁹, Christine Weber¹⁰, Wanling Wong¹¹, Natalie Rynkiewicz¹², Karl Yen¹³, John T. O'Malley¹⁴, Charlotte Bernigaud¹⁰.Efficacy and safety of amltelimab (an anti-OX40 ligand antibody) in patients with moderate-to-severe atopic dermatitis: 24-week results from a Phase 2b trial (STREAM-AD)RAD Winter 2023. "

片岡葉子.アトピー性皮膚炎の長期寛解維持～その意義と方法～.第87回日本皮膚科学会東京支部学術大会 令和5年11月19日, 東京.

藤田 壮, 長塚由美, 坂本理佳, 木村優香, 坂本幸子, 片岡葉子.中年男性に発症した好酸球性血管性浮腫 (EAE) の1例.第10回日本アレルギー学会近畿地方会 令和5年11月26日, 大阪.

長塚由美, 藤田 壮, 坂本理佳, 木村優香, 坂本幸子, 片岡葉子.下腿潰瘍周囲の点状紫斑が診療の契機となったシェーグレン症候群の一例.日本皮膚科学会大阪地方会-第500回記念地方会 令和5年12月3日, 大阪.

片岡葉子.アトピー性皮膚炎治療 2023: 現状と課題.第53回日本皮膚免疫アレルギー学会学術大会 令和5年12月8日-10日, 千葉.

片岡葉子.長期寛解をめざすアトピー性皮膚炎の治療 update～レジストリ研究による real world evidence とともに～.第53回日本皮膚免疫アレルギー学会学術大会 令和5年12月8日～10日, 千葉.

藤田 壮, 長塚由美, 坂本理佳, 木村優香, 坂本幸子, 片岡葉子.アトピー性皮膚炎における”寛解”を定義する: 第一段階: 他疾患の文献的レビュー.第53回日本皮膚免疫アレルギー学会学術大会 令和5年12月8日～10日, 千葉.

坂本理佳, 藤田 壮, 長塚由美, 木村優香, 坂本幸子, 片岡葉子.JAK 阻害薬の投与により血清

TARC の急激な上昇とともに紅皮症化したアトピー性皮膚炎の 1 例.第 53 回日本皮膚免疫アレルギー学会学術大会 令和 5 年 12 月 8 日～10 日, 千葉.

木村優香, 片岡葉子, 坂本幸子, 藤田 壮, 長塚由美, 坂本理佳, 石田 裕.episodic な下腿の紫斑を契機に診断されたシェーグレン症候群の 1 例.第 53 回日本皮膚免疫アレルギー学会学術大会 令和 5 年 12 月 8 日～10 日, 千葉.

Wen-Hung Chung¹, Yoko Kataoka², Chia-Yu Chu^{3,4}, Shintaro Takeoka⁵, Chih-Hung Lee⁶, Yayoi Tada⁷, Po-Ju Lai⁸, Hidetoshi Takahashi⁹, Akiko Yagami¹⁰, Jiangming Wu¹¹, Marius Ardeleanu¹², Kwinten Bosman¹³ Physician-assessed effectiveness and patient-reported outcomes in adult and adolescent atopic dermatitis patients in the Asian subpopulation treated with dupilumab: real-world insights 1 year into the GLOBOSTAD multinational prospective observational study. Atopic Dermatitis (RAD) Virtual conference December 10, 2023.

片岡葉子.皮膚を診る。病態を推測する。治療戦略を考える。～アトピー性皮膚炎長期寛解のために～.アトピー性皮膚炎治療研究会第 29 回シンポジウム 令和 6 年 2 月 3-4 日, 浜松.

藤田 壮, 長塚由美, 坂本理佳, 木村優香, 坂本幸子, 片岡葉子.既存治療によるタイトコントロールの結果長期寛解が維持されている重症アトピー性皮膚炎の 1 例.アトピー性皮膚炎治療研究会第 29 回シンポジウム 令和 6 年 2 月 3-4 日, 浜松.

長塚由美, 藤田 壮, 坂本理佳, 木村優香, 坂本幸子, 片岡葉子.JAK 阻害薬治療中に TARC・IgE の異常高値を伴い、増悪した重症アトピー性皮膚炎の一例.アトピー性皮膚炎治療研究会第 29 回シンポジウム 令和 6 年 2 月 3-4 日, 浜松.

片岡葉子.アトピー性皮膚炎 (AD) 治療における SDM の実践と課題.アトピー性皮膚炎治療研究会第 29 回シンポジウム 令和 6 年 2 月 3-4 日, 浜松.

広瀬晴奈, 片岡葉子.経時的にみたデュピルマブの治療反応性: 2 年間以上観察した成人アトピー性皮膚炎 123 例の後方視的検討.アトピー性皮膚炎治療研究会第 29 回シンポジウム 令和 6 年 2 月 3-4 日, 浜松.

木村優香, 藤田 壮, 長塚由美, 坂本理佳, 坂本幸子, 片岡葉子.イトラコナゾールが著効したアトピー性皮膚炎の背景因子の検討.アトピー性皮膚炎治療研究会第 29 回シンポジウム 令和 6 年 2 月 3-4 日, 浜松.

坂本理佳, 藤田 壮, 長塚由美, 木村優香, 坂本幸子, 片岡葉子.全身治療薬にても難治とされていたがステロイド外用と教育入院で寛解維持できた成人アトピー性皮膚炎の一例.アトピー性皮膚炎治療研究会第 29 回シンポジウム 令和 6 年 2 月 3-4 日, 浜松.

Stephan Weidinger¹, Andrew Blauvelt², Kim Papp³, Adam Reich⁴, Chih-Hung Lee⁵, Margitta Worm⁶,

Charles Lynde⁷, Yoko Kataoka⁸, Peter Foley⁹, Christine Weber¹⁰, Wanling Wong¹¹, Natalie Rynkiewicz¹², Karl Yen¹³, John T. O'Malley¹⁴, Charlotte Bernigaud¹⁰. Efficacy and safety of amlitelimab in patients with moderate-to-severe atopic dermatitis: 24-week results from a Phase 2b trial (STREAM-AD). Winter Clinical Dermatology Conference, Fontainebleau Miami Beach, FL (February 16 - 19, 2024).

藤田 壮, 長塚由美, 坂本理佳, 木村優香, 坂本幸子, 片岡葉子. 多発皮膚潰瘍と意識障害で救急搬送され壊疽性膿瘡と診断された1例. 第502回日本皮膚科学会大阪地方会 令和6年3月2日, 大阪.

片岡葉子. 眼瞼皮膚炎の診断・治療(感染症・アレルギー性・薬剤性など). 日本アレルギー学会 第10回総合アレルギー講習会 令和6年3月16-17日, 横浜.

【啓発・研修活動】

片岡葉子. アトピー性皮膚炎治療: 成功のコツ. 第2回北阪神皮膚疾患セミナー 令和5年4月8日, 兵庫.

片岡葉子. 新時代をむかえたアトピー性皮膚炎の治療～abrocitinibへの期待と皮膚科専門医の役割～. サイバインコ®発売1周年記念講演会 in 兵庫 令和5年4月20日, 兵庫.

片岡葉子. ここまで進んだアトピー性皮膚炎の薬物治療. 一般社団法人日本研究皮膚科学会/第1回国際研究皮膚科学会共催市民公開講座 令和5年5月13日, 東京.

片岡葉子. JAK阻害薬の適正使用と皮膚科専門医の役割～Abrocitinibのエビデンスとともに～. Pfizer Atopic Dermatitis Seminar～JAK阻害薬を適正に使用するために～ 令和5年5月18日, 東京.

片岡葉子. Step by Step アトピー性皮膚炎診療成功のコツ. Dermatology Next Generation Seminar 令和5年5月20日, 大阪.

片岡葉子. アトピー性皮膚炎新時代における外用療法の意義. 第41回倉敷臨床皮膚科懇話会 令和5年5月26日, 倉敷.

木村優香. 上気道炎後の薬疹疑いで受診したステロイド内服不応性の中毒疹様紅斑の1例. はびきのDチャンネル 令和5年6月22日, WEB.

木村優香. episodicな下腿の紫斑を契機に診断されたシェーグレン症候群の1例. はびきのDチャンネル 令和5年6月22日, WEB.

長塚由美.短期間で全身皮膚に拡大したサルコイドーシスの1例.はびきのDチャンネル 令和5年6月22日, WEB.

長塚由美.ご注意! ケジラミ症.はびきのDチャンネル 令和5年6月22日, WEB.

坂本理佳.掻痒の強い散発性孤立性小丘疹を併存したアトピー性皮膚炎の1例.はびきのDチャンネル 令和5年6月22日, WEB.

藤田 壮.高齢者の有棘細胞癌の2例(頭皮、鼻背). はびきのDチャンネル 令和5年6月22日, WEB.

片岡葉子.アトピー性皮膚炎を診る～Upadacitinibの適正使用を含めて～.リンヴォック錠適正使用推進セミナー(アトピー性皮膚炎) 令和5年6月23日, 大阪.

片岡葉子.長期寛解をめざすアトピー性皮膚炎の治療～皮膚科専門医の夢と責務～.神奈川アトピー治療セミナー 令和5年6月29日, 横浜.

片岡葉子.アトピー性皮膚炎攻略のショートカットキー.Osaka Dermatology Seminar 令和5年7月8日, 大阪.

片岡葉子.アレルギー診療の中で学んだ皮膚心身医学.皮膚科診療セミナー～皮膚の二大炎症性疾患を科学する～ 令和5年7月27日, 大阪.

坂本理佳.“湿疹”として加療されていた限局型汗孔角化症の1例.はびきのDチャンネル 令和5年8月24日, WEB.

坂本理佳.抗ヒスタミン薬不応性の慢性蕁麻疹の1例.はびきのDチャンネル 令和5年8月24日, WEB.

長塚由美.腎炎を合併した成人IgA血管炎の1例.はびきのDチャンネル 令和5年8月24日, WEB.

木村優香.霰粒腫をともなった幼児のLMDFの1例.はびきのDチャンネル 令和5年8月24日, WEB.

木村優香.顔面びまん性の難治性皮膚炎として受診した毛包虫症の1例.はびきのDチャンネル 令和5年8月24日, WEB.

木村優香.耳介後面にみられた基底細胞癌の1例.はびきのDチャンネル 令和5年8月24日, WEB.

片岡葉子.ADの痒み治療における今後の展望－皮膚科医の視点から.第4回アトピー性皮膚炎痒みコ

ンセンサス会議 令和5年8月27日, 大阪.

片岡葉子.アトピー性皮膚炎治療における T2T と SDM の現状と課題～実臨床の側面から～.Expert to Expert Seminar アトピー性皮膚炎治療における T2T と SDM 令和5年9月9日, Web.

片岡葉子.長期寛解維持 update～臨床の視点から見た Type2 炎症の攻略～.デュピクセント®Nationwide Seminar 令和5年9月10日, 東京.

片岡葉子.長期寛解を目指すアトピー性皮膚炎治療～皮膚科専門医の夢と責務～.臨床からAD治療の潜在炎症長期寛解維持を考える会 令和5年10月14日, 千葉.

片岡葉子.小児アトピー性皮膚炎：治療の意義・方法と Dupilumab への期待.小児アトピー性皮膚炎治療から考える子どもの未来 令和5年10月18日, Web.

藤田 壮.“重症帯状疱疹？”として救急搬送された多発性壊疽性皮膚潰瘍の1例.はびきの D チャンネル 令和5年10月26日, WEB.

藤田 壮.急速に拡大した四肢の掻痒性硬性浮腫の1例.はびきの D チャンネル 令和5年10月26日, WEB.

木村優香.抗生剤抵抗性蜂窩織炎としてご紹介いただいた両下腿浮腫の1例.はびきの D チャンネル 令和5年10月26日, WEB.

坂本理佳.難治性うっ滞性潰瘍の1例.はびきの D チャンネル 令和5年10月26日, WEB.

長塚由美.点状紫斑をともなう難治性うっ滞性潰瘍の1例.はびきの D チャンネル 令和5年10月26日, WEB.

片岡葉子.長期寛解維持を目指すアトピー性皮膚炎治療.Meet the Expert in WEST 令和5年11月4日, 福岡.

片岡葉子.プロフェッショナル 長期寛解維持を目指すアトピー性皮膚炎の治療.第4回 New era of allergy treatment 令和5年11月10日, 岡山.

片岡葉子.アトピー性皮膚炎の chronology と治療介入のポイント.アトピー性皮膚炎治療 Up to DATE ～All Age AD 治療を考える～ 令和5年11月11日, WEB.

片岡葉子.基礎からわかるバイオ製剤(皮膚科).CAI セミナー 令和5年11月18日, 京都.

片岡葉子.小児アトピー性皮膚炎：治療の意義・方法と Dupilumab への期待.小児アトピー性皮膚炎

治療から考える子どもの未来 令和5年11月24日, WEB.

片岡葉子.update なぜアトピー性皮膚炎は治りにくいのか～治療のゴールを妨げる pitfalls～.第11回南大阪 DERMA 懇話会 令和5年11月25日, 大阪.

片岡葉子.これからの小児アトピー性皮膚炎治療について.ADVENT Forum in Japan 2023 令和5年12月14日.

片岡葉子.これからの結節性痒疹（痒疹・結節・強い痒み）をどう診ていくのか.これからの診方を考える会～結節性痒疹～ 令和5年12月20日, 大阪.

長塚由美.歯科治療後のアナフィラキシーの1例.はびきのDチャンネル 令和5年12月21日, WEB.

木村優香.刺身摂食後のアナフィラキシーの1例.はびきのDチャンネル 令和5年12月21日, WEB.

長塚由美.急速に拡大し血漿交換、免疫グロブリン大量療法によって改善した尋常性天疱瘡の1例.はびきのDチャンネル 令和5年12月21日, WEB.

木村優香.全身の浮腫を主症状とした類天疱瘡の1例.はびきのDチャンネル 令和5年12月21日, WEB.

坂本理佳.リツキシマブ投与によって改善した難治性天疱瘡の2例.はびきのDチャンネル 令和5年12月21日, WEB.

木村優香.解説：DPP4阻害薬と類天疱瘡.はびきのDチャンネル 令和5年12月21日, WEB.

藤田 壮.高齢者の頬部に生じた悪性黒色腫の1例.はびきのDチャンネル 令和5年12月21日, WEB.

片岡葉子.小児アトピー性皮膚炎：病勢によるトリアージと治療薬剤の選択.TOKAI Pediatrics Allergy Conference 令和6年1月27日, 名古屋.

片岡葉子.小児アトピー性皮膚炎：病勢によるトリアージと治療薬剤の選択.第48回東京小児科医会セミナー 令和6年2月18日, Web.

木村優香.精査の結果、類天疱瘡と診断された老人性紅皮症の2例.はびきのDチャンネル 令和6年2月29日, WEB.

木村優香.腋窩リンパ節の腫大をともなう皮膚潰瘍の1例.はびきのDチャンネル 令和6年2月29日, WEB.

日, WEB.

長塚由美.類天疱瘡フォロー中にみられた片側性腋窩リンパ節の急速な腫大.はびきの D チャンネル 令和6年2月29日, WEB.

坂本理佳.高熱、背部のびまん性浮腫性紅斑、片側性腋窩リンパ節腫大を主訴に来院した1例.はびきの D チャンネル 令和6年2月29日, WEB.

藤田 壮.転倒打撲後、皮膚腫瘍からの大量出血のため救急搬送された1例.はびきの D チャンネル 令和6年2月29日, WEB.

藤田 壮.高齢者顔面の基底細胞癌の2例.はびきの D チャンネル 令和6年2月29日, WEB.

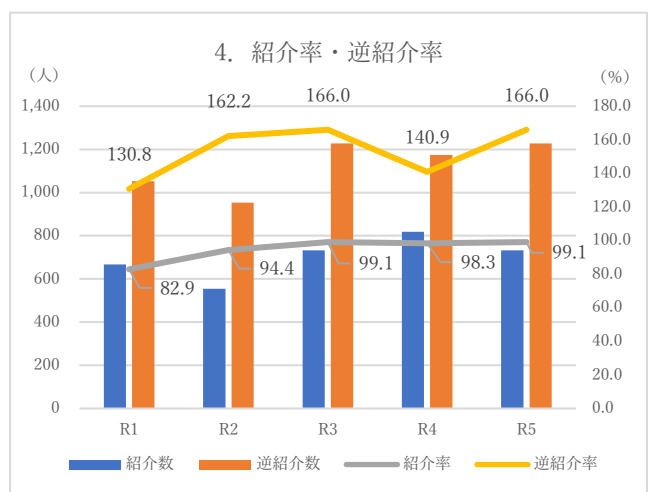
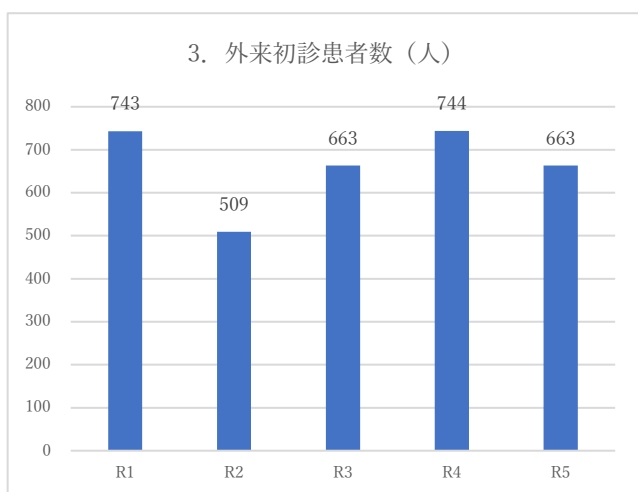
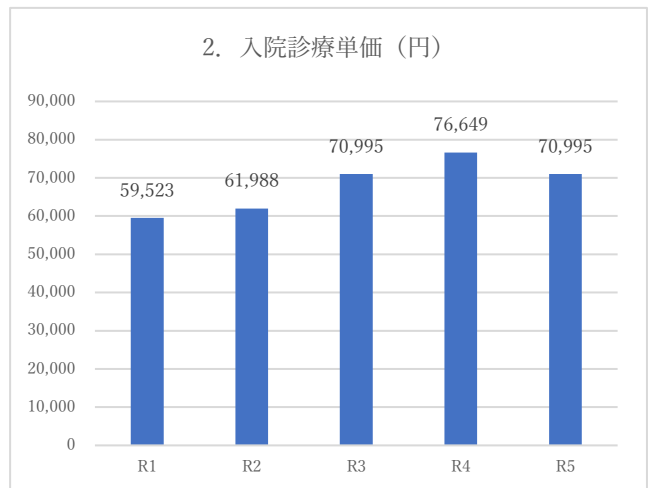
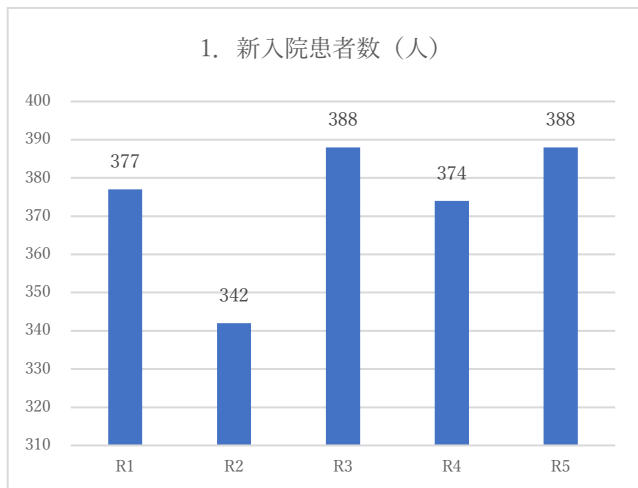
片岡葉子.小児アトピー性皮膚炎治療の意義とコツ.第502回日本皮膚科学会大阪地方会学術集会, 令和6年3月2日, 大阪.

片岡葉子.小児アトピー性皮膚炎治療の意義とコツ.第114回日本皮膚科学会茨城地方会, 令和6年3月3日, 茨城.

片岡葉子.ここまでよくなるアトピー性皮膚炎治療の進歩.大阪はびきの医療センターアレルギー府民公開講座, 令和6年3月24日, 大阪.

耳鼻咽喉・頭頸部外科

1. 臨床指標



2. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
川島佳代子	医務局長	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医・指導医
	兼主任部長	日本アレルギー学会専門医・指導医 日本鼻科学会鼻科手術暫定指導医、日本喘息学会専門医 厚生労働省認定補聴器適合判定医 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会認定補聴器相談医 身体障害者福祉法 15 条指定医、 難病指定医、厚生労働省臨床研究・治験従事者研修修了 緩和ケア研修修了、TNT 研修修了、嚥下機能評価研修修了 大阪府災害医療研修修了、日本医師会 ACLS・ACLS 大阪修了 アレルギー性鼻炎に対する舌下免疫療法講習会修了 病院職員勤務評価制度評価者研修指導者養成研修修了 日本医師会医療安全推進者研修修了 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会全国身体障害者福祉医療講習会修了
花田有紀子	副部長	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医・指導医 日本気管食道科学会専門医、厚生労働省認定補聴器適合判定医 日本医師会認定産業医、難病指定医、緩和ケア研修修了
奥野未佳	診療主任	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医、緩和ケア研修修了 TNT 研修修了、嚥下機能評価研修修了、ACLS 大阪修了 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会認定補聴器相談医、難病指定医
河辺隆誠	医員	緩和ケア研修修了、嚥下機能評価研修修了 NST 医師・歯科医師教育セミナー修了 厚生労働省オンライン診療研修修了
永井裕子	レジデント	緩和ケア研修修了

3. 診療概要

スタッフ 4 名体制で昨年度とメンバーは同じであった。

今年度も手術内容は、当科の特色であるアレルギー、鼻科領域の専門的な治療とともに、頭頸部良性腫瘍の手術についても積極的に施行した。総手術件数は 657 件であった。救急対応、地域医療機関からの緊急対応依頼についても引き続き積極的に受け入れを行った。

4. 診療実績

延べ外来患者数 7,045 人

延べ入院患者数 3,946 人

実入院患者数 564 人

(主な疾患 扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎 101 人、慢性副鼻腔炎 75 人、
突発性難聴 70 人、前庭機能障害 14 人、顔面神経障害 34 人 他)

手術件数 657 件

疾患部位別手術件数	
耳	20 件
鼻	416 件
咽頭喉頭	203 件
頭頸部	13 件
その他	5 件

主な手術

内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ⅱ型（副鼻腔単洞手術）	4 件
内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ⅲ型（選択的（複数洞）副鼻腔手術）	59 件
内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ⅳ型（汎副鼻腔手術）	87 件
鼻副鼻腔腫瘍摘出術（悪性含む）	5 件
鼻中隔矯正術	77 件
内視鏡下鼻腔手術Ⅰ型（下鼻甲介手術）	182 件
アデノイド切除術	26 件
口蓋扁桃手術（摘出）	164 件
気管切開術	4 件
喉頭・声帯ポリープ切除 （直達喉頭鑑又はファイバースコープによるもの）	1 件
嚥下機能手術（喉頭全摘術）	0 件
頬粘膜腫瘍摘出術	0 件
舌腫瘍摘出術（粘液嚢胞摘出術）	0 件
口唇腫瘍摘出術（粘液嚢胞摘出術）	3 件
唾石摘出術（表在性のもの）	1 件
顎下線摘出術	0 件
耳下腺腫瘍摘出術（耳下腺浅葉摘出術）	2 件
甲状腺部分切除／甲状腺腫摘出術（片葉のみ）	3 件
甲状腺悪性腫瘍手術(切除)(頸部外側区域郭清を伴わないもの)	2 件
頸癭、頸嚢摘出術	1 件

5. 業績

【論文】

河辺隆誠, 川島佳代子, 奥野未佳, 山本雅司, 佐々木崇博, 花田有紀子, 田中晶平, 九門順子, 山口智裕, 上野瑠美, 釣永雄希, 深澤陽平, 重川 周, 高岡有理, 吉田之範, 亀田 誠.小児アレルギー性鼻炎に対するダニ舌下免疫療法 of 他覚的評価の検討.アレルギー.72:375-387,2023.

川島佳代子.多職種 of 相互理解と意識改革 多職種で取り組む小児に対する舌下免疫療法.小児耳鼻咽喉科.44:1-5,2023.

Kawashima K, Matsuno O, Okuno M, Kawabe T, Hanada Y.Successful Treatment of Eosinophilic

Chronic Rhinosinusitis and Secretory Otitis Media in Refractory Asthma With Thymic Stromal Lymphopoietin (TSLP) Receptor Monoclonal Antibody. Cureus. 27::e47798. -, 2023.

川島佳代子. 気管支喘息の診断および留意点. 耳鼻咽喉科臨床. 16: 396-397, 2023.

川島 佳代子. 耳鼻咽喉科で取り組む好酸球性鼻副鼻腔炎と喘息の診療. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報. 126: 236-238, 2023.

木村百合香, 野上兼一郎, 渡部一雄, 吉村 理, 浅井英世, 藤岡 治, 川寄良明, 五十嵐 充, 稲村直樹, 川島佳代子, 西野 宏, 福與和正. 耳鼻咽喉科診療所を初診した新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の臨床像 日本臨床耳鼻咽喉科医会アンケート調査結果. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報. 126: 1028-1030, 2023.

【著作・著書】

川島佳代子. 【花粉症のトピックスと治療】 スギ花粉症に対するアレルギー免疫療法. アレルギーの臨床. 43: 1091-1095, 2023.

川島佳代子. 【耳鼻咽喉科領域と慢性炎症】 口腔アレルギー症候群. 別冊 Bio Clinica: 慢性炎症と疾患. 12: 37-41, 2023.

川島佳代子. 【アレルギー性鼻炎, 慢性副鼻腔炎の薬物療法-適応と効果-】 小児アレルギー性鼻炎にどう対応するか?. ENTONI. : 31-38, 2023.

川島佳代子. 最新の花粉尘治療 花粉症重症化ゼロ作戦. Vita. 41: 34-38, 2024.

上塚 学, 河辺隆誠, 西池季隆.

特集 耳科診療の論点—異なる立場の対話とディベート—さまざまな治療の中から 突発性難聴の追加治療について—高気圧酸素療法の立場から—. JOHNS. 40: 269-271, 2024.

【学会発表】

川島佳代子. 疾病負荷から考える重症花粉症に対する生物学的製剤の治療戦略. 第 124 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 令和 5 年 5 月 17-20 日, 福岡.

川島佳代子, 河辺隆誠, 奥野未佳, 花田有紀子. 治療目標からみた小児ダニ舌下免疫療法の有効性の検討. 第 124 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 令和 5 年 5 月 17-20 日, 福岡.

花田有紀子, 奥野未佳, 河辺隆誠, 川島佳代子. 当科で経験した好酸球性多発血管炎性肉芽腫症 15 症例の検討. 第 3 回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会総会・学術講演会 4 月 13 日-15 日, 和歌山.

川島佳代子.アレルギー性鼻炎の診断と治療の Tips.第 62 回日本鼻科学会 総会・学術講演会 令和 5 年 9 月 28-30 日, 津.

川島佳代子, 永井裕子.日常臨床における鼻科手術教育を考える 一般病院における内視鏡下鼻中隔手術の指導の実際.第 62 回日本鼻科学会 総会・学術講演会 シンポジウム 令和 5 年 9 月 28-30 日, 津.

永井裕子, 河辺隆誠, 奥野美佳, 花田有紀子, 川島佳代子.ダニ舌下免疫療法を施行している小児のスギ特異的 IgE 新規感作についての検討.第 62 回日本鼻科学会 総会・学術講演会 令和 5 年 9 月 28-30 日, 津.

河辺隆誠, 永井裕子, 奥野未佳, 花田有紀子, 川島佳代子.舌下免疫療法による小児気管支喘息の発症予防効果.第 62 回日本鼻科学会 総会・学術講演会 令和 5 年 9 月 28-30 日, 津.

清水杏奈, 意元義政, 近藤健二, 中丸裕爾, 端山昌樹, 川島佳代子, 米倉修二, 山田武千代, 坂下雅文, 藤枝重治.アレルギー性鼻炎手術症例における患者背景の検討.第 62 回日本鼻科学会 総会・学術講演会 令和 5 年 9 月 28-30 日, 津.

花田有紀子, 河辺隆誠, 永井裕子, 川島佳代子, 松野 治, 石田 裕, 源 誠二郎, 緒方 篤.当科で経験した好酸球性多発血管炎性肉芽腫症の検討.第 72 回日本アレルギー学会学術大会 令和 5 年 10 月 20-22 日, 東京.

川島佳代子, 松野 治, 永井裕子, 河辺隆誠, 花田有紀子.重症喘息に合併した好酸球性副鼻腔炎および好酸球性中耳炎に対し Tezepelumab が奏功した一例.第 72 回日本アレルギー学会学術大会 令和 5 年 10 月 20-23 日, 東京.

川島佳代子.より良い鼻炎治療をめざした舌下免疫療法. 第 72 回日本アレルギー学会学術大会教育セミナー 令和 5 年 10 月 20-24 日, 東京.

川島佳代子, 河辺隆誠, 永井裕子, 花田有紀子.小児のアレルギー性鼻炎に対するスギ花粉舌下免疫療法のアドヒアランスに関するアンケート結果の検討.第 18 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会 令和 5 年 11 月 9-10 日, 別府.

川島佳代子.花粉症重症化ゼロをめざして.第 37 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会秋季大会学術セミナー5 令和 5 年 11 月 18 日, 横浜.

川島佳代子.耳鼻咽喉科における病診連携の重要性と問題点-病院の立場から-.第 37 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会秋季大会臨床医会セッション2 令和 5 年 11 月 19 日, 横浜.

川島佳代子.Safety profile and immunological response of dual sublingual immunotherapy with house dust mite tablet and Japanese cedar pollen tablet .16th Taiwan-Japan Conference on Otolaryngology-Head and Neck Surgery (16thTJCOHNS) 令和5年12月16-17日, taichu, Taiwan.

川島佳代子.好酸球性副鼻腔炎を中心に.第3回日本喘息学会気道アレルギー実習セミナー 臨床応用コース「上気道実習」令和6年2月18日, 大阪.

河辺隆誠.小児 SLIT に関する Clinical Question.第62回日本鼻科学会 総会・学術講演会 シンポジウム 令和5年9月28-30日, 津.

【啓発・研修活動】

川島佳代子.アレルギー性鼻炎とその周辺疾患のトピックス.第208回御茶ノ水耳鼻咽喉・頭頸科治療研究会 令和5年5月25日, WEB.

川島佳代子.アレルギー性鼻炎診療トピックスー社会経済的な影響についてー.伊都医師会学術講演会 令和5年6月3日,和歌山.

川島佳代子.アレルギー性鼻炎の治療ゴールとは?ー周辺疾患の話題も含めてー.第150回札幌市耳鼻咽喉科医会学術研修会 令和5年7月8日,札幌.

川島佳代子.新しい鼻アレルギー診療ガイドラインを読み解く～重症化を防ぐゼロ作戦～.愛知県耳鼻咽喉科医会三河地区研修会 令和5年9月2日,WEB.

川島佳代子.小児アレルギー性鼻炎の診断と治療.第51回広島小児アレルギー感染免疫研究会 令和5年9月21日,広島.

川島佳代子.ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンについて思うこと.第14回大阪大学関連病院臨床研究会 (ORL) 令和5年7月1日,大阪.

川島佳代子.耳鼻科医から診た重症喘息治療.Severe Asthma Management Meeting 令和5年10月5日,大阪.

川島佳代子.大阪府における花粉症重症化ゼロへの挑戦.第46回 大阪上気道疾患セミナー 令和5年10月7日,大阪.

川島佳代子.アレルギー性鼻炎の疾病負荷と治療 Goal について第17回鼻副鼻腔臨床懇話会 令和5年11月30日,東京.

川島佳代子.アレルギー性鼻炎治療トピックスとはびきの耳鼻咽喉・頭頸部外科6年間の 振り返り第

6回はびきの耳鼻咽喉科セミナー 令和5年12月2日,大阪.

永井裕子.近年の鼻中隔矯正術の展望第6回はびきの耳鼻咽喉科セミナー 令和5年12月2日,大阪.

川島佳代子.アレルギー性鼻炎治療における重要な tips～患者とのコミュニケーションについて～.アレルギー性鼻炎学術講演会 in 川越 2024. 令和6年1月24日,WEB.

川島佳代子.アレルギー性鼻炎治療における重要な tips ～患者とのコミュニケーションについて～.第32回 みなみ名古屋耳鼻咽喉科懇話会 令和6年1月20日,名古屋.

川島佳代子.アレルギー性鼻炎診療トピックス～ガイドラインの改定ポイントと小児への対応～.宮城野アレルギー連携セミナー 令和6年2月14日,WEB.

川島佳代子.アレルギー性鼻炎診療 updateーガイドライン改訂ポイントと重症化ゼロについてー.第6回 Allergy Symposium in Yamaguchi 令和6年2月22日,山口.

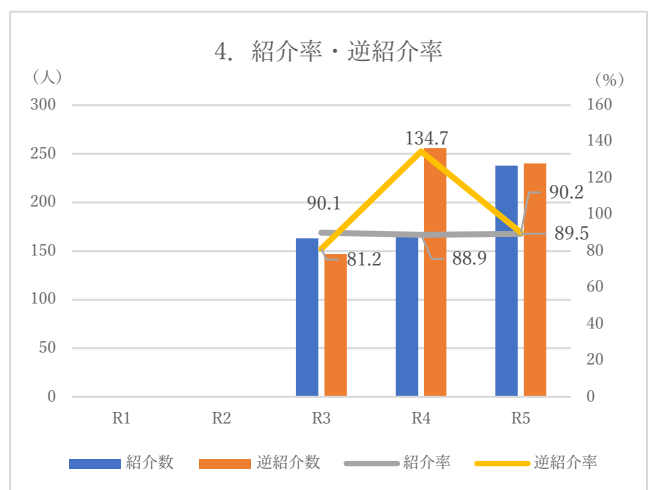
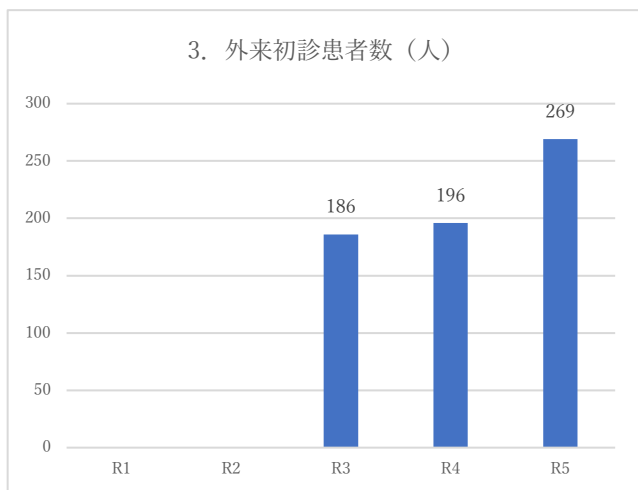
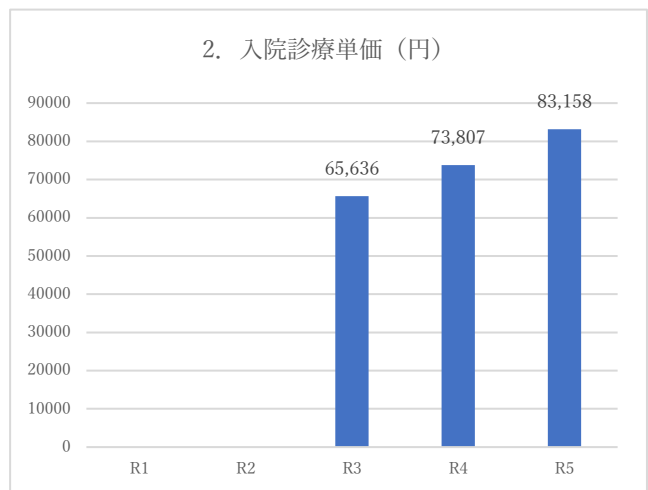
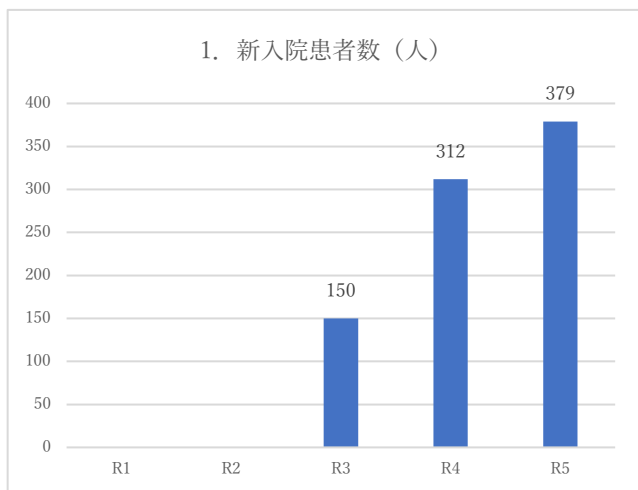
川島佳代子.花粉症重症化ゼロをめざしての取り組みについて.徳島県耳鼻咽喉科疾患を考える会 令和6年2月29日,WEB.

【啓発・研修活動】

川島佳代子.花粉症対策最前線.読売テレビ 2024.02.02.

泌尿器科

1. 臨床指標



2. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格 等
福井辰成	主任部長	日本泌尿器科学会認定専門医・指導医、 日本がん治療認定医機構がん治療認定医、 身体障害者福祉法指定医（腎臓機能障がい）、臨床研修指導医、 日本医師会認定産業医、医学博士、 ダ・ヴィンチサージカルシステム認定医、 がんリハビリテーション研修修了、緩和ケア研修修了、 RI 内用療法における適正使用に関する安全講習会修了
大草卓也	診療主任	日本泌尿器科学会認定専門医 ダ・ヴィンチサージカルシステム認定医、 日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医、緩和ケア研修修了
山口誓司	院長	日本泌尿器科学会認定専門医・指導医、 日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医、 日本内視鏡外科学会泌尿器腹腔鏡技術認定医、 日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本医師会認定産業医 日本腎臓学会専門医・指導医、日本環境感染学会推薦 ICD 日本臨床腎移植学会認定医、泌尿器ロボット支援手術プロテクター、 ダ・ヴィンチサージカルシステム認定医

2. 診療概要

当科は令和2年度に非常勤による外来診療を開始し、令和3年度に常勤医によって病棟診療が始まった。以降、行った手術は経尿道的手術（膀胱腫瘍・前立腺肥大症・尿路結石など）、レーザーを用いた手術（f-TUL・Holep）、鏡視下手術（腎摘除術・腎部分切除術・副腎摘除術）や一般的な泌尿器科手術などで、低侵襲なアプローチである手術を主に行っている。令和5年度は新病院開設に伴いロボット支援手術（前立腺・腎尿管・膀胱）や体外衝撃波結石破碎術結石破碎術も行った。

入院診療においては、手術症例はもちろんのこと、化学療法、放射線療法、尿路感染症など多岐にわたり積極的に行い、また、救急診療科との連携を取り緊急入院患者を積極的に受け入れた。院外においても近隣の医療機関との連携を密にすることで地域医療に貢献した。

外来診療については、月曜日は福井、水曜日は山口、木曜日は大草、火曜日・金曜日は手術日であり、非常勤医が担当している。

3. 診療実績

延べ外来患者数	4,736 人
延べ入院患者数	2,323 人
実入院患者数	2,379 人

（主な疾患 前立腺がん 107 人、膀胱がん 55 人、その他悪性腫瘍 18 人 他）

手術件数 302 件

なお、泌尿器科の手術は内視鏡手術を中心として腹腔鏡手術や体外衝撃波結石破碎術など、低侵襲医療を得意とし、また、膀胱鏡検査も軟性鏡を用い患者の負担を軽減している。

内視鏡手術用支援機器（Da Vinci Xi）を用いた手術

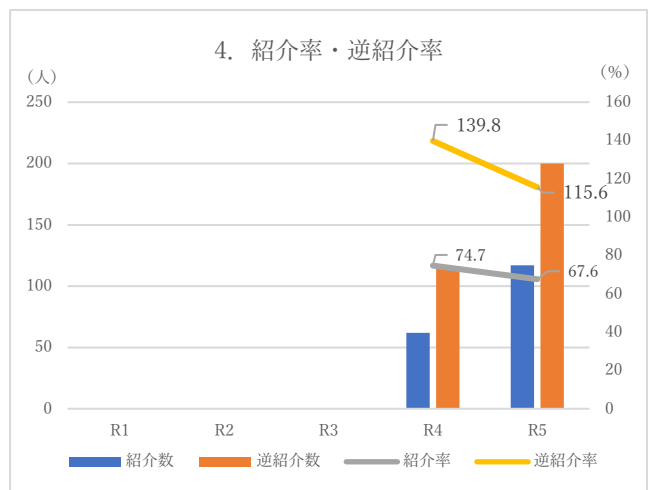
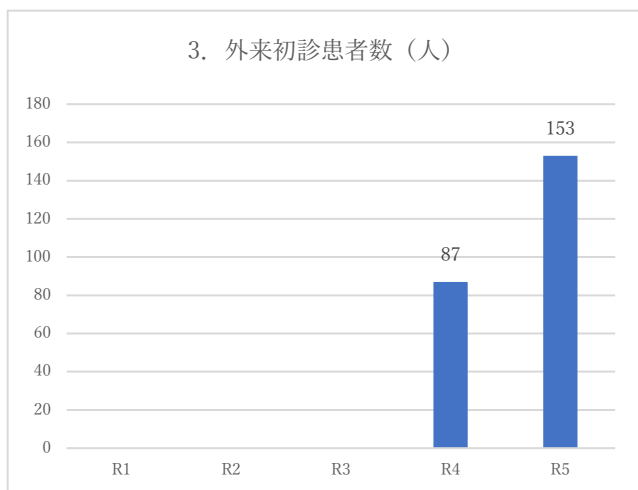
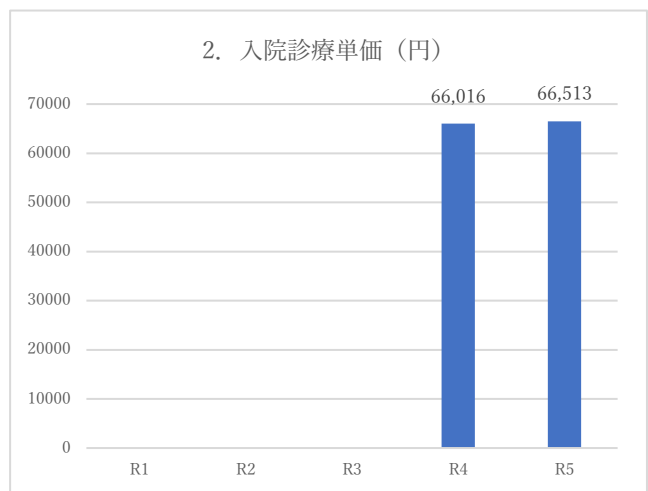
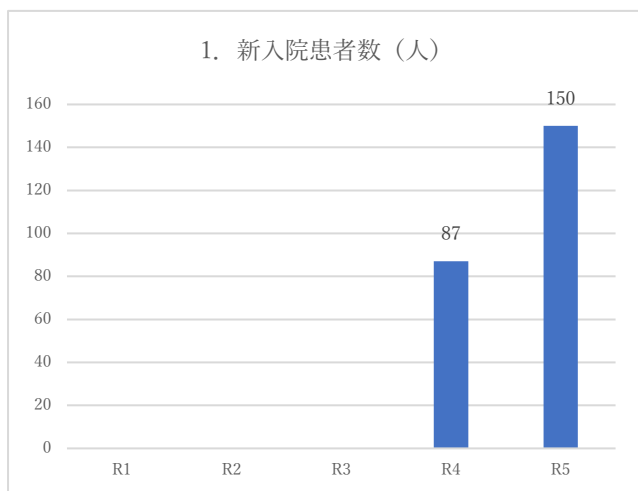
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術 27 件

腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術 4 件

腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術 2 件

整形外科

1. 臨床指標



2. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
塚本 泰徳	主任部長	日本整形外科学会専門医 日本リウマチ学会認定医 日本整形外科学会 (リウマチ認定医・スポーツ認定医・リハビリ認定医) 日本人工関節学会認定医、緩和ケア研修修了
谷内 孝次	副部長	日本整形外科学会専門医

3. 診療概要

当科は令和4年4月に新設。常勤医師2名体制で、変形性関節症や骨粗鬆症を中心とした高齢者の治療ならびに骨折などの外傷治療を行っています。

令和5年度は、新病院に移転したこともあり、ロボティックアーム手術支援装置を用いた人工股関節手術、人工膝関節手術が可能となり、徐々に予定手術症例が増えてきました。

また、新しく腰椎・股関節のDEXAによる骨密度を計測できるようになり、骨粗鬆症による骨折リスクの判定をより正確に行えるようになり、骨粗鬆症の的確な薬剤選択と効果判定が行えるようになっており、休薬基準も明確に判定できるようになっております。

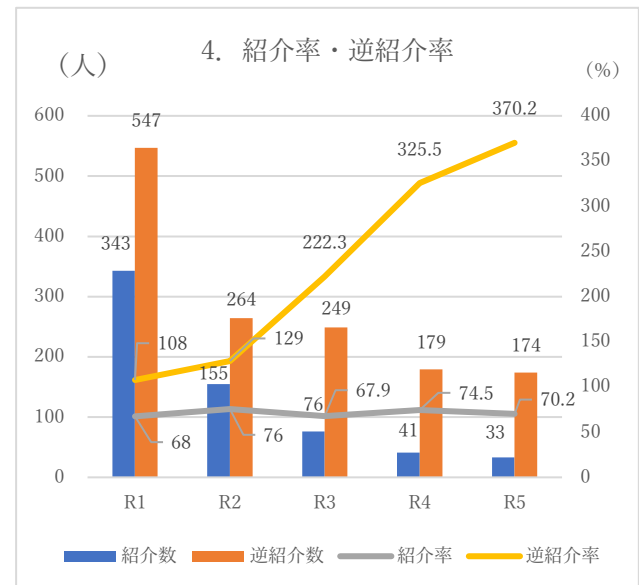
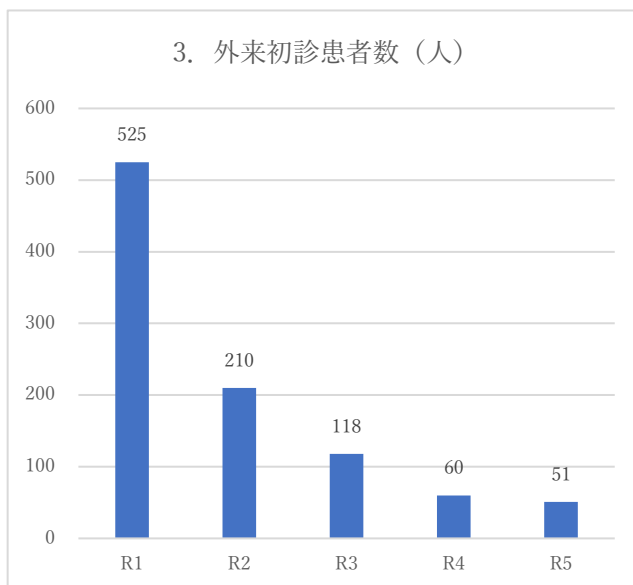
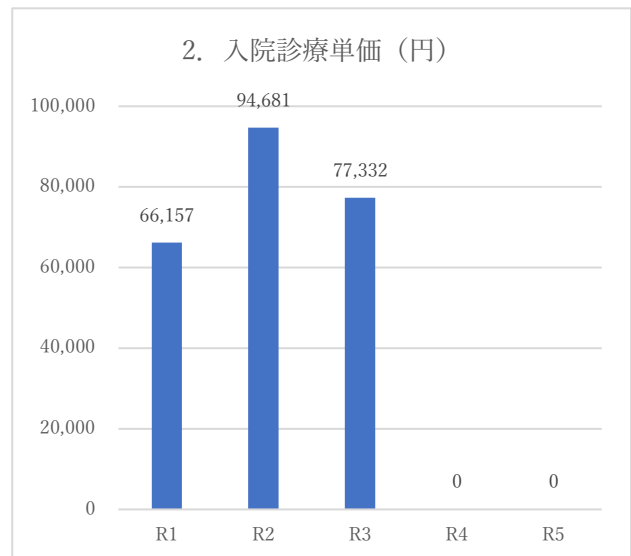
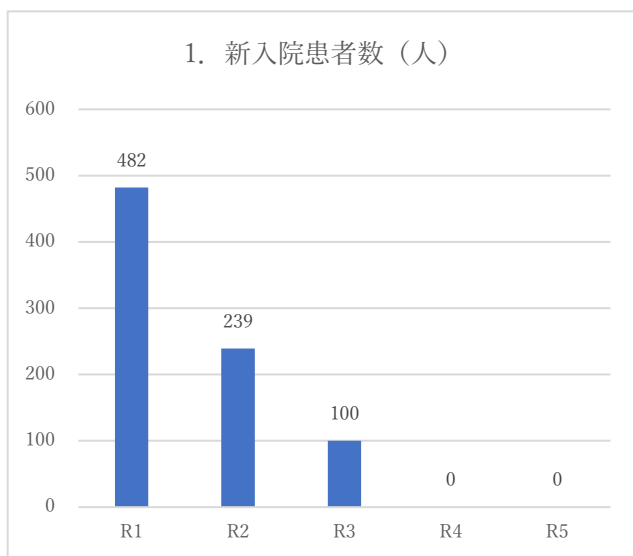
今後は更なる整形外科常勤医の増員予定で迅速な治療を目指しております。

4. 診療実績

延べ外来患者数	2,584 人
延べ入院患者数	2,643 人
実入院患者数	150 人
手術件数	122 人
(主な手術	骨折観血的手術 58 件、人工骨頭挿入術 21 件、ロボティックアーム手術支援装置を用いた人工関節置換術 13 件 ほか)

眼科

1. 臨床指標



2. スタッフ

非常勤医師

3. 診療概要

令和5年度は非常勤医師のみで、白内障、緑内障、加齢黄斑変性、糖尿病網膜症、網膜中心静脈閉塞症、ドライアイ、アレルギー性結膜炎などの眼科一般診療を行った。

4. 診療実績

延べ外来患者数 3,393 人

主な検査

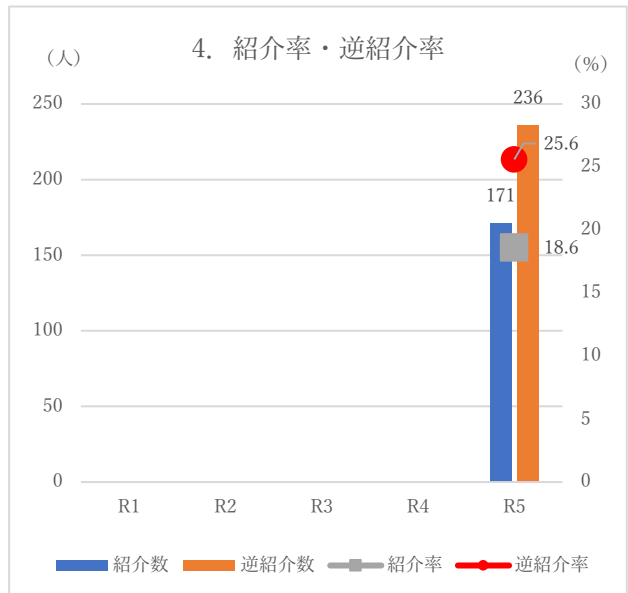
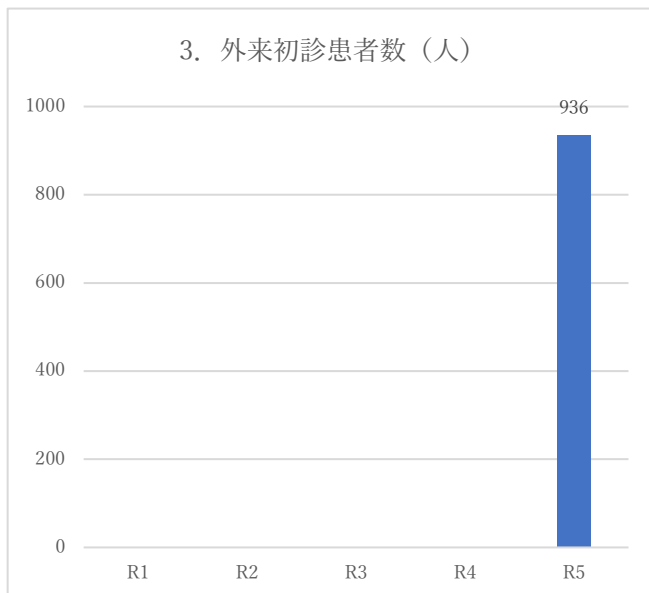
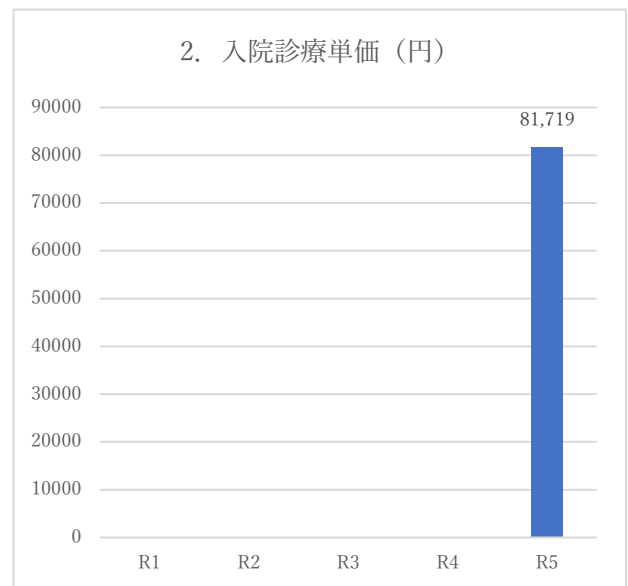
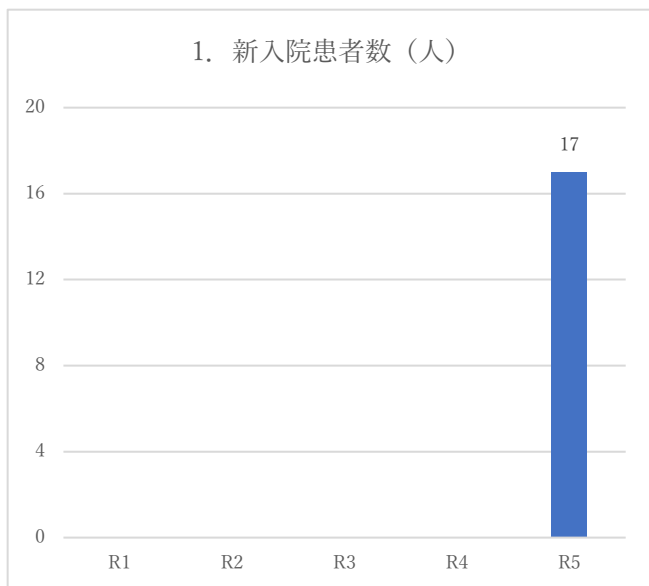
細隙灯顕微鏡検査 3,305 件

動的視野検査 42 件

OCT 3 件

歯科口腔外科

1. 臨床指標



1. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
助臺美帆	主任部長	日本口腔外科学会認定医・専門医 日本口腔科学会認定医 臨床研修指導医 緩和ケア研修修了

2. 診療概要

令和5年5月の大阪はびきの医療センターの新病院開院に伴い、歯科口腔外科の診療を開始しました。総合病院内にある歯科口腔外科での診療ですが、口腔外科疾患の診療と他科疾患の口腔ケアを通じた支持療法を行っております。

口腔外科疾患ですが、顎骨周囲炎・顎骨壊死・骨髓炎などの菌性感染症、口腔顎顔面領域の腫瘍や嚢胞、口腔粘膜疾患、骨折などの外傷、閉塞性睡眠時無呼吸、顎関節症などがあります。全身麻酔での手術症例、閉塞性睡眠時無呼吸に対する口腔内装置での治療にも対応しておりますので、対象の患者様がおられましたらご紹介いただければ幸いです。口腔外科疾患の患者様には遠方の病院へ行っていただくことが多かったようですが、今後は地域完結型の治療ができますように努めてまいります。

他科疾患の支持療法ですが、当センターでは様々な悪性腫瘍に対して、手術・化学療法・放射線治療の集学的治療が行われています。治療という「大変な時、しんどい時」には通常の口腔のセルフケアができず、口腔衛生状態が悪化します。同時に免疫力の低下時期でもありますので、慢性細菌感染巣の多発する口腔から敗血症に発展したり、口腔粘膜炎で経口摂取ができなくなったり、治療の妨げになることがあります。治療の早期から歯科口腔外科で口腔管理を行うことで、悪性腫瘍の治療が順調に進み、患者様にとって苦痛の少ない治療になるよう支持療法を行うことも、歯科口腔外科の役割です。慢性肺疾患など他の疾患の患者様も含め、口腔管理を継続していただけるよう、地域の歯科医療機関の先生方と一緒に、口腔を通して地域医療に貢献ができればと思っております。

○診療重点項目：口腔外科

○令和5年後内で新たに取り組んだこと、年度内での変更点：口腔外科の診療を開始した。

4. 診療実績

延べ外来患者数	3,153 人
延べ入院患者数	64 人
入院全身麻酔手術件数	12 件
手術件数：	30 件

（主な手術：埋伏歯抜歯 14 件、腫瘍 9 件、嚢胞摘出 1 件、ほか 6 件）

5. 業績

【論文】

Automatic identification of individuals using deep learning method on panoramic radiographs.

Enomoto A, Lee AD, Sukedai M, Shimoide T, Katada R, Sugimoto K, Matsumoto H.

J Dent Sci. 2023 Apr;18(2):696-701.

【学会発表】

川口美紅, 岩崎早苗, 李 篤史, 下出孟史, 木下優子, 高田雄斗, 助臺美帆, 濱田 傑, 榎本明史. 当科における掌蹠膿疱症への取り組みと今後の課題について. 第 68 回日本口腔外科学会総会・学術大会, 令和 5 年 11 月 10-12 日, 大阪.

【啓蒙・研究活動】

助臺美帆. 地域で診る、薬剤関連顎骨壊死：ポジションペーパー2023 の要点. 羽曳野市歯科医師会学術講演会, 令和 5 年 12 月 2 日, 大阪.

麻酔科

1. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
高内裕司	主任部長	日本麻酔科学会麻酔科指導医 日本専門医機構麻酔科専門医 日本集中治療医学会集中治療専門医 臨床研修指導医、緩和ケア研修修了 大阪大学医学部臨床教授
播磨 恵	副部長	日本専門医機構麻酔科専門医 日本麻酔科学会麻酔科指導医 臨床研究指導医、緩和ケア研修修了
安藝裕子	診療主任	日本麻酔科学会麻酔科専門医、緩和ケア研修修了
後藤佳澄	医員	日本麻酔科学会麻酔科認定医

2. 診療実績

令和5年度（2023年度）4月から5月は高内裕司主任部長、播磨恵副部長、安藝裕子診療主任の常勤医3名で診療を行い、火曜日に非常勤医師1名が診療に加わった。6月以降は非常勤医師に代わって、後藤佳澄医員（育児短時間勤務）が加わり、常勤医4名で診療を行った。

① 麻酔管理（周術期管理）

令和5年度の全手術件数は2,014例（前年度1,720例）で、このうち麻酔科管理症例（全身麻酔及び伝達麻酔その他）は1,267例で全症例の62.9%であった（前年度1,073例：62.4%）。今年度も部長が自らの症例を管理しつつ、従来通りほぼすべての症例を管轄した。産婦人科では全身麻酔症例および併存疾患を持つ脊髄くも膜下麻酔症例や施行困難症例は麻酔科管理であるが、通常の脊髄くも膜下麻酔症例は自科管理であった。この4年間は特に眼科診療の終了（令和3年12月）による眼科局所麻酔症例の減少（令和1年度607例、令和2年度299例、令和3年度154例、令和4年度0例）や、新型コロナウイルス感染症の蔓延による全体的な手術症例の減少により、全手術件数は減少しているが、最近では回復傾向にある。また、麻酔科管理症例は、泌尿器科や消化器外科救急部門の増設、整形外科の新設により、昨年度よりもさらに増加している。

診療科別の麻酔科管理症例は、呼吸器外科209例：16.5%（前年度225例）、消化器外科175例：13.8%（前年度155例）、乳腺外科93例：7.3%（前年度79例）、産婦人科279例：22.0%（前年度253例）、耳鼻咽喉科229例：18.1%（前年度177例）、泌尿器科173例：13.7%（前年度124例）、

整形外科 96 例：5.3%（前年度 57 例）であった。以前に比し呼吸器外科症例が年々減少している。

麻酔法別では麻酔科管理症例 1,267 例中、全身麻酔 1,124 例〔うち 364 例（32.4%）は硬膜外麻酔併用（前年度 39.2%）、263 例（23.4%）は神経ブロック併用（前年度 24.6%）〕、脊髄くも膜下麻酔 142 例〔うち 1 例（0.7%）は硬膜外麻酔併用、27 例（19.0%）は神経ブロック併用〕、伝達麻酔 1 例であった。全身麻酔における硬膜外麻酔あるいは神経ブロック併用症例は合計 627 例（55.8%）（前年度 63.8%）であり、他院と比較しても、より積極的に術後鎮痛を図っている。

当センターの特殊性により、外科症例には間質性肺炎（IP）、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、喘息、その他のアレルギー疾患を合併した症例をはじめ、在宅酸素療法を必要とする高度呼吸機能低下症例や、結核やその他の感染症（肺アスペルギルス症、膿胸）の治療中や治療直後の症例が比較的多く含まれる。高度呼吸機能低下症例では気管支拡張療法や呼吸リハビリテーションなどの術前管理をはじめとして、綿密な周術期管理が必要であり、肺結核治療中あるいは治療直後の患者の手術も専門知識と感染対策が必要である。これらの症例は他院では極めて少なく、これら重症の低肺機能患者の周術期管理にも積極的に介入している。さらに様々な気道狭窄の高リスク症例における焼灼、拡張、ステント留置などの麻酔・気道管理にも積極的に取り組んできたが、これは呼吸器外科症例の減少と共に年々減少している〔今年度は 1 例（前年度 0 例）〕。また、呼吸器外科では大部分の 208 例（99.5%）に分離肺換気を要した。麻酔科医 1 名当たりの分離肺換気管理数としてはまだかなり多い症例数である。

術後疼痛管理は特に呼吸器合併症を有する症例においては、早期の離床や術後合併症の軽減にも貢献する。強い術後疼痛が予想される症例に対しては、局所麻酔薬や麻薬を用いた持続硬膜外鎮痛（PCA 併用）を中心に対応し、加えて超音波ガイド下各種末梢神経ブロックや麻薬の持続静脈内投与でも対応している。同時に嘔気嘔吐などの副作用も軽減できるように配慮している。

術前評価に関しては、毎週木曜日に呼吸器外科、消化器外科、乳腺外科および泌尿器科と、月曜日に産婦人科と、全麻酔科管理症例について術前症例検討会を行い、術前問題点についての検討や必要な症例には術前管理に関する助言や介入を行っている。耳鼻咽喉科や整形外科に対しては問題症例について個別に対応している。併存疾患や手術内容等で特に問題となる重症症例に対しては、予め十分に時間を取って術前準備・管理に関する助言を行い、術後全身管理に関しても各診療科に対し積極的に助言・協力を行っている。

② ペインクリニック／緩和ケア

ペインクリニックは麻酔科人員数の問題で外来診療は休診中であるが、入院患者および各診療科の外来受診時には、各科との連携で依頼があれば部長が個別に対応している。また、緩和ケアチームに参画し、各スタッフとともに癌性疼痛患者に対する疼痛管理に協力している。今年度は院内では、肺腫瘍内科の肺癌の腕神経叢転移に対して腕神経叢ブロックや疼痛管理に関する指導、皮膚科の带状疱疹後神経痛に合併した腕神経叢麻痺に対して腕神経叢ブロック（ステロイド注入）や疼痛管理に関する指導を行った。

3. 研究・学会活動

長年にわたり主として呼吸器領域に関して、低肺機能の周術期管理の検討、麻酔薬や手術操作など

様々な状況での呼吸メカニクスの計測や呼吸生理の研究、新しい二腔式気管チューブの開発や分離肺換気の工夫などを行ってきた。その結果は関連学会での報告や講演、雑誌や教科書への執筆などで発表してきた。なお今年度の学会発表はないが、教科書の執筆を提出しており、間もなく上梓予定である。

また、大阪大学医学部臨床教授として医学部5回生数名に対する臨床実習および講義を行った。

集中治療科

1. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
柏 庸三	主任部長	日本集中治療医学会認定集中治療専門医 日本内科学会認定医・総合内科専門医 日本呼吸器学会認定呼吸器専門医・指導医 日本呼吸療法医学会認定呼吸療法専門医

1. 診療概要

当科では、臓器や疾患を問わず全ての診療科から重症患者を受け入れ、最新の知見に基づき先進医療技術を駆使した急性期集中治療を行うことで、臓器機能を回復させ、病態を改善し、患者を究明することを目指している。令和5年5月の新病院開院より、重症診療部門として集中治療室ICU4床、高度治療室12床を有し、特にICUにおいては、時間内は専任の集中治療医が各診療科医師と協議のもとに診療を担当する semi-closed ICU 形式にて診療を行っている。集中治療科医師、看護師、理学療法士、管理栄養士、臨床工学士、呼吸サポートチーム、感染対策チームおよび各診療科とカンファレンスを行いながら、治療に関わる全ての業種・スタッフで病態に関する情報および治療方針を日々共有し、より適切な治療が行えることを目指したチーム医療を実践している。

令和5年度に当部門で受け入れを行った疾患・病態は、重症呼吸器感染症、尿路感染症や術後創部感染症に伴う敗血症性ショックや急性呼吸促迫症候群（ARDS）、血液浄化療法を要する急性腎障害、虚血性心疾患や心筋症などによる重症心不全、間質性肺炎急性増悪、COPD など慢性呼吸不全疾患の急性増悪に伴うCO₂ナルコーシス、意識障害や心停止蘇生後の管理など、その領域は多岐にわたる。特に当部門では、ICU内に陰圧個室を有し、人工呼吸管理や持続的血液浄化療法などを必要とする重症肺結核患者の集中治療が可能であり、令和5年度においても、重症肺結核患者の診療を感染症内科と共同して行っている。また、令和5年度より体温管理療法を導入し、心停止蘇生後患者の受け入れと神経学的予後の改善を目指した蘇生後管理を開始し、院内および院外からも心停止患者の受け入れを行っている。

3. 診療実績

●集中治療科ICU・HCU入室症例数

呼吸器外科 146例 呼吸器内科 138例 循環器内科 104例 消化器外科 91例
感染症内科 53例 産婦人科 49例 泌尿器科 44例 アレルギー・リウマチ内科 28例
肺腫瘍内科 27例 耳鼻咽喉・頭頸部外科 21例 消化器内科 8例 腎臓内科 7例
救急 7例 小児科 6例 皮膚科 4例 糖尿病・内分泌内科 4例 整形外科 2例

●集中治療科ICU・HCU 入室患者への

人工呼吸症例数 134 例 うち侵襲的人工呼吸症例 76 例 非侵襲的人工呼吸症例 58 例

ハイフローセラピー症例数 56 例 血液浄化療法症例数 1 例

体温管理療法 2 例

救急診療科

1. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
廣田 哲也	主任部長	日本救急医学会専門医・指導医、日本病院総合診療医学会認定医、麻酔科標榜医、大阪府難病指定医、日本救急医学会 ICLS コース インストラクター・ディレクター、臨床研修指導医、卒後医師臨床研修プログラム責任者養成講習会修了、脳梗塞急性期 rt-PA 静注療法の適正使用のための講習会修了

2. 診療概要

令和4年4月に当科が開設され、診療時間内（平日9時～17時30分）には救急診療科医師が救急外来に常駐し、院内各科の協力のもとで初診/当センター通院中を問わず、呼吸器疾患、急性腹症や外傷をはじめとして従前よりも多様な救急患者（原則15歳以上）の初期診療にあたるようになった（15歳未満の患者は小児科医師が対応）。一方、診療時間外（平日17時30分～翌日9時、土・日・祝日終日）は救急外来担当医が主に当センター通院中の患者、内科系の初診患者の診療を担っている。今後も増加が予想される地域の救急ニーズに円滑に対応するためには、恒常的な患者受け入れ体制の確保が理想であり、とくに診療時間外における外傷あるいは消化管出血・急性腹症などの特定病態を有する初診患者の診療体制などについても院内全体で再検討する余地がある。

令和4年12月には南河内医療圏の重症初期対応医療機関に認可された。当センター近隣の救急隊員との連携強化を目指して「救急医療勉強会」を年2回開催し、南河内・中河内地域メディカルコントロール協議会での事後活動検証、口頭指導・実施基準検証を通じて救急隊員への助言・指導を行った。

患者サービス向上の一環として、院内急変対応ワーキングに参画して Rapid Response System の一翼を担い、日本救急医学会認定二次救命処置(ICLS)コースの自施設開催（年2回）や救急外来担当看護師を対象とした講義を通じてスタッフ教育を図った。来年度以降、早期離床リハビリテーションへの介入、初期研修医に対する教育体制の整備にも尽力したい。

3. 診療実績

延べ救急外来患者数 5,131 人

延べ救急搬送件数 2,750 件

（うち柏原羽曳野藤井寺消防組合からの搬送件数 1,793 件）

4. 業績

【論文】

廣田哲也.胸部外傷.看護学テキスト NiCE 病態・治療論 [2] 呼吸器疾患改訂第2版.(石原英樹, 竹川幸恵) 南江堂, 東京, pp.-, 2024.

【学会発表】

廣田哲也, 永井崇之, 田村嘉孝, 新井 剛, 仮屋勇希, 前田恭兵.抗結核薬による保存的治療が奏効した結核性食道縦隔瘻の1例.第28回日本病院総合診療医学会 令和5年3月29-30日, 福岡.

【啓発・研修活動】

廣田哲也.救急領域のアレルギー疾患～アナフィラキシーを極める～.第1回南河内・中河内地域救急医療勉強会 令和5年8月22日, WEB.

廣田哲也.救急領域の最新文献の紹介.第2回南河内・中河内地域救急医療勉強会 令和6年3月7日, WEB.

放射線科

1. スタッフ

氏名 役職 認定医・専門医・指導医、取得資格等

【医師】

竹下 徹 主任部長 日本医学放射線学会専門医、日本医学放射線学会研修指導者、
日本インターベンショナルラジオロジー学会 IVR 専門医
後藤拓也 医員 日本医学放射線学会専門医・日本専門医機構認定放射線科専門医
緩和ケア研修修了

非常勤画像診断医（7名）大阪公立大学病院およびその関連病院の先生方に非常勤医師として業務をサポートしていただいています。

【診療放射線技師】

別所右一	医療技術部長	医療情報技師、医用画像情報精度管理士、肺がん CT 検診認定技師、 兼技師長 磁気共鳴専門技術者、A i 認定診療放射線技師
森見左近	副技師長	第一種放射線取扱主任者、核医学専門技師
井上達郎	総括主査	第一種放射線取扱主任者、X 線 CT 認定技師 肺がん CT 検診認定技師、放射線治療専門技師
川合航大	主任	第一種放射線取扱主任者、医療情報技師、X 線 CT 認定技師 肺がん CT 検診認定技師、放射線治療専門技師、 放射線治療品質管理士
吉田絵未	主任	検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師、肺がん CT 検診認定 技師、A i 認定診療放射線技師
宇賀慎一	主任	X 線 CT 認定技師
西村健太郎	主任	肺がん CT 検診認定技師、医療情報技師
田邊正伍	主任	血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師
豊川沙織	技師	検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師、肺がん CT 検診認定 技師 X 線 CT 認定技師、X 線 CT 認定技師
濱田勇輝	技師	
大西亜希	技師	検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師、肺がん CT 検診認定 技師 X 線 CT 認定技師
砂山正典	技師	
石黒秋弘	技師	臨床実習指導教員、放射線機器管理士、放射線管理士 医療画像情報精度管理士

大瀧元気	技師
岩本桃子	技師
高橋 圭	技師

2. 診療概要

放射線科は（１）画像診断、（２）interventional radiology（IVR）（画像下治療）、（３）放射線治療の３部門に分けられる。

- （１）画像診断部門にはX線CT、MRI、単純写真などを用いた各疾患の診断と、放射性医薬品を投与し撮像して診断を行う核医学が含まれる。安心・安全な医療は、まず正しい診断から始まるため、「正確な画像診断を迅速に」を心がけている。
- （２）IVR部門は、血管造影、CT、超音波検査などの画像を見ながら様々な疾患の治療を行なう部門である。近年は画像下治療とも呼ばれる。呼吸器疾患の患者さんが多い当センターの特徴を踏まえ、持続する血痰や喀血に対するカテーテル治療の他に、産科危機的出血に対する動脈塞栓術や内視鏡治療で出血困難な消化管出血に対する動脈塞栓術やCTガイド下生検・ドレナージなどを各診療科と連携し、入院での治療を行っている。緊急性を要する塞栓術などにも24時間体制で対応している。
- （３）放射線治療部門では、多くの悪性腫瘍に対して放射線治療を行っている。各診療科との連携のもとで外来あるいは入院での治療を行っている。可能な限り最新の技術を用いて、線量分布の最適化に努めている。

当科は、日本医学放射線学会認定の研修施設で、日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関と日本放射線腫瘍学会認定協力施設に認定されている。

院内の多数の科とのカンファレンスを積極的に行い、各診療科医師との緊密な連携に努めている。

3. 診療実績

表 令和5(2023)年度の放射線科検査・治療一覧

一般撮影			
胸部単純写真	31,571 件		
腹部単純写真	2,067 件		
骨撮影・その他	6,207 件		
病室撮影	7,445 件		
マンモグラフィー	2,628 件		
〈内、羽曳野市検診マンモグラフィー	1,468件〉		
特殊検査			
消化管造影	42 件		
尿路・膀胱	46 件		
嚥下造影	9 件		
胆管・その他	108 件		
子宮卵管造影	20 件		
気管支鏡検査	328 件		
CVポート	80 件		
CTガイド下生検・ドレナージ	21 件		
CT	15,269 件	〈内、造影検査 1,699件〉	
MRI	3,199 件	〈内、造影検査 536件〉	
アイントープ	計 431 件		
骨シンチグラフィー	278 件		
肺血流シンチグラフィー	15 件		
ガリウムシンチグラフィー	3 件		
その他	135 件		
血管造影検査(治療含む)			
循環器内科担当	128 件		
放射線科担当	76 件		
放射線治療	照射件数	2,491 件	〈新病院での開始は7月〜〉
			〈内、4門照射 1,591件、3門照射 299件、非対向2門 79件、対向2門 221件、1門照射 12件〉
	患者数	122 人	
地域医療連携室経由の検査件数	458 件		
			〈内、CT: 382件、MRI: 40件、アイントープ: 9件、放射線治療: 27件〉

4. 業績

【論文】

Daiju Ueda, Toshimasa Matsumoto, Shoichi Ehara, Akira Yamamoto, Shannon L Walston, Asahiro Ito, Taro Shimono, Masatsugu Shida, Tohru Takeshita, Daiju Fukuda, Yukio Miki. Artificial intelligence-based model to classify cardiac functions from chest radiographs: a multi-institutional, retrospective model development and validation study The Lancet Digital Health.5:525-533,2023.

【著作・著書】

別所右一, 竹下 徹. 新病院移転に伴う最新鋭CT導入の目的とその実効性. 月間 新医療. : 40-43, 2024.

【学会発表】

後藤拓也, 竹下 徹, 永井 景, 赤田 忍, 森 秀夫, 上田佳世. Wolffian tumor の1例 画像-病理対比. 第59回日本医学放射線学会秋季臨床大会 令和5年9月15日-17日, 徳島県.

松島央和, 竹下 徹, 後藤拓也, 野間俊樹, 池田公正.術前診断しえた S 状結腸間膜裂孔ヘルニアの 1 例.第 59 回日本医学放射線学会秋季臨床大会 令和 5 年 9 月 15 日-17 日, 徳島県.

【啓発・研修活動】

川合航大.胸部撮影について.日本放射線技師会 大阪府放射線技師会合同令和 5 年度診療放射線技師のためのフレッシューズセミナー 令和 5 年 6 月 11 日, 大阪.

別所右一.胸部 CT のはなし.大阪府診療放射線技師会 東ブロック研修会 令和 5 年 8 月 26 日, 大阪.

臨床検査科

1. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
----	----	-------------------

【医師】

田村嘉孝	主任部長	日本結核・非結核性抗酸菌症学会結核・抗酸菌症指導医・推薦 ICD 身体障害者福祉法 15 条指定医（免疫機能障害） 緩和ケア研修修了
------	------	--

山口 徹	レジデント	日本内科学会認定医、日本医師会認定産業医
------	-------	----------------------

※臨床検査技師 全 24 名

【資格保有人数一覧】

細胞検査士：6 名／結核・抗酸菌症認定エキスパート：1 名／国際細胞検査士：2 名／認定血液検査技師：1 名／認定臨床微生物検査技師：2 名／超音波検査士（消化器）：2 名／1 級臨床検査士（血液）：1 名／超音波検査士（循環器）：2 名／2 級臨床検査士（微生物）：3 名／超音波検査士（健診）：1 名／2 級臨床検査士（血液）：2 名／2 級臨床検査士（病理）：1 名／超音波検査士（産婦人科）：1 名／緊急臨床検査士：7 名／超音波検査士（泌尿器）：1 名／認定病理検査技師：2 名／乳房超音波講習会 A 判定：1 名／超音波検査士（体表）：5 名／認定サイトメトリー技術者：2 名／感染制御認定臨床微生物検査技師（ICMT）：2 名

1. 診療概要

検体検査部門

10 期目となった検体検査自動化システム（株式会社 A&T）は新病院開院より導入され、同じく新規導入の生化学・免疫統合型分析装置とともに順調に稼働している。迅速検体検査では、ヒトメタニューモウイルス、インフルエンザ、アデノ、RS、A 群溶連菌検査、産科のクラミジア、尿中肺炎球菌・レジオネラ、便中ロタ・アデノ、ノロウイルスに取り組んでいる。時間外緊急検査では当直業務も軌道に乗り、24 時間の検査実施体制も充実している。保険点数における加算は、外来迅速検体検査加算及び検体検査管理加算Ⅳが継続して算定されている。

輸血管理面では、今年度も施設基準に適合しており、輸血管理料Ⅱ及び輸血適正使用加算について算定が可能となっている。

当センターの特徴でもあるアレルギー検査では、ニーズに合った項目の追加削除で約 190 種目を実施し充実を図っている。今年度は 42,557 件（前年 43,086 件）と前年度と同程度の検査数であった。アトピー性皮膚炎の病勢の指標とされる TARC については全自動測定機器を導入後、検体提出日に報告が可能となり、至急対応が出来るため、診療に多いに貢献している

生理機能検査部門

COPD や気管支喘息、間質性肺炎等の診断のための精密呼吸機能検査を実施しており、患者サービスの観点からも精密呼吸機能検査の当日実施に努めている。NO 呼気ガス分析は、呼吸機能検査全体で 22,492 件のうち 3,475 件を占めている。睡眠時無呼吸症候群の診断・治療のための睡眠ポリグラフ検査(PSG)も実施している。

エコー検査には、臨床検査技師 7 名が携わっている。生理機能システム導入により、上位システムにて鮮明な画像を診療科に提供することができるようになった。腹部エコーの件数は 1,253 件（前年度 975 件）、乳腺・甲状腺エコーの件数は 2,249 件（前年度 2,023 件）と年々増加傾向である。心臓・血管エコーの件数は 4,200 件と前年度 2,938 件と比べて大きく増加している。エコー検査の需要は毎年増しており、新病院より 5 台の装置を常備し対応している。

細菌検査部門

一般細菌培養検査件数は 13,230 件であり、前年度 10,648 件に対して増加している。抗酸菌培養検査件数は 7,883 件であり、前年度の 7,815 件とほぼ同程度であった。TB 遺伝子検査は、TRC 法が 385 件、Gene Xpert にて実施したものが 150 件であった。また、今年度は新型コロナウイルスの遺伝子検査を 6,253 件実施しており、前年度の 15,369 件より減少はしているが、24 時間体制で実施しており、迅速な対応で臨床に貢献している。

3. 業績

【学会発表】

網代直子, 吉多仁子, 勝田寛基, 木村紗矢香, 田中秀磨, 田村嘉孝.結核患者由来の喀痰を用いた Xpert MTB/RIF の有用性の評価.第 35 回日本臨床微生物学会総会・学術集会 令和 6 年 2 月 9-11, 横浜.

勝田寛基, 吉多仁子, 網代直子, 木村紗矢香, 橋本章司, 田村嘉孝.臨床検体を用いたミュータスワコー-MTB/MAI (富士フイルム和光純薬, PCR-CE 法) の有効性と保険診療における有用性について. 第 35 回日本臨床微生物学会総会・学術集会 令和 6 年 2 月 9-11, 横浜.

岩崎真衣.スライドカンファレンス SC-2 呼吸器.第 48 回日本臨床細胞学会近畿連合会学術集会 令和 5 年 12 月 10 日, 大阪.

梶尾健太, 大西雅子, 飯田健斗, 岩崎真衣, 森 秀夫, 上田佳世.呼吸器細胞診における良性異型上皮の細胞像について－反応性腺系異型細胞を中心に－.第 64 回日本臨床細胞学会総会(春季大会) 令和 5 年 6 月 9 日～11 日, 名古屋.

安永早希, 長濱泰子, 田村嘉孝, 河辺隆誠, 竹下 徹, 川島佳代子.脂肪腫を疑った頸部静脈奇形の 1 例.第 48 回日本超音波検査学会学術集会 令和 5 年 6 月 10 日～11 日, 大阪.

大西雅子, 梶尾健太, 飯田健斗, 岩崎真衣, 森 秀夫, 上田佳世.超音波気管支鏡ガイド下針生検施行時のサイトクイック染色を用いたオンサイト迅速細胞診の有用性.第 48 回大阪府臨床細胞学会核術集会 令和6年3月2日, 大阪.

【啓発・研修活動】

安江智美.肺がんに関する臨床検査.大放技・大臨技合同フォーラム 令和6年1月20日, 大阪.

岩崎真衣.呼吸器・体腔液細胞診.大阪大学細胞診コースがんプロフェッショナル養成プラン 令和5年8月31日, 大阪.

飯田健斗.呼吸器・体腔液細胞診同定問題.細胞検査士認定試験対策講座 令和5年7月15日, 大阪.

飯田健斗.呼吸器・体腔液細胞診スクリーニング問題.細胞検査士認定試験対策講座 令和5年9月28日, 大阪.

梶尾健太.呼吸器.大阪府臨床検査技師会細胞診定期講習会 令和5年5月26日, 大阪.

梶尾健太.同定とスクリーニングの実習.畿央大学臨床細胞学別科講師 令和5年9月5日, 大阪.

梶尾健太.呼吸器細胞診実習.森ノ宮医療大学細胞診断学Ⅲ 令和5年6月21日, 大阪.

梶尾健太.体腔液細胞診実習.森ノ宮医療大学細胞診断学Ⅲ 令和5年10月20日, 大阪.

大西雅子.呼吸器細胞診.畿央大学臨床細胞学別科講師 令和5年5月21日, 大阪.

大西雅子.呼吸器・体腔液細胞診.関西医療大学細胞診断学特別実習 令和5年5月7日, 7月12日, 9月11日, 9月28日, 大阪.

大西雅子.呼吸器細胞診.神戸常盤大学細胞検査士養成課程講師 令和5年8月9日, 神戸.

リハビリテーション科

1. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格 等
【医師】		
塚本泰徳	主任部長 兼整形外科 主任部長	日本整形外科学会専門医 日本リウマチ学会認定医 日本整形外科学会 (リウマチ認定医・スポーツ認定医・リハビリ認定医) 日本人工関節学会認定医、緩和ケア研修修了
谷内孝次	副部長 兼整形外科 副部長	日本整形外科学会専門医
【理学療法士】		
李 仁洙	総括主任	3学会合同呼吸療法認定士
中原千里	技師	福祉住環境コーディネーター2級
茨木茉唯	技師	
【作業療法士】		
中川勇希	技師	
【言語聴覚士】		
大黒大輔	技師	言語聴覚療法学会認定言語聴覚士（摂食嚥下障害領域）

2. 診療概要

呼吸器リハビリテーションとしての主な対象疾患としては、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎、重症肺炎、肺結核、非結核性抗酸菌症などの呼吸器疾患であり、急性期から慢性期まで幅広い介入を行っている。呼吸器外科症例に対しても術前の評価と術後の介入を行い、早期退院ができる様に支援を行っている。新型コロナウイルス感染症後の患者に対してのリハビリテーションも継続し行っている。

理学療法士と作業療法士は、呼吸法や動作要領の指導、運動療法、日常生活動作訓練など一般的な呼吸理学療法・作業療法に加え、労作時に必要となる酸素流量の見極めや在宅酸素療法（HOT）機器の同調性、HOT 機器の操作方法、行動変容を目指した患者指導など専門性の高い呼吸リハビリテーション介入を展開した。

心不全症例や弁膜症の術後など心大血管リハビリテーションの対象症例にもプロトコールに基づいた適切なリハビリテーションを提供している。近年は診療科増加に伴い、骨折後や人工関節置換術後に対する運動器リハビリテーションや糖尿病教育入院に対する運動療法指導も増加してきてい

る。

言語聴覚士は嚥下を専門としており、嚥下障害が疑わしい症例に対して機能評価や嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査などの評価を行い、それに基づいて訓練や食事の形態の選定をし、嚥下障害の改善や誤嚥の予防に努めた。

大阪府立病院機構の新規採用者研修は理学療法士、作業療法士、言語聴覚士で実施しており、後進の育成に貢献している。

3. 診療実績

(ア)新規患者数

PT・OT：9,407 人 ST：1,633 人

(イ)単位数

PT・OT：12,703 単位 ST：2,925 単位

4. 業績

【啓発・研修活動】

河津達也.転倒予防体操について.羽曳野からだ塾 令和6年3月2日, 大阪.

病理診断科

1. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
上田 佳世	主任部長	日本病理学会病理専門医・研修指導医・学術評議員 日本臨床細胞学会細胞診専門医 日本臨床検査医学会臨床検査管理医 臨床研修指導医、緩和ケア研修修了
森 秀夫	診療主任	日本病理学会病理専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医、 緩和ケア研修修了

1. 診療概要

令和5年度は、医師は上田佳世部長と森 秀夫診療主任の2名と、技師については、臨床検査科よりの配属の形をとり、職員数は常勤技師5名、他に医療事務1名の構成であった。

組織診については、令和4年度から大阪大学病理学教室との間にバーチャルスライドを用いたコンサルテーションシステムが稼動した。実績は9件であり、今後も診断精度向上のため積極的に活用する予定である。

細胞診については、羽曳野市の婦人科市民検診を受け入れている。また院内では、気管支鏡下のEBUS-TBNA実施時に迅速細胞診(ROSE)を行い、病変の採取の有無を内視鏡医にリアルタイムで報告し、気管支鏡下病理組織・細胞診検査の精度の向上に貢献した。

2. 活動実績

病理組織診検査においては、病理組織が、3,769件(院内実施検査ならびに受診患者の他施設標本のコンサルテーション)、細胞診検査9,030件、病理解剖3件であった。また、これらの病理組織検査に対して1,073件の免疫組織化学を行い、診断の精度の向上に努めた。

上記病理組織・細胞診検査のうち、術中迅速組織診・細胞診は、それぞれ250件、341件であった。

病理組織検査については、受託研究の形で、近隣の医療機関より、52件(城山病院50件、明治橋病院2件)の術中迅速組織診を受け入れ、地域の診療に貢献した。

剖検症例については2回の臨床病理検討会(CPC)を行い、主治医のみならず関連科への情報のフィードバックを行った。

5. 業績

【論文】

Hideo Mori, Hiroko Yoshida, Koichi Kawakami. Stealth Omicron: A Novel SARS-CoV-2 Variant That Is

Insensitive to RT-qPCR Using the N1 and N2 Primer-Probes.Cureus.15:-,2023.

【学会発表】

上田佳世,稲葉真由美,高松聖仁.左正中神経の尺側半分は神経束の腫大と血管怒張を認めた症例.第23回日本神経病理学会近畿地方会.大阪.

上田佳世.急速に増大した結節状炎症性肺病変の一手術例.第62回呼吸器病理研究会.大阪.

森 秀夫.スライドカンファレンス 液状検体（胸水）.第47回日本臨床細胞学会近畿連合会学術集会.京都.

臨床研究センター

1. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
橋本章司	主任部長 臨床研究センター長 結核・感染症研究室 室長	日本感染症学会専門医・指導医・推薦 ICD 日本呼吸器学会呼吸器専門医 日本アレルギー学会アレルギー専門医 日本結核・非結核性抗酸菌症学会代議員、結核・抗酸菌症指導医、大阪府難病指定医 日本内科学会総合内科専門医 日本臨床研修協議会プログラム責任者 日本医師会認定産業医、緩和ケア研修修了
片岡葉子	免疫・アレルギー研究室 室長	日本皮膚科学会専門医、日本アレルギー学会指導医 日本心身医学会専門医
門田嘉久	分子肺疾患研究室 室長	日本外科学会専門医・指導医 日本胸部外科学会認定医 日本呼吸器外科学会専門医、緩和ケア研修修了 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 がんリハビリテーション研修修了 大阪大学医学部臨床教授
森田沙斗武	臨床法制研究室 室長	医学博士、大阪府監察医事務所監察医 滋賀医科大学法医学教室非常勤講師 日本法医学会法医認定医、日本法医学会検案認定医 死体解剖保存法解剖資格、日本内科学会内科認定医 日本呼吸器学会呼吸器専門医 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医

2. 診療概要

臨床研究センターは、平成 18 年 4 月に院内の診療科・検査科・感染対策チーム（ICT）と連携し「医学と医療の進歩に貢献する」ための臨床研究部として創設され、平成 29 年 4 月より臨床研究センターとなった。

現在、①結核・感染症、②免疫・アレルギー、③分子肺疾患（肺がん）、④呼吸器（COPD や間質性肺炎）、⑤臨床法制の 5 領域で、患者さんの臨床検体と診療データを活用した新しい診断検査法・治療薬・発症予防法の開発と、その臨床治験を進めている。

令和2年度より企業治験の支援に加えて、治験ネットおおさか、大阪大学未来医療部、REMAP-CAP 日本と協力し、新規治験及び臨床試験に取り組んでいる。

令和5年度に実施・支援した COVID-19 関連の主要な治験及び臨床研究に、①COVID-19 の重症化病態の解明及び重症度の評価に関する研究、②超安定型次亜塩素酸ナトリウム液の室内循環型噴霧による環境表面の除菌効果の検討、③難治性呼吸器感染症に対するフルオロキノロン系抗菌薬の有効性と安全性の評価及び、④地域単位の抗菌薬の適正使用に関する研究などが挙げられる。

【各研究室の研究内容】

① 結核・感染症研究室

感染症内科・検査科・ICT と連携し、薬剤耐性菌（MRSA、緑膿菌など）の遺伝子配列に基づく伝播経路の推定と感染対策の強化、結核診断法の改良およびウイルス感染症の重症化病態の診断及び治療法の開発を進め、広域での感染対策強化につなげている。

② 免疫・アレルギー研究室

気管支喘息・食物アレルギー・アトピー性皮膚炎・アレルギー性鼻炎などの新規治療法と、その治療効果や予後を予測するための診断検査法の開発を進めている。

③ 分子肺疾患研究室

肺がん患者さんの治療効果や予後予測に関連するがん細胞の遺伝子変異の検査法の開発と、その遺伝子変異に基づいた患者さんごとの個別治療法への応用を進めている。

④ 呼吸器研究室

COPD や間質性肺炎などの難治性肺疾患や、敗血症や重症肺障害に対する新しい治療法の開発を進めている。

⑤ 臨床法制研究室

大阪南部地域における死因究明の充実を目的とし、近隣警察からの依頼による検案業務などを主な活動とし、医療安全に対するコンサルト業務も行っている。今後、突然死・異常死症例に対する診断の補助となる検査設備の拡充に努める。

3. 活動実績

臨床研究支援・報告件数 : 30 件

院内治験支援・実施件数 : 30 件

4. 施設認定

日本感染症学会認定研修施設

5. 業績

【学会発表】

橋本章司, 橋本美鈴, 上田理絵, 山口誓司. 超安定型次亜塩素酸ナトリウム製剤(エアリッシュ PRO) の循環型噴霧による環境表面の除菌効果の検討 1 (細菌学的評価). 第 38 回日本環境感染学会総会・学術集会 令和5年年7月20-22日, 横浜.

橋本美鈴, 橋本章司, 上田理絵, 山口誓司.超安定型次亜塩素酸ナトリウム製剤(エアリッシュPRO)の循環型噴霧による環境表面の除菌効果の検討1(臨床的評価).第38回日本環境感染学会総会・学術集会 令和5年年7月20-22日, 横浜.

【啓発・研修活動】

橋本章司.肺炎診療のポイントと地域単位の抗菌薬適正使用～新型コロナウイルス感染症の話題を含め～.田辺・西牟婁・日高3医師会合同学術講演会 令和5年4月26日, 大阪(WEB).

橋本章司.中小規模病院と社会福祉施設で問題となる感染症とその対策感染症対策.大阪府看護協会「リンクナースフォローアップ研修」 令和5年7月27日, 大阪.

橋本章司.注意が必要な感染症～ウィズコロナの感染対策～必要なワクチンと必要/不要な PPE.南河内感染対策ネットワーク会議研修会 令和5年8月19日, 大阪.

橋本章司.臨床研修プログラムの作成(臨床研修評価)など.大阪大学医学部附属病院臨床研修指導医養成講習会 令和5年8月31日-9月2日, 大阪.

橋本章司.難治性/遷延性呼吸器感染症患者に対する呼吸器キノロン系薬の有効性と安全性の検討.呼吸器・感染症京都セミナー 令和5年9月23日, 京都.

橋本章司.肺炎診療のポイントと地域単位の抗菌薬適正使用～ウィズコロナの呼吸器感染症を考える～.北摂エリア呼吸器感染症研究会 令和5年10月11日, 大阪.

橋本章司.肺炎診療のポイントと地域単位の抗菌薬適正使用～ウィズコロナの呼吸器感染症を考える～.岩手呼吸器感染症研究会 令和5年10月19日, 盛岡.

橋本章司.専門医から学ぶ呼吸器感染症治療におけるニューキノロン系注射用抗菌剤の勘所「慢性呼吸器病変の二次感染」.ラスビック販売3周年記念 全国 Lunch Web セミナー 令和5年12月7日, 大阪(WEB).

橋本章司.AMR 対策における地域の課題と取り組みについて.令和5年度大阪府藤井寺保健所管内院内感染対策ネットワーク会議 令和5年12月19日, 大阪(WEB).

橋本章司.咳嗽診療を取り巻く問題点.Respiratory Forum in Osaka 令和6年2月10日, 大阪.

橋本章司, 下内 昭, 高橋峰子, 藤川健弥, 工藤新三, 山本香織.日本の結核高まん延地域の結核対策のあゆみとそこから見えてくるもの.ストップ結核パートナーシップ関西第11回ワークショップ 令和6年3月16日, 大阪.

【マスコミ発表】

橋本章司.スギ花粉米を用いた臨床研究（取材録画の再放送）.毎日放送 MBS 4 ちゃん 令和5年4月5日.

次世代創薬創生センター

1. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医
松山晃文	主任部長	日本内科学会認定内科医
	次世代創薬創生センター長	日本内科学会総合内科専門医
		日本循環器学会循環器専門医

2. 概要

近年、高度専門医療の提供は、医療シーズを橋渡しする Translational Reserch(TR)部門と、医療ニーズからシーズを生み出す reverseTR 部門が相乗効果をもって開発・提供するトレンドに深化している。

SARS-CoV-2 殺ウイルス活性を有するポビドンヨード (PVP-I) を用い、432 例の被験者をリクルートして 2 群ランダム化臨床研究を実施、唾液の RT-PCR 陽性率および Vero 細胞感染性陽性率について検討した。主要評価項目である療養 5 日目ウイルス陰性化率は早期含嗽群でウイルス陰性化が有意に上回っていた ($p=0.015$)。探索的評価項目である療養 5 日目でのウイルス感染性においても、早期含嗽によりウイルス感染性は有意な低下を認めた ($p=0.025$)。以上から、SARS-CoV-2 感染症 (COVID-19) において、PVP-I 含嗽は口腔内ウイルス量を低減させ、介入として有用であることを報告。当該報告は nature portfoloi にて上位 2%論文と評価されている。臨床研究にて PVP-I の有効性が示されたことから、その機序の検討を行った。ヨードが SARS-CoV-2 ウイルスの細胞への感染の非可逆的阻害剤であり、in vitro において臨床使用濃度より低濃度でも有効であることを見出し、生体内でのウイルス再感染 cycle を抑制してウイルス量を低減させることを明らかにした。ウイルス感染時のウイルス量低減作用のみならず、ウイルス暴露時における感染予防効果も示唆するものである。これら PVP-I の感染予防効果を射程に、ヨードを徐放化する新規ヨード製剤の開発を試みた。ウイルスの持続感染が後遺症発症に大きく寄与することも報告されており、薬剤としての開発が期待される。

次世代創薬創生センターは、reverseTR 部門として reverseTR に不可欠な産学連携研究・開発を推進するとともに、公衆衛生上の危機に即応する研究も行い、府域医療水準の一層の向上にも寄与したい。

3. 業績

【論文】

Takedachi M, Kawasaki K, Sawada K, Sakura K, Murata M, Shimomura J, Kawakami K, Morimoto C, Miki K, Takeshita N, Iwayama T, Okura H, Matsuyama A, Saito M, Kitamura M, Murakami S. Periodontal Tissue Regeneration by Transplantation of Autologous Adipose Tissue-Derived Multi-

Lineage Progenitor Cells With Carbonate Apatite. Cell Transplant. 32:9636897231198290-, 2023.

Negoro T, Okura H, Hayashi S, Arai T, Matsuyama A. Poor Result Reporting Rate in Cell Therapy Trials Registered at ClinicalTrials.gov. Tissue Eng Part B Rev. 29:623-633, 2023.

Negoro T, Okura H, Hayashi S, Arai T, Matsuyama A. A Pilot Study on Result Reporting Rates from Clinical Trials of Regenerative Medicine. Tissue Eng Part B Rev. 29:358-368, 2023.

Kuroda T, Yasuda S, Matsuyama S, Miura T, Sawada R, Matsuyama A, Yamamoto Y, Morioka MS, Kawaji H, Kasukawa T, Itoh M, Akutsu H, Kawai J, Sato Y. ROR2 expression predicts human induced pluripotent stem cell differentiation into neural stem/progenitor cells and GABAergic neurons. Sci Rep. 14:690-, 2024.

Miura T, Kouno T, Takano M, Kuroda T, Yamamoto Y, Kusakawa S, Morioka MS, Sugawara T, Hirai T, Yasuda S, Sawada R, Matsuyama S, Kawaji H, Kasukawa T, Itoh M, Matsuyama A, Shin JW, Umezawa A, Kawai J, Sato Y. Single-Cell RNA-Seq Reveals LRRC75A-Expressing Cell Population Involved in VEGF Secretion of Multipotent Mesenchymal Stromal/Stem Cells Under Ischemia. Stem Cells Transl Med. 12:379-390, 2023.

2 薬局

1. スタッフ

氏名	役職	専門資格
金銅葉子	薬局長	日本医療薬学会がん専門薬剤師・がん指導薬剤師 日本医療薬学会医療薬学専門薬剤師・指導薬剤師 日本緩和医療薬学会緩和薬物療法認定薬剤師 日本緩和医療薬学会緩和医療暫定指導薬剤師 日本栄養治療学会栄養サポートチーム専門療法士 日本栄養治療学会栄養治療専門療法士 日本薬剤師研修センター認定実務実習認定薬剤師 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師 日本病院薬剤師会認定実務実習指導薬剤師
木澤成美	副薬局長	日本薬剤師研修センター認定実務実習認定薬剤師 日本病院薬剤師会日病薬病院薬学認定薬剤師
木村 貴	総括主査	日本薬剤師研修センター認定実務実習認定薬剤師 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
的場美香	総括主査	日本栄養治療学会栄養サポートチーム専門療法士 日本腎臓病薬物療法学会腎臓病薬物療法認定薬剤師 日本糖尿病療法指導士 日本薬剤師研修センター認定実務実習認定薬剤師 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
友井理恵子	総括主査	日本医療薬学会がん専門薬剤師 日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師 日本病院薬剤師会日病薬病院薬学認定薬剤師
岩田浩幸	主査	日本薬剤師研修センター認定実務実習認定薬剤師
上田理恵	主任	日本病院薬剤師会感染制御認定薬剤師 日本化学療法学会抗菌化学療法認定薬剤師 日本結核 非結核性抗酸菌症学会登録抗酸菌症エキスパート 日本病院薬剤師会日病薬病院薬学認定薬剤師
澤井祐樹	主任	日本化学療法学会抗菌化学療法認定薬剤師 日本薬剤師研修センター認定実務実習認定薬剤師 日本各医学会核医学認定薬剤師 日本災害医学会 PhDLS プロバイダー 日本救急医学会 ICLS プロバイダー
水口侑子	主任	日本病院薬剤師会感染制御認定薬剤師 日本化学療法学会抗菌化学療法認定薬剤師 日本薬剤師研修センター認定実務実習認定薬剤師 日本病院薬剤師会日病薬病院薬学認定薬剤師
南 美穂	技師	日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師

高橋愛未	技師	日本医療薬学会がん専門薬剤師
		日本病院薬剤師会日病薬病院薬学認定薬剤師
松岡里枝	技師	日本糖尿病療法指導士
		日本リウマチ財団リウマチ登録薬剤師
		日本病院薬剤師会日病薬病院薬学認定薬剤師
盛谷友梨	技師	
松下一樹	技師	日本栄養治療学会栄養サポートチーム専門療法士
		小児アレルギーエデュケーター
		アレルギー疾患療養指導士
		日本病院薬剤師会日病薬病院薬学認定薬剤師
和田宜久	技師	日本病院薬剤師会感染制御認定薬剤師
		日本化学療法学会抗菌化学療法認定薬剤師
		小児アレルギーエデュケーター
		アレルギー疾患療養指導士
		日本病院薬剤師会日病薬病院薬学認定薬剤師
三谷優香	技師	
北 愛華	技師	

2. 概要

・調剤、製剤業務

処方オーダーリングシステムを採用して相互作用や禁忌などのチェックを行うことで正確で安全な調剤を行っている。注射薬については患者毎に1日分、1施用単位ごとに調剤し、注射薬自動払い出し機（アンプルピッカー）、鑑査システムを導入し、処方毎にバーコードリーダーで読み込み、調剤過誤防止に役立てている。また、注射薬の配合変化一覧表を作成し病棟に情報提供して情報収集とデータベースの蓄積を継続している。承認、販売されている薬剤だけでは多様な疾患に対応できない場合もあり、軟膏の混合製剤など当センター独自の院内製剤の作製を行っている。

・がん化学療法

がん化学療法では、薬局が事務局を務める化学療法委員会で承認されたレジメンの登録・管理にがん専門薬剤師が関わっており、その登録されたレジメンからオーダーされる処方に対して、薬剤師は投与量や投与間隔、対象患者の検査データなどをダブルチェックしている。また、平成16年9月外来化学療法室開設に伴い、外来患者の抗がん剤の無菌調製を開始し、平成22年1月からは、外来、入院全ての抗がん剤の調製を実施している。令和元年度から閉鎖式器具を使用するレジメンを増やすことにより抗がん剤暴露対策を推進している。

平成26年7月より「がん患者指導料ハ」算定のため、外来がん患者への抗がん剤の指導も開始し、外来化学療法の増加に伴い依頼が増加傾向にある。令和4年度より外来医師業務のタスクシフトとして外来ケモ診察前薬剤師外来を開始している。また、当センターで登録された化学療法のレジメンをホームページで公開し保険薬局が閲覧できるようにし、外来化学療法の患者へのレジメン提供を行い、また地域の薬局薬剤師を対象にがん化学療法についてのオンライン研修会を実施して外来腫瘍化学療法診療科連携充実加算の取得に向けた取り組みを行っている。

・無菌調製業務

抗がん剤無菌調製は、全日すべて薬剤師が実施している。令和2年5月からは全病棟を対象に高カロリー輸液（TPN）の無菌調製も行っている。

・薬剤管理指導業務

薬剤管理指導業務は、平成5年12月に小児科から開始、平成19年1月より全科で実施している。また、外来小児患者への吸入指導や服薬指導も実施している。令和5年7月より病棟薬剤業務実施加算業務を実施している。

・持参薬鑑別業務

平成23年度から一部病棟で開始した持参薬鑑別業務は、平成24年11月、薬局前で全予定入院患者を対象に業務を拡大し、服薬管理状況の確認や薬剤アレルギー有無の確認を行い電子カルテに入力することにより院内で情報共有している。令和5年5月からは病棟にて実施している。

平成26年4月に呼吸器外科の手術予定患者を対象に服用薬情報を主治医に提供するため「術前薬剤師外来」を開設し、現在では外科外来の全ての診療科の抗凝固薬等の服用チェックを行っている。

・医薬品情報管理業務（DI）

薬事委員会の事務局として業務を担っている。医薬品の新規採用及び中止について、薬剤の有用性、安全性、経済性だけでなく医療安全の観点からも検討し審議している。後発医薬品の使用促進のため、採用薬の後発品への切り替えや安定供給やコスト面から採用メーカーの見直し変更を行って、令和5年度も後発医薬品体制加算1を算定できており、また、外来は一般名処方を導入している。オーダーリングシステムにおいて併用禁忌や妊婦等への禁忌薬の処方チェック等、常に最新の医薬品情報が反映できるよう薬品マスターのメンテナンスを行い、適正使用の推進及び薬剤費のコスト削減、経営の効率化に努めている。さらに安全性情報等、緊急を要するものについては、院内メールを利用し、タイムリーに臨床の場に提供するなど医薬品情報の収集と提供に努めている。

・治験（受託研究）業務

治験薬管理業務を担い、治験薬の薬品マスター作成から調剤、保管温度、管理簿等の記録まで適正な管理に努めている。治験薬の温度管理については、温度監視システムを導入することにより保冷庫の温度上昇をいち早くキャッチできる体制を構築した。また、治験管理室と協力して、治験の依頼からスタートアップまで、円滑な治験実施体制をサポートしている。

・教育・研修

院内・薬局内研修会や各種学会・研究会などに積極的に参加し、薬剤師職能のレベルアップに努め、専門薬剤師や認定薬剤師の育成を図っている。平成22年度から毎年薬学6年制における長期実務実習生を3期にわたり受け入れている。また、大学薬学部学生1年生の早期体験学習の受け入れを行っており、病院薬剤師業務を見学、体験する機会を設けている。

3. 活動実績

業務実績（年間）

薬剤管理指導	12,570件	外来注射処方せん	19,135枚
麻薬管理指導	607件	外来院外処方せん	82,315枚
退院時薬剤情報管理指導	4,220件	院外処方せん発行率	95.40%
薬剤総合評価調整加算	5件	外来手術前薬剤師外来	746件
退院時薬剤情報連携加算	128件	外来ケモ診察前薬剤師外来	1,033件
持参薬確認	6,675件	無菌調製処理料1（閉鎖式器具使用）	2,706件
抗がん剤調製（入院）	1,016枚	無菌調製処理料2	803件
	1,527件	後発医薬品割合（数量ベース）	96.09%
抗がん剤調製（外来）	1,907枚	薬学6年制長期実務実習生	12名
	2,462件	新規治験	9件
入院処方せん	79,929枚	取扱い治験件数	36件
入院注射処方せん	154,388枚		
外来処方せん	4,089枚		

医薬品費の執行状況及び薬効別医薬品の使用状況

令和5年度の医薬品費執行額は1,172,879,134円（前年度金額1,046,314,856円）

その剤型別構成比は、内用剤 約11.8%（前年度約8.15%）

外用剤 約3.16%（前年度約3.2%）

注射剤 約85.04%（前年度約88.65%）となっている（表3）

また、薬効別医薬品の使用状況については、腫瘍用薬を主とする細胞機能用医薬品が約44.96%とそれらに占める割合が大きい。

医薬品費執行額及び構成比・年度末の採用薬品数

区 分	執行額（円）	構成比（%）	令和5年度 採用薬品 品目数	令和5年度 新規採用 医薬品数	令和5年度 採用中止 医薬品数
内用剤（麻薬・造影剤を含む）	¥138,447,635	11.80%	685	24	23
外用剤（麻薬を含む）	¥37,053,157	3.16%	277	12	14
注射剤（麻薬・造影剤を含む）	¥997,378,342	85.04%	595	36	13
合 計	¥1,172,879,134	100.00%	1,557	72	50

薬効別医薬品購入金額

大分類	小分類	金額	構成比(%)
神経系及び感覚器用医薬品	中枢神経系用薬	11,662,561	0.99%
	末梢神経系用薬	4,422,920	0.38%
	感覚器用薬	1,627,196	0.14%
	計	17,712,677	1.51%
個々の器官系用医薬品	循環器用薬	9,036,209	0.77%
	呼吸器用薬	171,908,764	14.66%
	消化器用薬	11,105,614	0.95%
	ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)	19,577,377	1.67%
	泌尿生殖器及び肛門用薬	1,667,293	0.14%
	外皮用薬	7,271,443	0.62%
	歯科口腔用薬	20,775	0.00%
	その他の個々の器官系用医薬品	2,930	0.00%
	計	220,590,405	18.81%
代謝性医薬品	ビタミン剤	1,026,167	0.09%
	滋養強壮薬	11,802,504	1.01%
	血液・体液用薬	49,920,638	4.26%
	人工透析用薬	1,404,567	0.12%
	その他の代謝性医薬品	106,524,656	9.08%
	計	170,678,532	14.55%
組織細胞機能用医薬品	細胞賦活用薬	0	0.00%
	腫瘍用薬	471,145,273	40.17%
	放射性医薬品	0	0.00%
	アレルギー用薬	57,283,099	4.88%
	計	528,428,372	45.05%
生薬および漢方処方に基づく医薬品	生薬	0	0.00%
	漢方製剤	544,136	0.05%
	その他の生薬および漢方処方に基づく医薬品	0	0.00%
	計	544,136	0.05%
病原生物に対する医薬品	抗生物質製剤	48,116,385	4.10%
	化学療法剤	140,800,645	12.00%
	生物学的製剤	17,531,162	1.49%
	寄生動物用薬	1,015,182	0.09%
	計	207,463,374	17.69%

治療を主目的としない医薬品	調剤用薬	1,262,083	0.11%
	診断用薬(体外診断用医薬品を除く)	16,030,485	1.37%
	公衆衛生用薬	0	0.00%
	防腐剤	0	0.00%
	防疫用殺菌消毒剤	579,150	0.05%
	体外診断用医薬品	0	0.00%
	その他の治療を目的としない医薬品	4,747,951	0.40%
	計	22,619,669	1.93%
麻薬	アルカロイド系麻薬(天然麻薬)	1,817,420	0.15%
	合成麻薬	3,024,549	0.26%
	計	4,841,969	0.41%
合計		1,172,879,134	100.00%

4. 業績

【論文】

木村悠哉, 友松克允, 正木克宜, 水村賢司, 和田宜久, 谷村和哉.CQ 成人喘息患者の長期管理において、吸入ステロイド薬(ICS)のみでコントロール不良時には、長時間作用性 β 2 刺激薬(LABA)と長時間作用性抗コリン薬(LAMA)の追加は、どちらが有用か.アレルギー.72:1158-1173,2023.

【学会発表】

松下一樹, 和田宜久, 友井理恵子, 的場美香, 木澤成美, 金銅葉子.アトピー性皮膚炎におけるシクロスポリンの有害事象の実態調査.第 33 回日本医療薬学会年会 令和 5 年 11 月 3-5 日, 仙台.

松下一樹.認定の経緯を踏まえた CAI 資格取得者の特徴.第 68 回日本小児アレルギー学会 令和 5 年 11 月 18-19 日, 京都.

和田宜久, 竹川幸恵, 川口翔子, 平田聡子, 村上由美子, 森下 裕, 金銅葉子.ニンテダニブ入院導入患者に対する多職種連携による取り組み.第 45 回日本病院薬剤師会近畿学術大会 令和 6 年 1 月 27-28 日, 和歌山.

【啓発・研修活動】

松下一樹.エピペン講習会 食物アレルギー～アナフィラキシーへの対応～.藤井寺市立藤井寺南小学校教職員研修会 令和 5 年 5 月 22 日, 大阪.

和田宜久.エピペン講習会 食物アレルギー～アナフィラキシーへの対応～.高鷲中学校区教職員研修会 令和 5 年 8 月 3 日, 大阪.

和田宜久.感染制御認定薬剤師について～症例報告・筆記試験に向けて～.第 3 回南河内 Directors of Pharmacy Forum 令和 5 年 8 月 31 日, WEB.

和田宜久.オフエブのトレーシングレポートについて.第9回はびきの地域連携研修会 令和5年10月20日, WEB.

松下一樹.子どものぜん息.令和5年度 子どものぜん息とアレルギー講習会～これだけは知っておきたい！基礎知識と対処法～ 令和5年11月11日, 大阪.

和田宜久.移行性アトピー性皮膚炎患者における TRAQ による移行準備状況調査.第72回アレルギーQ&A 研究会 令和6年1月20日, 大阪.

高橋愛未.退院から外来へ、薬剤サマリの活用.第4回大阪はびきの医療センターがん病薬連携 web 研修会 令和6年2月9日, WEB.

3 看護部

1. スタッフ ※看護師現員数（令和5年10月1日現在）

看護部長 岡田知子								
副看護部長 専任 羽澤三恵子 近藤勝美 田中真奈美								
兼任 豊田充代 中出亜希代 関田めぐみ								
医療安全管理者 泉 和江								
所属	診療科	看護師長	定数	常勤		非常勤	常勤	非常勤・派遣
				看護師	准看護師	看護師	看護補助者	看護補助者 保育士
いちょう	結核 多剤耐性	秦 順子	27	26	1	3	1	3
ICU	ICU	豊田充代	25	26	0	1	0	0
HCU	HCU	福村 恵	25	24	0	0	0	2
4A たちばな	呼吸器外科、耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科、整形外科、歯 科・口腔外科	中村由利子	25	25	0	2	1	3
4B ひまわり	小児科、NICU 皮膚科、耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科	吉田めぐみ	36	33	1	9	0	5
4C さくら	産婦人科	中出亜希代	42	36	0	7	0	5
4D すみれ	消化器外科・内科、産婦人 科、乳腺外科、泌尿器科	倉田悦子	25	24	0	1	0	3
5A たちばな	皮膚科、アレルギー・リウ マチ内科、循環内科、心臓 外科、糖尿病内科、腎臓内 科	関田 恵	25	26	0	0	0	4
5B ひまわり	呼吸器内科 感染症内科	難波美華	25	31	0	3	0	7
5C さくら	新型コロナ感染症、 内科混合	榎本かおり	25	24	0	0	0	1
5D すみれ	肺腫瘍内科、産婦人科、乳 腺外科、泌尿器科、消化器 外科・内科	井上理恵	25	25	0	3	0	5
手術室		谷村佐和	15	15	0	0	0	0
一般外来		山本攝子	10	15	0	13	0	
救急・放射線系外来		荻野洋子	17	19	0	4	0	2
地域医療連携室		田中久美	11	11	0	1	0	0
患者相談室				2	0	0	0	0
看護管理室・専従			9	8	0	0	0	1
小計			367	370	2	47	2	41

第3 各部局の活動状況 3. 看護部

産休・その他（育休・研修・病欠・休職等）		19	0	0	0	1
合計	367	392		47	2	42

※看護補助者数には派遣ナイトサポーター含む

専門認定・資格等

岡田知子	日本看護協会 認定看護管理者 大阪府看護協会 府南支部理事
羽澤三恵子	大阪府看護協会 府南支部・看護師技能委員 I
竹川幸恵	日本看護協会 慢性疾患看護専門看護師 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 理事 日本慢性看護学会 評議員 福井大学大学院医学系研究科付属 看護キャリアアップセンター認定看護師教育課程 入試委員会委員 教育委員会委員 南近畿リハビリテーション研究会 世話人 急性期 NPPV・呼吸ケア研究会 世話人 大阪呼吸器看護研究会 会長
平田聡子	日本看護協会 慢性疾患看護専門看護師
盛光涼子	日本看護協会 小児看護専門看護師
橋本美鈴	日本看護協会 感染管理認定看護師
岡田由佳里	日本看護協会 緩和ケア認定看護師
岩田香	日本看護協会 緩和ケア認定看護師
良田紀子	日本看護協会 がん化学療法看護認定看護師
渡部妙子	日本看護協会 慢性呼吸器疾患看護認定看護師
鬼塚真紀子	日本看護協会 慢性呼吸器疾患看護認定看護師
福地御富貴	日本看護協会 認知症看護認定看護師
小川司	日本看護協会 がん放射線療法看護認定看護師
川上明子	日本看護協会 クリティカルケア認定看護師
山本みふゆ	日本看護協会 皮膚・排泄ケア認定看護師
西上奈緒子	日本看護協会 感染管理認定看護師
関田恵	日本小児臨床アレルギー学会制度委員

日本小児臨床アレルギー学会 小児アレルギーエデュケーター	10 名
日本ケアリハビリテーション学会 呼吸ケア指導士	7 名
3 学会合同 呼吸療法認定士	10 名
栄養サポートチーム専門療法士	3 名
アレルギー疾患療養指導士	2 名
特定行為研修（術中麻酔管理領域）修了看護師	2 名

2. 概要

令和5年度は、新病院を決起とした、「はびきの看護の再構築」を目指し、以下の4点を重点目標として取り組んだ。

- ① 高度急性期・急性期医療を担う地域の拠点病院として、質の高い看護サービスの提供
- ② 患者の療養を地域全体で支える看看連携体制の構築
- ③ 誇りをもって楽しく働ける職場作り
- ④ 健全な病院経営への積極的参画

① 高度急性期・急性期医療を担う地域の拠点病院として、質の高い看護サービスの提供

5月の新病院開院にあたり病棟再編を行った。外科系病棟を1病棟から2病棟に拡大、救急・放射線外来部門の新設、ICU/UCHの一体化運営など、より急性期病院としての役割が発揮できる体制を整えた。また、救急受け入れ輪番制を導入することによって、救急件数は2,750件（前年度比+664件）と順調に増加、手術件数も2,498件（+472件）と増加した。新病院移転と診療科拡大による混乱がある中、マニュアルの修正や多様な治療に対応できる実践能力の向上に取り組み、大きな事故なく経過することができた。患者満足度調査の結果でも「看護師に対する満足」は96.9%と高い値を維持している。

② 患者の療養を地域全体で支える看看連携体制の構築

地域連携における専門性の高い看護師の活用を促進するために、リソースナースによる後方病院・施設訪問を実施した。また、訪問看護ステーションとの症例検討会を3回/年実施し延べ46人の参加があった。顔の見える関係の中で看看連携を推進し、平均在院日数は8.3日で昨年比0.7日短縮、地域医療機関や訪問看護ステーションに対し行ったアンケートでも概ね良好な結果を得た。

③ 誇りをもって楽しく働ける職場作り

コロナ対策の影響によるコミュニケーション不足を補うための1on1ミーティングの積極的導入、e-ラーニング視聴によるワークエンゲージメントの理解向上に努めた。新病院移転に伴う業務量増加、病棟再編の影響等で時間外勤務が10.46時間（前年比+3.98）と悪化し、ワークエンゲージメント調査では疲弊した様子が見られたものの、離職率に関しては、常勤8.5%、新人8.1%と昨年度より低下傾向であった。

⑤ 健全な病院経営への積極的参画

入院基本料1の維持、DPCⅡ期間を意識した退院調整、積極的な看護に関する加算の取得に努めた。新病院移転後前半は病床稼働率も伸び悩み、加えてコロナ補助金の中止やコロナ特例の加算がなくなった影響もあり収支は大幅赤字となったが、DPCⅡ以内の割合は72.7%（+2.9%）と健全な入院期間を維持できた。また、夜間の看護補助者を確保することにより「急性期看護補助体制加算100：1」を取得、年間7,000万円の増収に貢献すると共に、新たに排尿ケアチームを立ち上げることによって、排尿自立支援加算も取得することができた。

3. 実績

1) 重症度、医療・看護必要度Ⅱ（令和5年5月～令和6年3月）

一般病棟平均35.1%（前年比+5.1）、結核病棟11.6%（前年比-0.3）であった。

病棟別平均重症度、医療・看護必要度（医事データより）

病棟	いちょう	4A	4B	4C	4D	5A	5B	5C	5D	ICU	HCU
割合 (%)	11.6%	51.4%	3.9%	66.5%	46.9%	18.9%	25.5%	33.1%	37.2%	95.6%	99.5%

2) 看護部委員会活動

委員会	活動内容
副看護師長会	・ 各自所属の委員会や新病院i移転後のハード、ソフト面での情報を伝達共有 ・ 各部署での看護提供方式について検討、
主任会	・ 自部署の教育について実践計画を立て、その成果を発表
新人教育担当者会	・ 新人看護師研修の企画運営をとおして新人看護師の育成にかかわる
看護部教育委員会	・ 「自律して学び続ける専門職をめざす人材を育成する」というビジョンに留意した研修企画
看護研究委員会	・ 看護研究支援者の育成
臨床指導者会	・ 臨床実習マニュアルの見直し ・ 実習アンケートの内容修正と活用 ・ 補助者研修の企画運営 ・ 看護補助者マニュアルの周知と運用 ・ 「既卒・中途採用のあゆみ」の見直し
リスクナース会	・ 各部署のインシデントへの対策・実施・評価 ・ 転倒・転落予防対策の環境ラウンド
リンクナース会	・ カテーテル関連尿路感染症(CAUTI)の予防対策の遵守の徹底 ・ 手指消毒の遵守 ・ 自部署スタッフの研修会の参加率向上
NST・褥瘡担当者会	・ 褥瘡・NST担当者の知識の向上を図り、NST活動を活性化する。
記録委員会	・ 効率的で質の高い看護記録のため：クリニカルパス推進 標準看護計画の円滑な運用
入退院支援担当者会	・ スムーズな入院受け入れと退院支援の強化 ・ チーム医療による入退院支援システムの周知と活用

3) 現任教育実施状況

新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じ、Webなどを活用しながら例年通りの研修計画を実施した。
(院内研修)

	研修名	日程	対象	受講者数	目的・テーマ	内容	講師
ラダー研修	感染基礎	4/6	新採用職員	37名	感染防止対策の基本が理解できる 明日から標準予防策が実施できる	講義 演習	感染管理認定看護師 橋本 美鈴 副看護部長
	安全基礎	4/5	新採用職員	48名	医療安全体制について理解できる 患者誤認対策、誤薬防止対策、転倒転落防止対策を理解できる	講義 演習	医療安全管理者 泉 和江 副看護部長
	救急看護基礎	5/19	新採用看護職員	34名	救急場面で慌てずに役割発揮ができる	講義 演習	クリティカルケア認定看護師 ICU川上明子主任看護師
	看護研究基礎	9/15	新採用看護職員	37名	ケースレポートを書く意義が理解できる ケースレポートの形式が理解できる	講義	院内講師 SB溝端しのぶ看護師
	プライマリナース	1/19	新採用看護職員	35名	基本的な看護展開とプライマリナースの役割について理解できる	講義 グループワーク	院内講師 4B榎谷直己看護師
	Ⅰ フィジカルアセスメントⅠ	8/18	ラダーⅠを目指す 看護職員	37名	日々の実践の中で、受け持つ患者の身体的なアセスメントが出来る ①客観的・主観的な身体情報を正確に得る方法を学ぶ ②患者訴えや呈している症状を正しくアセスメントし、状況を判断できる	講義 演習	院内講師 救急蘇生科看護師
	文献検索	10/3	ラダーⅠを目指す 看護職員	21名	文献検索の方法を理解する ①実践の中の疑問を自ら調べることができる	講義 演習	院内講師 豊田充代副看護部長
	感染防止技術	7/13	ラダーⅠを目指す 看護職員	20名	デバイス管理・創傷管理を標準予防策に準じて実施できる 医療器材の洗浄・消毒・滅菌の基礎知識を習得し、適切な管理ができる	講義 演習	感染管理認定看護師 いちよう西上奈緒子
	Ⅱ 医療安全Ⅱ	7/28	ラダーⅡを目指す 看護職員	18名	アクシデントを防止するためのKYTを理解し、実践に活用できる	講義 グループワーク	医療安全管理者 泉 和江 副看護部長 医療安全推進委員会 亀田祥子 副看護部長
	フィジカルアセスメントⅡ	8/10	ラダーⅡを目指す 看護職員	21名	日々の中で受け持つ患者の身体的なアセスメントができる	講義 演習	院内講師 SB細井健吾看護師
	感染症別感染対策基礎	1/12	ラダーⅡを目指す 看護職員	18名	感染経路管理が必要な微生物の理解ができる 感染経路別対策が自律して行える	講義・演習 グループワーク	感染管理認定看護師 西上奈緒子主任看護師
	入退院支援	2/22	ラダーⅡを目指す 看護職員	18名	入退院支援についての知識を得ることで、病棟における看護師の役割が理解できる	講義 グループワーク	院内講師 患者総合吉井裕紀子副看護部長
	Ⅲ 現任教育	2/5	ラダーⅢを目指す 看護職員	18名	教育の基礎的知識を学び、効果的な教育指導が行える	講義 演習	看護部 豊田 充代副看護部長
	看護倫理	9/8	ラダーⅢを目指す 看護職員	8名	看護実践を倫理的に視座で振り返ることができる	講義 グループワーク	認知症看護認定看護師 福地 御富貴 副看護部長
	医療安全Ⅲ	12/11	ラダーⅢを目指す 看護職員	13名	部署のインシデントや係の数量分析ができる 部署のインシデント分析技法を活用して対策を検討できる	講義 演習	医療安全推進委員会 吉田 めぐみ 看護師長 松本 由紀子副看護部長
看護理論	7/10	ラダーⅣを目指す 看護職員	10名	看護実践を理論的に説明することができ、理論に裏付けられた実践を行う	講義 グループワーク	慢性看護専門看護師 竹川幸恵看護師	
フィジカルアセスメントⅢ	10/13	ラダーⅣを目指す 看護職員	14名	日々の中で受け持つ患者の身体的なアセスメントができる、対応できる	講義 演習	クリティカルケア認定看護師 ICU川上明子主任看護師	
リーダーシップ	12/19	ラダーⅣを目指す 看護職員	6名	50中堅研修で実践計画書を作成し、実践報告を行う	実践報告会		
役割別研修	新人オリエンテーション研修	4/5、6、7	4月採用看護職員	延べ132名	当センターの組織や看護について理解し、部署配属後円滑に職場に適応できる 服務規程、当センターの看護、教育、看護倫理、防火・防災 医療安全、感染管理、電子カルテシステム操作、看護記録	講義 演習	看護部長、副看護部長 看護師長 新人担当者、実地指導者 事務局総務人事
	新人看護職員研修	4/12、4/19、 4/26、5/19、 5/26、6/23、 7/21、8/18、 9/15、10/20、 10/26、11/17、 12、15、1/19、 2/16、3/15	新採用看護職員	延べ612名	看護師として必要な基礎的技術・知識を学び実践に活かす 専門職として学び続ける姿勢を身につける 看護技術 〔採血、ベッドメイク・保清、夜衣交換・心電図・移動の介助・食事介助・薬剤の管理・輸血の管理・褥瘡予防・フィジカルアセスメント・酸素療法・吸引・呼吸器・〕 看取りのケア・多重課題・プライマリナース・外来、病棟連携と入退院支援	講義 演習 ロールプレイング	院内講師 理学療法士・臨床工学技士 薬剤師・精神看護専門看護師 新人担当者・実地指導者 外部講師 日赤血液センター
	卒後2年目研修	6/29	卒後2年目看護師	26名	日々の実践を振り返り看護について考える 自分が看護をするうえで大切にしていることに気づくことができる	講義 グループワーク	慢性呼吸器看護認定看護師 鬼塚 真紀子主任看護師
	卒後3年目研修	12/8	卒後3年目看護師	18名	自己のキャリアデザインについて考える	講義 グループワーク	皮膚・排泄看護認定看護師 山本みゆみ看護師
	卒後4年目研修	12/8	卒後4年目看護師	15名	自己のキャリアデザインについて考える	講義 グループワーク	皮膚・排泄看護認定看護師 山本みゆみ看護師
	卒後5年目研修	10/28	卒後5年目看護師	14名	自分が看護をするうえで大切にしていることを言語化する	講義 グループワーク	院内講師 谷村佑和看護部長
	ベテラン・ジュニアリスト研修	1/23	卒後20年目以上看護師	15名	新しい時代に求められる看護師像について理解する	講義（eラーニング） グループワーク	愛媛大学医学部附属病院 内藤知佐子先生
	新人看護職員実地指導者意見交換会	10/26	実地指導者	10名	実地指導者として効果的に新人教育を行うための情報を共有する	講義 グループワーク	新人担当者会
	看護補助者研修①	11/14	クラーク・ヘルパー・ 病棟BMA・ ナイトサポーター	34名	看護補助業務における感染対策について理解し実践できる	eラーニング テスト	臨床指導者会 看護補助者担当グループ
	看護補助者研修②	1/24	全看護補助者	38名	看護補助業務における医療安全防止対策について理解し、実践できる	eラーニング テスト	臨床指導者会 看護補助者担当グループ
研究発表等	ケースレポート発表会	11/17・1/19・3/8	全看護部職員	137名	事例を発表することによって、行った看護を振り返ることができる 他者の事例を聞くことで看護を共有できる	講演 ディスカッション	

(院外研修)

	研修名	日程	対象	受講者数	目的・テーマ	内容	主催
5センター 看護師研修	5センターピックス研修	6/3	全看護職員	14名	看護実践現場に必要なタイムリーな情報を習得する 「心理的安全性のある職場づくり」	講義(ハイブリッド) グループワーク	大阪府立病院機構 府立5センター
	看護師 マネジメントスキルアップ研修	9/26, 9/29, 10/5, 10/6, 2/20	看護師としての 実務経験9年以上の者	3名	看護管理に必要な管理の知識・技術・態度を習得し、 看護管理者として組織の創造と変革に挑戦し、発展できる管理能力を育成する	講義 グループワーク 演習・発表	大阪府立病院機構 府立5センター
	5センター看護管理者研修	11/15	看護師長	3名	・看護管理者として人材育成に必要な知識・技術を習得する 中堅スタッフが目的をもってイキイキ働くために ～管理者としてできること～	講義(ハイブリッド) グループワーク	大阪府立病院機構 府立5センター
	5センター看護研究発表	10/27	全看護職員	現地5名	各センターの看護の実際を知るとともに看護研究に関する知識を養う	講義 発表	大阪府立病院機構 府立5センター
	5センター中堅看護職員研修	6/16	中堅看護職員 ラダーレベルⅣ相当	3名	部署における役割を認識し 自分らしいリーダーシップによって部署の目標達成に貢献できる 中堅看護師に求められる組織を変えるリーダーシップ～あなたらしいリーダーになろう～	講義 グループワーク	大阪府立病院機構 府立5センター
	5センター新人看護職員 実地指導者研修	2/2	2022年度実地指導者 の任を担う者	16名	新人看護職員を育成するために必要な知識・技術を習得し、 実地指導者としての能力を身につける	講義 ペアワーク	大阪府立病院機構 府立5センター
機構 研修	新採用職員研修	4/3, 4	新採用職員	37名	大阪府立病院機構の理解を深め、組織の一員としての役割を認識する 職員倫理、人事評価制度、個人情報保護、服務規程、接遇	講義	大阪府立病院機構
	3年目研修① (メンター)	5/24,25	入職3年目の職員	20名	・OJTとコーチングの違いを踏まえ、メンターの役割と心構えを学ぶ ・メンティとの信頼関係を築くために重要なコミュニケーションスキルを学び強化する ・上記を学んだ上で、ケーススタディを行い、実践的な場面に適した対応を身につける	講義 演習	大阪府立病院機構
	1年目研修① (メンタルフォローアップ コミュニケーション)	6/17,23	新規採用職員	36名	・職業特性上かかえやすい、ストレスやストレス反応を知る ・病院スタッフとして期待されるコミュニケーション力取得し、多職種との信頼関係や チームワーク向上に貢献できる人材育成をはかる	講義 演習	大阪府立病院機構
	2年目研修①	11/15,22	入職2年目の職員	27名	入職期間の若い職員がかかえやすいストレスやその対処法を学び、理解する	講義	大阪府立病院機構
	面接官スキルアップ研修	4/17	面接を担当する者	2名	コンピテンシー面接		
その他 外部 研修	認定看護管理者教育課程 ファーストレベル を終了したもの	12/5・1/30	認定看護管理教育 課程ファーストレベル を終了したもの	1名	看護専門職として必要な管理に関する基本的知識・技術・態度を習得する	講義 実習・演習	公益社団法人 大阪府看護協会
	大阪府看護協会短期研修	5/20・3/13	全看護職員	延べ18名	保健医療福祉の分野で重要な役割を担うすべての看護職者の生涯学習を支援し、 幅広い看護サービスの維持・向上に貢献する質の高い看護人材を育成する	講義・On line講義 演習 グループワーク	大阪府看護協会

4) 臨床実習受け入れ状況

(看護基礎教育)

施設名	実習名	学年	期間	延べ人数	実習場所
	総合実習：在宅	4年生	7/9-11,7/12-14	15	患者総合支援センター
	総合実習：母性	4年生	7/10-11, 7/13-7/14	14	4C
	総合実習：基礎	4年生	7/12-7/15	88	HCU,4A,5A,4B,5D
	助産学実習	4年生	8/30-10/20	144	4C
	家族支援看護学実習：母性	3年生	10/23-1/10	240	4C
	療養支援看護学：慢性	3年生	11/27-12/15, 1/8-1/26	331	5A,5B,5D
	基礎看護学実習Ⅱ	2年生	2/6-2/14, 2/22-3/7	216	5B,5D,4A,4D
大阪公立大学	早期体験実習	1年生	9/11-9/12	68	4B,4A,4D,HCU,5A,5D
太成学院大学	総合看護学実習	4年生	7/4-7/15	42	4B,5D
	成人看護学実習Ⅱ：慢性期	3年生	9/12-9/29, 10/3-10/21	216	5B,5A,5D
	小児看護学実習	3年生	10/26-11/2,1/18-25,2/1-2/8	84	4B
	母性看護学実習	3年生	1/30-3/7	85	4C
	基礎看護学Ⅰ	1年生	1/16-1/18	24	4A,HCU
	基礎看護学Ⅱ	2年生	2/6-3/1	56	5A
畿央大学	インターンシップ実習	4年生	6/14-6/22	63	4A,HCU,5A,5D
	チーム医療ふれあい実習	1年生	8/23-25	60	4D,5B,5D
関西医療大学	小児看護学実習	3年生	18-22, 10/3-10/7, 12/5-12/7	72	4B
藍野短期大学部	母性看護学実習	3年生	7/10-7/28	36	4C
	成人看護学実習	3年生	10/10-10/27	48	4A
森ノ宮医療大学	助産学専攻科実習	1年生	7/1-9/1	38	4C
	成人慢性期実習	3年生	10/23-11/10	60	5A
四天王寺大学	療養生活支援実習Ⅰ：急性・回復	3年生	10/2-20, 11/7-18, 12/11-22	135	4A,4D
	看護管理実習	3年生	1/22-26	55	4A,4D
	療養生活支援基礎実習	2年生	2/7-2/17	35	4A
関西看護専門学校	母性看護学実習	3年生	6/13-24	90	4C
	小児看護学実習	3年生	6/20-7/1	40	4B

合計延べ人数 2355

(大学院・その他)

施設名	実習名	学年	期間	人数	延べ人数	実習場所
大阪公立大学	小児看護専門看護師過程	博士前期課程	10月5日～11月9日	1名	5	4B病棟3日
	小児看護学演習2B	1年	5日			小児外来2日
大阪公立大学 大学院看護学研究科	実践看護科学領域 基礎看護科学分野 看護教育学	博士前期課程	2月7日～3月7日 7日間	1名	7	公立大学の基礎看護学実習Ⅱ
公立社団法人 日本看護協会 神戸研修センター	認定看護師教育課程 「感染管理」		11月1日～12月22日 20日間	2名	40	感染管理室他
桃山学院教育大学	人間教育学部 健康・スポーツ教育課程	2年	3月11日～3月15日 5日間	8名	40	小児病棟小児科外来

5) 専門看護師・認定看護師の活動

今年度は専門看護師3名、認定看護師9名で活動を行った。

近隣医療機関に向けた専門看護コースは通常通り対面形式で実施した。また地域・病院・地域のシームレスなACPをめざし、地域の看護師と事例検討を行った。

第3 各部局の活動状況 3. 看護部

活動内容	慢性疾患看護 専門看護師	慢性呼吸器 疾患看護 認定看護師	緩和ケア 認定看護師	がん化学療法 認定看護師	がん 放射線療法 認定看護師	認知症看護 認定看護師	感染管理 認定看護師	小児看護 専門看護師	クリティカル ケア 認定看護師
	2名	2名	2名	1名	休職中	1名	1名	1名	1名
コンサルテーション件数（院内）	146	50	72	55		76	1200	5	13
コンサルテーション件数（院外）							60		
院内講義依頼件数	5	1	2	2		1	8		3
院外講義依頼件数	26	3	17	4		1	6	9	
	呼吸器		がん						
看護専門外来延べ件数	1092		949						
在宅療養指導料算定件数	739								
がん患者指導管理料イ算定件数			324						
がん患者指導管理料ロ算定件数			1147						

6) 表彰等

氏名	表彰
岡田知子	大阪府看護協会会長賞
羽澤三恵子	大阪府看護事業功労賞

7) 看護単位の活動報告

いちょう病棟（感染症内科、多剤耐性結核、HIV 含む）

11A 病棟は新病院で 45 床のいちょう病棟に移転した。

新入院患者数 143 名（前年度 179 名）、平均在院日数 65.6 日（前年度 69.2 日）病床利用率 59.1%（前年度 57.7%）。退院患者は 148 名で自宅 82 名、転院 42 名、施設等 15 名、死亡 9 名外国籍の入院患者 8 名、新規多剤耐性結核患者 1 名（外国籍）、小児 1 名、手術 8 件と、対象は幅広い年齢や国籍、整形外科（脊椎カリエス含む）や消化器内科・外科など結核看護だけでなく多種多様な疾患に対応した。45 床になったことにより、看護師常勤スタッフは定数 25 名、夜勤 3 人体制と遅出業務（11:00～19:30）を定着。看護必要度 7:1 該当患者割合は 12.65%で実績ともに加算条件を満たした。

クロストリジウムディフィシル（CD）感染は、昨年度 21 件（前年度-27 件）と大幅な減少がみられ、環境構造面の改善が功を奏した。同じくメチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）感染は 15 件（前年度-4 件）に減少したものの、院内発生は 6 件から 12 件に増加しており、入院時検査の徹底と新しい環境下での接触感染対策が課題となった。

隔離病棟という閉鎖的な空間ではあるが、開放的な窓に四季を感じられる新しい環境で、結核病棟としての役割を発揮し、質の高い看護の提供を目指していきたい。

ICU/HCU

本年度は新病院開設に伴い、ICU/HCU の機能を合わせた病棟となったため、「院内外からの重症患者を円滑に受け入れる事が出来る ICU・HCU」を目標に、院内の重症患者・ハイリスク患者を一手に引き受け、クリティカルな状況にいる患者様や家族へのケアを行った。また、ICU/HCU の連携体制の構築が課題のため、共同での勉強会の開催やリーダーを通して情報の共有などに努めた。

患者受け入れお断り事例はなく、ICU:72.5%・HCU49.3%の充床率で稼働し、救急診療科から

は、ICU:26 件・HCU197 件を受け入れた。

部署内では救命のため除細動器や挿管対応について学習を深め、集中治療部門として役割発揮ができるよう備えた結果、CPR コールにおいてスタッフがリーダーシップを発揮する機会が多くみられた。今後さらなる連携のため、様々な取り組みを行って行きたい。

4 A たちばな病棟（呼吸器外科・耳鼻咽喉頭頸部外科・整形外科・心臓血管外科・歯科・口腔外科）

呼吸器外科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、整形外科、心臓血管外科、歯科・口腔外科 45 床
歯科口腔外科、心臓血管外科開設に伴い、全麻抜歯・顎骨嚢胞腫瘍手術、下肢静脈瘤塞栓術、下肢動脈硬化症パスを新規作成し、患者受け入れ体制を整えた。

呼吸器外科 228 件、耳鼻咽喉・頭頸部外科 181 件、整形外科 89 件、心臓血管外科 24 件、歯科口腔外科 12 件の手術患者を受け入れた。

医師、理学療法士、地域連携室看護師、病棟看護師との多職種カンファレンスを実施し、計画的に退院調整を図り、DPCⅡ期間内退院患者割合が、74%(昨年比：+17.1)増加することができた。

麻酔パッケージ特定行為研修受講者 1 名、大阪南医療センターへ脊椎手術見学 2 名、当センター下肢静脈瘤手術見学 3 名参加し、日々の看護の質向上に寄与した。

4 B ひまわり病棟（小児科/NICU・皮膚科・耳鼻咽喉頭頸部外科・小児科外来）

新病院移設後 14 歳以下の患儿を含む 39 床（小児病床 36+NICU3）での開始となった。

小児病棟：延べ入院数 6,456 名 充床率 51.3%

緊急入院 641 件 （うち夜間小児緊急 321 件）

小児手術件数 39 件 （耳 31 件 泌 5 件 整 3 件）

小児急速免疫療法 6 件 産後ケア 3 件 レスパイト 60 件

NICU：延べ入院数 795 名 充床率 36.1% 当センター出産 955 件中 NICU 入室（19.4%）

入室後新生児救急搬送 転院 28 件（15%）

今年度 小児病棟内に NICU を併設した。9 月には新生児治療室（4 床）を増床し、産科と連携したベッドコントロールを行った。4B ひまわり病棟は、小児病棟・NICU・小児外来の 3 部門で構成され、24 時間小児救急を受け入れるために、業務改善を図り、安全な看護を提供してきた。今年度は、小児エドューケーターに 1 名が合格し、さらなる小児看護の質の向上につながる人材確保ができた。急性期の児を受け入れる小児病棟として、南河内地域の小児医療への貢献に努めた一年であった。

4 C さくら病棟（産婦人科病棟・外来）

新病院移転前後も分娩制限を行うことなく対応した。新病院移転後は、病床拡大し産科と婦人科手術の患者様の入院を受け入れた。

今年度の婦人科手術の受け入れは 368 件、分娩件数は 957 件で昨年とほぼ同様、内訳は帝王切開 174 件、経膈分娩 785 件、経膈分娩のうち 272 件が無痛分娩で全体の 28%と増加傾向にある（無痛分娩は昨年度より 33 件増）。

新病院では赤ちゃんと一緒に過ごす時間をたくさんもち、赤ちゃんのペースを知って 母乳や育児を自宅に帰りスムーズにスタートしていただくために母児同室制とした。新病院の分娩室の1室は、緊急帝王切開ができるようハード面を整え、移転後、緊急帝王切開シュミレーション実施し、病棟分娩室で3例の予定帝王切開を実施し今後の課題を得た。当センターは1000件近い分娩件数があり小児科にNICUを併設していることから定期的な新生児蘇生法講習会の受講でのスキルUPが必須であり、今年度は新生児蘇生法講習会の院内開催を3回/年行い、ブラッシュアップを行った。今後も南河内医療圏の周産期を支える産婦人科病棟として、人材育成し地域に貢献していく。

4D すみれ病棟(消化器外科・内科・産婦人科・乳腺外科・泌尿器科)

消化器外科・内科・泌尿器科・乳腺外科・産婦人科の45床

新病院開設に伴い、新たに新設された病棟。周術期を中心としており、泌尿器科265件・産婦人科165件・消化器外科119件・乳腺外科105件・呼吸器外科4件 総計658件の手術を受け入れた。看護必要度平均は40.7%、DPCⅡ期間平均退院57.2%、月平均入院患者数は104人だった。12月から排尿ケアチームを発足し患者様のQOL向上と不安軽減に努めている。

5A たちばな病棟(アレルギー・リウマチ内科、循環器内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、皮膚科)

在院患者延べ日数1,149日(病棟間トップ)、平均在院日数12.6日

病床稼働率 年間平均57%であった。1月コロナクラスターにより入院制限があり59%まで落ち込んだが、翌月には80%まであげることができた。

腎臓内科、糖尿病・内分泌内科開設に伴い腎生検、サムスカ導入、内シャント造設術、糖尿病教育入院のパスを作成し導入した。

腎臓内科、アレルギー・リウマチ内科、皮膚科ともに自己免疫疾患に関連する疾患の入院があり、リツキサン(アレ内)、エンドキサンパルス(アレ内)のパスを作成し診療科問わず共通して活用した。患者向け集団教育としてアトピーカレッジ(皮膚科)に加え、新たに糖尿病教室(糖尿病・内分泌内科)を立ち上げ、実施することができた。

皮膚科はアトピーカレッジ、天疱瘡による大量免疫グロブリン療法、血漿交換、免疫治療、腫瘍などの植皮術など。腎臓内科は腎生検、透析導入、免疫治療など。アレルギー・リウマチ内科は喘息発作の治療、免疫治療など。循環器内科は心不全の治療、CAG、PCI、アブレーションなど。糖尿病・内分泌内科は内分泌異常の治療、血糖コントロールなど。多岐にわたる診療の補助、看護、処置を行った。

5B ひまわり病棟(呼吸器内科・感染症内科)

今年度は、新病院開院といった一大イベントがあり、旧5Aより22名の患者搬送を終え、25名の患者数からスタートした。慣れない環境の中、副師長・主任が中心となりチームワーク良く看護の提供ができた。新たな取り組みとして、PSG3～4件/月、n-CPAP16件の入院を受け入

れ、全スタッフが看護実践できた。また、CN・CNSの支援のもととはびきの医療センター初の在宅ハイフローセラピー導入入院を2件実施できた。新病院移転後、病棟の構造変化に伴い、固定チームナーシングから動線を意識したセル式看護提供方式を導入し、一定の成果が出た。

病床運営としては、病床稼働率は概ね75%維持、充床率平均72.3%、平均在日数14.6日、緊急入院受け入れ395件（昨年比+122）でありDPCⅡ期間を意識した退院調整を行い、病院経営に貢献できた。退院前カンファレンスも57件（昨年比+12）実施した。患者さんが住み慣れた地域に安心して戻れるように、効率的な退院支援を行い看護を繋ぐことができた。呼吸器看護の実践能力を高め、退院後訪問1件、学会発表3題実施し、質の高い看護の提供ができた1年であった。

5C さくら病棟（コロナ病棟・内科混合 2種感染症保有）

令和5年5月～3月、累計患者数5764名、新入院患者数508名、平均在院日数11.3日

5C さくら病棟は2種感染症病床6床を保有する。移転当初はコロナ感染症受け入れ病棟として病棟全体を使用していた。令和5年度5月8日より新型コロナウイルス感染症は5類感染症に変更され、段階的に医療提供体制も変更されていった。1月にはコロナ感染症の患者が増加し、段階1となり、中等症Ⅱ以上、妊産婦、小児、透析患者の5床受け入れ要請があった。実際のコロナ感染症患者は5C さくらに集約されたため、コロナ感染症は中等症Ⅱ以外にコロナ感染症は軽症だが、誤嚥性肺炎、骨折、透析、認知症など合併した患者を受け入れた。コロナ感染症の新入院患者数439名、院内での陽性患者受け入れは36名であった。10月からコロナ感染症以外の患者の受け入れも開始しているが、コロナ感染症患者増減により病室のゾーニング変更を行い患者受け入れ体制を整えていった。

5D すみれ病棟（肺腫瘍内科・産婦人科・乳腺外科・泌尿器科・消化器外科内科）

病棟実績：令和5年5月～令和6年3月平均 述べ入院患者数10,709名（累計）、

平均在院日数 11.5日 平均充床率 72.9%

平均患者単価円 64,084円 抗がん剤治療件数 734件（累計）

看護：

- 入院患者の抗がん剤治療はすべてを5D すみれ病棟で行うため、安全に治療、看護が行えるように部屋調整を適宜行った。
- IV ナース2名が合格、緩和ケア研修に看護師4名参加し、看護の質向上に向けての研鑽を行ってきた。
- がん患者のACPの取り組みを強化し、患者が望む場所で過ごせるように早期合同カンファ等で地域へつなぐ看護を目指した。

手術室・サプライ

令和5年度は総手術件数2,014件。前年度比+294件であった。内訳は全身麻酔症例が1,267

件で前年度比+194件、自科麻酔症例が726件（前年度+83件）であった。緊急手術においては232件（前年度+34件）であった。

新病院へ移転後、手術室が5室から6室と増設されハイブリッド室も新設された。

また、7月には心臓カテーテル室が手術室内に新設され、アブレーション以外の心臓カテーテル検査・治療を行っている。心臓カテーテル検査は総件数90件、緊急カテーテルは、緊急呼び出しも含め7件の対応を行った。

5月から泌尿器科をはじめ、産婦人科、呼吸器外科においてダヴィンチ手術が開始され、整形外科においても6月よりMaKoを使用したロボット支援手術が新たな術式として開始された。前年度から、院外見学や勉強会を重ね、これらの手術にも対応した。

また、新たな診療科として心臓血管外科、歯科口腔外科の手術も実施している。麻酔パッケージ特定行為研修を終了した特定看護師1名が活動を開始し、9月～2月まで40症例の麻酔管理を行う事ができた。ロボットや整形外科の脊椎手術に関する院外研修に4名出すことができた。

一般外来

一般外来は、小児科・産婦人科・感染症内科以外の17診療科の外来看護業務を担う。

新病院移転により、診療科毎のブースから複数の診療科が集まるブロック体制となった。

一人の看護師が複数の診療科担当や処置を行うため、一般外来の部門を5つのエリアに分けてリーダーを配置し、エリア内外の協力体制を強化するチームナースングを取り入れた。外来患者さんが安全・安心して外来診療できるよう医師やドクターズクランク、多職種と協力し、看護の役割として病状・医療処置への支援、看護指導、ACP介入、在宅療養支援を行った。

今年度の延外来患者数（全診療科）は、154,624人（前年度+15,112）、初診患者10,063人（+1,795人）、診療単価16,664円（+214）であり、年度後半にかけて患者数が増えている。

今年度は、新病院移転による手順や業務の安定に尽力した。次年度は、新しい治療や注射など求められる病状管理や医療処置の実施、在宅療養支援等の強化、外来看護の標準化を意識した取り組みを目指したい。

救急・放射線系検査

今年度は新病院開院とともに救急外来・放射線系検査として新しい部署が新設された。

看護師の勤務形態は24時間シフト制で、救急搬送の受け入れは2,750件、前年度比664件増加となった。安全な医療・看護を提供するため、スタッフ一丸となり学習や演習の機会を設け、事例の振り返りやシミュレーションを行い、質の向上に努めた。また、患者や家族への言葉かけや、そのタイミングなどに配慮できることを課題とし、重篤な状態においては、クリティカルケアとともにACPを念頭においた継続看護を心がけた。

検査部門は、内視鏡：1,506件、気管支鏡検査：325件、造影検査は常時対応。心房細動ア

ブレーション 25 件、CV ポート造設や透視下で実施する処置などにも携わった。緊急の依頼も多く、IVR（血管内治療）54 件、CT ガイド下による生検やドレナージ 19 件、スタッフの育成と勤務調整を行いつつ、放射線科とともに対応した。

地域医療支援病院として速やかな救急・検査の対応という役割の一端を担った。

4. 施設認定

看護基礎教育実習施設

慢性看護専門看護師教育課程実習施設

がん看護専門看護師教育課程実習施設

小児看護専門看護師教育課程実習施設

感染看護専門看護師教育課程実習施設

慢性呼吸器疾患看護認定看護師教育課程実習施設

看護師特定行為協力施設

PAE（小児アレルギーエデュケーター）教育研修施設

5. 業績

【著作・著書】

竹川幸恵.【呼吸器疾患編】非がん性呼吸器疾患への早期からの緩和ケアと意思決定支援について. エンド・オブ・ライフケア.：-, 2023.

渡部妙子.【呼吸器疾患編】ケースで学ぶ！呼吸器疾患患者への早期からの緩和ケア実践と意思決定支援. エンド・オブ・ライフケア.：-, 2023.

竹川幸恵.「なぜ呼吸器疾患について学ぶのか-看護師の立場から」.「呼吸器疾患に関する看護専門外来」.NiCE 病態・治療論【2】呼吸器疾患 改2. 南江堂, 東京, pp.-, 2023.

渡部妙子.閉塞性換気渉外の患者への看護のポイント.NiCE 病態・治療論【2】呼吸器疾患 改2. 南江堂, 東京, pp.-, 2023.

岡田由佳里.肺がんを念頭に、肺を切除した患者の看護へのケアや、セルフケア支援・生活指導などの看護のポイント.NiCE 病態・治療論【2】呼吸器疾患 改2. 南江堂, 東京, pp.-, 2023.

平田聡子.【慢性期】6. 慢性期 NPPV の継続看護. みんなの呼吸器 Respica. 21: 70-76, 2023.

渡部妙子.【急性期】2. 急性期ハイフローセラピーの看護ケア. みんなの呼吸器 Respica. 21: 91-96, 2023.

鬼塚真紀子.【慢性期】5. 在宅ハイフローセラピー導入時のケア. みんなの呼吸器 Respica. 21: 115-120, 2023.

【学会発表】

萩野恵梨花.「PAE 看護師の介入により在宅自己注射中断を回避できた思春期重症 AD の 2 例」第 39 回日本小児臨床アレルギー学会 令和 5 年 7 月 15 日-7 月 16 日, 福岡.

井戸直樹, 榎本かおり, 田村嘉孝, 北島平太.「パス導入による効率化の量的検討ーCOVID19 専門病棟での時間外労働の比較ー」第 23 回日本クリニカルパス学会学術集会 令和 5 年 11 月 10 日-11 月 11 日, 埼玉.

高橋香織, 溝端しのぶ, 平田聡子, 竹川幸恵.「人工呼吸器療法に対する患者・家族の合意形成に難渋した ACP 介入の事例検討会のプロセスと成果」第 33 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 令和 5 年 12 月 1 日-12 月 2 日, 仙台.

花崎 杏, 亀田祥子, 福村 恵.「ACP 介入の際に沈黙がもたらす効果」第 11 回大阪府看護学会 令和 5 年 12 月 2 日, 大阪.

榊理緒菜, 山下陽子, 桑原田真弓, 竹川幸恵.「治療の長期化により怒り表出する患者が自分の今後について考えることを可能にした看護援助」第 102 回日本呼吸器学会近畿地方会 第 7 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会近畿支部学術集会 合同学会令和 6 年 1 月 20 日, 大阪.

朝倉里菜, 村上由美子, 鬼塚真紀子, 竹川幸恵, 平田聡子, 川口翔子, 和田宜久, 森下 裕.「ニンテンドー継続支援システムの構築」第 102 回日本呼吸器学会近畿地方会 第 7 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会近畿支部学術集会 合同学会令和 6 年 1 月 20 日, 大阪.

井戸直樹, 榎本かおり, 田村嘉孝, 北島平太.「パス導入による効率化の量的検討ーCOVID19 専門病棟での時間外労働の比較ー」第 23 回日本クリニカルパス学会学術集会 令和 5 年 11 月 10 日-11 月 11 日, 埼玉.

小川 司.「当センターにおける Entrectinib 投与患者に対する支援の実際」第 119 回日本肺癌学会関西支部学術集会 令和 6 年 3 月 2 日, 神戸.

【啓発・研修活動】

山本摂子.看護師職能 I 委員.大阪府看護協会 府南支部・看護師機能 I 委員 令和 5 年 7 月 1 日-令和 7 年 6 月 30 日, 大阪.

関田 恵, 盛光涼子, 榎谷直己, 中島 愛, 中川良子, 萩野恵梨花.エピペントレーナーを使用した実技研修指導.大阪府立羽曳野支援学校校内研修 令和 5 年 5 月 31 日, 羽曳野市.

関田 恵.日本小児臨床アレルギー学会.日本小児臨床アレルギー学会制度委員 2023 定時代議員総会

-2025 定時代議員総会.

関田 恵.各科の働き方改革の取り組みとその問題点.日本アレルギー学会働き方改革推進委員会企画 医師支援スイーツセミナー令和6年10月19日, 京都.

関田 恵.アレルギーの基本および緊急時のシミュレーション研修.大阪府立守口支援学校 職員研修 令和5年12月22日, 守口市.

関田 恵.エピペンの使用方法と校内救急体制について.大阪府泉大津市立楠小学校 職員研修 令和6年1月12日, 泉大津市.

関田 恵.食物アレルギーについて.泉佐野市立日根野中学校 職員研修 令和6年2月1日, 泉佐野市.

関田 恵.チーム医療でアトピー性皮膚炎を考える会.レオファーマ株式会社主催 講演会座長 令和6年2月9日, 愛媛県.

竹川幸恵.間質性肺疾患の抗繊維化薬導入患者への看護.講演会「ILD よりチーム医療の在り方・未来を考える in 春日部」令和5年4月13日, 埼玉県.

竹川幸恵.セルフケア支援論.同志社女子大学看護学部 講義 令和5年4月20日, 京都.

竹川幸恵.エンドオブライフケア論.四条畷学園大学 講義 令和5年4月24日, 大東市.

竹川幸恵.臨床疾病治療論.大阪公立大学大学院看護学研究科 講義 令和5年6月5日, 羽曳野市.

竹川幸恵.「在宅 NPPV 患者の看護」.「人工呼吸時のケア」.第20回呼吸ケアカンファレンス 令和5年4月29日, 東京.

竹川幸恵.基礎から学んで実践に活かす”アドバンスケアプランニング” .看護師のためのスキルアップセミナー 令和5年5月29日, web.

竹川幸恵.慢性呼吸器疾患患者の緩和と ACP のポイント.第20回川崎呼吸ケア・リハビリテーション研究会 令和5年6月10日, 神奈川.

竹川幸恵.第21回川崎呼吸ケア・リハビリテーション研究会 座長.第21回川崎呼吸ケア・リハビリテーション研究会 座長 令和5年10月21日, 神奈川.

竹川幸恵.呼吸器看護専門外来の実際.第12回 Kawachi Lang Disease Conference(KLDC) 教育講演講師.

竹川幸恵.慢性呼吸器疾患に対する管理.第2回メディカルスタッフセミナー 令和5年8月2日, 埼玉.

竹川幸恵.NPPV マスクのキホンからアドバンスまで.第45回日本呼吸療法医学会学術集会 講師 令和5年8月5日, 名古屋.

竹川幸恵.呼吸器疾患看護概論⑩⑪.意思決定支援と人生の最終段階におけるケア①②.福井大学 認定看護師教育課程 令和5年8月17日-18日, 福井.

竹川幸恵.医師対象 NPPV マスクフィッティング実習.在宅人工呼吸と換気モードの設定実習.第63回臨床呼吸機能講習会 令和5年8月30日-令和5年9月2日, 仙台.

竹川幸恵.ILD 他職種連携 web セミナー.ILD 他職種連携 web セミナー 座長 令和5年9月19日, 大阪.

竹川幸恵.慢性疾患を持つ患者への緩和ケアの実際について.慢性疾患をもつ患者・家族の施設から在宅に向けた支援について.慢性疾患看護専門看護師の役割について.和歌山県立医科大学 慢性看護学持論 令和5年9月21日, 和歌山.

竹川幸恵.QOL を高める酸素療法への支援.第6回大阪呼吸ケアリハビリテーション研究会 教育講演 令和5年9月30日, 大阪.

竹川幸恵.非がん呼吸器疾患の緩和ケアと ACP.旭川呼吸器 WEB セミナー 特別講演講師 令和5年11月9日, 北海道. WEB.

竹川幸恵.間質性肺疾患患者さんへの看護のポイント.間質性肺疾患患者チーム医療セミナー 令和5年11月15日, 静岡. WEB.

竹川幸恵.非がん性呼吸器疾患 (NMRD)の緩和ケアをどのように現場で行うか 看護と ACP.第102回 日本呼吸器学会近畿地方会 第7回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会近畿支部学術集会 令和6年1月20日, 大阪.

竹川幸恵.非がん性呼吸器疾患における ACP.加古川呼吸器リハビリテーション勉強会 令和6年2月2日, 加古川市. WEB.

竹川幸恵.他職種連携における看護師の役割と実際～ACP の実践.第16回呼吸ケア・リハビリテーション研修会 講師 令和6年2月17日, 神戸.

竹川幸恵.慢性呼吸器疾患の呼吸ケアー看護師の立場からー.第19回慢性期医療を考える会 令和6年2月19日, 静岡.

竹川幸恵.非がん性呼吸器疾患患者に特有の緩和ケアと ACP 実践.グループオンデマンド研修会 令和6年3月2日, 大阪市.

竹川幸恵.間質性肺疾患診療の展望.呼吸リハビリテーションセミナー 座長 令和6年3月5日.

竹川幸恵.呼吸器疾患を持つ人の ACP を支えるための取り組み.第13回脳神経看護セミナー 令和3月23日, WEB.

岡田知子.【看護部門】座長.第22回大阪病院学会 座長 令和10月18日, 大阪.

平田聡子.【看護部門】座長.第22回大阪病院学会 座長 令和5年10月18日, 大阪.

盛光涼子.気管支喘息.日本小児臨床アレルギー学会 令和5年5月10日-令和8月31日, Web (オンデマンド配信).

盛光涼子.チームで手を繋ごう!～事例から考える多職種チームアプローチ; ロールプレイングを通して～ 担当 PAE の立場から.第39回日本小児臨床アレルギー学会学術大会 ワークショップ 講師 令和5年7月15日, 福岡.

盛光涼子.小児看護学方法論 I (治療と看護).錦秀会看護専門学校 講師 令和5年10月3日, 6, 10, 河内長野市.

盛光涼子.子どもの成長発達.関西看護専門学校 講師 令和5年10月25日, 11月8日, 枚方市.

盛光涼子.子どものぜん息とアトピーのケアに関する講演及び実技指導.大阪市喘息教室事業 講師 令和5年11月11日, 大阪市.

橋本美鈴.PPEの着脱トレーニング.外来感染対策向上加算に係るトレーニング 講師 令和5年4月15日, 羽曳野市.

橋本美鈴.感染管理に配慮した施設見学.大阪府看護協会 感染対策担当者施設見学 説明者 令和5年6月19日, 羽曳野市.

橋本美鈴.感染対策向上加算に係る合同カンファレンス.第1回感染対策向上加算に係る合同カンファレンス (地域連携施設) 企画・運営 令和5年6月27日, 羽曳野市, Web.

橋本美鈴.地域ぐるみでの薬剤耐性菌対策.第38回日本環境感染学会 パネルディスカッション「アフターコロナ時代の薬剤耐性菌対策」パネリスト 令和5年7月20日, 横浜.

橋本美鈴.リンクナースフォローアップ研修.大阪府看護協会 リンクナースフォローアップ研修 ファシリテーター 令和5年7月27日, 羽曳野市. Web.

橋本美鈴.回藤井寺保健所院内感染対策ネットワーク会議.第1回藤井寺保健所院内感染対策ネットワーク会議 ファシリテーター 令和5年8月4日, 藤井寺市.

橋本美鈴.社会福祉施設等で勤務する看護師対象感染研修.社会福祉施設等で勤務する看護師対象研修 ファシリテーター 令和5年8月10日, 大阪府看護協会.

橋本美鈴.地域連携全体会議.地域連携全体会議 ファシリテーター 令和5年8月19日, 富田林市.

橋本美鈴.多職種連携について.畿央大学臨地実習生への講義 令和5年8月24日, 羽曳野市.

橋本美鈴.施設訪問(保育園)にて保育士へのアドバイス、助言.大阪府看護協会 感染対策確認 アドバイザー 令和5年9月1日, ふじみ保育園.

橋本美鈴.今後の活動の検討(意見交換等).大阪府藤井寺保健所管内感染対策の意見交換会 令和5年9月6日, 藤井寺市.

橋本美鈴.社会福祉施設にて施設職員に対してアドバイス.大阪府看護協会 感染対策確認 アドバイザー 令和5年9月14日, 松原市.

橋本美鈴.結核の予防と暴露後対応.日本看護協会 感染管理認定看護師教育課程 職業感染管理 令和5年9月20日, 神戸.

橋本美鈴.カンファレンス主催.第1回外来感染対策向上加算に係る合同カンファレンス 令和5年9月21日, Web.

橋本美鈴.カンファレンス主催.第2回感染対策向上加算に係る合同カンファレンス 令和5年9月27日, Web.

橋本美鈴.VRE 検出についての検討会.VRE 感染対策検討会 令和5年10月6日, 松原市.

橋本美鈴.感染管理認定看護師教育課程 臨地実習指導.日本看護協会 感染管理認定看護師教育課程 臨地実習指導 令和5年11月1日-12月4日, 羽曳野市.

橋本美鈴.チーム医療発展セミナー.畿央大学 チーム医療発展セミナー 講義・演習 令和5年11月6日, 奈良.

橋本美鈴.くにさだクリニック訪問・助言.感染対策向上加算に係る訪問 令和5年11月29日, 富田林市.

橋本美鈴.カンファレンス主催.第3回感染対策向上加算に係る合同カンファレンス 令和5年9月27日, Web.

橋本美鈴.施設訪問(保育園)にて保育士へのアドバイス.大阪府看護協会 感染対策確認 アドバイザー 令和5年12月22日, 阿保くすのき保育園.

橋本美鈴.施設訪問にて施設職員へのアドバイス.藤井寺保健所 感染対策確認 アドバイザー 令和6年1月10日, 高齢者施設あんじゅ.

橋本美鈴.実地ラウンド.病院見学(箕面市立病院)案内 令和6年1月11日, 大阪はびきの医療センター.

橋本美鈴.施設訪問にて施設職員へのアドバイス.大阪府看護協会 感染対策確認 令和6年1月16日, さやまの里.

橋本美鈴.実地訪問での感染対策評価.感染対策向上加算に係る施設訪問 令和6年1月19日, 富田林病院.

橋本美鈴.看護管理.四天王寺大学 臨地実習生 令和6年1月24日, 羽曳野.

橋本美鈴.研修生の発表への講評.日本看護協会 研修生の成果発表会 講評 令和6年1月25日, 神戸市.

橋本美鈴.実地訪問での感染対策評価.感染対策向上加算に係る施設訪問 令和6年2月7日, 堺市立総合医療センター.

橋本美鈴.施設訪問にて施設職員へのアドバイス.厚生省 感染対策確認 アドバイザー 令和6年3月4日, 昌門会宙.

橋本美鈴.講義・おむつ交換演習.大阪府藤井寺保健所管内介護保険施設・老人福祉施設の感染対策ネットワーク会議 講義・演習 令和6年2月19日, 藤井寺保健所.

橋本美鈴.手指消毒のタイミング.メディバンクス株式会社ナースマガジン VR 教材作成出演 令和6年2月24日, 箕面市.

橋本美鈴.「VRで学ぶ手指衛生の適切なタイミング」演習ファシリテーター.大阪府看護協会 「VRで学ぶ手指衛生の適切なタイミング」のファシリテーター 令和6年3月1日, 大阪市.

橋本美鈴.外来感染対策向上加算に係る合同カンファレンス主催.第2回第2回外来感染対策向上加算に係る合同カンファレンス 令和6年3月5日, Web.

橋本美鈴.感染対策向上加算に係る合同カンファレンス主催.第4回感染対策向上加算に係る合同カンファレンス 令和6年3月12日, Web.

岡田由佳理.がん看護.関西看護専門学校 講師 令和5年4月10日, 4月17日, 枚方市.

岡田由佳理.エンド・オブ・ライフケア.関西看護専門学校 講師 2023 令和5年6月5日, 6月12日, 8月28日, 枚方市.

良田紀子.チーム医療における看護師の役割.Endometrial Cancer Seminar 令和5年12月18日, 羽曳野市. Web.

岩田 香.当センターにおける ICI の副作用管理～看護師の支援の実際と Welby アプリ活用の試み～.肺がん Expert Meeting in 西讃 令和5年5月30日, 堺市.

岩田 香.がん看護.関西看護専門学校 講師 .令和5年4月8日, 4月25日, 5月26日, 枚方市.

岩田 香.エンド・オブ・ライフケア.関西看護専門学校 講師 令和5年6月13日, 7月20日, 8月1日, 8月22日, 枚方市.

福地御富貴.認知症についての知識及びケア方法.医療法人健泉会西松庵 法人認知症研修 令和5年9月22日, 羽曳野市.

福地御富貴.認知症について.認知症の方への対応について.羽曳野市主催 「認知症知っと～座」講師 令和5年10月8日, 羽曳野市.

福地御富貴.中核症状と BPSD のアセスメントと看護.大阪急性期・総合医療センター 認知症看護専門セミナー 講師 令和5年10月20日, 大阪市.

福地御富貴.認知症啓発や認知症予防についての講座.「まちの保健室」事業 講師 令和6年3月21

日, 羽曳野市.

小川 司.看護への道. 簡単な看護技術の体験.2023 年度「みんなで話そうー看護の出前授業」講師
令和5年8月24日, 清教学園中学校, 河内長野市.

小川 司.久留米 de meet!-認定看護師の「今」を語ろう.第27回がん看護に携わる認定看護師のための
フォローアップ研修会 パネリスト 令和6年3月16日, 久留米市.

山本みふゆ.観察評価の模擬患者役.特定行為研修共通科目 臨床推論:医療面談 患者役 令和5年7
月24日, 京都.

村上由美子.外来・病棟でのセルフケアマネジメント支援の実際.間質性肺疾患 チーム医療セミナー
パネルディスカッション パネリスト 令和5年11月15日, 羽曳野市. Web.

樋野仁美.外来・病棟でのセルフケアマネジメント支援の実際.間質性肺疾患 チーム医療セミナーパ
ネルディスカッション パネリスト 令和5年11月15日, 羽曳野市. Web.

高田邦子.新病院開院にむけた外科病棟の取り組み.5 センター中堅看護職員研修 令和5年6月16
日, 大阪.

前田浩行.自己決定が出来ない結核患者への意志を尊重した関わり ～ACP の視点で着目して～.5
センター看護研究研修 令和5年12月5日, 大阪.

長谷川美紀.エピペン講習会.大阪教育大学附属支援学校職員研修 令和5年4月1日.

中島 愛.エピペン講習会.羽曳野市高鷲小学校職員研修 令和5年4月8日, 羽曳野市.

中島 愛.エピペン講習会.藤井寺市立藤井寺南小学校職員研修 講師 令和5年4月9日, 藤井寺市.

中島 愛.エピペン講習会.藤井寺市立藤井寺北小学校職員研修 講師 令和5年4月10日, 藤井寺
市.

盛光涼子.エピペン講習会.羽曳野市立古市南小学校職員研修 講師 令和5年4月10日, 羽曳野市.

中川良子.エピペン講習会.河南町立近つ飛鳥小学校職員研修 講師 令和5年4月11日, 河南町.

中川良子.エピペン講習会.河南町立かなん桜小学校職員研修 講師 令和5年4月16日, 河南町.

萩野恵梨花.エピペン講習会.羽曳野市立植生南小学校職員研修 講師 令和5年4月17日, 羽曳野
市.

中川良子.エピペン講習会.河南町立中学校職員研修 講師 令和5年5月7日, 河南町.

萩野恵梨花.エピペン講習会.羽曳野市立丹比小学校職員研修 講師 令和5年5月16日, 羽曳野市.

関田 恵.エピペン講習会.泉佐野市立第三中学校職員研修 講師 令和5年5月16日, 泉佐野市.

盛光涼子.エピペン講習会.羽曳野市立高鷺南中学校職員研修 講師 令和5年5月22日, 羽曳野市.

中川良子.エピペン講習会.羽曳野市立白鳥小学校職員研修 講師 令和5年5月22日, 羽曳野市.

中川良子.エピペン講習会.羽曳野市役所次世代育成課主催研修 講師 令和5年5月23日, 羽曳野市.

関田 恵, 盛光涼子, 中川良子, 中島 愛, 榎谷直己, 萩野恵梨花.エピペントレーナーを使用した実技研修指導.第13回エピペン講習会 大阪府立羽曳野支援学校 講師 令和5年5月31日, 羽曳野市.

中島 愛.エピペン講習会.羽曳野市立誉田中学校職員研修 講師 令和5年6月25日, 羽曳野市.

4 情報企画室

1. 概要

情報企画室では、当センターの病院情報システムの企画開発、運用管理を担当している。

当センターでは、昭和51年4月に医事・検査システムとしてコンピュータが導入され、昭和57年1月には、他病院に先駆けて発生源入力方式によるシステムを構築し、業務の効率化および患者サービスの向上に努めてきた。

電子カルテでは無線 LAN に接続されたノート PC を使用することで、ベッドサイドでの点滴実施時に3点認証（患者、看護師、オーダ(医薬品)を、バーコードを使って確認）で実施入力を行い、また、測定した体温や血圧・脈拍等のバイタルサインは人手を介することなくノート PC から直接測定値を入力でき、医療事故の防止および看護業務の省力化に貢献した。

併せてネットワークシステムも新たに構築し、10GB の伝送容量に対応した高速な光回線を敷設し、ネットワークスイッチ等の機器は障害からのダメージを防ぐために光回線と併せて全て冗長構成にするとともに、不正なネットワーク機器を排除するための認証規格を使用機器に導入するなど強固なセキュリティを実現している。

令和5年度は、5月の新病院移転に合わせシステムリプレースを行い、第9期病院情報システムが稼働している。今回のシステムリプレースでは、新たに重症（ICU）システム、周産期管理システム、手術支援システム、手術映像管理システム、放射線画像AI解析システム、歯科カルテシステム、リハビリシステム等の15の部門システムを新たに導入し、診療機能の向上を図った。

また、令和4年10月31日に大阪急性期・総合医療センターで発生したセキュリティインシデントを受け、第9期病院情報システムではパスワードの複雑化やロックアウト設定、リモートデスクトップのポート変更などのセキュリティ対策を行った。引き続きセキュリティ対策含め、安心、安全に利用できるような病院情報システムの構築と運用管理を行っていききたい。

2. 活動実績

項 目	主 な 内 容	
システムプログラム 開発・改修	1) 病棟再編対応（新生児治療室）	1 件
新規端末設置	1) 外来診療端末（歯科、リニアック診察室） 2) 病棟診療端末（リハビリテーション室） 3) その他（手術室 [心カテ]、中材、医局当直室、医局秘書等） 4) インターネット端末	2 台 1 台 14 台 113 台
ヘルプデスク対応	1) システム操作のサポート（問い合わせ等） 2) 端末等のトラブル対応 3) 各種マスター登録	2,032 件 126 件 1,103 件
ホームページ・ イントラネット	1) ホームページ登録・削除 2) ホームページ利用者数 3) イン트라ネット登録・削除	496 件 358,449 346 件

5 診療情報管理室

1. スタッフ

室長：片岡 葉子(副院長、皮膚科主任部長 兼務)

診療情報管理士：常勤1名、非常勤3名

非常勤事務補助(スキャンセンター)：8名

2. 概要

当センターは平成28年1月に電子カルテを導入、同意書等の紙文書に関してはガイドラインに則りタイムスタンプ/電子署名を施し、スキャンを行うことで全記録を電磁的に保存している。

正確な情報の伝達・共有は、医療安全の管理や医療の質向上、経営管理など病院運営において重要である。

当室では診療記録を適切に管理し、情報の収集・分析・提供を目的に以下の業務を行っている。

- ①診療情報管理：量的/質的監査・退院サマリの早期作成推進・電子カルテコンテンツの管理・カルテ開示
- ②DPC：DPC コーディング支援・DPC データ分析・DPC コーディング委員会の運営
- ③がん登録：院内がん登録/全国がん登録実務および届け出
- ④データ利用：臨床評価指標の作成・患者情報の検索/提供・データの二次利用支援
- ⑤スキャンセンター運営：文書スキャン(タイムスタンプ/電子署名の付与)、紙カルテ・フィルム管理
- ⑥その他：電子クリニカルパス管理と運用支援、医師事務作業補助者研修

令和5年度は、電子カルテシステムの更新に向けた関係部署との調整や、稼働直後のクリニカルパスやスキャンシステム関連の初期対応に介入した。

また、経営改善を目的とした業務では、DPC 運営への介入を継続し、DPC コーディング支援と、DPC 係数の向上のために現況データを定期的に配信することで、院内職員への意識づけを図った。

また、救急医療管理加算等の適正な算定に向けて、診療記録の情報をもとにした精度管理を開始し、ベンチマークデータを用いた経営分析を行うことで経営改善に寄与するべく取り組んだ。

3. 活動実績

14日以内サマリ作成率	93.6%
カルテ開示件数	43件
DPC 提案・変更件数	318件

文書スキャン件数	249,935件
院内がん登録件数	772件

6 栄養管理室

1. スタッフ

氏 名	役 職	専門資格等
亀田 誠	栄養管理室室長（兼）	（小児科主任部長）
中芝 広輝	栄養管理室室長補佐（兼）	（事務局マネージャー）
中村 祥子	総括主査（栄養士）	NST 専門療法士、小児アレルギーエデュケーター、アレルギー疾患療養指導士、病態栄養専門管理栄養士、糖尿病療養指導士
花井 美夢	技師	糖尿病療養指導士、大阪府肝炎医療コーディネーター、食品衛生管理者、食品衛生監視員
池田 晴	技師	
非常勤栄養士 2 名		

2. 概要

《栄養管理室業務内容》

○栄養指導業務・栄養管理業務（栄養指導実績参照）

入院患者は、栄養障害をきたした低栄養の方や食欲が低下している方も多いため、病院食は栄養管理の一環としての役割はもとより、療養生活の中にあっても楽しんでいただけるよう四季折々の行事食や羽曳野周辺で収穫されたイチジクやぶどう、野菜などの農産物を定期的に変更した特別メニューを取り入れるなど献立を工夫している。また、NST、褥瘡、糖尿病などのチーム医療活動を通じて、入院患者個々の栄養状態や食事摂取状況を評価し、きめ細やかな栄養管理を行っている。

当センターは、大阪府アレルギー疾患医療拠点病院としての専門性を生かしアレルギー関連の栄養指導にも力を入れている。アトピー患者を対象とした「アトピーカレッジ」においては、バランスのよい食事の重要性について指導している。食物アレルギーの個別栄養指導では「食物アレルギー栄養食事指導の手引き」（厚生労働省科学研究班）に則り、医師と連携しながら、患者一人ひとりに合わせた指導を行っている。

○給食管理業務（年間食事提供数（患者給食）参照）

給食管理業務は、外部委託しており、アレルギー分野の専門病院として、離乳食から成人食まで幅広い食種で年間 25,044 食（全食事提供食数の 11.2%）のアレルギー食を提供している。

令和 5 年 5 月病院移転後から、一部の献立においてクックチルを導入している。

《対外活動》栄養士のための大阪食物アレルギー研究会事務局

《新たな取り組み》

- ・羽曳野市周辺で収穫されや農産物を使用した特別メニューの実施
 - ・日本アトピー協会会報誌（あとおひなう）へ食物アレルギー対応レシピ掲載（継続）
- （・コロナによる感染予防対策としてアレルギー料理教室休止）

3. 施設認定

日本臨床栄養代謝学会 NST 稼働認定施設

1. 栄養指導実績

	指導内容	実施数(回)	のべ参加者数(人)
集団指導	糖尿病教室	1	4
	食物アレルギー-料理教室	0	0
	アトピー教室	0	0
	アトピーカレッジ	22	179
	アトピーサマースクール	0	0
	小計	23	183
個別指導 (入院・外来)	糖尿病食		606
	妊娠糖尿病食		54
	脂質異常症食		196
	高度肥満食		8
	心疾患・高血圧食		230
	腎臓病食		176
	貧血食		3
	食物アレルギー(9歳未満)		214
	食物アレルギー(9歳以上)		71
	消化管術後食		44
	癌		369
	低栄養		104
	嚥下調整食		43
	COPD食		5
	その他(算定あり)		8
	その他(算定なし)		92
	小計		2,223

5. 年間食事提供数(患者給食)

食種別	総合計	うちアレルギー対応数
常食	62,363	8,050
選択食(常食・小児)	4,689	1
小児食	4,051	1,975
幼児食	3,951	1,291
離乳食	1,326	653
ミルク食	7,433	1,197
軟菜食	24,497	3,046
流動食	1,191	109
産婦食	12,163	1,475
出産祝膳	943	110
経腸栄養	4,152	164
嚥下検査・ゼリー	800	25
ペースト食	7,732	332
つぶせる食	4,704	323
ソフト食	14,408	1,040
アレルギー食	453	452
その他	738	104
食欲不振食	2,360	374
小計	157,954	20,721
エネルギーコントロール食	25,418	2,066
エネルギー-塩分コントロール食	23,029	1,442
たんぱく質コントロール食	4,465	153
たんぱく質カリウムコントロール	3,183	74
透析食	1,976	427
腸疾患食	737	102
脂質コントロール食	1,298	12
潰瘍食	1,814	47
胃切除後分割食	1,410	0
COPD食	749	0
小計	64,079	4,323
合計	222,033	25,044 (11.2%)
内特別加算食数	61,172 (27.6%)	

※一部の集団教室は COVID-19 のため開催中止

7 患者総合支援センター

1. スタッフ

川島佳代子 患者総合支援センター長兼地域医療連携室
(医務局長兼耳鼻咽喉・頭頸部外科主任部長)

羽澤三恵子 患者総合支援センター副センター長(副看護部長)

中芝広輝 患者総合相談室長 (総務・人事マネージャー)

患者相談室補佐：看護師3名(非常勤看護師1名含む)、事務員2名(非常勤1名含む)

田中久美 地域医療連携室マネージャー(看護師長兼務)

地域医療連携室業務：副看護師長1名、看護師1名、地域クラーク5名、(派遣1名を含む)

入退院支援業務：主任看護師1名、看護師8名(非常勤看護師1名含む)、社会福祉士2名

2. 概要

令和5年5月新病院へ移転し、患者総合支援センターでは以下の趣旨を改めて掲げた。

- ① 紹介患者さんがスムーズに外来診療を受けられるよう、事前予約の有無にかかわらず患者総合支援センターで対応する。
- ② プライバシーに配慮した面談室やがんサロンを新たに設置し、認定看護師や医療ソーシャルワーカーなどの専門職による療養相談などへの対応の充実を図る。
- ③ 入院される患者さんの状態を入院前から把握し、多職種が連携して退院後を見据えた在宅療養支援を行う。

1) 地域医療連携室

(1) 予約業務

紹介患者数は11,403件、そのうち病診予約患者数は6,288件。紹介患者数は前年度より約2,800件増加した。また、病診予約患者数も約650件増加したが予約取得の比率は約55%に留まった。オンライン予約システム(C@RNA Connect)の利用は129件と増加傾向にあり、患者さんの待ち時間の短縮や診療効率の観点から、今後さらにオンラインも含めた病診予約取得を推進していきたい。

羽曳野市乳がん・子宮がん検診の予約は、乳がん検診1,510件、子宮がん検診1,472件取得されており、オンラインでの予約も市民に浸透してきた。また、次年度からは藤井寺市の乳がん検診の受け入れも開始予定である。

(2) 地域医療機関との連携

登録医療機関数は303件で、昨年より40件増加した。特に今年度は歯科・口腔外科も新設され、近隣の歯科クリニックからの登録を多くいただいた。地域連携情報システム「はびきのメディカルネット」では、31医療機関の利用登録をいただき、現在約500名の患者登録をいただき、情報の連携が図れた。広報活動では、地域医療機関向け広報誌『はびきの Medical Net』を5回発行し、新病院移転の機能や当センターの診療内容のPRを行った。

そして今年度より新たに腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、心臓血管外科、歯科・口腔外科が

開設し、その PR とさらなる連携を深めるため地域医療機関への訪問も行い、紹介患者数の増加につながった。また、地域の病院との連携協定の締結や医師会との連携会議の実施により直接意見交換などを行えたことで、様々なご意見もうかがえ、顔の見える関係づくりにもつながった。

研修会および勉強会は「はびきのアカデミー」を2回、「はびきの D チャンネル」を6回（Web 形式）行い、地域の先生方に参加いただいた。

2) 入退院支援センター

(1) 入院前支援

新病院移転後は入院申込に来られた患者全員に対し、退院支援の必要性のアセスメントを行い、介入が必要な患者に対して入院前面談を行う体制に変えたことで予定入院患者への入院前支援面談数は2,689件、入院時支援加算件数は2,220件（加算1）と増加した。緊急入院患者へも可能な限り入院前（入院時）面談を実施し、退院支援に向けた早期介入、病棟や退院調整看護師への連携を図っている。

(2) 退院支援

退院患者10,396名のうち、入退院支援加算算定件数は5,378件で、半数以上の患者さんに何らかの退院支援介入が必要な状況だった。患者のスムーズな在宅療養への支援と在宅医療機関との連携推進のため、積極的に退院前カンファレンスの実施も行い、退院時共同指導は201件の実績があった。

今年度は病棟担当を看護師と医療ソーシャルワーカーのペア体制にして退院支援を行ったことで、支援内容による役割分担もでき、効果的な退院支援を実施することができた。また患者・家族のニーズに沿った転院や退院調整ができるよう、後方連携病院や在宅医療機関・訪問看護ステーションと顔を合わせる場を設け、情報交換や情報共有も積極的に行った。

(3) 医療・福祉相談

医療ソーシャルワーカーが介入するケースは3,397件であった。高齢者の独居や老々介護、経済的困窮、特定妊婦や小児の虐待など、多岐にわたるソーシャルハイレスク患者の入退院支援や医療・介護や行政との連携や調整等を担っている。またがんサロンでの社会資源の活用などの勉強会への講師なども行っている。

3) 患者総合相談室（がん相談支援センター）

患者総合相談室では、患者や家族が安心して治療を受けることができるよう、治療に関する様々な相談、がんに関する相談、医療費、介護保険、各種福祉サービスに関する相談などに応じるとともに、ご意見や要望を受け付けた。

新型コロナウイルス感染が5類に変わり、一般の医療機関での対応が可能になったことでコロナ関連の相談件数が減少し、全体の相談件数も減少した。また新病院移転と同時にがんサロンも設置され、患者が気軽に立ち寄れる場ができたことで、がんに関する相談件数は前年度より1.7倍増加した。

3. 活動実績

【資料1】令和5年度 地域医療連携室における業務報告

令和5年度 地域医療連携室における業務報告（件数）																			
2023年度	紹介 患者数	病診の 紹介患者 数	受診報告 書送付件 数	他院予約	セカンド オピニオン	子宮癌		乳癌		乳癌	肺癌	胃大腸癌	開放	PET 予約	他院への 問い合わせ	他院からの 問い合わせ	分娩予約	カルナ	
						検診	Web予約数	検診	Web予約数	二次検診	二次検診	二次検診	病床						
4月	今年度	748	459	524	48	0	83	35	68	24	5	1	4	0	23	36	23	63	17
	前年度	721	374	480	33	0	109	106	107	102	3	5	2	0	23	12	9	49	7
5月	今年度	893	539	82	58	2	90	57	90	45	4	2	5	0	20	26	37	63	13
	前年度	725	371	486	39	1	116	79	130	80	8	0	0	0	16	21	15	67	7
6月	今年度	974	618	54	1	130	71	147	89	13	2	2	0	20	25	16	59	10	
	前年度	786	467	553	41	0	120	59	150	70	6	7	2	0	25	27	13	40	8
7月	今年度	942	604	55	0	106	63	137	79	11	4	3	0	16	26	22	70	6	
	前年度	755	447	538	58	0	102	45	111	44	11	9	5	0	22	36	19	51	8
8月	今年度	1005	628	49	2	115	69	136	69	4	1	0	0	28	29	17	57	5	
	前年度	741	441	529	30	0	85	49	89	49	11	8	1	0	33	28	17	53	8
9月	今年度	891	564	37	0	122	54	142	56	4	2	0	0	25	38	22	60	2	
	前年度	652	376	479	53	0	74	42	95	50	5	2	3	0	20	39	30	43	2
10月	今年度	1067	693	54	0	125	48	139	51	11	3	5	0	24	29	20	70	13	
	前年度	730	436	474	38	0	106	62	141	77	4	2	2	0	20	41	28	49	6
11月	今年度	1016	674	47	0	114	39	137	51	13	8	3	0	28	30	24	62	9	
	前年度	704	442	476	54	0	122	65	141	70	10	3	3	0	24	38	26	56	7
12月	今年度	942	636	45	1	111	63	137	77	5	7	4	0	33	43	38	65	11	
	前年度	666	443	458	57	0	102	67	114	67	7	0	4	0	19	53	26	69	7
1月	今年度	1008	655	52	0	109	60	126	63	9	9	3	0	31	32	30	66	12	
	前年度	593	397	407	48	0	101	65	100	60	8	0	2	0	21	47	44	55	10
2月	今年度	877	595	53	2	153	68	114	55	8	6	1	0	40	32	28	63	9	
	前年度	692	440	449	51	1	130	84	127	78	4	0	4	0	24	34	22	60	2
3月	今年度	1041	680	54	0	218	126	139	92	7	12	3	0	23	31	29	65	13	
	前年度	797	501	588	73	0	218	138	163	110	11	0	5	0	25	41	20	66	13
合計	今年度	11,404	7,345	606	606	8	1,476	753	1,512	751	94	57	33	0	311	377	306	763	120
	前年度	8,562	5,135	5,917	575	2	1,385	861	1,468	857	88	36	33	0	272	417	269	658	85

【資料2】令和5年度 入退院支援に関するデータ

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
退院患者数（名）	10256	8527	8751	8793	10396
入院時支援加算（件）	—	—	1290	1377	1669
入退院支援加算（件）	2720	3995	4582	4609	5378
退院時共同指導（件）	181	105	121	171	201
介護支援連携指導（件）	472	153	150	171	137

【資料3】令和5年度 医療・福祉相談件数

区分	延べ件数			実数		
	計	入院	外来	計	新規	継続
令和5年4月	380	356	24	191	70	121
5月	224	200	24	126	44	82
6月	277	252	25	146	45	101
7月	272	230	42	114	41	73
8月	252	226	26	119	36	83
9月	326	281	45	126	40	86
10月	278	228	40	115	46	69
11月	259	243	16	126	53	73
12月	271	259	12	123	55	68
令和6年1月	210	202	8	102	38	64
2月	306	293	13	145	52	93
3月	342	319	23	150	56	94
令和5年度合計	3397	3089	298	1583	576	1007
令和4年度合計	5550	5267	283	2736	1845	891

【資料4】令和5年度 患者総合相談室 相談件数および相談内容

令和5年度 相談件数及び相談内容															
1. 相談件数と相談内容		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
相談件数	2023年度	184	213	262	260	273	208	205	180	152	189	176	177	2479	
	2022年度	327	254	239	853	1227	300	226	287	371	520	249	211	5064	
	2021年度	365	374	247	196	255	245	185	172	131	1187	1133	446	4936	
相談方法	電話	173	201	246	247	259	196	193	170	142	171	169	163	2330	
	面談	11	12	16	13	14	12	12	10	10	18	7	14	149	
相談件数のうち、職員からの相談	2023年度	10	14	13	6	11	11	10	5	6	8	11	10	115	
	2022年度	6	6	10	2	9	6	10	12	10	2	6	8	87	
相談件数のうち、コロナに関する相談	件数	28	32	43	79	101	67	32	17	23	31	25	19	497	
	割合（％）	15.2	15.0	16.4	30.4	37.0	32.2	15.6	9.4	15.1	16.4	14.2	10.7	20.0	
相談内容		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
相談または問い合わせ		178	204	259	253	267	204	199	176	147	176	171	168	2402	
苦情		5	7	3	7	5	4	3	4	5	11	3	8	65	
謝辞		0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	
その他		1	2	0	0	1	0	3	0	0	1	2	1	11	
相談内容の詳細		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
受診に関して		138	159	198	209	216	160	153	141	111	137	122	127	1871	
医療・診療・看護に関して		7	6	13	6	15	11	8	7	9	11	12	18	123	
入院に関して		2	2	4	7	4	3	4	3	4	4	4	3	44	
社会資源に関して		1	0	0	0	0	1	0	0	2	0	1	2	7	
がん相談		3	2	2	2	0	6	8	5	3	11	2	4	48	
入院患者に関して		11	18	16	10	12	6	16	9	11	12	19	7	147	
外来患者に関して		6	4	5	2	6	7	5	1	2	2	8	5	53	
施設・設備に関して		6	13	18	5	9	4	7	3	4	3	2	3	77	
接遇に関して		2	3	2	3	1	2	1	2	0	4	1	1	22	
その他		8	6	4	16	10	8	3	9	6	5	5	7	87	
※がん相談は、上記の他、がん看護専門外来等において実施しています。															
2. 意見箱回収件数		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
意見箱回収件数【枚】		3	36	37	23	25	23	22	30	20	21	11	28	279	
内容【件】	施設・設備	1	21(3)	22(2)	15(1)	16	12(1)	8	17	11	13(2)	5	15	156(9)	
	医療・診療	1	4	0	1	1(1)	3	2(1)	2	2(1)	1	0	2	19(3)	
	接遇	1	12(6)	17(9)	10(6)	9(6)	9(1)	9(8)	10(6)	5(3)	8(5)	3(2)	9(3)	102(55)	
	待ち時間	0	4	3	2	3	1	1	2	1	2	2	1	22	
	給食	0	1(1)	1(1)	3(3)	2	1	1(1)	1(1)	0	2(1)	2(1)	2	16(9)	
	その他	0	4	4	1	2	2	4	4	3(1)	0	2	3	29(1)	
※（ ）内の数値は謝辞の内訳です。一件が他の内容と重複する場合があるため、回収件数とは異なります。															
3. その他		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
診療相談件数		125	126	170	149	152	118	132	128	150	141	125	137	1653	
ベッドコントロール件数		133	154	182	163	192	175	183	191	188	224	196	180	2161	
重症者初期支援充実加算件数		124	103	144	157	143	138	101	127	143	170	144	97	1591	
手話対応人数		(※10/12～手話対応人数計上)							7	15	2	6	20	17	67

8 医療安全管理室

1. スタッフ

氏名		役職
片岡葉子	室長	副院長（専任）
泉和江	室員	医療安全管理者（専従）
北原直人	室員	呼吸器外科副部長
倉田悦子	室員	看護師長
吉田めぐみ	室員	看護師長
木澤成美	室員	副薬局長
田中秀磨	室員	臨床検査技師長
西村健太郎	室員	放射線科技師
石原麻美	室員	臨床工学技士
中芝広輝	室員	総務マネージャー

2. 委員会構成

①医療安全管理委員会

副院長2名、院長、医務局長、病理診断科主任部長、放射線科主任部長、循環器内科主任部長、心臓血管外科主任部長、消化器外科主任部長、乳腺外科主任部長、事務局長、看護部長、薬局長、医療技術部長兼技師長、集中治療科主任部長、麻酔科主任部長、医療安全管理者、総括マネージャー

②医療安全推進委員会

医療安全管理者、副院長、呼吸器外科副部長、消化器外科副部長、循環器内科副部長、耳鼻咽喉頭・頭頸部外科副部長、小児科医長、産婦人科医長、肺腫瘍内科診療主任、感染症内科診療主任、副看護部長、看護師長2名、副看護師長3名（うち1名がん化学療法看護認定看護師）、副薬局長、臨床検査技師長、栄養管理室総括主任、放射線科主任、集中治療科・総括臨床工学技師、リハビリテーション科言語聴覚士、総務1名

3. 概要

医療安全管理室は平成18年に配置された。専従の医療安全管理者と必要な各部門の職員を兼任で配置し医療安全推進活動を行っている。医療安全推進活動として、職場ラウンド・マニュアル改訂・情報発信・教育研修の企画運営・委員会開催などを行っており、医療安全管理委員会、医療安全推進委員会は院内の医療安全に関する組織横断的に問題解決に取り組んでいる。

また、医療安全対策地域連携加算を取得し、近隣病院と連携をとり、ラウンド実施や情報交換を行っている。

4. 活動実績

1) 各委員会活動

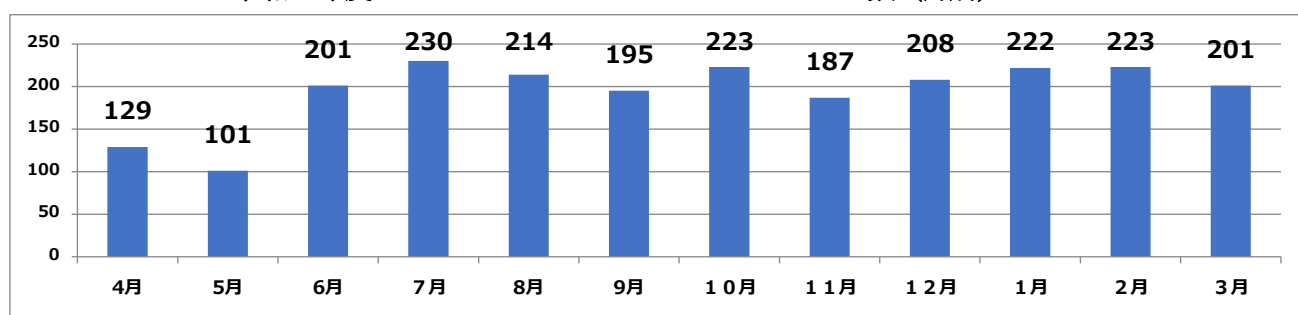
活動	開催回数
医療安全管理委員会	12 回
医療安全推進委員会	12 回
医療安全担当者会（看護部）	4 回
医療安全担当者会コア会（看護部）	10 回
報告書管理の評価に係るカンファレンス	12 回
医療安全管理室カンファレンス	60 回

2) インシデント・アクシデントレポート報告

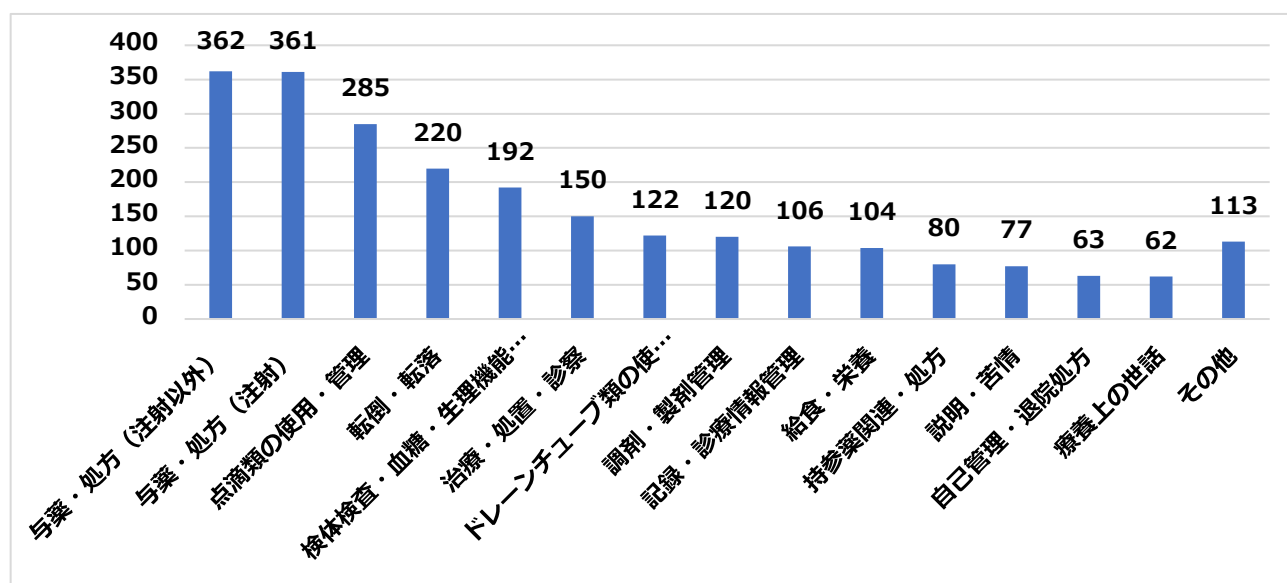
令和5年度総数 2,334 件（内アクシデント報告 26 件・事例 19 例）

5 月に新病院移転があり、4 月・5 月は患者数の減少に伴い、インシデント報告数の減少があった。
新システム移行に伴い、インシデントシステムの改定が行われ、事故項目の変更を行った。

令和5年度 インシデント・アクシデントレポート数（月別）



令和5年度 インシデント・アクシデントレポート数（事故項目別）



3) 改善事項

- ① 頭部打撲の対応フロー作成
- ② アナフィラキシー対応表改定
- ③ 院外処方箋の患者氏名のサイズ変更
- ④ HFNC(ネーザルキイフロー)の取り扱いについて
- ⑤ ハーフメイロン組成について
- ⑥ 切迫早産患者に必要なケアを確実に実施できるための対応
- ⑦ 産科危機的出血時対応について
- ⑧ 病理診断未報告件数のチェック手順の改善

4) 医療安全研修開催回数と参加者数

	テーマ	講師名	対象者	回数	参加人数
1	個人情報保護法について	長谷部 圭司 先生	全職種	2 (DVD 視聴)	738
2	学研 e ラーニング視聴 チーム力を引き上げる！ 多職種で取り組む医療安全	松村由美 先生	全職種	DVD 視聴	716
3	学研 e ラーニング視聴 医療ガスの 安全管理と事故防止策	野口 裕幸 先生	医療職 他	DVD 視聴	268
4	学研 e ラーニング視聴 輸血の基礎知識と安全のための コミュニケーション	牧野 茂義 先生	医療職 他	DVD 視聴	217
5	学研 e ラーニング視聴 放射線従事者等に対する診療用放射 線における安全管理	關 良充 先生	医療職 他	DVD 視聴	203
6	学研 e ラーニング視聴 がん薬物療法の最新知識 ～専門的な知識をもって患者を支援する～	菅野かおり 先生	医療職 他	DVD 視聴	199
7	放射線被ばく MRI 検査の安全講習	放射線科 大瀧 元気 岩本 桃子	医療職 他	1	50
8	【公開】 院内急変対応について	救急診療科主任部長 廣田 哲也	医療職他	1	91
9	患者・家族や職員間での円滑なコ ミュニケーション	損保ジャパン 大賀 先生	全職種	1	33

第3 各部局の活動状況 8. 医療安全管理

10	医療ガスの取り扱いについて	(株) パパ 青木 孝弘先生 日本エア・リフト合同会社 市村 隆行先生	医療職他	2	47
11	あなたは大丈夫？骨粗鬆症の現実	整形外科主任部長 塚本泰徳	医療職他	1	35
12	麻薬講習会	薬局主査 岩田 浩幸	医療職他	1	28
13	転倒骨折どう対処する？	整形外科副部長 谷内 孝次	医療職他	1	46
14	輪状甲状膜穿刺 (クイックトラック・ミニトラック) 実技講習会 (30 分毎)	スミスメディカル 細井 悠太 先生	医師他	4	17
15	新規採用医師医療安全研修	医療安全管理者 泉 和江	医師	1	24
	新規採用者医療安全研修	医療安全管理者 泉 和江	看護師・薬剤 師・検査技師・ 事務局	1	49
	画像診断報告書見落とし画像診断・ 病理診断報告書に関するエラー	群馬大学 医療の質・安全学 滝沢 牧子 先生	新規採用医師	1	26

5) 医療安全管理室からの情報発信

医療安全からのお知らせ	13 回発行
いんしでんとあれこれ	3 回発行

6) 医療安全ラウンド 14 回実施

7) 医療安全対策地域連携加算

- ① I—I 連携 城山病院→はびきの 令和 6 年 1 月 19 日実施
はびきの→城山病院 令和 5 年 12 月 22 日実施
- ② I—II 連携 はびきの→しまだ病院 令和 5 年 8 月 25 日実施

9 感染対策室

1. スタッフ

氏名	職種	専門資格等
橋本章司	医師	日本感染症学会推薦 ICD
橋本美鈴	看護師	感染管理認定看護師
西上奈緒子	看護師	感染管理認定看護師
岩田浩幸	薬剤師	AST 専任
上田理絵	薬剤師	日本病院薬剤師会 感染制御認定薬剤師 日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師 日本結核・非結核性抗酸菌学会 結核・抗酸菌症認定エキスパート
澤井祐樹	薬剤師	日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師
山口侑子	薬剤師	日本病院薬剤師会 感染制御認定薬剤師 日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師
和田宜久	薬剤師	日本病院薬剤師会 感染制御認定薬剤師 日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師
網代直子	臨床検査技師	日本臨床微生物学会認定臨床微生物検査技師 感染症制御認定臨床微生物検査技師
勝田寛基	臨床検査技師	2 級臨床微生物検査技師

2. 活動概要

ICT

院内に出入りする全ての人を対象に、感染症の発生状況を把握し、「院内感染予防活動」と「アウトブレイク等発生時の感染対策」の実働部隊となる。職員に対しては、職業感染（針刺し、結核、疥癬、インフルエンザ等）対策と発生時の対応を行う。

また、南河内地域全体の感染対策のレベルアップの為、多施設と連携をとり情報の共有及び指導を行う。さらに南河内以外の地域に対しても、感染対策の指導、助言、相談を行う。

AST (Antimicrobial Stewardship Team: 抗菌薬適正使用支援チーム)

AMR 対策として、抗菌薬の使用を適切に管理・支援をするための実働部隊。

広域抗菌薬（VCM、MEPM、TAZ/PIPC、CFPM）使用患者、血培陽性患者、MRSA などの耐性菌検出患者などのモニタリングを行う。

週に 2 回のカンファレンスで症例検討を行い、フィードバックを行う。

また、藤井寺保健所管内の医療施設全体での、特定菌種のアンチバイオグラムを作成するにあたり、対象医療施設の指導、相談、助言を行う。

3. 活動実績

(1) サーベイランスによる当センターの現状把握

① 特定微生物の検出状況と薬剤耐性状況（全部署）

南河内感染対策ネットワーク 加算 1 施設間比較の実施

② CLABSI、CAUTI：全病棟

③SSI 発生率：消化器外科

④手指衛生状況（量的・直接観察法）：全病棟、外来、OP 室

⑤抗菌薬使用状況

（令和5年度の概要）

昨年度と比較して、総 AUD1000 は増加していたが、特定抗菌薬の

VCM の AUD は増加、MEPM の AUD は減少、TAZ/PIPC の AUD は増加した。

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
総 AUD ₁₀₀₀	211.35	205.65	231.04	268.10	283.77
VCM	1.65	2.56	4.36	1.78	2.50
MEPM	5.33	7.12	8.05	9.87	8.39
TAZ/PIPC	16.88	14.42	13.20	13.27	15.28

・特定抗菌薬（VCM,MEPM,TAZ/PIPC）初回チェックシート文書登録率

96%(全 403 件中 387 件登録)

・広域抗菌薬を8日以上使用した場合に提出する、継続使用報告書提出率

97.2%(全 108 件中 105 件)

（2）教育

（1）結核について（必須）

①研修会日時・場所・講師：6月8日（木）、6月22日（木）17:00-18:00・講堂・新井医師

②DVD 視聴とテスト提出

（2）e-ラーニング「感染経路別対策をおさらい」～「もしも」に備えるアウトブレイク対策～（必須）

（3）ICT クイズ大会

①日時・場所：11月9日（木）17:00-18:00・講堂

②テーマ：最近増えてる感染症について

③参加者：13 チーム 100 人

<必須研修の参加人数>

結核について									
	医師	看護師	薬局	放射線	検査	その他	DC	事務局	計
研修	59	129	3	4	22	7	13	23	260
視聴	28	276	26	25	15	11	34	52	467
計	87	405	29	29	37	18	47	75	727
総数	87	410	30	30	45	23	58	92	775
参加率	100%	99%	97%	97%	82%	78%	81%	82%	94%
CB2302 感染経路別予防策をおさらい！～「もしも」に備えるアウトブレイク対策									

	医師	看護師	薬局	放射線	検査	その他	DC	事務局	計
視聴	82	395	30	30	36	23	43	84	723
視聴率	94%	96%	100%	100%	80%	100%	74%	91%	93%

(3) 感染対策の実践

①環境ラウンド 75 件

②AST カンファレンス

年間のべ約 546 人、約 798 件（月平均約 46 名、約 67 件）

③新病院の感染対策の計画

(4) マニュアル改定

①院内感染防止マニュアル改定

（新型コロナウイルス感染症）

(5) コンサルテーション

①医師：1,200 件 他施設から約 360 件

②看護師：院内約 1,200 件以上、多施設から約 60 件以上

③薬剤師：年間 239 件（月平均：19.9 件）

④臨床検査技師（細菌検査）：年間約 120 件（月平均：約 10 件）

2 (6) ICT/AST カンファレンス

4 月	61 件	10 月	87 件
5 月	92 件	11 月	102 件
6 月	108 件	12 月	131 件
7 月	85 件	1 月	166 件
8 月	124 件	2 月	105 件
9 月	65 件	3 月	142 件

計 1268 件

(7) 地域連携活動

1) 感染対策向上加算に係る連携

①加算 1-3 施設での医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師参加の合同カンファレンス：4 回実施

②加算 2 及び 3 施設への感染対策訓練：1 回実施

③加算 1 施設相互訪問評価：訪問する側 2 回実施、評価を受ける側 2 回実施

④加算 2 及び 3 施設または連携外来クリニックへの訪問：4 回実施

⑤全体研修会：1 回

2) 外来感染対策向上加算に係る連携

①連携施設への新興感染症に備えた訓練：1 回実施

②連携施設とのカンファレンス：2 回実施

③連携施設からの感染症の発生と抗菌薬の処方件数の報告書受け取り：4回実施

3) 藤井寺保健所感染対策ネットワーク（院内及び施設内感染）

①院内感染対策ネットワーク会議出席及びオブザーバー：2回

②施設内感染対策ネットワーク会議出席及びオブザーバー：2回

4) 大阪府及び厚労省の感染対策事業への協力

①社会福祉施設への訪問と助言：5件（大阪府4件、厚労省1件）

②リンクナース等へのフォローアップ研修：3回実施

4. 施設認定

第2種感染症指定医療機関

HIV/AIDS 診療拠点病院

感染対策向上加算I